

キャリア開発総合学科 専門教育科目

『学習成果』

- 社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、実践につなげることができる。
- 人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、協働することができる。
- 習得した専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。

『ディプロマ・ポリシー(DP)』卒業の認定に関する方針

1. 地域社会で求める職業人の基礎となる諸分野の専門的知識と技能が習得できている。
2. 自ら見出した課題について、習得した知識・技能を活用して考察できる。
3. 身につけた教養、知識・技能をもとに、生涯学び続け地域社会に貢献する意欲をもっている。
4. 社会の一員としての責任を自覚し、多様な立場の人と協働できる。
5. 他者の考えを受けとめながら自分の考えをまとめ、場面に応じた手段を用いて的確に表現できる。

Table with columns: ユニット名, 科目名, 授業形態, 単位数, 開講期 (2前, 2後), 担当者, ナンバリング, ページ. Lists various academic units and courses such as ベーシックゼミ, ビジネス実務士, グローバル, 上級情報処理士, etc.

Table with columns: ユニット名, 科目名, 授業形態, 単位数, 開講期 (2前, 2後), 担当者, ナンバリング, ページ. Lists practical and specialized units such as ファッションショー, ビューティーファッション, カフェ, 製菓衛生師試験対策, etc.

ユニット名	科目名	授業形態	単位数	開講期		担当者	ナンバリング	ページ
				2前	2後			
スポーツ	コーチング実習Ⅲ(健康スポーツ)	実習	2	◎	◎	渋谷 祐子・高間 章	C093	474
	コーチング実習Ⅳ(ダンス)	実習	1		○	高間 章・及川 佳澄	C094	476
	運動処方演習	演習	3	○		高間 章・大内 昭浩	C093	484
クリエイティブ・アート	茶道	実習	2	◎	◎	鎌 田 文 恵	C111	340
	カラーコーディネートⅠ	講義	2	○		三 塚 由 美 子	C061	184
	カラーコーディネートⅡ	演習	2		○	三 塚 由 美 子	C062	186
	和裁実習	実習	2		○	佐藤なおみ・金澤 千晶	C062	192
	ヘアメイク	実習	1		集中	金 澤 千 晶	C062	196
情報	コンピュータ会計演習	演習	2	○		畑 中 恵 司	C023	356
	データベース演習	演習	2		○	大 澤 栄 子	C034	370
	AI概論	講義	2	○		岩 潤 正 則	C031	104
	データサイエンス基礎論	講義	2		○	岩 潤 正 則	C032	106
保健・医療・介護福祉	生活と福祉	講義	2	○		齋 藤 美 香	C103	502
	栄養学A	講義	2	○		梅 津 裕 子	C103	496
教養	生命科学	講義	2		○	丸 山 穰	C052	164
	ドラマで学ぶ英語の世界 ～シェイクスピアから鬼滅の刃まで～	講義	2		○	永 野 篤	C024	364
	ノンフィクションを読む	講義	2	○		関 根 俊 二	C043	398
	書き言葉	演習	2	○		大 泉 浩 一	C043	400
	IT時代の表現	演習	2		○	川 辺 博	C044	402
	雑誌製作	演習	2	○		大 泉 浩 一	C043	404
	創作演習	演習	2		○	関 根 俊 二	C044	406
	観光英会話	演習	2	◎	◎	フ シ ェ ー ボ ー ル	C021	100
	韓国語会話実践Ⅱ	演習	1	○		文 慶 喆	C023	362
	中国語会話実践	演習	2	◎	◎	呉 少 皓	C021	98
	病院実習	実習	1	○		丸山 穰・加藤 淳子	C113	516
	発酵食品概論	講義	1		集中	丸 山 穰	C112	346
	国内語学研修	演習	1		集中	山 川 奈 美	C112	348
	ディズニースタリタリ研修	演習	1		集中	山 川 奈 美	C112	350
	日本語と英語で学ぶ簿記会計の原理	講義	1		集中	永 野 篤	C114	518

『キャリア開発総合学科専門教育科目』について

キャリア開発総合学科は、地域社会の多様なニーズにこたえることができる学生を養成することを目的とする地域総合科学科として認定された学科です。

そのため、履修にあたっては、資格等につながる科目群である「ユニット」と、学習体系上関連のあるユニットをまとめた「系」を考えながら学習の計画を立てる必要があります。

カフェ・フード、観光、スポーツ、ファッション、司書・公務員、ビジネス情報・金融、医療事務の各系に置かれたユニットは、系を超えて組み合わせて履修することが可能です。

一科目ずつ履修できるフリー科目もたくさんあります。

製菓衛生師養成課程と介護福祉士養成課程については、受験資格を得るためにそれぞれの課程の科目をすべて履修しなければなりません。

卒業には62単位以上の習得が必要ですが、専門教育科目は54単位以上の習得が必要です。別に共通教育科目8単位以上も必要です。

専門教育科目の中の必修科目として1年次には「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」、2年次には「ベーシックゼミ」または「介護総合演習Ⅱ」、「キャリアデザインⅢ」の4科目が置いてあります。

以下の教育目標を念頭に置き、卒業に必要な単位習得をめざしましょう。

キャリア開発総合学科の教育目的・教育目標

建学の精神に基づく人間教育を基本理念とし、開かれた社会性、将来につながる専門性の育成を目的とする。教育目標は次のとおりである。

- 地域社会に貢献するための豊かな人間性と社会性を備えた人間を育成する。
社会人としての教養を深める共通教育科目と、学科の多彩な専門領域を追究する専門教育科目をあわせて学習することにより、関心の幅を広げ、地域社会の多様な分野において活躍できる知識と技能を習得する。
- キャリア教育を通して、職業人としての意識と能力を高める。
社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を高める一方、進路の目標に沿った各種の資格・検定への挑戦や、学科が推進する行事および地域交流活動への参加などを通して、職業人としての資質向上を図る。

科目名	キャリアデザイン I				担当者	専任教員						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		各教員のオフィスアワーおよび電子メール、Google Classroom										
専門的 学習成果	①	世の中のしくみと、現代社会の基本的課題について研究し、論じることができる。										
	②	社会人・職業人として自立するための協働する力を高める。										
	③	自主的・自律的に、諦めずに粘り強く取り組む姿勢を身に付け、問題解決に取り組むことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	世の中のしくみと現代社会の基本的課題について研究する事を通じて、社会的・職業的自立に必要な知見および態度を獲得し、実務に活かすことができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	組織の一員としての役割を認識し、他者理解を深め、自己表現力を高め、問題解決に向け協働できる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	自主的・自律的に、諦めずに粘り強く問題解決に取り組む事で、地域の発展に寄与する意義を再認識し、より積極的な貢献者となる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要		社会を構成する主体的な一員となり、職業人として自立していくことを視野に、社会で自らを活かせるキャリアの将来について検討・洞察するための知見の獲得を協働経験を交えながら行う (Career Cooperation)。キャリア構築に必要な最新の情報が随時提供され、それらを積極活用し、自らにとって最適な選択を行うための知見の向上を目指す。学生各人にとって重要な協働経験を積む機会であり、自らのコミュニケーション力の限界や可能性に気づき、それを踏まえ、改善・向上に取り組む、自らの可能性を広げていく。キャリア開発総合学科の必修科目である。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	15回実施し、各回6.66%を配点する。								
		SPI 模試	20	2回実施し、各回50%を配点する。								
		一般常識理解 小テスト	10	8回実施し、各回12.5%を配点する。								
		平常点	10	授業への取り組み、意欲、態度により評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習の成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	ディスコ編		『進路ガイドブック2024-2025』				ディスコ					
	実務教育出版		『SPI 基礎からはじめる問題集』				実務教育出版					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	高橋俊介		『キャリア論』				東洋経済新聞社					
	就活塾キャリアアカデミー		『就職活動1冊目の教科書 オンライン就活対応』				株式会社 KADOKAWA					
	本間啓二ほか		『5訂版キャリアデザイン概論』				雇用問題研究会					
	伊藤宏ほか		『大学生のための実践的キャリア&就活講座』				中央経済社					
	稲本恵子ほか		『大学生のキャリアデザイントレーニング』				晃洋書房					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①社会人・職業人に求められる最低限の一般常識レベルの維持・向上に努めること。学習過程において、不明な点は明らかにした上で授業に臨むこと。(予習：週2時間程度、復習：週2時間程度) ②課題に対しては、随時フィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス	レポート①授業報告書	
	学習成果 予習復習の 内容	短大における二年間の学生生活で行うキャリアデザインの学習計画について把握する。 図書館、インターネット等からキャリアデザインの在り方について調査する。		
2回	授業内容	短大での学生生活とキャリアデザイン	レポート②授業報告書	
	学習成果 予習復習の 内容	先輩からの体験談を通して、自身がどのような学生生活を送るべきかを検討する。 自分自身が短大でどのような生活を送りたいかを振り返る。		
3回	授業内容	雇用情報の研究	レポート③授業報告書 一般常識小テスト①	
	学習成果 予習復習の 内容	各種雇用情報について、適切に読解することができる。 大学内の情報、インターネット等から、多くの雇用情報に触れ、読解に慣れる。一般常識問題に取り組む。		
4回	授業内容	業種・職種の理解	レポート④授業報告書 SPI 確認テスト①	
	学習成果 予習復習の 内容	業種・職種の違い、代表的企業、業務上の役割などについて区別し、説明できる。 講義を踏まえ、自身が志向する方向について調査・研究する。SPI 確認テストに取り組む。		
5回	授業内容	業種・職種別ガイダンス	レポート⑤授業報告書 一般常識小テスト②	
	学習成果 予習復習の 内容	様々な業種・職種の説明を聞くことで、自身のキャリアの構築方法を理解する。 講義を踏まえ、自身が志向する方向について引き続き調査・研究する。一般常識問題に取り組む。		
6回	授業内容	企業理解	レポート⑥授業報告書	
	学習成果 予習復習の 内容	企業において求められる人材像を理解し、説明することができる。 講義を踏まえ、自身が志向する方向について引き続き調査・研究する。		
7回	授業内容	リテラシーとコンピテンシーの理解	レポート⑦授業報告書	
	学習成果 予習復習の 内容	事前に実施する PROG テストの結果を理解し、自身の自己分析に繋げることができる。 PROG テストを受験する (指示あり)		
8回	授業内容	自己分析の進め方	レポート⑧授業報告書 一般常識小テスト③	
	学習成果 予習復習の 内容	その必要性を理解し、今後の進路選択において積極的に自己分析を進めることができる。 講義を踏まえ、自身の棚卸を行い、表現できるように準備する。一般常識問題に取り組む。		
9回	授業内容	自己分析	レポート⑨授業報告書 一般常識小テスト④ 小集団活動①	
	学習成果 予習復習の 内容	自分自身を把握し、分析するための手法について学ぶ。 自分自身の過去資料を整理し、分析に役立てる準備をする。一般常識問題に取り組む。		
10回	授業内容	自己分析	レポート⑩授業報告書 一般常識小テスト⑤ 小集団活動②	
	学習成果	自分自身を把握し、分析するための手法を自分自身に適切させる。		
	予習復習の 内容	自分自身の傾向・特徴を明らかにし、それを表現するための準備をする。一般常識問題に取り組む。		
11回	授業内容	経営者の観点からとらえた社会人・職業人の在り方	レポート⑪授業報告書	
	学習成果 予習復習の 内容	社会人・職業人にとって求められる思考・態度について検討することができる。 図書館、インターネット等から様々なキャリアの在り方について調査する。一般常識問題に取り組む。		
12回	授業内容	進路選択における情報の習得	レポート⑫授業報告書 SPI 確認テスト②	
	学習成果 予習復習の 内容	進路選択における情報収集の方法について学び、自身の進路選択において効果的に活用できる。 講義を踏まえ、自身が志向する方向について調査・研究する。SPI 確認テストに取り組む。		
13回	授業内容	自己表現の方法	レポート⑬授業報告書 一般常識小テスト⑥	
	学習成果 予習復習の 内容	個性に応じた自己表現の重要性を確認する。 自分らしい自己表現について検討し、実行できるよう準備する。一般常識問題に取り組む。		
14回	授業内容	キャリアの構築の最新情報	レポート⑭授業報告書 一般常識小テスト⑦	
	学習成果 予習復習の 内容	2年次内々定者から、キャリアの築き方について学び、自分自身の将来に役立つ要素を発見する。 キャリアの築き方の工程について確認し、スケジュールを立てる。一般常識問題に取り組む。		
15回	授業内容	まとめ	レポート⑮授業報告書 一般常識小テスト⑧	
	学習成果 予習復習の 内容	本講義で学んだことを復習し、今後のキャリアデザインの方向性について検討できる。 これまでの講義内容を踏まえ、自身の進路選択をどのように進めるか、方向性を考える。		

科目名	キャリアデザインⅡ				担当者	専任教員						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		各教員のオフィスマールおよび電子メール、Google Classroom										
専門的 学習成果	①	世の中のしくみと、現代社会の基本的課題について研究し、論じることができる。										
	②	社会人・職業人として自立するための協働する力を高める。										
	③	自主的・自立的に、諦めずに粘り強く取り組む姿勢を身に付け、問題解決に取り組むことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	世の中のしくみと現代社会の基本的課題について研究する事を通じて、社会的・職業的自立に必要な知見および態度を獲得し、実務に活かすことができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	組織の一員としての役割を認識し、他者理解を深め、自己表現力を高め、問題解決に向け協働できる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	自主的・自立的に、諦めずに粘り強く問題解決に取り組む事で、地域の発展に寄与する意義を再認識し、より積極的な貢献者となる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要		社会を構成する主体的な一員となり、職業人として自立していくことを視野に、社会で自らを活かせるキャリアの将来について検討・洞察するための知見の獲得を協働経験と交えながら行う(Career Cooperation)。キャリア構築に必要な最新の情報が随時提供され、それらを積極活用し、自らにとって最適な選択を行うための知見の向上を目指す。学生各人にとって重要な協働経験を積む機会であり、自らのコミュニケーション力の限界や可能性に気づき、それを踏まえ、改善・向上に取り組み、自らの可能性を広げていく。キャリア開発総合学科の必修科目である。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	15回実施し、各回6.66%を配点する。								
		グループワーク	50	授業への取り組み、意欲、態度により、レポート内容等も勘案し評価する。								
		SPI 模試	10	2回実施し、各回50%を配点する。								
		一般常識理解小テスト	10	10回実施し、各回10%を配点する。								
	平常点	10	授業への取り組み、意欲、態度により評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習の成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
	ディスコ	『進路ガイドブック2024-2025』					ディスコ					
	実務教育出版	『SPI 基礎からはじめる問題集』					実務教育出版					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
	三隅二不二	『リーダーシップの科学—指導力の科学的診断法』					講談社					
	高橋俊介	『キャリア論』					東洋経済新聞社					
	就活塾キャリアアカデミー	『就職活動1冊目の教科書 オンライン就活対応』					株式会社 KADOKAWA					
	本間啓二ほか	『5訂版キャリアデザイン概論』					雇用問題研究会					
	伊藤宏ほか 稲本恵子ほか	『大学生のための実践的キャリア&就活講座』 『大学生のキャリアデザイントレーニング』					中央経済社 晃洋書房					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①社会人・職業人に求められる最低限の一般常識レベルの維持・向上に努めること。学習課程において、不明な点は明らかにした上で授業に臨むこと。(予習：週2時間程度、復習：週2時間程度) ②学習課程において、不明な点は明らかにした上で授業に臨むこと(予習：週2時間程度)。課題に対しては、随時フィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	レポート①授業報告書
	学習成果	キャリアデザインⅡの目的とスケジュールについて適切に理解する。	
	予習復習の内容	自分にとって適切なキャリアに相応しい自分自身を構築する意義について検討する。	
2回	授業内容	業種・職種研究	レポート②授業報告書 一般常識小テスト①
	学習成果	業種と職種の違いを理解し、自身の進路選択に繋げることができる。	
予習復習の内容	インターネットや書籍を通して自身が興味ある業種・職種を確認する。一般常識問題に取り組む。		
	3回	授業内容 企業研究(プレゼンテーション)	レポート③授業報告書 一般常識小テスト② 小集団活動①
学習成果	自身で研究してきた企業についてまとめ、その内容について説明することができる。		
予習復習の内容	興味ある企業の説明会やインターンシップに参加し、業務内容等について理解を深める。		
4回	授業内容	組織人としての意義理解	レポート④授業報告書 一般常識小テスト③ 小集団活動②
	学習成果	職業人は、通常、組織人である。その組織化の意義や目的について理解し、その一員として適切なコミュニケーション力や行動力を志向できる。	
	予習復習の内容	小集団活動を振り返り、メンバーとの連絡方法について確立し、コミュニケーションを進める。一般常識問題にも取り組む。	
5回	授業内容	SPI テスト①	レポート⑤授業報告書 SPI 模擬試験①
	学習成果	SPI についてテストを行うことで、自身のリテラシーの傾向を理解する。	
予習復習の内容	SPI について自身の強み弱みについて精査し、十分に復習する。		
6回	授業内容	社会的存在としての組織の目的達成の意義理解	レポート⑥授業報告書 一般常識小テスト④ 小集団活動③
	学習成果	組織が目標設定し、それに向けて活動する意義の重要性について説明できる。	
	予習復習の内容	自らの傾向について把握し、小集団における自らの役割とその実効性について検討する。一般常識問題にも取り組む。	
7回	授業内容	社会的存在としての実務的コミュニケーション	レポート⑦授業報告書 一般常識小テスト⑤ 小集団活動④
	学習成果	自らが属する組織以外の組織を取材するための連絡・交渉の在り方について学び、実践することができる。	
	予習復習の内容	外部組織との適切なコミュニケーションについて練習し、実行に移し、メンバーとコミュニケーションをとる。一般常識問題にも取り組む。	
8回	授業内容	効果的プレゼンテーションとシナリオ	レポート⑧授業報告書 一般常識小テスト⑥ 小集団活動⑤
	学習成果	能力・意欲を勘案した適切な役割分担で、取材内容からシナリオの原案作成に取り組める。	
予習復習の内容	取材内容を精査し、情報の取捨選択や、ストーリー展開などについて検討し、メンバーとコミュニケーションをとる。一般常識問題にも取り組む。		
9回	授業内容	効果的プレゼンテーションと効果	レポート⑨授業報告書 一般常識小テスト⑦ 小集団活動⑥
	学習成果	より良い成果を求めて、シナリオの原案を客観的に精査し、校正することができる。	
予習復習の内容	シナリオの構成の在り方について検討し、メンバーとコミュニケーションをとる。一般常識問題にも取り組む。		
10回	授業内容	効果的プレゼンテーションと協働	レポート⑩授業報告書 一般常識小テスト⑧ 小集団活動⑦
	学習成果	高い成果を目指しつつ、良好な人間関係の維持に努め、作業することができる。	
	予習復習の内容	プレゼンテーション資料の見せ方の工夫や、メンバーとの協働のあり方について工夫する。一般常識問題にも取り組む。	
11回	授業内容	効果的協働	レポート⑪授業報告書 一般常識小テスト⑨ 小集団活動⑧
	学習成果	これまでの成果を発表する舞台において、効果的なチームワークを発揮することができる。	
	予習復習の内容	発表に向けたリハーサルを行い、かつ、終了後は振り返りを行う。一般常識問題にも取り組む。	
12回	授業内容	取材、プレゼンテーション：協働	レポート⑫授業報告書
	学習成果	主体的に探索し、それを纏めコンテンツを作成し、そして発表するという一連の協働の意義について理解を深めることができる。	
	予習復習の内容	他者の発表を見学し、自らの今後の活動に役立つ観点について研究する。一般常識問題にも取り組む。	
13回	授業内容	SPI テスト②	レポート⑬授業報告書 SPI 模擬試験②
	学習成果	SPI についてテストを行うことで、自身のリテラシーの傾向を理解する。	
	予習復習の内容	SPI について自身の強み弱みについて精査し、十分に復習する。	
14回	授業内容	SPI についての理解	レポート⑭授業報告書
	学習成果	SPI の内容について講義を通して理解し、効果的な対策方法を検討できる。	
	予習復習の内容	これまで実施したテストの結果を振り返り、自身の強み・弱みを整理する。	
15回	授業内容	まとめ	レポート⑮授業報告書
	学習成果	これまでの講義内容を振り返り、今後のキャリアデザインを明確に進めることができる。	
	予習復習の内容	講義内容を振り返り、整理する。	

科目名	ビジネス実務総論					担当者	富田幸重					
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィサーについては初回の授業で連絡する。授業内容に関する質問は毎回、授業前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	ビジネス実務能力が発揮できるような考え方や技術を習得し実践できる。										
	②	簡単なビジネス文書について理解し、作成することができる。										
	③	ビジネスにおける対人関係においてコミュニケーションの必要性を理解し、主体的行動をとることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	実践的なビジネス実務を学ぶことを通して社会的職業的自立につながる知識を習得し活用できる。(専門的学習成果①③に関連)										
	(2)	簡単なビジネス文書の技術を習得することにより、簡潔で明快な表現を思考することができる。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	ビジネスに必要とされるコミュニケーション能力が養われ、他者を理解し自己表現ができる。(専門的学習成果①③に関連)										
授業概要	学生生活と職場生活の違いは何か。組織や仕事とはどういうものなのか。基本的なビジネス社会の構造や仕事へのアプローチ及び働く意義を学ぶ。具体的には、これから社会人として仕事をしていく上での必要な基礎知識（ビジネス常識、ビジネス文書、及び対人関係におけるマナー・接遇）を習得する。さらには、あらゆる場面や人間関係に応じた敬語表現を身につけることにより、他者との豊かなコミュニケーションを築くことができるようになる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	テーマに沿ったレポートの評価（体裁・内容・根拠・独創性にて評価する。）								
		筆記試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価する。								
	平常点	10	授業への取り組み・態度・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②により評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前学習として、日常的に新聞・経済雑誌などを利用し、授業での学びを確認し理解を深めておくこと。(計30時間) 事後学習としては、授業の内容を復習し、課題や就職における業界研究について調べるなど、自主的に学びを発展させるようにすること。(計30時間) ②提出された課題・試験は全体的な解説・講評を行い、フィードバックするので、自らの理解を深めること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス ビジネス社会の現状 働く意義とは	講義時に配付する資料・ワークシートへの取り組み・活用
	学習成果	学生と社会人の違い、働く意義について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	仕事の基本① 仕事の基本となる8つの意識 仕事への取り組み	
	学習成果	仕事の基本となる8つの意識について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、仕事の基本となる8つの意識について理解を深める。	
3回	授業内容	仕事の基本② 会社のルールと勤務条件	
	学習成果	企業倫理（コンプライアンス）、勤務条件を理解し、内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日本の勤務条件と給与のしくみについて考察する。	
4回	授業内容	仕事の基本③ 会社の組織と運営	
	学習成果	組織を効率よく動かすための分業システムを説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、分業システムを理解し整理しておく。	
5回	授業内容	ビジネス文書① 文書の目的と意義 ビジネス文書作成における留意点	
	学習成果	ビジネス文書の意義を理解し、用語・書式を説明できる。	
	予習復習の内容	ビジネス用語を復習し、理解を深める。	
6回	授業内容	ビジネス文書② 社内文書の種類と作成例	
	学習成果	簡単な社内文書が作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、社内文書についての理解を深める。	
7回	授業内容	ビジネス文書③ 社外文書と社交文書の特徴と基本構成	
	学習成果	社外文書と社交文書の慣用語、書式を説明できる。	
	予習復習の内容	社外文書と社交文書を理解し、就職予定の礼状などに役立つようにする。	
8回	授業内容	ビジネス文書④ 受信文書の取り扱い及び発信 郵便の知識	課題レポート提出（テーマ詳細は授業内で指示）第11回までに提出 講義内で配布する資料・ワークシートへの取り組み・活用
	学習成果	葉書・封筒の宛名の書き方、郵便知識を説明できる。	
	予習復習の内容	文書の発信、郵便知識を理解し、就職活動に役立つようにする。	
9回	授業内容	ビジネス常識① 社会保険と税金	
	学習成果	社会保険の種類と仕組みを説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、社会保険について理解を深める。	
10回	授業内容	ビジネス常識② 社会常識を高める情報収集 表とグラフの読み方	
	学習成果	新聞などからの情報収集ができるようになる。	
	予習復習の内容	新聞・インターネットなどを利用し、学習や就職活動に役立つようにする。	
11回	授業内容	ビジネス常識③ ビジネス用語 経済環境の変化と企業	
	学習成果	日本の経済環境、産業構造の変化を説明できる。	
	予習復習の内容	少子高齢化社会、労働制、男女雇用機会均等法などを調べておくこと。	
12回	授業内容	対人関係① 職場の人間関係と敬語、接遇用語の使い方	
	学習成果	敬語や接遇用語の必要性を理解し、場面に応じて使い分けができるようになる。	
	予習復習の内容	相手に応じた表現の仕方を考察し、積極的に実践する。	
13回	授業内容	対人関係② 接遇マナー 来客応対 訪問のマナー	
	学習成果	出迎えから見送りまでの基本マナーが説明できる。	
	予習復習の内容	ひととりのマナーを心得ておくべき実践し、就職活動などに役立つようにする。	
14回	授業内容	対人関係③ 話し方・指示の受け方と報連相	
	学習成果	ビジネスの場にふさわしい言葉遣いを実践できる。	
	予習復習の内容	自己紹介やプレゼンテーションの構成に役立つようにする。	
15回	授業内容	対人関係④ ビジネスと円滑なコミュニケーション 職場の人間関係	
	学習成果	仕事を円滑に進める上でのコミュニケーションが実務の効率を大きく変えることを理解し、説明することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、職場のコミュニケーションについて理解を深める。	

科目名	情報科学				担当者	岩 濁 正 則						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	コンピュータのハードウェア分野に関する基礎理論を説明できる。										
	②	コンピュータシステムの基本構成を説明できる。										
	③	ITパスポート試験のテクノロジ系分野について、論じることができる。										
	④	コンピュータのシステム構成について、その種類と特徴を説明できる。										
	⑤	データベースの構成について、説明できる。										
	⑥	インターネットの構成について、説明できる。										
	⑦	セキュリティの構成について、説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	情報科学に関する概要を学ぶことを通じて、情報処理技術者としての職業自立につなげることができる。(専門的学習成果③に関連)										
	(2)	データベースやインターネットを通して、習得した知識や技術を活用し問題解決に向け行動できる。(専門的学習成果⑤⑥に関連)										
	(3)	セキュリティの構成を学ぶことを通じて、現在のセキュリティ環境に関して、批判的に思考することができる。(専門的学習成果⑦に関連)										
	(4)	コンピュータのハードウェア構成を学ぶことを通じて、未来のハードウェア構成を探索することができる。(専門的学習成果①②に関連)										
授業概要	現代社会では、すべての職業人に共通して、情報技術の幅広い分野の総合的知識が必要である。更に、ただITを利用できる人材ではなくITを活用して業務を改善するなど、情報化を推進できる人材が求められる。この授業は、ITパスポート試験におけるテクノロジ分野について学ぶ。また、情報処理技術者の登竜門である国家試験「基本情報処理技術者試験」へのテクノロジ分野についての問題解決について指導する。さらに、2020年から小学校教育に導入されるプログラミング教育の基礎知識として十分に説明できる内容を講義する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	30	小テストを毎回実施し、各2%ずつ正解率(0点、1点、2点)に沿って評価を行う。								
	汎用的 学習成果	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
		(1) は専門的学習成果③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果⑤⑥で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑦で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①②で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	岡嶋裕史	『ITパスポート合格教本』				技術評論社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前に配布した資料を読んでおくこと。(予習：週2時間程度) 板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。(復習：週2時間程度) ②単元ごとに小テストを行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	数の表現	小テスト(用語の説明と2進数の特徴について)
	学習成果	ビット、バイト、ワード、2進数について説明できる。	
	予習復習の内容	2進数の特徴について調べておく。	
	授業内容	基数変換	小テスト(基数変換について)
2回	学習成果	2進数、10進数、16進数について相互変換の計算ができる。	
	予習復習の内容	各進数の特徴について調べておく。	
	3回	授業内容	補助単位
	学習成果	補助単位の意味を説明できる。	
	予習復習の内容	補助単位について調べておく。	
	4回	授業内容	RAMとROM
	学習成果	RAMとROMの区別を説明できる。	
	予習復習の内容	RAMとROMの特徴について調べておく。	
	5回	授業内容	補助記憶装置
	学習成果	補助記憶装置の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	補助記憶装置について調べておく。	
	6回	授業内容	入出力装置
	学習成果	入出力装置の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	入出力装置について調べておく。	
	7回	授業内容	入出力インタフェース
	学習成果	入出力インタフェースの種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	現在の入出力インタフェースについて調べておく。	
	8回	授業内容	システム構成
	学習成果	システム構成の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	システム構成について調べておく。	
	9回	授業内容	システムの信頼性
	学習成果	システムの信頼性に関する計算ができる。	
	予習復習の内容	システムの信頼性に関する計算法を調べておく。	
	10回	授業内容	ファイル管理
	学習成果	ファイル管理の特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	ファイル管理について調べておく。	
	11回	授業内容	データベース
	学習成果	データベースの種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	データベースについて調べておく。	
	12回	授業内容	インターネット
	学習成果	インターネットのしくみについて説明できる。	
	予習復習の内容	インターネットについて調べておく。	
	13回	授業内容	電子メールとWEB技術
	学習成果	電子メールとWEB技術について説明できる。	
	予習復習の内容	電子メールの仕組みとWEB技術について調べておく。	
	14回	授業内容	暗号化技術
	学習成果	暗号化技術について説明できる。	
	予習復習の内容	暗号化技術について調べておく。	
	15回	授業内容	コンピュータウイルスと不正行為
	学習成果	ウイルスの種類と不正行為の方法について説明できる。	
	予習復習の内容	ウイルスの種類と不正行為の方法について調べておく。	

科目名	情報処理論				担当者	イノ マサ ヲシ ノリ 岩 濁 正 則						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	コンピュータの経営全般に関する基礎理論を説明できる。										
	②	コンピュータシステムのIT管理を説明できる。										
	③	コンピュータシステムのIT技術を説明できる。										
	④	コンピュータのストラテジ系（戦略系）を説明できる。										
	⑤	コンピュータのマネジメント系（経営管理系）について、説明できる。										
	⑥	ソフトウェア開発の工程について、説明できる。										
	⑦	ITパスポート国家試験の内容について、説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	情報処理に関する概要を学ぶことを通じて、情報処理技術者としての職業自立につなげることができる。（専門的学習成果⑦に関連）										
	(2)	ストラテジ系とマネジメント系を通して、習得した知識や技術を活用し問題解決に向け行動できる。（専門的学習成果④⑤に関連）										
	(3)	経営全般やIT管理、IT技術を学ぶことを通じて、現在の情報処理環境に関して、批判的に思考することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(4)	コンピュータのソフトウェア開発を学ぶことを通じて、未来のソフトウェア開発を探求することができる。（専門的学習成果⑥に関連）										
授業概要	現代社会では、すべての職業人に共通して、情報処理の幅広い分野の総合的知識が必要である。更に、ただITを利用できる人材ではなくITを活用して業務を改善するなど、情報化を推進できる人材が求められる。この授業は、ITパスポート試験におけるストラテジ分野及びマネジメント分野について学ぶ。また、情報処理技術者の登竜門である国家試験「基本情報処理技術者試験」へのストラテジ分野及びマネジメント分野についての問題解決について指導する。さらに、2020年から小学校教育に導入されるプログラミング教育の基礎知識として十分に説明できる内容を講義する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	30	小テストを毎回実施し、各2％ずつ正解率（0点、1点、2点）に沿って評価を行う。								
汎用的 学習成果	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	岡嶋裕史	『ITパスポート合格教本』				技術評論社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前に配布した資料を読んでおくこと。（予習：週2時間程度）板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。（復習：週2時間程度） ②単元ごとに小テストを行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ITパスポート試験についてのガイダンス	小テスト（PDCAについて）
	学習成果	ITパスポート試験について説明できる。	
	予習復習の内容	ITパスポート試験について調べておく。	
2回	授業内容	PDCA	小テスト（品質管理について）
	学習成果	PDCAを説明できる。	
	予習復習の内容	PDCAの特徴について調べておく。	
3回	授業内容	品質管理	小テスト（財務会計と管理会計の特徴について）
	学習成果	品質管理の各種手法を説明できる。	
	予習復習の内容	品質管理について調べておく。	
4回	授業内容	財務会計と管理会計	小テスト（知的財産権について）
	学習成果	財務会計と管理会計の区別を説明できる。	
	予習復習の内容	財務会計と管理会計の特徴について調べておく。	
5回	授業内容	知的財産権	小テスト（経営戦略）
	学習成果	知的財産権の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	知的財産権について調べておく。	
6回	授業内容	経営戦略	小テスト（システム戦略）
	学習成果	経営戦略の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	経営戦略について調べておく。	
7回	授業内容	システム戦略	小テスト（開発モデル）
	学習成果	システム戦略の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	現在のシステム戦略について調べておく。	
8回	授業内容	開発モデル	小テスト（プロジェクトマネジメント）
	学習成果	開発モデルの種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	開発モデルについて調べておく。	
9回	授業内容	プロジェクトマネジメント	小テスト（サービスマネジメント）
	学習成果	プロジェクトマネジメントに関する説明ができる。	
	予習復習の内容	プロジェクトマネジメントについて調べておく。	
10回	授業内容	サービスマネジメント	小テスト（マーケティング）
	学習成果	サービスマネジメントについて説明できる。	
	予習復習の内容	サービスマネジメントについて調べておく。	
11回	授業内容	マーケティング	小テスト（ビジネス戦略）
	学習成果	マーケティングについて説明できる。	
	予習復習の内容	マーケティングについて調べておく。	
12回	授業内容	ビジネス戦略	小テスト（経営管理システム）
	学習成果	ビジネス戦略のしくみについて説明できる。	
	予習復習の内容	ビジネス戦略について調べておく。	
13回	授業内容	経営管理システム	小テスト（ソフトウェア開発）
	学習成果	経営管理システムについて説明できる。	
	予習復習の内容	経営管理システムについて調べておく。	
14回	授業内容	ソフトウェア開発	小テスト（システム企画）
	学習成果	ソフトウェア開発手法について説明できる。	
	予習復習の内容	ソフトウェア開発について調べておく。	
15回	授業内容	システム企画	小テスト（システム企画）
	学習成果	システム企画について説明できる。	
	予習復習の内容	システム企画について調べておく。	

科目名	プレゼンテーション演習					担当者	水野篤					
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスマナーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール											
専門的 学習成果	① プレゼンテーションの準備を行うことができる。											
	② わかりやすいプレゼンテーション資料を作ることができる。											
	③ 効果的なプレゼンテーションを実施することができる。											
汎用的 学習成果	(1) プレゼンテーションの準備、資料作成、実施について学ぶことを通じて社会的・職業的自立に必要な知識を習得し実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)											
	(2) プレゼンテーションの仕組みを包括的に学び、論理的かつ人間的なプレゼンテーションを行い、説得、賛同、共感につなげることができる。(専門的学習成果②③に関連)											
	(3) 習得した専門的知見や技術を活用して地域の課題解決に役立つプレゼンテーションを実施し地域社会の発展に寄与することができる。(専門的学習成果①②③に関連)											
授業概要	「プレゼンテーションとは何か」などの基礎的理論について学ぶ。理論を踏まえ、準備、リハーサル、実施までの流れの的確な実行を目指す。「準備力」「表現力」など「プレゼンテーション・スキル」を総合し、効果的なプレゼンテーションができる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	1回実施し、100%を配点する。								
		実技	40	2回実施し、各回50%を配点する。								
	平常点	50	授業への取り組み、意欲、態度により評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	富士通エフ・オー・エム		『よくわかる Microsoft Office PowerPoint 2013』						FOM出版／富士通エフ・オー・エム			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2回のプレゼンテーション発表(実技①②)は必須。パワーポイントによりビジュアル資料を作成するためUSBメモリを持参することが望ましい。教科書・配布資料の指定された箇所を熟読し、理解し、不明な点は明らかにした上で授業に臨むこと(予習:週2時間程度)。課題に対しては、随時フィードバックを行うので、理解不足の点や錯誤した箇所について、十分に振り返りを行うこと。(復習:週2時間程度) ②実技、レポート、その他評価については、口頭でコメントとして伝え、フィードバックとする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	プレゼンテーション演習の概要	
	学習成果	各種資格における本授業の位置づけと、目的、内容について適切に理解し、説明することができる。	
	予習復習の内容	世界的に有名なプレゼンテーションについて調査する。	
2回	授業内容	プレゼンテーションの準備① 作成手順と組み立て/表現力①	
	学習成果	プレゼンテーションを行うための一連の流れにを把握し、作業することができる。	
	予習復習の内容	効果的なコミュニケーションの在り方について調査する。	
3回	授業内容	プレゼンテーションの準備② シナリオ準備/表現力②	
	学習成果	効果的なプレゼンテーションの在り方について探求し、独自のシナリオに活かすことができる。	
	予習復習の内容	効果的な演出方法について調査する。	
4回	授業内容	プレゼンテーションの準備③ シナリオ作成/表現力③	
	学習成果	コンピューターをスムーズに操作し、パワーポイントスライドを作成することができる。	
	予習復習の内容	コンピューターに触れる機会を増やし、OSおよびアプリケーションの操作方法に慣れる。	
5回	授業内容	パワーポイントを使用した資料作成① 機器の名称としくみ	
	学習成果	周辺機器の名称、操作方法を理解し、適切に運用することができる。	
	予習復習の内容	プレゼンテーションに関わる各種機器について調査する。	
6回	授業内容	パワーポイントを使用した資料作成② 調査、資料作成、練習	
	学習成果	実技に向け、求められる内容に合致した情報について調査し、資料作成ができる。	
	予習復習の内容	より良い資料収集に向け、図書館、インターネット等で調査する。	
7回	授業内容	パワーポイントを使用した資料作成② 資料作成、練習	
	学習成果	収集した素材を取捨選択し、効果的に組み合わせ、最適化されたコンテンツを意識し、作成していくことができる。	
	予習復習の内容	より良い構成について、優れた事例を調査する。	
8回	授業内容	プレゼンテーション(実技①)	
	学習成果	プレゼンテーションの実技(テスト)を行う。	
	予習復習の内容	他者のプレゼンテーションから学び、自らのプレゼンテーションのレベルアップについて思考する。	
9回	授業内容	総合演習ガイダンス	
	学習成果	調査、作成、実施の全てにおいて高いレベルを達成するために、意識を変え作業工程を見直すことができる。	
	予習復習の内容	他者を意識し、より優れたワークの提示の在り方について検討する。	
10回	授業内容	総合演習① 調査・情報収集/練習	
	学習成果	より良い実技を行うために求められるテーマを探求し、調査、精査をすることができる。	
	予習復習の内容	発表に向けたテーマについて調査・検討する。	
11回	授業内容	総合演習② 構成準備・情報収集/練習	
	学習成果	収集したプレゼンテーション用の素材を吟味し、取捨選択し、最適な組み合わせを志向し、最善を選択することができる。	
	予習復習の内容	雑多な情報群から、最適と思われる資料を探し求める。	
12回	授業内容	総合演習③ シナリオ作成/練習	
	学習成果	最善のコンテンツを志向し、校正することができる。	
	予習復習の内容	校正を繰り返し、よりよいワークになるよう、精査する。	
13回	授業内容	総合演習④ 効果測定/練習	
	学習成果	コンテンツ、デリバリーの両面から、作成中のプレゼンテーションについて再検討することができる。	
	予習復習の内容	自分にあつた語彙、スピード、リズムについて検討し、練習する。	
14回	授業内容	総合演習⑤ リハーサル	
	学習成果	実技に向け、最終的な調整を自分のベースで行うことができる。	
	予習復習の内容	実技に向け練習し、内容および操作の一連の手順を暗記し、スムーズにプレゼンテーションできるようにする。	
15回	授業内容	プレゼンテーション(実技②)	
	学習成果	プレゼンテーションの実技(テスト)を行う。	
	予習復習の内容	他者のプレゼンテーションから学び、自らのプレゼンテーションのレベルアップについて思考する。	

科目名	簿記会計学				担当者	永野 篤						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。											
専門的 学習成果	①	企業会計における簿記の必要性を述べることができる。										
	②	複式簿記の記帳ルールを説明できる。										
	③	財産管理ができるようになる。										
	④	財務諸表（貸借対照表と損益計算書）の作成と経営分析ができるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	簿記を学ぶことにより、社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	財産管理と財務諸表の作成並びに経営分析を学ぶことにより、社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し、実践につなげることができる。（専門的学習成果③④）										
授業概要	簿記とは、一定の法則にもとづいて、日々の取引および財産の増減変化を正確明瞭に記録・計算・整理するシステムである。その目的は企業の財政状態と経営成績を明らかにし企業経営者並びに利害関係者に有用な会計情報を提供することにある。企業会計の仕組みをできるだけやさしく解説し、簿記会計知識が身に付く講義をする。具体的にはまず簿記の成り立ちからはじめて、複式簿記と家計簿の違い、記帳方法（ルール）を詳しく学ぶ。次に簿記上の取引項目や決算手続きを学び、財務諸表（貸借対照表と損益計算書）を作成し分析する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	「複式簿記と家計簿」について内容・根拠・独創性で評価を行う。								
		小テスト	80	10回実施し、各回10%を配点とする。1～3回分の講義内容の理解の程度を評価する。								
	平常点	10	授業内容へのフィードバック、疑問点の解決、貢献・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③及び④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名			出版社名							
	登川雄太	『世界一やさしい 会計の教科書 1年生』			ソーテック社							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名			出版社名							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①簿記は演習が不可欠である。事前学習としてテキストをよく読んでくること。（予習：週1時間程度）事後学習としては、テキスト並びに指定された範囲の演習問題を解くこと。（復習：週3時間程度）電卓は必ず持参すること。 ②提出されたレポートは全体的な講評を行い、添削して返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	会計と株式会社について知る	疑問点の解決、論点についての確認を行う
	学習成果	会計、企業会計の特徴、株式会社について理解し説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p10-20の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
2回	授業内容	財務諸表の意義と構成について知る	疑問点の解決、論点についての確認を行う
	学習成果	財務諸表の種類と、それぞれの特徴について知る	
	予習復習の内容	テキスト p25-30の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
3回	授業内容	貸借対照表とキャッシュフローの関係について知る	小テスト (1) 企業会計の特徴、財務諸表の種類について確認する
	学習成果	貸借対照表の考え方と変化の様相について説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p32-50の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
4回	授業内容	損益計算書とキャッシュフローの関係について知る	小テスト (2) 貸借対照表と損益計算書の構成について確認する
	学習成果	損益計算書の考え方と貸借対照表・キャッシュフローの関係を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p52-57の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
5回	授業内容	簿記の基本をマスターする (1)	疑問点の解決、論点についての確認を行う
	学習成果	簿記の考え方と、会計における取引、仕訳の簡単なしくみについて説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p64-80の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
6回	授業内容	簿記の基本をマスターする (2)	小テスト (3) 現金を基本とした仕訳について確認する
	学習成果	簿記の考え方と、会計における取引、仕訳の簡単なしくみについて説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p81-90の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
7回	授業内容	利益の考え方を学ぶ (1)	小テスト (4) 現金および非現金による取引の仕訳について確認する
	学習成果	会計における利益の考えかたを知る (発生主義、実現主義、期間的対応)	
	予習復習の内容	テキスト p92-111の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
8回	授業内容	利益の考え方を学ぶ (2)	小テスト (5) 利益計算に関する内容を確認する
	学習成果	会計における利益の考えかたを知る (減価償却、引当金、取得原価・時価原価)	
	予習復習の内容	テキスト p113-142の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
9回	授業内容	実際の貸借対照表と損益計算書の読み方を知る	小テスト (6) 安全性分析の内容について確認する
	学習成果	実際の貸借対照表と損益計算書から読み方について学ぶ	
	予習復習の内容	テキスト p144-167の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
10回	授業内容	キャッシュフロー計算書のメカニズムについて知る	小テスト (7) キャッシュフロー計算書のメカニズムについて確認する
	学習成果	利益とキャッシュ、財務3表の関係、間接法、営業活動によるCFの意義について説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p168-198の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
11回	授業内容	企業グループの連結財務諸表を学ぶ	小テスト (8) 連結財務諸表における論点について確認する
	学習成果	親会社と子会社、企業集団と連結財務諸表、連結財務諸表のイメージについて学ぶ	
	予習復習の内容	テキスト p200-220の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
12回	授業内容	会計用語をおさえてニュースの深掘りを行う	小テスト (9) 現代会計の論点について確認する
	学習成果	国際会計基準とIFRS、減損損失、のれん、税効果会計について知る	
	予習復習の内容	テキスト p222-250の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
13回	授業内容	投資にも役立つ企業の財務分析を行う (1) 収益性	疑問点の解決、質疑応答の活発さを確認する
	学習成果	財務分析における収益性分析の種類と意味について説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p252-260の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
14回	授業内容	投資にも役立つ企業の財務分析を行う (2) 安全性	疑問点の解決、質疑応答の活発さを確認する
	学習成果	財務分析における安全性分析の種類と意味について説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p262-264の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
15回	授業内容	企業分析を通じて会計の基本をマスターする	小テスト (10) 授業を通じて学んだ会計に関する全般的概念・用語の定着について確認する
	学習成果	財務分析における安全性分析の種類と意味について説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p265-269の予習を行い、復習によって全体的内容の理解を深め用語の記憶を確実なものにさせる	

科目名	ビジネス心理学				担当者	水野篤						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期集中
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスマナーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール											
専門的 学習成果	①	心理学発達の歴史について説明できる。										
	②	人と人で行われるコミュニケーションのメカニズムについて説明ができる。										
	③	人間の感情、思考、行動のメカニズムについて説明ができる。										
	④	ビジネス場面における、メンタルヘルスとコミュニケーションの重要性について説明ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	心理学の歴史を学ぶことを通じて、社会的自立に必要な知識を修得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	人間の総合的判断力のメカニズムについて理解し、適切に活用することができる。(専門的学習成果①③④に関連)										
	(3)	コミュニケーションのメカニズムを理解し、その能力を適切に活かし、社会に貢献することができる。(専門的学習成果②③④に関連)										
授業概要	心理学は、心の科学である。しかし、心というものを目で見えて観察することは難しく、そのため、行動そのものが「研究対象」になったり、無意識という領域を想定し、研究の対象としている。そのすべてを網羅し深く学んでいくことは、心理学者であったとしても不可能といえるかもしれない。本授業では、心理学という考え方が誕生した経緯を踏まえ、現代の社会が抱える諸問題に上手に適応し、毎日を過ごしやすいしていくための知恵とスキルを学んでいく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	100	5回実施し、各回20%を配点する。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	西川泰夫・高砂美樹	『心理学史』				放送大学教材						
	海保博之・木野木祐明・岡市広成	『心理学研究法』				放送大学教材						
	アルフレッド・ベンジャミン	『カウンセリング入門 支援する心と技術』				春秋社						
	河合隼雄	『カウンセリングの実際問題』				誠信書房						
	アブラハム・H・マズロー	『完全なる人間 魂のめざすもの』				誠信書房						
	大森守・廣尚典・市川佳居	『職場のメンタルヘルス100のレシピ』				金子書房						
	森田正馬	『神経質の本態と療法 森田療法を理解する必読の原点』				白揚社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①1年次の夏休みに行う集中講義である。配布資料を基に、1コマに対し、予習2時間、理解不足を補う復習1時間を行い、学習を深めること。 ②課題の小テストについては、随時コメントを添え返却することでフィードバックとする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	心理学が生まれる前までの歴史	2回目終了時、1回目と2回目の理解について問う小テストを実施する。
	学習成果	歴史上の事象から人間の心のメカニズムについて解説できる。	
2回	予習復習の内容	人間の“心理”が強く影響したことによって起こった歴史的な出来事について調査する。	
	授業内容	心理学史 (1) 心理学の誕生	
3回	学習成果	哲学的心理学、科学的心理学について説明できる。	4回目終了時、3回目と4回目の理解について問う小テストを実施する。
	予習復習の内容	ウェーバー、フェヒナー、ヘルムホルツ、ヴェントの業績について調査する。	
4回	授業内容	心理学史 (2) ユングとフロイト	
	学習成果	ユングとフロイトの業績の意義と、二人の相違について説明できる。	
5回	予習復習の内容	ユングとフロイト、それぞれの活動内容について調査する。	6回目終了時、5回目と6回目の理解について問う小テストを実施する。
	授業内容	心理学史 (3) 発達心理学	
6回	学習成果	発達心理学の歴史と意義を踏まえ、職場での応用方法について説明できる。	
	予習復習の内容	エリクソンとスーパーの、発達心理学上の貢献について調査する。	
7回	授業内容	自己実現とは何かについて考える。	8回目終了時、7回目と8回目の理解について問う小テストを実施する。
	学習成果	自己実現という考え方が発生した経緯と、その実際について説明できる。	
8回	予習復習の内容	西洋において教会による支配力が衰退した経緯について調査する。	
	授業内容	心理学の考え方と各種技法 (1) リラックス	
9回	学習成果	漸進的筋弛緩法を自立的に行うことができる。	
	予習復習の内容	指定された動画を見て、漸進的筋弛緩法の練習を行う。	
10回	授業内容	心理学の考え方と各種技法 (2) カウンセリング	
	学習成果	来談者中心療法の思想とコミュニケーションのメカニズムについて解説できる。	
11回	予習復習の内容	指定された動画を見て、カウンセリング的コミュニケーションを練習する。	
	授業内容	心理学の考え方と各種技法 (3) メンタルヘルス	
12回	学習成果	現代日本社会のビジネス場面で発生する心理学的課題について説明できる。	
	予習復習の内容	心・メンタルに関連しておこる職場の問題について調査する。	
13回	授業内容		
	学習成果		
14回	予習復習の内容		
	授業内容		
15回	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	ビジネス実務演習					担当者	富田 幸重					
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィサーについては初回の授業で連絡する。授業内容に関する質問は毎回、授業前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	ビジネス実務能力が発揮できるような考え方や技術を習得し実践できる。										
	②	状況に応じた的確な判断と表現を養うことにより、対人関係において豊かなコミュニケーションが取れるようになる。										
	③	日本の産業別 GDP・昨今の日本業界を理解し、説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	実践的なビジネス実務能力を学ぶことを通して、社会的職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	ビジネスに必要とされるコミュニケーション能力が養われ、他者を理解し自己表現ができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(3)	日本経済及び日本の業界を学ぶことで、将来の仕事に関わる分野を探求し、自ら課題を見出し解決に向け行動できる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	企業において求められているものは何か。それを踏まえながら社会人として仕事をしていく上で必要な実務（一般知識・対人関係・技能・マナー接遇など）の遂行について深い理解を持ち、実践できることを目的とする。特に仕事上の状況に応じた判断（予定外の仕事・クレームに対する処理・突発的な来客対応など）が自分の考えでできるように、企業人として社内外で得た実務経験及び具体的エピソードをもとに学習する。また昨今の時事問題・日本の業界を理解し、就職活動に役立てるようにする。さらには、ビジネス実務の重要性を認識し、洞察力・判断力・思考力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	テーマに沿ったレポートの評価（体裁・内容・根拠・独創性にて評価する。）								
		筆記試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価する。								
汎用的 学習成果	平常点	10	授業への取り組み・態度・意欲を評価する。									
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
		プリント資料配付										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①時間外学習として30時間の学習を求める。 受講後に講義内容をしっかり復習し、就職における情報収集や、専門的な知識・技術を身につけ、実践することで習得すること。節度を守った受講態度で授業に取り組むこと。 ②提出された課題・試験は全体的な解説・講評を行い、フィードバックするので、自らの理解を深めること。											

授業計画			学習成果の評価	授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 仕事にのぞむ意識 企業組織と社会	ワークシートへの取り組み	16回	授業内容	人間関係の心理① 交流分析 ジョハリの窓 アサーション	
	学習成果	企業はどのような組織で運営されているかを知り、説明できる。			学習成果	ジョハリの窓・交流分析を通して自分を客観的に捉えることができる。	
	予習復習の内容	ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、ジョハリの窓・アサーションの理解を深める。	
2回	授業内容	ビジネス実務① 業務の流れと部門運営 顧客のニーズ	講義時に配付される資料・ワークシートへの取り組み・活用	17回	授業内容	対人関係① 集団の心理 説得的コミュニケーション	
	学習成果	階層別役割分担を理解し、説明できる。			学習成果	人はどのようなときに説得されやすいかを理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各部門におけるニーズ対応の例を整理しておく。			予習復習の内容	自分が誤得されたときのメカニズムを考察する。	
3回	授業内容	ビジネス実務② 仕事への情報活用 情報の種類と性格		18回	授業内容	対人関係② 流行について 店内のディスプレイ 色の効用	
	学習成果	情報化の進展や情報活用の具体的方法を知り、作成できる。			学習成果	流行が普及する過程を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	興味のある時事問題を取り上げ、情報を収集し、まとめておく。			予習復習の内容	流行に対して自分がどのように思うかを考察する。	
4回	授業内容	ビジネス実務③ 統計・データの読み方、まとめ方		19回	授業内容	対人関係③ 職員の人間関係と生感性	
	学習成果	統計・データを読み取り、まとめる際のポイントを説明できる。			学習成果	仕事に影響を及ぼす人間関係を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	文献などを利用し、実際に統計・データをまとめてみる。			予習復習の内容	良好な人間関係を作るにはどうすればよいか考察する。	
5回	授業内容	ビジネス実務④ 産業と経済知識 業界研究① 日本のGDP 世界と国内の企業収益		20回	授業内容	対人関係④ アクティブリスニング（積極的傾聴） 聴き方のステップ	
	学習成果	日本の産業構造の変化と社会の流れを理解し、概要を説明できる。			学習成果	対人関係における聴くことの重要性を理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	日本の主力産業を調べておく。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、正しく効果的に聴くために練習してみる。	
6回	授業内容	ビジネス実務⑤ 会議の種類と目的 基本的な流れ 業界研究② 電機・エレクトロニクス機器		21回	授業内容	対人関係⑤ 効果的な話し方 話の構成	
	学習成果	会議の種類と目的、その流れを理解し、説明できる。			学習成果	目的に応じた話し方を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、会議の種類と目的についての理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、相手にわかりやすく話してみる。	
7回	授業内容	ビジネス実務⑥ 就業規則と労働法 業界研究③ 情報通信・インターネット		22回	授業内容	対人関係⑥ ビジネス会話のポイント	演習への取り組み
	学習成果	就業規則と労働法、勤務条件を理解し、説明できる。			学習成果	ビジネス会話の始め方を理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	男女雇用機会均等法、育児・介護休業法について調べておく。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、相手に合わせた話し方を練習してみる。	
8回	授業内容	ビジネス実務⑦ ビジネスと法律知識 業界研究④ 金融・生活用品		23回	授業内容	対人関係⑦ 状況に応じた言葉づかい	課題レポート提出（テーマ・詳細は授業内で指示）第26回までに提出 講義時に配付される資料・ワークシートへの取り組み・活用
	学習成果	債権と債務、売買契約、知的所有権について理解し、説明できる。			学習成果	場や状況を的確に判断し、自分の立場を考へて話すことができる。	
	予習復習の内容	知的所有権について調べておく。			予習復習の内容	その場に応じた話し方を練習してみる。	
9回	授業内容	ビジネス実務⑧ 配慮の必要な社外文書 トラブルやクレームに関する文書 業界研究⑤ 食品		24回	授業内容	マナー接遇① 敬語・敬称語の使い方	
	学習成果	配慮の必要な社外文書を作成できる。			学習成果	ビジネスにふさわしい敬語・敬称語を理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、作成にあたっての留意事項を整理しておく。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、状況に応じて敬語・敬称語を練習してみる。	
10回	授業内容	ビジネス実務⑨ 日本経済の基本構造と変化 業界研究⑥ 生活用品		25回	授業内容	マナー接遇② 来客応対と面談のマナー 席次	
	学習成果	産業構造の変化、社会生活と価値観の変化、環境問題への対応などを理解し、説明できる。			学習成果	来客応対及び席次を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	大きく変化した価値観について考察する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、来客応対・席次について理解を深める。	
11回	授業内容	ビジネス実務⑩ 経済環境の変化 業種ごとの動向 業界研究⑦ 流通・外食		26回	授業内容	マナー接遇③ 交際の業務 慶事・弔事に伴う義務	
	学習成果	業種ごとの動向を理解し、概要を説明できる。			学習成果	日本の慶事・弔事のマナーについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	興味のある業種を調べておく。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、慶事・弔事の情報収集について理解を深める。	
12回	授業内容	ビジネス実務⑪ 業界研究のまとめ 業界研究⑧ 娯楽・メディア	制作への取り組み	27回	授業内容	マナー接遇④ 贈答のマナー(上書きの書き方) パーティーの知識	
	学習成果	興味のある業界を調べてまとめ、レポートを提出することができる。			学習成果	贈答のマナー・パーティーについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	レポート制作に必要な準備を行う。			予習復習の内容	日本の贈答のしきたりを調べておく。	
13回	授業内容	人間関係の心理② 人間関係の基礎 パソナリティについて 要求される人柄と資質	講義時に配付される資料・ワークシートへの取り組み・活用	28回	授業内容	マナー接遇⑤ 接遇の実際 演習	
	学習成果	パーソナリティについて理解し、説明できる。			学習成果	ビジネスにおける接遇の仕方を理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、要求される人柄と資質について理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、接遇についての理解を深める。	
14回	授業内容	人間関係の心理③ 第一印象の重要性 メラビアン法則 印象形成のメカニズム		29回	授業内容	就職面接におけるビジネスマナー 立ち居振る舞い 面接の実際	演習への取り組み
	学習成果	第一印象の重要性 メラビアン法則を理解し、説明できる。			学習成果	面接におけるマナー・立ち居振る舞いを理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	他人に会ったとき、どのように第一印象を決めるのか、考察する。			予習復習の内容	実際の面接を想定し、練習してみる。	
15回	授業内容	人間関係の心理④ 自己分析 人間関係と性格		30回	授業内容	ままと総括 キャリアデザイン	筆記試験（全30回分の内容を問う）
	学習成果	自己分析を通して自分を客観的に捉えることができる。			学習成果	キャリアと仕事を考察し、目標を立てることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、人間関係と性格の理解を深める。			予習復習の内容	この授業の内容全体について整理し、まとめておく。	

科目名	ビジネス実務演習					担当者	三浦貴子					
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問は毎回、授業前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	自らの職業観や就労観を確立し、職業的自立に向けて情報収集、および実務能力が発揮できる。										
	②	基本的、効率的な業務の進め方を理解し、問題解決のための円滑なコミュニケーションが図れる。										
	③	日本経済の基本構造、企業の役割、責任、権限等を理解し、説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	実践的なビジネス実務を学ぶことを通じて、社会的・職業的自立に必要な知識と技能を修得し活用できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	ビジネスに必要な自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、協働ができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(3)	日本経済を学ぶことで、将来の仕事に関わる分野を探求し、自ら課題に向き合い行動できる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	ビジネス実務として、一般常識、キャリアマネジメント、産業と経済の基礎知識、接客営業、チームワーク等を学び、理解を深める中で、社会人としての土台を築くことを目標とする。また、グループワークを通して、ビジネスの基本となるコミュニケーション力を育み、良好な人間関係構築への自信をつけていく。そして、具体事例から、時代を読み取り、多面的な視点から考え抜く力を身につけ、変化の激しい現代社会に対応できるようになる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	グループワーク、個々の課題についてのレポートの内容、体裁、独創性で評価する。								
		小テスト	40	学習内容に基づいた記述式の問題、および口述演習の問題を課し、評価する。								
	汎用的 学習成果	平常点	20	授業への取り組み・態度・意欲を評価する。								
		(1) は専門的学習成果①～③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②により評価を行う。 (3) は専門的学習成果③により評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			印刷資料配付									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	実務技能検定協会		『秘書検定1級集中講義』				早稲田教育出版					
職業教育・キャリア教育財団		『ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキスト』				日本能率協会マネジメントセンター						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①時間外学習として週2時間の学習を求める。 事前学習として、授業内容に関連する文献を読み、理解を深めておくこと。 事後学習として、授業中に板書した内容を中心に内容を振り返り、復習しておくこと。あわせて関連する文献に触れ、理解の定着に努めること。 ②提出された課題・小テストについては、当該授業中、または次回の授業で、解答解説および講評を通し、フィードバックを行う。											

授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス キャリアと仕事へのアプローチ	レポート(顧客意識とホスピタリティマインドについて)
	学習成果	ビジネスキャリアは自分で作り出す時代だと自覚し、将来を考え行動できる。	16回
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
授業内容	8つの意識	17回	
2回	学習成果	顧客意識を中心とした仕事の基本となる8つの意識を理解し説明できる。	17回
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、8つの意識の関わり合いについて振り返り、各項目を整理しておく。	
	授業内容	会社活動の基本	
3回	学習成果	会社とは何か、経営、仕事の流れ、コンプライアンス等、理解し説明できる。	18回
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、会社組織について内容を振り返り、各項目を整理しておく。	
	授業内容	コミュニケーションとビジネスマナーの基本	
4回	学習成果	出社から退社までの基本マナーのほか、態度や健康管理まで把握し実践できる。	19回
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、周知との関わりの中で、自身のマナーや態度を客観的に確認し改善する。	
	授業内容	ビジネス会話の基本	
5回	学習成果	文書の構成、正しい敬語等、ビジネスの場に相応しい言葉遣いを習得し使いこなせる。	20回
	予習復習の内容	日々の会話の中で、自身の話し方が社会人として相応しいか客観的に確認し、改善する。	
	授業内容	指示の受け方と、報告、連絡、相談	
6回	学習成果	社内での伝達、報連相の重要性を理解し、伝達方法を体現できる。	21回
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、正確な情報伝達の手段が取れるよう様々な状況を想定し表現してみる。	
	授業内容	話し方と聴き方のポイント	
7回	学習成果	傾聴について理解を深め、心の通った会話ができる。	22回
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、傾聴について日常生活の中で実践してみる。	
	授業内容	接客応対と訪問の基本	
8回	学習成果	名刺交換やあいさつ、立ち居振る舞い等の面談のマナーを理解し実践できる。	23回
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、接客応対の基本マナーについて確認しておく。	
	授業内容	接客と営業の進め方	
9回	学習成果	顧客獲得、顧客満足度を高めるための接客について理解を深める。	24回
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、営業活動にあたっての留意事項を整理しておく。	
	授業内容	不満を信頼に変えるクレーム対応	
10回	学習成果	顧客心理を理解し、対応の仕方が信頼を左右することを理解し、問題解決につなげられる。	25回
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、営業活動トラブル解決にあたっての留意事項を整理しておく。	
	授業内容	会議への出席とプレゼンテーション	
11回	学習成果	会議の種類、進行、議事録、プレゼンテーションの基本を理解し、説明できる。	26回
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、会議の種類と目的についての理解を深める。	
	授業内容	チームワークと人のネットワーク	
12回	学習成果	リーダーシップとメンバーシップの意義を理解し、チームの相を築ける。	27回
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、チームでの目標達成に向けて必要なことについて理解を深め、整理しておく。	
	授業内容	会社関係での付き合い	
13回	学習成果	仕事上での冠婚葬祭、会食等、お付き合いのマナーについて理解し説明できる。	28回
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、マナーや文化について理解を深める。	
	授業内容	効率的・合理的な仕事の進め方	
14回	学習成果	スケジュール管理、情報整理、名刺整理、定型業務等、作業の効率性を考えられる。	29回
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、効率的な作業の進め方を取り入れ実践する。	
	授業内容	ビジネス文書の基本	
15回	学習成果	社内文書、社外文書それぞれの役割を理解し、正しい書き方について実践できる。	30回
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ビジネス文書の種類について理解を深める。	
	授業内容	電子メール、手紙、郵便の知識	
学習成果	電子メール、手紙、書籍の書き方、マナー、郵便知識を理解し説明できる。	16回	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、メール、郵便の基本について理解を深める。		
授業内容	電話応対の重要性		17回
学習成果	正しい電話の受け方、かけ方、取り置き方、伝言の仕方を理解し、実践できる。	17回	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、電話の応対が正しく実践できるよう理解を深める。		
授業内容	統計・データの読み方、まとめ方		18回
学習成果	表やグラフの役割と特徴を理解し、情報を読み取ることができる。	18回	
予習復習の内容	新聞記事や文献などを利用して、実際に統計・データから情報を読み取る練習をしていく。		
授業内容	情報収集とメディアの活用		19回
学習成果	新聞からインターネットまで、状況に合わせた情報の収集、および取捨選択ができる。	19回	
予習復習の内容	新聞記事や文献などを利用して、情報を選びとる練習をしていく。		
授業内容	会社数字の読み方		20回
学習成果	企業活動の源泉、売上とコスト、利益の関係を理解し、説明できる。	20回	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、会社に関わる数字について理解を深める。		
授業内容	ビジネスと法律・税金知識		21回
学習成果	就業規則と労働法、社会保障、税金の基礎知識等について理解し、説明できる。	21回	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、ビジネスに関わる法律や税金について理解を深める。		
授業内容	問題解決の力		22回
学習成果	場や状況の的確に判断し、問題に対処し自身で乗り越える力をつける。	22回	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、様々な状況での問題解決について理解を深める。		
授業内容	日本経済の基本構造と変化		23回
学習成果	戦後日本の主力産業の移り変わりや現在までの歴史を理解し、説明できる。	23回	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、戦後各年代での主力産業について確認し理解を深める。		
授業内容	経済のグローバル化と社会構造の変革		24回
学習成果	国際化の進捗中で求められる人材の変化を理解し、説明できる。	24回	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、グローバル化の状況に対応するには何が必要と考えておく。		
授業内容	情報リテラシー		25回
学習成果	溢れる情報の中から必要なものを選び出し使いこなすことができる。	25回	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、図書館やインターネット等を利用して、情報の収集、取捨選択の実践を行う。		
授業内容	ビジネス用語の基本		26回
学習成果	経済、環境、業界、法律、時事、各用語の理解を深め、説明できる。	26回	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、各種ビジネス用語の意味について確認し理解を深める。		
授業内容	ビジネス場での判断能力		27回
学習成果	場にあわせた敬語のレベル、社内の機密保持等、機軸を利かせ正しい判断をし実践できる。	27回	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、状況にあわせた判断ができるように整理しておく。		
授業内容	政治の基本		28回
学習成果	国会、内閣、選挙、地方自治等、政治の基本について理解し、説明できる。	28回	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、政治の基本について確認し理解を深める。		
授業内容	働く意識		29回
学習成果	今、社会に求められるには何が必要か判断し、エンプロイアビリティを身につけ行動に移せる。	29回	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、雇われる能力について確認し行動に移せるよう理解を深める。		
授業内容	総括		30回
学習成果	これからの時代のキャリアマネジメントを考察し、目標を立てることができる。	30回	
予習復習の内容	この授業の内容全体について整理し、まとめておく。		

科目名	現代会計と企業経営				担当者	水野篤						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	後期集中
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィサーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール											
専門的 学習成果	①	現代の会計制度のしくみの概要を説明することができる。										
	②	企業がどのように会計制度を活用しているか、説明することができる。										
	③	企業の財務諸表から、企業の経営状態や経営成績について読み取り、議論することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	企業会計に関する知識を身につけ、社会的自立に必須の知見を修得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	多様な業種・業態・規模の企業を調査・分析することで、企業評価の実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	同業他社の企業比較を行い、分析する手法を駆使し、職業人としての実務に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	企業を評価する一つの方法は決算書から得られる情報によって分析を行うことである。社会人・職業人として必須のこの知識・技術を、会計制度が成り立つ歴史の変遷を踏まえ、現存する企業群を会計的アプローチから精査し、自分なりの見解を述べ、討議することができるようになることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	100	各回のテストにより、各回12.5%を配点する。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①1年次学生の、春休みに行う集中講義である。オンラインを介した資料配布、小テストを行うため、インターネットに接続でき、かつ、操作が容易なスマートフォン、タブレット、ノートPCなどを持参すること。 ②小テストは、原則授業中に行い、集計後、速やかにフィードバックを行う。 ③予習復習には、それぞれ1時間程度かけることが期待されるが、集中授業のため授業と授業の間に行うことは難しいことが予想される。そのため、事前課題、事後学習を念入りに行うこと。 ④企業分析を行う予定の企業については、授業実施の際の社会状況を踏まえたり、参加学生の関心に応じて変更することがある。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	会計制度とは何か？		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	会計制度の成立について、歴史の変遷を踏まえ、理解する。		
2回	予習復習の内容	事前の課題に基づき、会計制度の歴史について資料を読み込む。		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	授業内容	企業の財務情報はどのようにして入手するか？		
3回	学習成果	有価証券報告書や決算短信の入手方法や、コンセプトの違いを理解する。		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	予習復習の内容	事前の課題に基づき、複数の決算資料の違いについての資料を読み込む。		
4回	授業内容	決算書の構成と名称		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書について学ぶ。		
5回	予習復習の内容	決算書の名称ならびに主要な勘定科目について理解・記憶する。		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	授業内容	企業分析の実際①安全性		
6回	学習成果	貸借対照表を利用した代表的分析手法を学ぶ。例：トヨタ自動車		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	予習復習の内容	事前に対象企業のデータを精査し、分析結果をまとめる。		
7回	授業内容	企業分析の実際②収益性		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	損益計算書を利用した代表的分析手法を学ぶ。例：オリエンタルランド		
8回	予習復習の内容	事前に対象企業のデータを精査し、分析結果をまとめる。		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	授業内容	企業分析の実際③効率性		
9回	学習成果	貸借対照表と損益計算書を合わせた効率性の代表的手法を学ぶ。例：ファーストリテイリング		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	予習復習の内容	事前に対象企業のデータを精査し、分析結果をまとめる。		
10回	授業内容	企業分析の実際④分析結果を総合的に評価する (1) 時系列変化		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	これまで学んだ分析手法を総合し、時系列の変化に着目し、評価する。		
11回	予習復習の内容	事前に対象企業のデータを精査し、分析結果をまとめる。		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	授業内容	企業分析の実際⑤分析結果を総合的に評価する (2) 同業他社比較		
12回	学習成果	これまで学んだ分析手法を総合し、同業他社を比較し評価する。		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	予習復習の内容	事前に対象企業のデータを精査し、分析結果をまとめる。		
13回	授業内容			
	学習成果			
14回	予習復習の内容			
	授業内容			
15回	学習成果			
	予習復習の内容			

科目名	秘書検定講座				担当者	富田幸重						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。 授業内容に関する質問は毎回、授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	秘書の役割と機能について理解し、その内容を説明できる。										
	②	秘書として必要とされる職務知識・技能を理解し、説明できる。										
	③	秘書としての身だしなみ・態度・言葉づかいを習得し、実践できる。										
	④	現代社会におけるマナー・接遇を習得し、実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	秘書実務を学ぶことを通して、秘書としての職業自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	秘書として必要とされる実務能力を習得することによって、社会人としてその技能を活用することができる。(専門的学習成果②③④に関連)										
	(3)	秘書としてふさわしい態度・人柄を理解し、身につけることによって、他者理解ができ、コミュニケーション能力を養うことができる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	秘書検定試験合格のために必要な基礎的知識と技能の習得を目的とする。具体的には秘書として必要とされる資質、職務知識、一般知識を学び、その判断力・考え方・適切な対処法の実践力を養う。また、慶用マナー・接遇、文書技能、交際業務を習得することにより、コミュニケーションの重要性を認識し、社会人として実践できるようにする。さらに、秘書技能に最も大切な論理的思考・問題解決能力を有し、「洞察力」および、「対人能力」を身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	30	小テストを2回実施し、各15%ずつ正解率に沿って評価を行う。								
		筆記試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1)	①は専門的学習成果①～④で評価を行う。										
	(2)	②は専門的学習成果②③④で評価を行う。										
	(3)	③は専門的学習成果③④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	西村 この実	『現役審査員が教える秘書検定2・3級テキスト&問題集』				成美堂出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①受講の際は秘書検定を必ず受験することを条件とする。 事前学習として、テキスト(特に授業の内容と関係の深い部分)や配付される資料をよく読んでおくこと(予習:週2時間程度)。 事後学習としては、検定に向け授業内容をしっかり理解しておくこと(復習:週2時間程度)。 ②小テスト・過去問題に対しては、授業内で返却し解説を行う。講義内の対策・アドバイス・解答例を持ってフィードバックとする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	秘書の資質① ガイダンス 社会人としての意義 求められる能力	小テスト(秘書の資質と役割について)第4回に実施 講義時に毎回配付する資料・ワークシートへの取り組み・活用
	学習成果	秘書として求められる能力を理解し、概要を説明できる。	
予習復習の内容	検定に向けて、学習計画をたてる。		
2回	授業内容	秘書の資質② 秘書に求められるパーソナリティ 身だしなみ	
	学習成果	身だしなみについての基本的な人柄・身だしなみを習得し、実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、秘書に求められるパーソナリティについて理解する。		
3回	授業内容	職務知識① 秘書の役割と機能 日常業務	
	学習成果	秘書の役割と機能を理解し、内容を説明できる。	
予習復習の内容	テキストの該当ページを読み、理解を深める。		
4回	授業内容	職務知識② 業務の進め方 ケーススタディー	
	学習成果	特別な状況への対処方法が説明できる。	
予習復習の内容	テキストの該当ページを読み、理解を深める。		
5回	授業内容	一般知識① 企業についての基礎知識 人事・労務に関する知識 マーケティングの知識	
	学習成果	経営における一般知識を理解し、説明できる。	
予習復習の内容	会社の組織形態・マーケティングについて理解を深める。		
6回	授業内容	一般知識② 企業と法律 会計・税務の基礎知識 情報処理とニューメディア	
	学習成果	企業会計、社会常識を理解し、説明できる。	
予習復習の内容	テキストの該当ページを読み、理解を深めておくこと。		
7回	授業内容	マナー・接遇① 正しい敬語の使い方 接遇の表現 話し方・聞き方の応用	
	学習成果	敬語と接遇表現を習得し、実践できる。真意をとらえる聞き方ができる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り表現力を養うため、日常実践し、練習しておくこと。		
8回	授業内容	マナー・接遇② 来客応対の常識とケーススタディー 電話応対の基本とケーススタディー	
	学習成果	来客応対と電話応対の基本を習得し、実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、様々な応対のケースについて理解を深める。		
9回	授業内容	マナー・接遇③ 交際の業務 慶弔・弔事・贈答のマナー	
	学習成果	交際の業務に関する業務とマナーを理解し、説明できる。	
予習復習の内容	テキストの該当ページを読み、理解を深めておくこと。		
10回	授業内容	「秘書の資質・職務知識・一般知識・マナー接遇」に関する過去問題対策	
	学習成果	検定レベルに必要な知識を正しく理解できる。	
予習復習の内容	検定に向けて、学習内容をしっかり理解し対策を立てる。		
11回	授業内容	技能① 文書の取り扱い 社内文書・社外文書の作成 ビジネス文書の慣用表現	
	学習成果	社内・社外文書を作成することができる。	
予習復習の内容	ビジネス文書の基礎知識について理解し、復習しておく。		
12回	授業内容	技能② グラフの種類と書き方 「秘」文書の取り扱い 通信	
	学習成果	グラフの種類を理解し、適切なグラフを作成できる。	
予習復習の内容	テキストの該当ページを読み、理解を深める。		
13回	授業内容	技能③ 会議の知識 ファイリングと整理法	
	学習成果	会議の準備と秘書の仕事を理解し、説明できる。ファイルの作成、整理、保管ができる。	
予習復習の内容	テキストの該当ページを読み理解を深める。		
14回	授業内容	技能④ 資料・情報の収集 スケジュール管理	
	学習成果	上司の日程管理を理解し、説明できる。	
予習復習の内容	スケジュール作成・管理のポイントを確認し、まとめておく。		
15回	授業内容	技能⑤ 環境の整備 環境整備とレイアウトの基本	
	学習成果	オフィスのレイアウトは上司の仕事に配慮することを理解し、説明できる。	
予習復習の内容	授業の内容全体について、整理・確認しておく。		

科目名	FP 技能士検定対策講座					担当者	若 林 雅 子					
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1 年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	ライフプランニングの基本を理解し、その内容を説明できる。										
	②	リスク管理についての知識を習得し、課題を解くことができる。										
	③	タックスプランニングの理解を深め、簡単な確定申告書作成や税額計算ができる。										
	④	不動産、相続について理解を深め、その内容、仕組みが説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	FP 全般に繋がるライフプランニングに関する学習を通して知識と技能を職業に活用できる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	タックスプランニングの知識と技能を活かして、地域社会の発展に貢献できる。(専門的学習成果③に関連)										
	(3)	不動産、相続等で習得した知識を職業的自立に活用できる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要												
「年金」、「保険」、「株式や預貯金などの金融資産」、「税金」、「不動産」、「相続」などに関する理解を深めることを第一の目標とする。その上で、お金に関するお客様の悩みや相談を的確に判断して「ライフプランニング」、「リスク管理」を生涯にわたって担当できるよう「お金の専門家」として的確なアドバイスを行うことができる力を身につけると同時に、FP 技能士検定 3 級の合格を目指し、検定試験に対応した演習等の試験対策を行う。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	70	学習した単元を中心に 7 回実施、各 10% ずつ正解率に沿って評価を行う。								
	平常点	30	授業、演習への意欲、取り組み、態度により評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
	滝澤ななみ		『24'25年版 みんなが欲しかった！FP の教科書 3 級』					TAC 出版				
	滝澤ななみ		『24'25年版 みんなが欲しかった！FP の問題集 3 級』					TAC 出版				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①当科目は、経済用語、法律用語が頻出するので、それらを理解するために授業前にテキストをしっかりと読んでおくこと（予習は週 2 時間程度必要）。また、学習した単元の問題を小テストとして課し、その内容を評価の対象とする（復習は週 2 時間程度必要）。 ②小テストは添削の上、次回授業にて返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1 回	授業内容	授業の概要、成績評価について、ライフプランニングと資金計画①	小テスト①（ライフプランニングと資金計画）第 3 回に実施
	学習成果 予習復習の内容	FP の基本について理解できる。 FP の職業的原則、ファイナンシャル・プランニングとは何かを理解する。	
2 回	授業内容	ライフプランニングと資金計画②	
	学習成果 予習復習の内容	ライフプランニングの内容、利用するツールについて理解できる。 ライフイベントの意味を理解し、ライフプランニングにどうつなげていくのかを考える。	
3 回	授業内容	ライフプランニングと資金計画③	
	学習成果 予習復習の内容	社会保険や年金の内容や仕組みを理解できる。 数多くの社会保険、年金がどのような意義で成り立って活用されているかの理解を深める。	
4 回	授業内容	リスクマネジメント①	小テスト②（リスクマネジメント）第 5 回に実施
	学習成果 予習復習の内容	生活上におけるリスクに対して保険を中心とした対応策を考えることができる。 聞きなれない用語が多数あるので、しっかりと内容を理解する。	
5 回	授業内容	リスクマネジメント②	
	学習成果 予習復習の内容	自然災害等のリスクに対して、保険を中心とした対応策を考えることができる。 様々なタイプの保証があるので、しっかりと違いを認識する。	
6 回	授業内容	金融資産運用①	小テスト③（金融資産運用）第 7 回に実施
	学習成果 予習復習の内容	経済、景気の知識が理解できる。 扱う範囲が広いので、しっかりと理解し整理する。	
7 回	授業内容	金融資産運用②	
	学習成果 予習復習の内容	金融商品を理解し、説明できる。 商品により税法等の処理が異なるので、整理しておく。	
8 回	授業内容	タックスプランニング①	小テスト④（タックスプランニング）第 9 回に実施
	学習成果 予習復習の内容	生活に関わる様々な税について理解できる。 課税、非課税対象について区別、整理する。	
9 回	授業内容	タックスプランニング②	
	学習成果 予習復習の内容	税額の計算や簡単な申告書作成ができる。 総合所得や分離所得などの違いを理解する。	
10 回	授業内容	不動産①	小テスト⑤（不動産）第 11 回に実施
	学習成果 予習復習の内容	不動産の土地価格の評価、取引、建物の評価、規則等の内容を理解できる。 似ている内容が多いので、丁寧に確認、整理する。	
11 回	授業内容	不動産②	
	学習成果 予習復習の内容	不動産の譲渡の際の税金や、土地を活用する際の知識について理解する。 税金等特殊な計算が多いため、それぞれの違いを整理する。	
12 回	授業内容	相続・事業承継①	小テスト⑥（相続・事業承継）第 13 回に実施
	学習成果 予習復習の内容	相続に関する知識を身につけ、相続税等を計算することができる。 相続の内容や計算について、確実に理解すること。	
13 回	授業内容	相続・事業承継②	
	学習成果 予習復習の内容	贈与に関する知識を身につけ、贈与税額の計算や相続財産の評価ができる。 相続、贈与のそれぞれの特例を混同しないよう、整理、確認をすること。	
14 回	授業内容	資産設計提案業務	小テスト⑦（実技・資産設計提案業務）第 15 回に実施
	学習成果 予習復習の内容	資産設計提案業務について、演習問題を例にして正しく解答できる。 与えられた内容から、求められている答えを導き出すことができるようにすること。	
15 回	授業内容	資産設計提案業務テスト	
	学習成果 予習復習の内容	FP 技能士 3 級程度の資産設計提案業務ができる。 内容全体について確実に整理、確認しておくこと。	

科目名	簿記検定 I				担当者	若 林 雅 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	小規模株式会社を前提とした簿記の構成要素や決算までの流れについて説明することができる。										
	②	仕訳による基本的な処理、簿記の基本用語や複式簿記の仕組みを説明することができる。										
	③	日商簿記3級程度の仕訳や帳簿記入に應用することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	日商簿記3級程度の実力を発揮し、地域社会の発展に貢献することができる。(専門学習成果①～③に関連)										
授業概要	簿記は、日々の企業のお金の出入りや取引を記録し、一定の期間ごとに決算を行い、報告書にまとめる作業のことである。直接実務に関わらないビジネス・パーソンにおいても簿記は身に付けておきたい知識である。本講義では、簿記について基礎的な用語や技術、取引の仕訳から勘定記入、決算手続きまでの一連の流れを学習することにより、日商簿記検定3級程度の知識を習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	70	学習した仕訳等を中心に7回実施、各10%ずつ正解率に沿って評価を行う。								
		平常点	30	授業、演習への意欲、取り組み、態度により評価する。								
汎用的 学習成果	小テストで分野ごとの学習成果を評価する。 (1)は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	滝沢ななみ		『スッキリわかる 日商簿記3級 第15版』				TAC 出版					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①簿記は知識だけではなく、多くの問題を解くことで身につけることができる。そのため、事前にテキストを読んでおくこと。また、毎回2時間程度、テキスト内容を予習復習しておくこと。授業には、テキストに加え電卓を持参すること(12桁以上のものが望ましい)。普段から電卓の操作に慣れておくこと。 ②小テストは添削の上、次回授業で返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要、成績評価について、簿記の基礎	小テスト 〔簿記の基礎〕「商品売買」「現金」 第2回に実施
	学習成果	授業の目的と資格取得の意義、簿記について理解する。	
予習復習 の 内 容	基本的な用語について確認する。		
2回	授業内容	商品売買 現金	
	学習成果	商品売買や現金を扱った際の仕訳ができる。	
予習復習 の 内 容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。		
3回	授業内容	普通預金、定期預金、当座預金、当座借越 小口現金	
	学習成果	預金や小口現金を扱った際の仕訳ができる。	
予習復習 の 内 容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。		
4回	授業内容	手形と記録債権(債務)貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金	
	学習成果	手形や債券、貸付借入を行った際の仕訳ができる。	
予習復習 の 内 容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。		
5回	授業内容	その他の債権債務 その他の費用	
	学習成果	仮払いや消耗品購入などを行った際の仕訳ができる。	
予習復習 の 内 容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。		
6回	授業内容	貸倒れと貸倒引当金 有形固定資産と減価償却	
	学習成果	貸倒れとそれに伴う処理、固定資産や原価償却について仕訳ができる。	
予習復習 の 内 容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。		
7回	授業内容	株式の発行、剰余金の配当と処分 法人税等と消費税	
	学習成果	株式発行や配当、税金を扱った際の仕訳ができる。	
予習復習 の 内 容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。		
8回	授業内容	費用・収益の前払い・前受けと未払い・未収、訂正仕訳	
	学習成果	前払い、前受け、未払い、未収の仕訳、訂正仕訳ができる。	
予習復習 の 内 容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。		
9回	授業内容	帳簿への記入 試算表	
	学習成果	各種帳簿への記入、試算表の作成ができる。	
予習復習 の 内 容	用語について確認する。		
10回	授業内容	伝票と仕訳日計表、証ひょう	
	学習成果	仕訳日計表の作成と総勘定元帳への転記、証ひょうからの記帳ができる。	
予習復習 の 内 容	用語について確認する。		
11回	授業内容	精算表と財務諸表①決算整理	
	学習成果	決算手続きについて理解し、決算整理ができる。	
予習復習 の 内 容	用語について確認する。		
12回	授業内容	精算表と財務諸表②当期純利益または登記純損失の計上、財務諸表	
	学習成果	当期純利益または登記純損失の計上ができ、財務諸表を作成できる。	
予習復習 の 内 容	用語について確認する。		
13回	授業内容	帳簿の締め切り	
	学習成果	帳簿を締め切ることができる。	
予習復習 の 内 容	用語について確認する。		
14回	授業内容	チェックテスト	
	学習成果	日商簿記3級と同様の内容について、総合的に理解する。	
予習復習 の 内 容	わからなかった部分は解きなおす。		
15回	授業内容	チェックテスト	
	学習成果	チェックテストを確実に解答することができる。	
予習復習 の 内 容	わからなかった部分はしっかりと理解する。		
予習復習 の 内 容	わからなかった部分はしっかりと理解する。	小テスト (チェックテスト) 第15回に実施	

科目名	簿記検定Ⅱ				担当者	若 林 雅 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				授業の前後に講師室で受け付ける。								
専門的 学習成果	①	小規模株式会社を前提とした簿記の構成要素や決算までの流れについて説明し、応用することができる。										
	②	仕訳による基本的な処理、簿記の基本用語や複式簿記の仕組みを説明し、応用することができる。										
	③	日商簿記検定3級程度の仕訳や帳簿記入に應用することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	日商簿記検定3級程度の実力を発揮し、地域社会の発展に貢献することができる。(専門学習効果①～③に関連)										
授業概要	簿記は、日々の企業のお金の出入りや取引を記録し、一定の期間ごとに決算を行い、報告書にまとめる作業のことである。直接実務に関わらないビジネス・パーソンにおいても簿記は身につけておきたい知識である。本講義では、簿記について基礎的な用語や技術、取引の仕訳から勘定記入、決算手続きまでの一連の流れを学習することにより、日商簿記検定3級程度の知識を習得する。日商簿記検定3級の試験内容と同様の内容で演習を行うことにより、実務に應用できる技術を身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	70	学習した内容を中心に5回実施、各14%ずつ正解率に沿って評価を行う。								
	平常点	30	授業、演習への意欲、取り組み、態度により評価する。									
汎用的 学習成果	小テストで学習成果を評価する。 (1)は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	TAC 出版開発グループ	『2024年度版 スッキリわかる日商簿記3級 本試験予想問題集』				TAC 出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①当科目は簿記検定Ⅰを履修したものの、または簿記の基礎を理解している者が受講対象となっている。授業内容は簿記検定3級合格程度の知識を必要とする演習が中心となるため、事前にテキストを読んでおくこと。また、毎回2時間程度、テキスト内容を予習しておくこと。授業には、テキストに加え電卓を持参すること(12桁以上のものが望ましい)。普段から電卓の操作に慣れておくこと。 ②小テストは添削の上、次回授業で返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	予想問題第1回①(仕訳・勘定記入)	小テスト①(予想問題第1回)第3回に実施
	学習成果	予想問題第1回を参考にして、仕訳や帳票記入ができる。	
	予習復習の内容	テキストに出てくる内容を繰り返し学習すること。	
	授業内容	予想問題第1回②(貸借対照表・損益計算書)	
2回	学習成果	予想問題第1回を参考にして、決算整理ができる。	
	予習復習の内容	テキストに出てくる内容を繰り返し学習すること。	
3回	授業内容	予想問題第1回確認テスト	
	学習成果	予想問題第1回について資料を参考にしながら解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストに出てくる内容を繰り返し学習すること。	
	授業内容	予想問題第2回①(仕訳・勘定記入・補助簿)	小テスト②(予想問題第2回)第6回に実施
4回	学習成果	予想問題第2回を参考にして、仕訳や帳票記入ができる。	
	予習復習の内容	テキストに出てくる内容を繰り返し学習すること。	
5回	授業内容	予想問題第2回②(精算表)	
	学習成果	予想問題第2回を参考にして、決算整理ができる。	
	予習復習の内容	テキストに出てくる内容を繰り返し学習すること。	
	授業内容	予想問題第2回確認テスト	
6回	学習成果	予想問題第2回について資料を参考にしながら解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストに出てくる内容を繰り返し学習すること。	
7回	授業内容	予想問題第3回①(仕訳・勘定記入・商品有高帳)	小テスト③(予想問題第3回)第9回に実施
	学習成果	予想問題第3回を参考にして、仕訳や帳票記入ができる。	
	予習復習の内容	テキストに出てくる内容を繰り返し学習すること。	
	授業内容	予想問題第3回②(貸借対照表・損益計算書)	
8回	学習成果	予想問題第3回を参考にして、決算整理ができる。	
	予習復習の内容	テキストに出てくる内容を繰り返し学習すること。	
9回	授業内容	予想問題第3回確認テスト	
	学習成果	予想問題第3回について資料を参考にしながら解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストに出てくる内容を繰り返し学習すること。	
	授業内容	予想問題第7回①(仕訳・勘定記入・語句説明)	小テスト④(予想問題第7回)第12回に実施
10回	学習成果	予想問題第7回を参考にして、仕訳や帳票記入ができる。	
	予習復習の内容	テキストに出てくる内容を繰り返し学習すること。	
11回	授業内容	予想問題第7回②(精算表)	
	学習成果	予想問題第7回を参考にして、決算整理ができる。	
	予習復習の内容	テキストに出てくる内容を繰り返し学習すること。	
	授業内容	予想問題第7回確認テスト	
12回	学習成果	予想問題第7回について資料を参考にしながら解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストに出てくる内容を繰り返し学習すること。	
13回	授業内容	予想問題第9回①(仕訳・勘定記入・商品有高帳)	小テスト⑤(予想問題第9回)第15回に実施
	学習成果	予想問題第9回を参考にして、仕訳や帳票記入ができる。	
	予習復習の内容	テキストに出てくる内容を繰り返し学習すること。	
	授業内容	予想問題第9回②(貸借対照表・損益計算書)	
14回	学習成果	予想問題第9回を参考にして、決算整理ができる。	
	予習復習の内容	テキストに出てくる内容を繰り返し学習すること。	
15回	授業内容	予想問題第9回確認テスト	
	学習成果	予想問題第9回について解答することができる。	
	予習復習の内容	テキストに出てくる内容を自分の力で解答できるようにすること。	

科目名	簿記検定Ⅲ				担当者	若 林 雅 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	前期
授業時間数					30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	中小企業を前提とした商業簿記の構成要素や決算までの流れについて説明し、応用することができる。										
	②	簿記検定ⅠⅡの応用である「売上原価対立法」、「その他の引当金」などの仕組みを説明し、活用することができる。										
	③	日商簿記検定2級程度の仕訳や帳簿記入に活用することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	日商簿記検定2級程度の実力を発揮し、地域社会の発展に貢献することができる。(専門学習効果①～③に関連)										
授業概要	簿記は、日々の企業のお金の出入りや取引を記録し、一定の期間ごとに決算を行い、報告書にまとめる作業のことである。直接実務に関わらないビジネス・パーソンにおいても簿記は身につけておきたい知識である。本講義では、商業簿記について簿記検定ⅠⅡの応用的な用語や技術、取引の仕訳から勘定記入、決算手続きまでの一連の流れを学習することにより、日商簿記検定2級程度の知識を習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	70	学習した内容を中心に7回実施、各10%ずつ正解率に沿って評価を行う。								
		平常点	30	授業、演習への意欲、取り組み、態度により評価する。								
汎用的 学習成果	小テストで学習成果を評価する。 (1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	滝澤ななみ	『スッキリわかるシリーズ スッキリわかる 日商簿記2級 商業簿記第16版』				TAC出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①当科目は簿記検定ⅠⅡを履修したもの、または日商簿記検定3級程度の知識を有している者が受講対象となっている。授業内容は日商簿記検定2級(商業簿記)程度の仕訳を中心とした学習をするため、毎回2時間程度、テキスト内容について予習復習しておくこと。授業には、テキストに加え電卓を持参すること(12桁以上のものが望ましい)。普段から電卓の操作に慣れておくこと。簿記検定Ⅳも受講することが望ましい。 ②小テストは添削の上、次回授業で返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	株式の発行、剰余金の配当と処分	小テスト① 第3回に実施
	学習成果	株式会社について理解できる。	
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。	
2回	授業内容	合併と無形固定資産	
	学習成果	合併した時の仕訳と無形固定資産を取得した際について仕訳できる。	
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。	
3回	授業内容	法人税等と消費税	
	学習成果	法人税と消費税について仕訳できる。	
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。	
4回	授業内容	商品売買等	小テスト② 第5回に実施
	学習成果	商品売買、サービス業について仕訳できる。	
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。	
5回	授業内容	手形と電子記録債権(債務)、その他の債権譲渡	
	学習成果	債権債務の仕訳について理解できる。	
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。	
6回	授業内容	銀行勘定調整表	小テスト③ 第7回に実施
	学習成果	預金残高が一致しないときについて仕訳できる。	
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。	
7回	授業内容	固定資産	
	学習成果	固定資産に関する内容について仕訳できる。	
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。	
8回	授業内容	リース取引、研究開発費とソフトウェア	小テスト④ 第9回に実施
	学習成果	リース取引やソフトウェア購入について仕訳できる。	
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。	
9回	授業内容	有価証券	
	学習成果	有価証券の保有目的と分類について理解し、仕訳できる。	
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。	
10回	授業内容	引当金	小テスト⑤ 第11回に実施
	学習成果	引当金の種類を理解し、仕訳できる。	
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。	
11回	授業内容	外貨換算会計	
	学習成果	外貨換算に関する取引に関して仕訳できる。	
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。	
12回	授業内容	税効果会計	小テスト⑥ 第13回に実施
	学習成果	会計上の収益と費用の計算、税法上の法人税の計算の差異について仕訳できる。	
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。	
13回	授業内容	収益認識の基準	
	学習成果	収益認識について理解できる。	
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。	
14回	授業内容	精算表と財務諸表、帳簿の締め切り	小テスト⑦ 第15回に実施
	学習成果	決算手続きについて理解できる。	
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。	
15回	授業内容	確認テスト	
	学習成果	今まで学習した内容について応用することができる。	
	予習復習の内容	今まで学習した内容を振り返り整理すること。	

科目名	簿記検定Ⅳ				担当者	若 林 雅 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期
授業時間数					30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	工業簿記と商業簿記の違いについて理解し、説明、応用できる。										
	②	工業簿記の特徴でもある原価計算について理解し、財務諸表を作成し、活用することができる。										
	③	日商簿記検定2級程度の仕訳や原価計算に応用することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	日商簿記検定2級程度の実力を発揮し、地域社会の発展に貢献することができる。(専門学習効果①～③に関連)										
授業概要	簿記は、日々の企業のお金の出入りや取引を記録し、一定の期間ごとに決算を行い、報告書にまとめる作業のことである。直接実務に関わらないビジネス・パーソンにおいても簿記は身につけておきたい知識である。本講義では、工業簿記について基本的な用語や技術、取引の仕訳から勘定記入、決算手続きまでの一連の流れを学習することにより、日商簿記検定2級程度の知識を習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	70	学習した内容を中心に7回実施、各10%ずつ正解率に沿って評価を行う。								
		平常点	30	授業、演習への意欲、取り組み、態度により評価する。								
汎用的 学習成果	小テストで学習成果を評価する。 (1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	滝澤ななみ	『スッキリわかるシリーズ スッキリわかる 日商簿記2級 工業簿記第11版』				TAC出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①当科目は簿記検定ⅠⅡを履修したもの、または日商簿記検定3級程度の知識を有している者が受講対象となっている。授業内容は日商簿記検定2級(商業簿記)程度の仕訳を中心とした学習をするため、毎回2時間程度、テキスト内容について予習復習しておくこと。授業には、テキストに加え電卓を持参すること(12桁以上のものが望ましい)。普段から電卓の操作に慣れておくこと。簿記検定Ⅲも受講することが望ましい。 ②小テストは添削の上、次回授業で返却する。											

授業計画			学習成果の評価		
1回	授業内容	工業簿記の基礎	小テスト① 第3回に実施		
	学習成果	工業簿記について簡単に理解する。			
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。			
2回	授業内容	材料費			
	学習成果	材料費の分類や処理について仕訳できる。			
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。			
3回	授業内容	労務費			
	学習成果	労務費の分類や処理について仕訳できる。			
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。			
4回	授業内容	経費		小テスト② 第5回に実施	
	学習成果	材料費、労務費以外の経費について理解し、処理できる。			
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。			
5回	授業内容	個別原価計算			
	学習成果	受注生産形態での個別原価計算について理解し、処理できる。			
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。			
6回	授業内容	部門別個別原価計算	小テスト③ 第7回に実施		
	学習成果	部門別の個別原価計算について理解し、処理できる。			
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。			
7回	授業内容	総合原価計算①			
	学習成果	単純総合原価計算について理解し、処理できる。			
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。			
8回	授業内容	総合原価計算②			小テスト④ 第9回に実施
	学習成果	工程別・組別・等級別の総合原価計算について理解し、処理できる。			
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。			
9回	授業内容	総合原価計算③			
	学習成果	仕損、減損、材料の追加投入について理解し、処理できる。			
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。			
10回	授業内容	工業簿記における財務諸表		小テスト⑤ 第11回に実施	
	学習成果	工業簿記における財務諸表について理解し、処理できる。			
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。			
11回	授業内容	本社工場会計			
	学習成果	本社会計と工場会計が独立している場合について理解し、処理できる。			
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。			
12回	授業内容	標準原価計算	小テスト⑥ 第13回に実施		
	学習成果	標準原価計算について理解し、処理できる。			
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。			
13回	授業内容	直接原価計算			
	学習成果	直接原価計算について理解し、処理できる。			
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。			
14回	授業内容	これまでのまとめ			小テスト⑦ 第15回に実施
	学習成果	今まで学習したことを振り返り、まとめる。			
	予習復習の内容	テキストの内容を読んでおくこと。			
15回	授業内容	確認テスト			
	学習成果	今まで学習した内容について応用することができる。			
	予習復習の内容	今まで学習した内容を振り返り整理すること。			

科目名	エントリー試験対策講座 I				担当者	岩 淵 正 則						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1 年	開講期	後期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	IT パスポート試験合格に合格できる。										
	②	コンピュータのソフトウェア構成の概要を説明できる。										
	③	コンピュータのハードウェア構成の概要を説明できる。										
	④	企業活動の関連業務について、その概要を説明できる。										
	⑤	経営戦略やビジネスインダストリーについて、その概要を説明できる。										
	⑥	情報システムの開発やその運用について、その概要を説明できる。										
	⑦	ネットワークや情報セキュリティについて、その概要を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	IT パスポート試験に合格し、情報処理技術者としての職業自立につながるができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	コンピュータのソフトウェアやハードウェアを通して、習得した知識や技術を活用し問題解決に向けて行動できる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	企業活動や経営戦略の仕組みなどを通じて、IT 社会に役立つ行動ができる。(専門的学習成果④⑤に関連)										
	(4)	情報システムの開発や情報セキュリティを学ぶことを通じて、将来のシステム構成の在り方を探求することができる。(専門的学習成果⑥⑦に関連)										
授業概要	情報処理論および情報科学で学んだ知識を基礎として、IT パスポート試験に合格できるスキルを身につける。過去問題を解説しながら IT パスポート試験の傾向と対策を行う。更に、IT を活用して業務を改善するなど、情報化を推進できる人材を育成する。そのためには、最新の情報処理技術動向に関心を持ち、日々探求し、その仕組みについて理解する必要がある。さらに、2020年から小学校教育に導入されるプログラミング教育の基礎知識として十分に対応できる内容を講義する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	30	小テストを毎回実施し、各2%ずつ正解率(0点、1点、2点)に沿って評価を行う。								
汎用的 学習成果	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	岡崎裕史		IT パスポート合格教本						技術評論社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前に配布した資料を読んでおくこと。(予習：週2時間程度) 板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。(復習：週2時間程度) ②単元ごとに小テストを行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。										

授業計画			学習成果の評価
1 回	授業内容	システム戦略の実際	小テスト (システム戦略の実際)
	学習成果	システム戦略の実際例を説明できる。	
	予習復習 の 内 容	現在のシステム戦略について調べておく。	
2 回	授業内容	開発モデルの現状	小テスト (開発モデルの現状)
	学習成果	開発モデルの現状について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	現在の開発モデルの現状について調べておく。	
3 回	授業内容	プロジェクトマネジメントの実際	小テスト (プロジェクトマネジメン トの実際)
	学習成果	プロジェクトマネジメントの実際例について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	現在のプロジェクトマネジメントについて調べておく。	
4 回	授業内容	サービスマネジメントの実際	小テスト (サービスマネジメ ント)
	学習成果	サービスマネジメントの実際例について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	サービスマネジメントの現状について調べておく。	
5 回	授業内容	マーケティングの現状	小テスト (マーケティング)
	学習成果	マーケティングの現状について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	マーケティングの現状について調べておく。	
6 回	授業内容	ビジネス戦略の現状	小テスト (ビジネス戦略)
	学習成果	ビジネス戦略の現状について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	ビジネス戦略の現状について調べておく。	
7 回	授業内容	経営管理システムの実際	小テスト (経営管理システム)
	学習成果	経営管理システムの実際について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	経営管理システムの実際について調べておく。	
8 回	授業内容	ソフトウェア開発の実際	小テスト (ソフトウェア開発の実際)
	学習成果	ソフトウェア開発の実際について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	ソフトウェア開発の実際について調べておく。	
9 回	授業内容	システム企画の実際	小テスト (システム企画の実際)
	学習成果	システム企画の実際について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	システム企画の実際例について調べておく。	
10 回	授業内容	データベースの実際	小テスト (データベースの実際)
	学習成果	データベースの実際について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	データベースの実際について調べておく。	
11 回	授業内容	インターネットの現状	小テスト (インターネットの現 状)
	学習成果	インターネットの現状について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	インターネットの現状について調べておく。	
12 回	授業内容	WEB 技術の実際	小テスト (WEB 技術の実際)
	学習成果	WEB 技術の実際について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	WEB 技術の実際について調べておく。	
13 回	授業内容	暗号化技術の現状	小テスト (暗号化技術の現状)
	学習成果	暗号化技術の現状について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	暗号化技術の現状について調べておく。	
14 回	授業内容	コンピュータウイルスの現状	小テスト (コンピュータウイルス の現状)
	学習成果	コンピュータウイルスの現状について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	コンピュータウイルスの現状について調べておく。	
15 回	授業内容	AI 技術	小テスト (AI 技術)
	学習成果	AI 技術について説明できる。	
	予習復習 の 内 容	AI 技術について調べておく。	

科目名	ホスピタリティ概論				担当者	山 川 奈 美						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワーかClassroom、Eメールにて。(yamakawana@seiwa.ac.jp)								
専門的 学習成果	①	ホスピタリティの必要性を理解することができる										
	②	ホスピタリティの歴史を理解し、起源や語源について概要を説明することができる										
	③	個人のホスピタリティとは何かを考えることができる										
	④	企業におけるホスピタリティとは何かを考えることができる										
	⑤	サービスとホスピタリティの違いについて説明することができる										
汎用的 学習成果	(1)	「ホスピタリティ」≒「おもてなし」であることを説明できる（専門的学習成果①②）										
	(2)	ホスピタリティの5つの領域を理解し、社会におけるホスピタリティの必要性を説明することができる（専門的学習成果①③④⑤）										
	(3)	ホスピタリティマインドを持ち、社会で生かすにはどのようにしたらよいかを考え、実行する。（専門的学習成果①③④⑤）										
授業概要	「ホスピタリティ」という言葉を日本人は「おもてなし」と表現するが、単なる「おもてなし」だけでないことを学び、今後の社会における重要性を学んでいく。 機械にはできない「人と人」の部分の大切にするため、益々需要の高まるこの分野を、歴史からきちんと学ぶことで内容をしっかり理解し、ホテル、サービス業だけでなく他業種にも役立つ知識を深める。 就職活動に役立つ言葉遣いやマナーにも触れる。 授業の単位を取得できた学生は、希望すれば「アソシエイト・ホスピタリティ・コーディネータ」の資格も取得できる（別途費用が必要、詳細は初回授業にて案内）											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	講義の内容を振り返り、実生活でどのように実践されているか、またどのようにしたらよいか、などをレポートにまとめ、理解度を評価する。								
		グループワーク	30	グループワークを通じてホスピタリティを実践し、それを評価する。								
汎用的 学習成果	平常点	10	グループワークや授業への取り組み、意欲、態度により評価する。									
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	斎藤敏一、服部勝人他		『ホスピタリティ・コーディネータ教本』						NPO法人日本ホスピタリティ推進協会			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義内容を整理する。(30時間) 講義内容を踏まえ、常にホスピタリティとは何かを考えながら過ごし、グループワークやレポートに反映できるような事例をまとめておく。(30時間) アソシエイト・ホスピタリティ・コーディネータ取得希望者はテキスト購入は必須だが、取得希望しない学生は購入なくとも履修可能。 ②講義の都度、理解度を確認したら、翌講義の冒頭にて結果を伝えながらフィードバックする。(出欠確認と一緒に Google フォーム等を使って確認予定)										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	初回ガイダンス（ホスピタリティとは、おもてなし規格認証など）	
	学習成果	アソシエイト・ホスピタリティ・コーディネータ資格についての有効性を知る	
	予習復習の内容	自分なりの「ホスピタリティ」を考える	
	授業内容	日本のサービス産業について	
2回	学習成果	サービス産業とは？ 日本と海外のサービス業の考え方、国際規格について知ることができる。	
	予習復習の内容	サービスエクセレンスと国際規格 ISO23592についてまとめる	
3回	授業内容	ホスピタリティの歴史と文化①	
	学習成果	歴史や文化的背景からホスピタリティというものの考え方を学ぶことができる	
	予習復習の内容	ホスピタリティの始まりについて歴史的観点からまとめる	
	授業内容	ホスピタリティの歴史と文化②	
4回	学習成果	ホスピタリティの始まりと発展を知ることができる	
	予習復習の内容	歴史の流れからホスピタリティの発生をまとめる	
5回	授業内容	サービスとホスピタリティの語源	
	学習成果	似たような意味や使われ方をする2つの言葉の違いを説明できる	
	予習復習の内容	2つの言葉の語源から他に派生する語句も含めて、関連語句をまとめる	
	授業内容	ホスピタリティの定義	
6回	学習成果	ホスピタリティという言葉はどのように定義され、使用されるのかを知ることができる	
	予習復習の内容	今後の授業においてホスピタリティという語句をどのように扱うのかを自分なりに考える	
7回	授業内容	ホスピタリティの5領域 ①個人と個人のホスピタリティ	
	学習成果	「ありがとう」から始まる基本的なホスピタリティを知ることができる	
	予習復習の内容	個人対個人のホスピタリティについて考える	
	授業内容	ホスピタリティの5領域 ②個人と地域社会のホスピタリティ	
8回	学習成果	地域社会において個人が行うホスピタリティ	
	予習復習の内容	共同体感覚を考える	
9回	授業内容	ホスピタリティの5領域 ③組織と顧客のホスピタリティ	
	学習成果	市場の変化からホスピタリティとサービスの関係をまとめることができる	
	予習復習の内容	「サービスなくしてホスピタリティなし」の意味を考える	
	授業内容	ホスピタリティの5領域 ④組織と社員（従業員）のホスピタリティ	
10回	学習成果	従業員満足、リーダーシップなどについて考えることができる	
	予習復習の内容	「真実の瞬間」について考える	
11回	授業内容	ホスピタリティの5領域 ⑤組織と地域社会のホスピタリティ	
	学習成果	企業が何故地域社会に対して貢献しなくてはならないのかを知ることができる	
	予習復習の内容	企業の発展のために何をしたらよいかを考える	
	授業内容	ホスピタリティの実践①（グループワーク）	
12回	学習成果	ホスピタリティを実践するにあたり、必要なことは何かを学ぶことができる	
	予習復習の内容	基本的な身だしなみ、立ち居振る舞いなどを鏡をみて研究する	
13回	授業内容	ホスピタリティの実践②（グループワーク）	
	学習成果	ホスピタリティを実践するにあたり、正しい言葉遣いをマスターする	
	予習復習の内容	接客された時のおかしな表現を思い出し、正しい言葉遣いに直してみる	
	授業内容	ホスピタリティの実践③（復習）	
14回	学習成果	学んできたことについてディスカッションできる	
	予習復習の内容	ディスカッションで出た意見をまとめ、自分の立場で考え、どのように行動すべきか考える	
15回	授業内容	学習したことを踏まえた自分とホスピタリティについて述べる	
	学習成果	授業内容を実生活に投影し、今後の生活について考えることができる	
	予習復習の内容	将来仕事をしていく上で、何が必要になるのかを自分なりにまとめる	
			レポート提出

科目名	新聞を読む				担当者	川 辺 博						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	kawabe.hiroshi@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。											
専門的 学習成果	①	新聞を読んで活用するための技術を身につける。										
	②	時事問題に関心を持ち、自分自身に関連づけてとらえ、自分なりの考えが発表できる。										
	③	「ニュース時事能力検定」受検を目指した取り組みができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会の課題を認識することで、業務においても私生活においても自立した社会人としての役割を果たすことができる。(専門的学習成果の①②③に関連)										
	(2)	現代社会の課題について深く考察し、立場の異なる相手とも議論できる。(専門的学習成果の②に関連)										
	(3)	現代社会の課題に取り組んで地域社会の活動に貢献できる。(専門的学習成果の②に関連)										
授業概要	新聞は世界を知るための良質のメディアだが、読むには慣れとコツが必要である。この授業では各自が毎週スクラップ・ブックを作り、記事で取り上げられているできごとについて全体で討議することを通して、社会のしくみと現状、問題点についての理解を深める。また新聞記事のようないわゆる「硬い文章」を読むのに慣れ、さらには自分でも書けるように練習する。「ニュース時事能力検定」の参考書・問題集に取り組み、受検を促す。「新聞は難しいから読まない」という人ほど、むしろ歓迎する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		提出物	50	授業ごとに指定されたテーマにもとづいてスクラップ・ブックを作り、期末に提出する。								
		小テスト	20	ニュース検定や講義内容についての小テストを実施する。								
	平常点	30	授業時間中におこなうスクラップの発表の内容を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③によって評価をおこなう。 (2) は専門的学習成果②によって評価をおこなう。 (3) は専門的学習成果②によって評価をおこなう。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本ニュース時事能力 検定協会 (監修)	『2024年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 3・4級対応』				毎日新聞出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	池上彰	『池上彰の新聞勉強術』				文春文庫						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①各自で新聞を用意し、スクラップ・ブックを作成すること。作る際の詳細な注意点は、初回のガイダンスで指示する。授業日以外でも新聞やテレビのニュース番組、ネットのニュース・サイトに親しむことが必要である(毎日数十分程度、1週間で4時間程度)。 ②小テストや提出物は返却し、その際に解説をおこなう。											

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、スクラップ・ブックの作り方と「ニュース時事能力検定」について	「ニュース検定」の例題への取り組みによって評価
	学習成果	新聞というメディアの特性を理解し、スクラップ・ブックを作成する準備ができる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。	
2回	授業内容	新聞の種類	スクラップの発表によって評価
	学習成果	流通範囲や扱う内容に応じて新聞に多くの種類があることを説明できる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。ニュース・サイトを閲覧する。	
3回	授業内容	アナログ・メディア(新聞紙)とデジタル・メディア(ニュース・サイト)の特徴	スクラップの発表によって評価
	学習成果	アナログとデジタルの双方の長所と短所を対比して説明できる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。政治分野の話題についてまとめておく。	
4回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む(1) 政治	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	政治分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。政治分野の話題を復習する。	
5回	授業内容	一日分の新聞の構成	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞の「面」ごとの特色を説明できる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。見出しの特徴を調べておく。	
6回	授業内容	新聞記事の構造、見出しの役割	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞記事の構造や見出しの役割を説明できる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。経済分野の話題についてまとめておく。	
7回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む(2) 経済	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	経済分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。経済分野の話題を復習する。	
8回	授業内容	写真、レイアウト、文字の役割	スクラップの発表によって評価
	学習成果	報道写真に込められた意図に留意しながら「読み解く」ことができる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。暮らしにかかわる話題についてまとめておく。	
9回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む(3) 暮らし	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	暮らしにかかわる知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。新聞広告の特徴を調べておく。	
10回	授業内容	新聞広告の特徴	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞という物理メディアならではの広告の表現手法の特徴を説明できる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。社会・環境分野の話題についてまとめておく。	
11回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む(4) 社会・環境	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	社会・環境の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。社会・環境分野の話題を復習する。	
12回	授業内容	新聞を読み比べる(1) 一般紙どうしの読み比べ	スクラップの発表によって評価
	学習成果	複数紙の読み比べをとおして、報道と世論形成のかかわりを説明できる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。国際分野の話題についてまとめておく。	
13回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む(5) 国際	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	国際分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。国際分野の話題を復習する。	
14回	授業内容	新聞を読み比べる(2) 「日本経済新聞」を読む	スクラップの発表によって評価
	学習成果	「日本経済新聞」の特徴を理解し、活用できる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。新聞の文体の特徴を調べておく。	
15回	授業内容	新聞記事の文体をまねて記事を書く	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞記事風の文章が自分で書ける。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。授業全体を振り返り、まとめる。	

科目名	日商簿記3級 CBT 対策講座				担当者	水野篤						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	前期集中
授業時間数					15	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスマワーは初回の授業時に連絡する。											
専門的 学習成果	①	企業活動における簿記・会計上の取引の基本的内容を素早く正しく仕訳することができる										
	②	決算のための勘定、試算表、精算表の一覧のメカニズムを適切に理解している										
	③	決算整理を適切に行い貸借対照表、損益計算書の数値を正確に算出することができる										
汎用的 学習成果	(1)	日商簿記3級レベルの企業における取引およびその情報整理の方法を適切に理解し、社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③)										
	(2)	日商簿記3級レベルの簿記・会計知識を確実に定着させることで、より範囲の広い企業活動や複雑な取引を整理し発展的な領域へ踏み込むための基礎を固めることができる。(専門的学習成果③)										
授業概要	現代のビジネス活動において、企業の仕組みを知る上で会計の知識は必須と言える。その前提として基本的な取引の仕訳や決算書類を作成する手続きを学ぶことの重要性はこれまでに増している。その導入として代表的な試験として日本商工会議所および各地商工会議所が主催する日商簿記3級がある。従来のペーパー方式の試験に加え2020年から3級および2級試験はネット方式(CBT方式)が追加された。2024年度からは東京商工会議所ではネット方式のみとなる。こうした潮流を踏まえ、ネット方式のインターフェースへの馴れ、問題処理の効率的なアプローチを修得し、受験へのハードルを下げ合格を確実にすることで自らの知識状況についてのレベルを証明できることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	0									
		実技	90	6回実施し、各回15%を配点とする。1～2回分の講義内容の理解の程度を評価する。								
		平常点	10	授業内容へのフィードバック、疑問点の解決、貢献・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2)は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	CPA 会計学院	『いちばんわかる日商簿記3級の問題集』				アガルト・パブリッシング						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	CPA 会計学院	『いちばんわかる日商簿記3級の教科書』				アガルト・パブリッシング						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①簿記検定Iの受講または、授業内容への適切な理解があること、そして日商簿記3級合格を指向しているという前提に授業は行われる。(予習：週1時間程度)事後学習としては、テキスト・参考文献等で指定された範囲の演習問題を解くこと。(復習：週3時間程度)電車は必ず持参すること。 ②テキスト及び参考文献のデータはインターネットからPDFでダウンロードできるため、紙媒体の書籍を購入する必要はない。同書内にある問題をインターネット上から解答・採点する方式をとるため、インターネットに接続できるPCを持参すること。 ③不正解となった問題の理解の方法について、個別に説明を行う。不明確な点については、必ず自分が持っている参考書等(日商簿記3級について最新かつ体系的・網羅的に記述されている参考書であれば、どのようなものでも概ね構わない)											

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	日商簿記3級の試験範囲とレベルとCBTの概要	論点を明確にするための質疑応答への適切な回答
	学習成果	模擬テストを通じて、試験の全体観を把握する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
2回	授業内容	模擬テスト①第1問：仕訳問題の確認、第2問：勘定のルール	テスト形式演習(1)
	学習成果	第1問の基本的な仕訳群と間違いやすい仕訳および第2問の論点を確認する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
3回	授業内容	模擬テスト②第3問：決算整理仕訳をもとにした精算表の作成	テスト形式演習(2)
	学習成果	未処理事項の処理、誤処理の訂正、現金過不足の処理、減価償却の処理など重要論点を確認する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
4回	授業内容	模擬テスト③第1問：仕訳問題の確認、第2問：補助簿の種類	テスト形式演習(3)
	学習成果	第1問の基本的な仕訳群と間違いやすい仕訳および第2問の論点を理解する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
5回	授業内容	模擬テスト④第3問：決算整理仕訳をもとにした貸借対照表・損益計算書の作成	テスト形式演習(4)
	学習成果	当座借越の処理、貸倒引当金の設定、未払消費税の計上、法人税等の計上など重要論点を確認する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
6回	授業内容	模擬テスト⑤第1問：仕訳問題の確認、第2問：伝票記入	テスト形式演習(5)
	学習成果	第1問の基本的な仕訳群と間違いやすい仕訳および第2問の論点を理解する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
7回	授業内容	模擬テスト⑥第3問：決算整理仕訳をもとにした貸借対照表・損益計算書の作成	テスト形式演習(6)
	学習成果	費用と収益の前受け・前払、費用と収益の未収・未払い、売上原価の算定など重要論点を確実に解答する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
8回	授業内容	総合的確認演習：第1問、第2問、第3問に取り組み	疑問点を明らかにした上での適切な理解を行っていることを示しているかを確認する
	学習成果	これまでの課題を踏まえ、幅広い種類の問題に対し、概ね7割以上の正答が導き出せるようにする	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	仙台の歴史と文化				担当者	鳴海 渉					
区分	選択	2	単位	授業回数	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		e-mail: narumi.wataru@seiwa.ac.jp (学籍番号、氏名必須) Classroom (登録必須) での対応を行う。									
専門的 学習成果	①	仙台の歴史と文化について理解し、学んだ知識を説明できる。									
	②	仙台の歴史と文化を観光資源、まちづくりに関連付けることができる。									
	③	仙台の歴史と文化を観光資源、まちづくりの観点から観光課題を指摘できる。									
	④	仙台の歴史と文化について学んだ知識を基に、「SEIWA 仙台観光プラン」を作成することができる。									
	⑤	仙台の歴史と文化について理解を深めるとともに、公共交通機関等を利用し、博物館、美術館、史料館、図書館、教育機関、各種地域団体と連携を図ることができる。									
汎用的 学習成果	(1)	仙台の歴史と文化を学ぶことを通して、歴史・観光・まちづくりに必要な知識と技能を学び、職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)									
	(2)	仙台の歴史と文化について学んだ知識や技能を使い、仙台の文化遺産等を観光資源として活用し、歴史・観光・まちづくりに貢献することができる。(専門的学習成果②③に関連)									
	(3)	仙台の歴史と文化で学んだ知識を基に、他者のために旅行プランを作成することを通して、人との関わり、まちづくりに必要な論理的思考、他者理解ができる。(専門的学習成果④に関連)									
授業概要	①仙台の歴史と文化に関わる事柄や人物、文化遺産等を国内外の歴史の中に位置づけ、資料・写真・地図・映像・インターネット等を参考に古代から現代までの歴史に裏付けられたフィールドワークを活用した観光・歴史・まちづくりを学ぶ。②授業で得られた仙台の歴史と文化に関する知識をもとに仙台の歴史と国際的視野、現代的視点から理解する。③仙台の歴史と文化を歴史的な観光資源、地域資源という観点から見直し、フィールドワーク(現地調査)に基づき観光プラン「SEIWA 仙台観光プラン2025」を作成する意義を理解する。④仙台の歴史と文化をより深く学び、博物館、資料館、仙台城跡等の史跡、お祭り等を活用して、まちづくりに貢献する方法を理解する。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準							
	専門的 学習成果	レポート	60	レポート(ミニッツペーパー)(1回毎の評価基準5点)×10回+最終提案10点							
		発表	25	グループ発表(1回毎の評価基準5点)×3回+最終発表10点							
		フィールドワーク対応	15	フィールドワーク(現地調査)対応(1回毎の評価基準5点)×3回							
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～⑤で評価を行う (2)は専門的学習成果②③で評価を行う (3)は専門的学習成果④で評価を行う										
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名		
	著者・編集者名	書名							出版社名		
参考書 参考文献	仙台市史編さん委員会	『仙台市史通史編 1 原始』									
	同	『仙台市史通史編 2 古代中世』									
	同	『仙台市史通史編 3 近世 1』『仙台市史通史編 4 近世 2』									
	同	『仙台市史通史編 8 現代 1』『仙台市史通史編 9 現代 2』									
	同	『仙台市史特別編 3 美術工芸』									
	同	『仙台市史特別編 6 民俗』									
	同	『仙台市史特別編 7 城館』									
	同	『仙台市史特別編 8 慶長遣欧使節』									
	同	『仙台市史特別編 9 地域誌』									
(独法) 国立文化財機構 奈良文化財研究所		『宮城県－仙台市報告書一覧(仙台市文化財調査報告書)』 https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/list/04/04102									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	授業は、事前にクラスルーム及び配布資料、視聴覚教材を主として進める。 15回の授業のうち11回はクラスルームでミニッツペーパー(興味・関心・疑問点・理解度)の作成、提出を行う。 15回の授業のうちフィールドワーク(現地調査)を3回予定しており、その都度観光プランを作成する。 発表は、パワーポイントの使用が望ましいが、模造紙などを使って形に残るものであれば拘らない。 ①事前学習は、第1回目に配布する資料に基づき講義、グループワーク、フィールドワーク(現地視察)によって理解を深める。事後学習は、理解を深めた事項に基づき観光にどう生かせるかプランを作成する。予習、週2時間程度。復習、まともは週2時間程度。 ②15回目の授業では、「SEIWA 仙台観光プラン」をグループごとに発表会を行い、全体的なコメントを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス。原始の仙台	グループ編成を行い、自己紹介、歴史や観光に対する考えを交換する。 ミニッツペーパー有
	学習成果	本講座の内容・フィールドワーク(現地調査)実施方法を理解する。原始の仙台の基本情報、概要を理解し説明できる。	
2回	予習復習の内容	シラバスを理解する。古代の仙台資料、情報を分析し、その内容を理解する。	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。 毎回ミニッツペーパー有
	授業内容	古代の仙台	
3回	学習成果	古代の仙台の基本情報、概要を理解し、説明できる。	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。 毎回ミニッツペーパー有
	予習復習の内容	古代の仙台の資料、情報を読み、興味・関心事について理解する。	
4回	授業内容	中世の仙台	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。 毎回ミニッツペーパー有
	学習成果	中世の仙台の基本情報、概要を理解し、説明できる。	
5回	予習復習の内容	中世の仙台の資料、情報を読み、興味・関心毎について理解する。	グループごと調査事項等について聞き取り、課題等整理し、次回までの報告書の評価する。
	授業内容	原始から中世の仙台についてフィールドワーク先の決定・課題整理	
6回	学習成果	フィールドワークの目的・目標を整理し、観光プランを立てられる。	グループワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。 毎回ミニッツペーパー有
	予習復習の内容	原始から中世までの資料、情報を読み、フィールドワーク先・調査項目を決定する。	
7回	授業内容	原始から中世の仙台についてフィールドワーク・課題の整理	グループごと調査事項等について聞き取り、課題等整理し、次回までの報告書の評価する。
	学習成果	フィールドワークの目的・目標を整理し、観光プランを立てる。	
8回	予習復習の内容	フィールドワーク先の現状を調査、課題を取りまとめ、次回まで観光プラン作成する。	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。 毎回ミニッツペーパー有
	授業内容	前回の調査報告。近世の仙台①伊達政宗の生涯	
9回	学習成果	近世の伊達政宗の足跡、功績等の基本情報、概要を理解し、説明できる。	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。 毎回ミニッツペーパー有
	予習復習の内容	伊達政宗の資料、情報を読み取り、興味・関心事についてまとめる。	
10回	授業内容	近世の仙台②仙台城・仙台の町割り	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。 毎回ミニッツペーパー有
	学習成果	仙台城の築城の経過、町割りについて、理解し、説明できる。	
11回	予習復習の内容	仙台城の資料、情報を読み取り、興味・関心事についてまとめる。	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。 毎回ミニッツペーパー有
	授業内容	近世の仙台についてフィールドワーク先の決定・課題整理	
12回	学習成果	近世の仙台のフィールドワークの目的・目標を整理し、観光プランを立てられる。	グループごと調査事項等について聞き取り、課題等整理し、次回までの報告書の評価する。
	予習復習の内容	近世の仙台の資料、情報を読み、フィールドワーク先・調査項目を決定する。	
13回	授業内容	近世の仙台についてフィールドワーク・課題の整理	グループごと調査事項等について聞き取り、課題等整理し、次回までの報告書の評価する。
	学習成果	近世の仙台のフィールドワークの目的・目標を整理し、観光プランを立てる。	
14回	予習復習の内容	フィールドワーク先の現状を調査、課題を取りまとめ、次回まで観光プラン作成する。	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。 毎回ミニッツペーパー有
	授業内容	前回の調査報告。原始から現代までの仙台の歴史資産を活用した観光プランの作成	
15回	学習成果	3回にわたるフィールドワークの成果まとめ、観光プランを立てる。	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。 ミニッツペーパー有
	予習復習の内容	原始から現代までの仙台の歴史に基づく特色ある「SEIWA 1 DAY 仙台観光プラン2025」を作成する。	
15回	授業内容	活動の総括・発表	報告書の提出有
	学習成果	報告書作成・発表	
	予習復習の内容	発表に向けての準備	

科目名	韓国語会話実践Ⅰ					担当者	ハ ン グ ル 文 章 読 書 会 話					
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	韓国語入門で学んだ基礎を基にハングルの「書く」「読む」から「聞く」「話す」に進むことができる。										
	②	韓国語の簡単な挨拶や自己紹介ができる。										
	③	韓国語の文型を読解することができる。										
	④	韓国語の日常会話で良く用いられる基本表現を使い会話ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	外国語を学ぶ学習スキルとそれに伴う教養を身に付け、多文化グローバルな社会を生きる力を付けることができる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(2)	自分の母国語とは違う外国語を学ぶことによって、国際的な感覚を身に付けることができる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(3)	隣国の言語や文化を理解し、自分達の言語の特徴や良さを理解することができる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(4)	積極的な自己発信ができ、また他者を理解する力を付け、多様な人と共に生きることができる。(専門的学習成果①～④に関連)										
授業概要	韓国語会話実践では、「韓国語入門」で学んだ韓国語の基礎を基にして、会話能力即ち「聞く」、「話す」ことに重点を置いて行う。日常生活で良く使われている表現を中心に、相手に通じる韓国語の習得を目指す。そのために授業中には二人ずつ組んで会話の練習をする。また、韓国文化にも触れるため韓国ドラマや映画等も取り入れて行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	学期内まで学習した内容に基づき、記述式の問題を課し、成績評価を行う。								
		レポート										
		平常点	50	授業参加態度や課題提出等を総合して評価を行う。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
	文慶誌他		『かんたん！韓国語』					朝日出版社				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①声を出して練習すること。 ②課題を真面目に提出すること。 ③毎回一時間程度で終わる課題を課す。課題は添削して返す。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	韓国語を学ぶ意義とハングル基礎		毎回小テストをする
	学習成果	韓国語を学ぶ意義を理解でき、ハングルの基礎が分かる		
	予習復習の内容	韓国語の歴史や特徴、ハングル文字について予習する		
2回	授業内容	存在文とその疑問文		毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の存在文やそれを使った疑問文で表現することができる		
	予習復習の内容	ハングルの読み方とその課題をする		
3回	授業内容	場所の実践会話とその会話練習		毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の場所に関する実践会話ができる		
	予習復習の内容	場所の語彙を覚えて、それを使った課題をする		
4回	授業内容	「何をする」文型とその受け答え		毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の動詞文で「何をする」文型の会話ができる		
	予習復習の内容	動詞文の本文を暗記し、その関連の課題をする		
5回	授業内容	「何をしますか」文の実践会話		毎回小テストをする
	学習成果	韓国語で「何をしますか」の質問と答えの会話ができる		
	予習復習の内容	「何をしますか」の答えを調べ、その関連の課題をする		
6回	授業内容	時間表現とその文型		毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の時間表現を使った会話ができる		
	予習復習の内容	韓国語の固有語数詞や時間表現を覚え、その関連の課題をする		
7回	授業内容	趣味の実践会話とその会話練習		毎回小テストをする
	学習成果	韓国語で趣味を話題にした会話ができる		
	予習復習の内容	趣味に関連する語彙を覚え、その関連の課題をする		
8回	授業内容	動詞・形容詞の否定文		毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の動詞・形容詞の否定文を作ることができる		
	予習復習の内容	動詞・形容詞の否定文の作り方を覚え、その関連の課題をする		
9回	授業内容	動詞・形容詞否定文とその実践会話		毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の動詞・形容詞の否定形の会話ができる		
	予習復習の内容	動詞・形容詞の否定の例文を作り、その関連の課題をする		
10回	授業内容	「～から～まで」と手段の「～で」		毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の起点と終点、手段・方法の文を作ることができる		
	予習復習の内容	起点と終点、手段・方法関連の語彙を覚え、その関連の課題をする		
11回	授業内容	会話文体の作り方とその実践会話		毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の書き言葉と話し言葉の違いが分かる		
	予習復習の内容	会話文体の例文を作り、その関連の課題をする		
12回	授業内容	動詞・形容詞の不規則体の会話文		毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の動詞・形容詞の不規則体の会話ができる		
	予習復習の内容	動詞・形容詞文の不規則体の例文を作り、その関連の課題をする		
13回	授業内容	不規則「-요」体の会話とその実践		毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の会話体の不規則語彙の会話ができる		
	予習復習の内容	不規則「-요」体の例文を作り、その関連の課題をする		
14回	授業内容	名詞文の過去表現		毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の名詞文の過去形の作り方が分かる		
	予習復習の内容	名詞文の過去形を作り、その関連の課題をする		
15回	授業内容	名詞文の過去表現とその実践会話		毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の過去表現の使った会話ができる		
	予習復習の内容	名詞の過去形の例文を作り、その関連の課題をする		

科目名	中国語会話実践				担当者	王 昊 少 皓						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はEメールで行う。 wangxuan0204@gmail.com											
専門的 学習成果	①	中国語とはどんな言葉かについて理解でき、概要を説明できる										
	②	中国語の発音要領と声調の特徴を理解し、短母音、複母音、鼻母音と子音の発音ができるようになる										
	③	中国語の述語文（動詞・形容詞・名詞）の使用について区別できる										
	④	中国語の疑問詞及び疑問文が使用できる										
	⑤	中国語の時制構文を習得する。										
	⑥	使役文「让」と受身文「被」を区別して使用できる										
	⑦	モダリティ・助動詞が使えるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	中国語の基礎知識を理解し、コミュニケーション活動に必要な基礎力を身に付ける。（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	学生生活に密着した語彙・表現について理解を深め、中国語で会話する能力を高める。（専門的学習成果③④⑤⑥⑦に関連）										
	(3)	日常生活に密着したモデル会話の勉強を通して、中国語の“聴く・話す・読む・書く”4技能をバランスよく身に付ける。（専門的学習成果③④⑤⑥⑦に関連）										
授業概要	この授業は学習者の皆さんが楽しみながら中国語の基礎力を身に付けるとともに、聞く・話す・読む・書く4技能をバランスよく修得することを目的とする。簡単な会話のやり取りや、文章を読んだり書いたりすることを通して、語彙及び文法のポイントを定着させ、実践的なコミュニケーションができるようにする。さらに、中国語の学習にあたっては、中国の文化や社会に興味を持つことも重要であり、授業ではそうした面にも目を向けられるよう工夫する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	30	各回5%を6回実施する。2～4回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
汎用的 学習成果	筆記試験	70	第15回目と第30回目の授業後半に筆記と口頭試験形式で行い、全30回分の講義内容の理解について評価を行う。									
テキスト 等	著者・編集者名			書名								出版社名
	上野 恵司	『標準中国語・基礎編』										白帝社
参考書 参考文献	著者・編集者名			書名								出版社名
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストを活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、2回目以降の授業から、音節の発音、語彙の発音を読み予習しておくこと（予習：週2時間程度）。事後学習としては、授業の内容について振り返りを行い、朗読の練習及び確認問題を通して理解を深めること（復習：週2時間程度）。 ②小テストは授業で返却し解説を行う。期末試験は実施後に正解を示し、解説を行う。											

授業計画		学習成果の評価	授業計画	学習成果の評価							
1回	授業内容	中国語の基礎知識と短母音の発音	16回	授業内容	第5課「横浜に行こう！」（語彙・会話・文法）	小テスト（短母音・複母音について）第3回に実施	18回	授業内容	第6課「いい曲ですね」（語彙・会話・文法）	小テスト（第5課について）第18回に実施	
	学習成果	中国語の基礎知識を理解し、短母音の発音を身に付ける。		学習成果	動詞述語文と動詞「喜欢」を理解し、自分や友達の日常生活について会話できる。			学習成果	第5課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。		
	予習復習の内容	中国語の短母音の発音について理解を深めておくこと。		予習復習の内容	第5課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。			予習復習の内容	第6課「いい曲ですね」(4技能練習)		
2回	授業内容	中国語の複母音の発音	17回	授業内容	第5課「横浜に行こう！」(4技能練習)	19回	授業内容	第6課「いい曲ですね」(4技能練習)	20回	授業内容	第7課「山中君、バイクだけがをする」(語彙・会話・文法)
	学習成果	中国語の複母音の発音を身に付ける。		学習成果	4技能のバランスを取りながら、自分や友達の日常生活について会話できる。		学習成果	確認問題を通して、第5課の文法について整理・確認しておくこと。		学習成果	「了」と結果補語を理解し、自分や友達の体調の変化について会話できる。
3回	授業内容	中国語の子音（前半）の発音	18回	授業内容	第6課「いい曲ですね」(4技能練習)	21回	授業内容	第7課「山中君、バイクだけがをする」(4技能練習)	22回	授業内容	第8課「夏合宿の計画」(語彙・会話・文法)
	学習成果	中国語の子音（前半）の発音を身に付ける。		学習成果	4技能のバランスを取りながら、自分や友達の体調の変化について会話できる。		学習成果	確認問題を通して、第6課の文法について整理・確認しておくこと。		学習成果	「了」と結果補語を理解し、自分や友達の体調の変化について会話できる。
4回	授業内容	中国語の子音（後半）の発音	19回	授業内容	第7課「山中君、バイクだけがをする」(語彙・会話・文法)	23回	授業内容	第8課「夏合宿の計画」(4技能練習)	24回	授業内容	第9課「ぼくたちは絶対に成功できる！」(語彙・会話・文法)
	学習成果	中国語の子音（後半）の発音を身に付ける。		学習成果	4技能のバランスを取りながら、自分や友達の体調の変化について会話できる。		学習成果	確認問題を通して、第7課の文法について整理・確認しておくこと。		学習成果	前置詞と経験を表す構文「过」を理解し、自分の学校生活やアルバイトについて会話できる。
5回	授業内容	中国語の鼻母音の発音	20回	授業内容	第8課「夏合宿の計画」(4技能練習)	24回	授業内容	第9課「ぼくたちは絶対に成功できる！」(4技能練習)	25回	授業内容	第10課「スカイターを見に行こう！」(語彙・会話・文法)
	学習成果	中国語の鼻母音の発音を身に付ける。		学習成果	4技能のバランスを取りながら、自分や友達の体調の変化について会話できる。		学習成果	確認問題を通して、第8課の文法について整理・確認しておくこと。		学習成果	持続を表す構文「着」と比較表現を理解し、友達を誇ったり、物事を比較したりすることができる。
6回	授業内容	中国語の音節、数字と簡単な挨拶	21回	授業内容	第9課「ぼくたちは絶対に成功できる！」(4技能練習)	26回	授業内容	第10課「スカイターを見に行こう！」(4技能練習)	27回	授業内容	第11課「ホワイトクリスマス」(語彙・会話・文法)
	学習成果	中国語の音節を理解し、数字の読み方と簡単な挨拶を身に付ける。		学習成果	4技能のバランスを取りながら、自分や友達の体調の変化について会話できる。		学習成果	確認問題を通して、第9課の文法について整理・確認しておくこと。		学習成果	使役「让」と無主語文を理解し、天候などの自然現象について会話できる。
7回	授業内容	中国語の音節、数字と簡単な挨拶	22回	授業内容	第10課「スカイターを見に行こう！」(4技能練習)	28回	授業内容	第11課「ホワイトクリスマス」(4技能練習)	29回	授業内容	第12課「道中ご無事で」
	学習成果	数字の言い方及び簡単な挨拶文の理解を深めておくこと。		学習成果	4技能のバランスを取りながら、自分や友達の体調の変化について会話できる。		学習成果	確認問題を通して、第10課の文法について整理・確認しておくこと。		学習成果	受身「被」に方向補語を理解し、別々の表現を身に付けて、会話できる。
	予習復習の内容	第1課「はじめまして、林林！」(語彙・会話・文法)		予習復習の内容	第1課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。		予習復習の内容	第11課の単語と文法をマスターするよう学習しておくこと。		予習復習の内容	確認問題を通して、第12課の文法について整理・確認しておくこと。
8回	授業内容	第1課「はじめまして、林林！」(4技能練習)	23回	授業内容	第11課「ホワイトクリスマス」(4技能練習)	30回	授業内容	第12課「道中ご無事で」	30回	授業内容	第13課「道中ご無事で」
	学習成果	4技能のバランスを取りながら、簡単な自己紹介ができる。		学習成果	4技能のバランスを取りながら、自分や友達の体調の変化について会話できる。		学習成果	確認問題を通して、第11課の文法について整理・確認しておくこと。		学習成果	受身「被」に方向補語を理解し、別々の表現を身に付けて、会話できる。
9回	授業内容	第2課「趣味は何ですか？」(語彙・会話・文法)	24回	授業内容	第12課「道中ご無事で」	30回	授業内容	第13課「道中ご無事で」	30回	授業内容	第14課「道中ご無事で」
	学習成果	名詞述語文と疑問詞疑問文を理解し、趣味や年齢の尋ね方を身に付け、会話できる。		学習成果	4技能のバランスを取りながら、自分や友達の体調の変化について会話できる。		学習成果	確認問題を通して、第12課の文法について整理・確認しておくこと。		学習成果	確認問題を通して、第13課の文法について整理・確認しておくこと。
10回	授業内容	第2課「趣味は何ですか？」(4技能練習)	25回	授業内容	第13課「道中ご無事で」	30回	授業内容	第14課「道中ご無事で」	30回	授業内容	第15課「道中ご無事で」
	学習成果	4技能のバランスを取りながら、趣味や年齢の尋ね方について会話できる。		学習成果	4技能のバランスを取りながら、自分や友達の体調の変化について会話できる。		学習成果	確認問題を通して、第13課の文法について整理・確認しておくこと。		学習成果	確認問題を通して、第14課の文法について整理・確認しておくこと。
11回	授業内容	第3課「氏氏がいいますか？」(語彙・会話・文法)	26回	授業内容	第14課「道中ご無事で」	30回	授業内容	第15課「道中ご無事で」	30回	授業内容	第16課「道中ご無事で」
	学習成果	動詞「在」と「有」を理解し、自分の家族について紹介できる。		学習成果	4技能のバランスを取りながら、自分や友達の体調の変化について会話できる。		学習成果	確認問題を通して、第14課の文法について整理・確認しておくこと。		学習成果	確認問題を通して、第15課の文法について整理・確認しておくこと。
12回	授業内容	第3課「氏氏がいいますか？」(4技能練習)	27回	授業内容	第15課「道中ご無事で」	30回	授業内容	第16課「道中ご無事で」	30回	授業内容	第17課「道中ご無事で」
	学習成果	4技能のバランスを取りながら、自分の家族について紹介できる。		学習成果	4技能のバランスを取りながら、自分や友達の体調の変化について会話できる。		学習成果	確認問題を通して、第15課の文法について整理・確認しておくこと。		学習成果	確認問題を通して、第16課の文法について整理・確認しておくこと。
13回	授業内容	第4課「毎日が充実していて楽しい！」(語彙・会話・文法)	28回	授業内容	第16課「道中ご無事で」	30回	授業内容	第17課「道中ご無事で」	30回	授業内容	第18課「道中ご無事で」
	学習成果	形容詞述語文と反復疑問文を理解し、健康や勉強の状況について会話できる。		学習成果	4技能のバランスを取りながら、健康や勉強の状況について会話できる。		学習成果	確認問題を通して、第16課の文法について整理・確認しておくこと。		学習成果	確認問題を通して、第17課の文法について整理・確認しておくこと。
14回	授業内容	第4課「毎日が充実していて楽しい！」(4技能練習)	29回	授業内容	第17課「道中ご無事で」	30回	授業内容	第18課「道中ご無事で」	30回	授業内容	第19課「道中ご無事で」
	学習成果	4技能のバランスを取りながら、健康や勉強の状況について会話できる。		学習成果	4技能のバランスを取りながら、健康や勉強の状況について会話できる。		学習成果	確認問題を通して、第17課の文法について整理・確認しておくこと。		学習成果	確認問題を通して、第18課の文法について整理・確認しておくこと。
15回	授業内容	第5課「毎日が充実していて楽しい！」(語彙・会話・文法)	30回	授業内容	第18課「道中ご無事で」	30回	授業内容	第19課「道中ご無事で」	30回	授業内容	第20課「道中ご無事で」
	学習成果	形容詞述語文と反復疑問文を理解し、健康や勉強の状況について会話できる。		学習成果	4技能のバランスを取りながら、健康や勉強の状況について会話できる。		学習成果	確認問題を通して、第18課の文法について整理・確認しておくこと。		学習成果	確認問題を通して、第19課の文法について整理・確認しておくこと。

科目名	観光英会話				担当者	ブシェーポール							
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	通年	
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける											
専門的 学習成果	①	英語の単語、表現、会話を身につけ、海外での様々な場面で英会話で対応できる。											
	②	英語の単語、表現、会話を身につけ、訪日外国人と英語のコミュニケーションを行うことができる。											
	③	日本人が苦手意識をもちやすい英語の発音について点検し、正しい発音で英会話を行うことができる。											
汎用的 学習成果	(1)	英会話の学びを通して、言語の背景である異文化への理解を深め、国際社会で通用する幅広い視野でものごとをとらえることができる。(専門的学習成果①、②、③)											
授業概要	テキストに沿って海外旅行中の様々な場面で役に立つ英語を実践的に学習する。単語、表現、会話をしっかり覚え、旅行中だけでなく、日本に来る外国人観光客にも対応できるように練習する。日本人が不安を感じやすいのが発音であるが、これを重点的に指導し、そのコツも覚え、分かりやすい通じる英語を身につけることを目指す。そして授業やプレゼンテーションなどを通して異文化への理解を深め、国際社会に興味を持って幅広い視野を育む。												
	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
評価方法 基準等	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		期末テスト	50	前期・後期とも最後の授業で実施する。									
		平常点	50	授業での取り組みや宿題、小テストの達成度で評価する。									
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、専門的学習成果①、②、③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名							
	Angela Buckingham, Lewis Lansford	「PASSPORT 1」				Oxford University Press							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		① 毎週の授業の予習 (30分) と復習 (30分) をすること。宿題が課された場合は、次の授業までに必ずやっておくこと。単語やフレーズの小テストを実施することもある。常に単語やフレーズを復習すること。配布資料はしっかり管理すること。 ②小テストとプレゼンテーションの内容についてのフィードバックは授業中に行う。しっかり受け止めて改善に努めること。											

授業計画			学習成果の評価		授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	オリエンテーション (授業への取り組み方と自己紹介)	取り組む態度・英語力	16回	授業内容	Have you been to the islands?	取り組む態度・英語力		
	学習成果	英語で挨拶と自己紹介ができます			学習成果	旅行経験について話す			
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			
2回	授業内容	機内で Would you like chicken or fish?	取り組む態度・英語力	17回	授業内容	I really like rugby!	取り組む態度・英語力		
	学習成果	英語で要求、希望を伝えることができる			学習成果	好き嫌いについて話す			
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			
3回	授業内容	入国管理で Can I have your passport, please?	取り組む態度・英語力	18回	授業内容	Where should we meet?	取り組む態度・英語力		
	学習成果	入国管理で質問を答える			学習成果	会う計画を立てる			
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			
4回	授業内容	My mother has her own business.	取り組む態度・英語力	19回	授業内容	市場で How about 400 baht for two?	取り組む態度・英語力		
	学習成果	自分の家族と趣味について会話ができます			学習成果	ショッピングと価格交渉			
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			
5回	授業内容	Can I check my email?	取り組む態度・英語力	20回	授業内容	Destination: Thailand	取り組む態度・英語力		
	学習成果	丁寧なお願いする			学習成果	タイの観光地について学ぶ			
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			
6回	授業内容	レストランで Are you ready to order?	取り組む態度・表情・発音・積極性	21回	授業内容	郵便局で I'd like to send this to Japan, please.	取り組む態度・英語力		
	学習成果	レストランでよく使う言葉			学習成果	パッケージを郵送する			
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			
7回	授業内容	Destination: the UK	取り組む態度・英語力	22回	授業内容	We're staying five more days.	取り組む態度・英語力		
	学習成果	イギリスの観光地について学ぶ			学習成果	旅行のアドバイスを求めて与える			
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			
8回	授業内容	Where's the station?	取り組む態度・英語力	23回	授業内容	I lost my bag!	取り組む態度・表情・発音・積極性		
	学習成果	道順を尋ねる			学習成果	紛失を報告する			
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			
9回	授業内容	銀行で Can I use my card in this ATM?	取り組む態度・英語力	24回	授業内容	Which bus goes to the airport?	取り組む態度・英語力		
	学習成果	銀行で両替する			学習成果	公共交通機関を利用する			
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			
10回	授業内容	電話で Do you have a non-smoking room?	取り組む態度・英語力	25回	授業内容	What did you like the best?	取り組む態度・英語力		
	学習成果	ホテルの部屋を予約する			学習成果	旅行体験に伝える			
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			
11回	授業内容	薬局で I have a stomachache	取り組む態度・英語力	26回	授業内容	Destination: Ireland	取り組む態度・英語力		
	学習成果	症状を説明し、薬を求める			学習成果	アイルランドの観光地について学ぶ			
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			
12回	授業内容	I'm from Japan	取り組む態度・表情・発音・積極性	27回	授業内容	Interests, Opinions, Agreeing and Disagreeing	取り組む態度・表情・発音・積極性		
	学習成果	故郷について話す			学習成果	興味について話し、誰かに賛成と反対の意見を述べます			
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			
13回	授業内容	Destination: New Zealand	準備・英語の表現力・発音・表情	28回	授業内容	TV Shows and Music	準備・英語の表現力・発音・表情		
	学習成果	ニュージーランドの観光地について学ぶ			学習成果	お気に入りのテレビ番組や音楽について話す			
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			
14回	授業内容	観光案内所で What time does it start?	取り組む態度・英語力	29回	授業内容	Movies	取り組む態度・英語力		
	学習成果	観光案内所で情報を求める			学習成果	好きな映画について話す			
	予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			予習復習の内容	新しい単語やフレーズを復習予習			
15回	授業内容	学期末テスト	取り組む態度・英語力 期末テスト	30回	授業内容	学期末テスト	期末テスト		
	学習成果	さまざまな場面で英語を使ってコミュニケーションを行うことができる。			学習成果	さまざまな場面で英語を使ってコミュニケーションを行うことができる。			
	予習復習の内容	テストでの誤りを復習			予習復習の内容	テストでの誤りを復習			

科目名	基礎プログラミング演習				担当者	岩 渕 正 則						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	Java 言語の構成を説明できる。										
	②	Java 言語を構成する各命令を操作できる。										
	③	構造化プログラミングを説明できる。										
	④	基本的なアルゴリズムを説明できる。										
	⑤	基本的な処理をプログラミングで操作できる。										
	⑥	プログラムの開発工程を説明できる。										
	⑦	システム開発工程を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	Java 言語を習得し、情報処理技術者としての職業自立につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	プログラミングを通して、習得した知識や技術を活用し問題解決に向け行動できる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	企業システムや経営システムを構築することで、IT 社会に役立つ行動ができる。(専門的学習成果④⑤に関連)										
	(4)	情報システムの開発工程を学ぶことを通じて、将来のシステム構成の在り方を探求することができる。(専門的学習成果⑥⑦に関連)										
授業概要	世界的に標準言語として認められており、情報処理技術者国家試験の指定言語であるプログラミング言語を学ぶ。情報処理理論および情報科学で学んだ知識を基礎として、プログラミングスキルを身につける。プログラミング技術を活用して業務を改善するなど、情報化を推進できる人材を育成する。そのためには、最新のアルゴリズム構成について理解する必要がある。さらに、2020年から小学校教育に導入されたプログラミング教育の人材として十分に活用できる内容を講義する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		実習レポート	30	実習課題の提出により評価を行う。実習課題1～実習課題5の各6点満点とする。								
		小テスト										
汎用的 学習成果	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
		(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④⑤で評価を行う。 (4) は専門的学習成果⑥⑦で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	三谷 純	『プログラミング学習シリーズ Java 第3版 入門編 ゼロからはじめるプログラミング』					翔泳社					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前に配布した資料を読んでおくこと。(予習：週2時間程度) 板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。(復習：週2時間程度) ②単元ごとに復習を行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。											

授業計画		学習成果の評価	授業計画		学習成果の評価			
1回	授業内容	ソフトウェアの開発手順	実習課題1 (IF文を使った課題)	授業内容	文字型配列			
	学習成果	ソフトウェアの開発手順について説明できる。		学習成果	文字型配列について説明できる。			
	予習復習の内容	ソフトウェア開発手順について調べておく。		予習復習の内容	文字型配列について調べておく。			
2回	授業内容	プログラミングの手順		実習課題2 (関数を使ったプログラム)	授業内容	文字列の代入		
	学習成果	プログラミングの手順についての説明ができる。			学習成果	文字列の代入について説明できる。		
	予習復習の内容	プログラミングの手順について調べておく。			予習復習の内容	文字列の代入について調べておく。		
3回	授業内容	変数と値			実習課題4 (クラス)	授業内容	変数のアドレス	
	学習成果	変数と値を説明できる。				学習成果	変数のアドレスについて説明できる。	
	予習復習の内容	変数と値について調べておく。				予習復習の内容	変数のアドレスについて調べておく。	
4回	授業内容	データ型				実習課題5 (インターフェイス)	授業内容	クラスの基本
	学習成果	データ型について説明できる。					学習成果	クラスの基本 について説明できる。
	予習復習の内容	データ型について調べておく。	予習復習の内容				クラスの基本 について調べておく。	
5回	授業内容	演算子	実習課題3 (配列)				授業内容	クラスの機能
	学習成果	演算子について説明できる。					学習成果	クラスの機能について説明できる。
	予習復習の内容	演算子について調べておく。		予習復習の内容			クラスの機能について調べておく。	
6回	授業内容	IF文		実習課題3 (配列)			授業内容	クラスの利用
	学習成果	IF文について説明できる。					学習成果	クラスの利用について説明できる。
	予習復習の内容	IF文について調べておく。			予習復習の内容		クラスの利用について調べておく。	
7回	授業内容	Switch文			実習課題3 (配列)		授業内容	新しいクラス
	学習成果	Switch文について説明できる。					学習成果	新しいクラスについて説明できる。
	予習復習の内容	Switch文について調べておく。				予習復習の内容	新しいクラスについて調べておく。	
8回	授業内容	While文				実習課題3 (配列)	授業内容	インターフェイス
	学習成果	Whileについて説明できる。					学習成果	インターフェイスについて説明できる。
	予習復習の内容	Whileについて調べておく。	予習復習の内容				インターフェイスについて調べておく。	
9回	授業内容	Do～While文	実習課題3 (配列)				授業内容	スレッド
	学習成果	Do～While文について説明ができる。					学習成果	スレッドについて説明できる。
	予習復習の内容	Do～While文について調べておく。		予習復習の内容			スレッドについて調べておく。	
10回	授業内容	For文		実習課題3 (配列)			授業内容	入出力処理
	学習成果	For文について説明できる。					学習成果	入出力処理について説明できる。
	予習復習の内容	For文について調べておく。			予習復習の内容		入出力処理について調べておく。	
11回	授業内容	関数の定義			実習課題3 (配列)		授業内容	例外処理
	学習成果	関数の定義について説明できる。					学習成果	例外処理について説明できる。
	予習復習の内容	関数の定義について調べておく。				予習復習の内容	例外処理について調べておく。	
12回	授業内容	引数				実習課題3 (配列)	授業内容	グラフィック
	学習成果	引数について説明できる。					学習成果	グラフィックについて説明できる。
	予習復習の内容	引数について調べておく。	予習復習の内容				グラフィックについて調べておく。	
13回	授業内容	配列	実習課題3 (配列)				授業内容	プログラム開発
	学習成果	配列の特徴について説明できる。					学習成果	プログラム開発について説明できる。
	予習復習の内容	配列の特徴について調べておく。		予習復習の内容			プログラム開発について調べておく。	
14回	授業内容	配列の初期化		実習課題3 (配列)			授業内容	大規模システム開発
	学習成果	配列の初期化について説明できる。					学習成果	大規模システム開発について説明できる。
	予習復習の内容	配列の初期化について調べておく。			予習復習の内容		大規模システム開発について調べておく。	
15回	授業内容	多次元配列			実習課題3 (配列)		授業内容	アプリケーション開発
	学習成果	多次元配列について説明できる。					学習成果	アプリケーション開発について説明できる。
	予習復習の内容	多次元配列について調べておく。				予習復習の内容	アプリケーション開発について調べておく。	

科目名	AI 概論				担当者	岩 濶 正 則						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				授業の前後に教室で受け付ける。								
専門的 学習成果	①	ディープラーニング G 検定及び AI 検定に合格できる。										
	②	人工知能 (AI) の歴史と動向を説明できる。										
	③	人工知能分野の問題について説明できる。										
	④	機械学習の具体的手法を説明できる。										
	⑤	人工知能 (AI) の手法を説明できる。										
	⑥	人工知能 (AI) の研究分野について説明できる。										
	⑦	人工知能 (AI) の技術を事業に活用できる。										
汎用的 学習成果	(1)	ディープラーニング G 検定又は AI 検定に合格し、AI 技術者としての職業自立につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	問題解決のために AI 技術を利用することができる。(専門的学習成果③に関連)										
	(3)	コンピュータ技術と融合することにより汎用的な成果を上げることができる。(専門的学習成果④に関連)										
	(4)	事業活動の中で AI 技術の活用分野を見つけ出し、社会に役立つことができる。(専門的学習成果⑥⑦に関連)										
授業概要	現在は第3次 AI ブームと呼ばれている。最初に人工知能 (AI) の歴史を学び、なぜ今第3次 AI ブームなのかを理解する。次に、現在注目を浴びているディープラーニングの概要と手法を学ぶ。ディープラーニングは汎用技術の一つと呼ばれている。この技術は、発明や発見が世界全体に影響を与える可能性がある技術のことである。ディープラーニングが実現できるようになった背景にはデータ量が増え、それを処理するコンピュータの性能が向上した結果でもある。続いて、現在ディープラーニングの技術がどのような分野で活用されているのかを理解し、今後どのような分野に活用できるのかを模索し、応用する方法を理解する。最後に、人工知能を取り巻く法律、倫理などについて講義する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	30	5回ごとに小テストを3回実施し、各10点満点で評価を行う。								
汎用的 学習成果	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	吉田雅裕、岡嶋裕史	『はじめての AI リテラシー』						技術評論社				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストを読んでおくこと。(予習：週2時間程度) 板書した内容は必ずノートに記入すること。 板書内容の例題や問題を必ず理解すること。(復習：週2時間程度) ②5回ごとに小テストを行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	人工知能 (AI) について	
	学習成果	人工知能 (AI) の定義や歴史について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第1章を読んで調べておく。	
2回	授業内容	人工知能をめぐる動向	
	学習成果	探索・推論について、簡単な手法を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第2章を読んで調べておく。	
3回	授業内容	人工知能 (AI) の問題	
	学習成果	人工知能分野の問題点について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第3章を読んで調べておく。	
4回	授業内容	機械学習の手法	
	学習成果	教師あり学習と教師なし学習について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第4章を読んで調べておく。	
5回	授業内容	AI 技術の概要	
	学習成果	ニューラルネットワークとディープラーニングについて説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第5章を読んで調べておく。	
6回	授業内容	AI 技術の概要②	
	学習成果	オートエンコーダ、ファインチューニングについて説明できる。	
	予習復習の内容	オートエンコーダ、ファインチューニングについて調べておく。	
7回	授業内容	CPU と GPU	
	学習成果	CPU と GPU、および GPGPU について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第7章を読んで調べておく。	
8回	授業内容	情報セキュリティの基礎	
	学習成果	情報セキュリティについて説明できる。	
	予習復習の内容	情報セキュリティについて調べておく。	
9回	授業内容	統計と数学の基本	
	学習成果	AI に必要な統計と数学を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第9章を読んでおく。	
10回	授業内容	AI とアルゴリズム	
	学習成果	AI とアルゴリズムについて説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第10章を読んでおく。	
11回	授業内容	データの構造とプログラミング	
	学習成果	データの構造とプログラミングについて説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの第11章を読んでおく。	
12回	授業内容	画像認識	
	学習成果	画像認識について説明できる。	
	予習復習の内容	画像認識について調べておく。	
13回	授業内容	自然言語処理	
	学習成果	自然言語処理について説明できる。	
	予習復習の内容	自然言語処理について調べておく。	
14回	授業内容	音声認識	
	学習成果	音声認識について説明できる。	
	予習復習の内容	音声認識について調べておく。	
15回	授業内容	人工知能の法律・倫理	
	学習成果	人工知能関連の法律について説明できる。	
	予習復習の内容	人工知能関連の法律について調べておく。	
			第1回～第5回の小テスト
			第6回～第10回の小テスト
			第11回～第15回の小テスト

科目名	データサイエンス基礎論				担当者	岩 濁 正 則						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	データサイエンス基礎検定に合格できる。										
	②	データ分析の基礎知識を論じることができる。										
	③	観測値の標準化について説明できる。										
	④	確率の基本的な性質について説明できる。										
	⑤	標本調査について説明できる。										
	⑥	ビッグデータの収集法と調査について説明できる。										
	⑦	ビッグデータの分析について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	データサイエンス基礎検定に合格し、職業自立につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	統計的な思考を身に付け、情報処理分野や人工知能分野に役立つことができる。(専門的学習成果⑥⑦に関連)										
	(3)	統計的問題解決能力を身に付け、実際の問題解決に生かすことができる。(専門的学習成果⑤に関連)										
	(4)	多くの分野において、信頼できるデータの収集と分析を行い、合理的な解決方法ができる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	情報社会において最も必要性のある学問として統計学があげられる。統計的思考の重要性を確認しながら、人工知能で扱うデータ処理やビッグデータの取り扱い方法についてのデータ分析法を学ぶ。また、統計グラフの種類や特徴について理解する。さらに、観測値の処理方法や相関関係について理解し、確率の基本的な手法について学ぶ。問題解決のためのプロセスと、実験と調査の計画法や、データの評価法と解釈法を学ぶ。その後、データサイエンス基礎検定の合格のための対策を行う。データサイエンス基礎検定対策を実施し、確実にスキルアップの向上を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	30	小テストを3回実施し、各10点満点で評価する。								
	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果⑥⑦で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う。 (4) は専門的学習成果③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	伊藤大河、川村和也、 内田 瑛、河合麗奈	『大学基礎 データサイエンス』					実教出版					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストをよく読んでおくこと。(予習：週2時間程度) 板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。(復習：週2時間程度) ②5回ごとに小テストを行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	調査項目の種類と集計	第1回～第5回までの小テスト
	学習成果	調査項目の種類と集計について説明できる。	
	予習復習の内容	調査項目の種類と集計について調べておく。	
2回	授業内容	グラフの種類と特徴	
	学習成果	グラフの種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	グラフの種類と特徴について調べておく。	
3回	授業内容	時系列データの特徴	
	学習成果	時系列データの特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	時系列データの特徴について調べておく。	
4回	授業内容	度数分布とヒストグラム	
	学習成果	度数分布とヒストグラムについて説明できる。	
	予習復習の内容	度数分布とヒストグラムについて調べておく。	
5回	授業内容	5数要約と箱ひげ図	
	学習成果	5数要約と箱ひげ図について説明できる。	
	予習復習の内容	5数要約と箱ひげ図について調べておく。	
6回	授業内容	分散と標準偏差	
	学習成果	分散と標準偏差について説明できる。	
	予習復習の内容	分散と標準偏差について調べておく。	
7回	授業内容	相関と散布図	
	学習成果	相関と散布図について説明できる。	
	予習復習の内容	相関と散布図について調べておく。	
8回	授業内容	相関係数	
	学習成果	相関係数について説明できる。	
	予習復習の内容	相関係数について調べておく。	
9回	授業内容	確率	
	学習成果	確率について説明できる。	
	予習復習の内容	確率について調べておく。	
10回	授業内容	標本調査	第6回～第10回までの小テスト
	学習成果	標本調査について説明できる。	
	予習復習の内容	標本調査について調べておく。	
11回	授業内容	PPDAC サイクル	
	学習成果	PPDAC サイクルについて説明できる。	
	予習復習の内容	PPDAC サイクルについて調べておく。	
12回	授業内容	実験計画法	
	学習成果	実験計画法について説明できる。	
	予習復習の内容	実験計画法について調べておく。	
13回	授業内容	ビッグデータの収集と分析	
	学習成果	ビッグデータの収集と分析について説明できる。	
	予習復習の内容	ビッグデータの収集と分析について調べておく。	
14回	授業内容	データサイエンス基礎対策	
	学習成果	データサイエンス基礎問題について説明できる。	
	予習復習の内容	データサイエンス基礎問題について調べておく。	
15回	授業内容	データサイエンス基礎対策	第11回～第15回までの小テスト
	学習成果	データサイエンス基礎問題について説明できる。	
	予習復習の内容	データサイエンス基礎問題について調べておく。	

科目名	マルチメディア演習 (2 DCG)				担当者	村上航士・木村浩之						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。メールでの質問などに関しては、初回授業で説明する。											
専門的 学習成果	①	制作現場で最も使用されている、Illustrator と Photoshop を使用することができる。										
	②	WEB で使用できるアイコンやロゴなどの制作ができる。										
	③	制作や制作物を通して、クライアントやユーザーとコミュニケーションができる。										
汎用的 学習成果	(1)	作成方法を学ぶことを通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	制作の流れと作成方法を学習することで、広報宣伝活動などに役立てる事ができる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(3)	デザイン的な思考と企画開発力を育てることができる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	Adobe社のアプリケーション Illustrator と Photoshop の基本操作を通して、WEBやDTPで使われるロゴやアイコンやライターといった、様々な表現の制作過程と方法を学習する。画像の補正や加工・合成、テキストのフォント選択やアレンジなど、目的に合わせたスキルを用いることで自分のアイデアを正しく伝えることができる。そのためには多くのデザインに触れ、自分のやりたいアイデアを蓄えることも重要となる。授業内では優れたデザインを紹介し、実例からどのようなスキルが使われているかも学んでいく。最終課題では、画像とテキストを組み合わせたカードを制作し、アイデアを形にする楽しさと難しさを体験して締めくくる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		課題	80	授業内の提出物と最終課題の制作物によって評価する。								
	平常点	20	授業への取り組み・意欲・態度により総合的に評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的評価①で評価を行う。 (2)は専門的評価①～③で評価を行う。 (3)は専門的評価③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名			出版社名							
	ビクセルハウス	『世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書』			技術評論社							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名			出版社名							
	石川洋平 / 清水健次 / 堀内良太	『Illustrator よくばり入門』			インプレス							
	senatsu	『Photoshop よくばり入門』			インプレス							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業内容は継続する内容となる。欠席した場合、次回の授業は習得理解が困難になる場合があるので、必ず補修しておくこと。 授業準備としてテキスト等に目を通し、習得内容を把握しておくこと。 授業後は不明点の解消などに、週2時間程度の時間外学習を求める。 ②提出課題は、速やかに評価した後、解説を行う。											

授業計画		学習成果の評価	授業計画	学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス、デザインにおける各アプリケーションの使い分け	16回	授業内容	Illustrator の基礎知識と環境設定
	学習成果	Illustrator と Photoshop の特性を理解する。		学習成果	環境設定やワークスペースを理解する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、アプリケーションの特性などを確認する。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、Illustrator の環境を確認する。
2回	授業内容	Photoshop の基礎知識と環境設定	17回	授業内容	図形の描画-1
	学習成果	環境設定やワークスペース、カラーモードを理解する。		学習成果	図形やペンツールについて理解する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、Photoshop の特性と環境を確認する。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、図形などの作成と応用について確認する。
3回	授業内容	レイヤーの基本操作	18回	授業内容	図形の描画-2
	学習成果	レイヤーという概念を理解する。		学習成果	フリーハンド系ツールやトレースについて理解する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、レイヤーの仕組みを確認する。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、自在に描画できるよう復習しておくこと。
4回	授業内容	色調補正と調整レイヤー	19回	授業内容	オブジェクトの選択と変形-1
	学習成果	色調補正の基礎知識を理解する。		学習成果	選択ツールと変形を理解する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、色調補正の仕組みと種類を確認する。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、自在に変形できるよう復習すること。
5回	授業内容	選択範囲の操作	20回	授業内容	オブジェクトの選択と変形-2
	学習成果	選択範囲の基本を理解する。		学習成果	選択ツールと変形を理解する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、選択範囲を自在に指定できるよう確認する。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、自在に変形できるよう復習すること。
6回	授業内容	色の指定とペイント	21回	授業内容	課題制作2
	学習成果	色の設定やペイントツールについて理解する。		学習成果	アナログデータをデジタルデータに書き起こすことができる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、色の指定やペイントツールを確認する。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、効率よく変換できるよう復習すること。
7回	授業内容	レイヤーマスク	22回	授業内容	色の設定
	学習成果	レイヤーマスクの設定を理解する。		学習成果	色の設定、グラデーションやパターンについて理解する。
	予習復習の内容	とても重要な箇所なので繰り返し学習すること。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、不明な箇所は復習しておくこと。
8回	授業内容	文字と図形	23回	授業内容	オブジェクトの編集と合成
	学習成果	文字やパスの仕組みについて理解する。		学習成果	オブジェクトを効率的に編集できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、文字とパスの仕組みについて理解する。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、オブジェクトの編集について確認する。
9回	授業内容	画像の修正	24回	授業内容	線の設定
	学習成果	レタッチ機能について理解する。		学習成果	線とブラシの設定について理解する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、補正の考え方を確認する。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、線とブラシの設定について確認する。
10回	授業内容	フィルターとレイヤースタイル	25回	授業内容	文字の編集とフォント
	学習成果	フィルターやレイヤースタイルの特性を理解する。		学習成果	文字のルールやフォントの種類について理解する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、フィルターの仕組みと効果を確認する。		予習復習の内容	普段目にする広告のフォントやルールなどを読み解くこと。
11回	授業内容	写真補正の応用-1	26回	授業内容	そのほかの機能
	学習成果	これまで学習した機能を組み合わせ、応用問題に取り組む。		学習成果	新機能や便利な機能について理解する。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、補正目的とその手法を考える。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、最新情報の入手場所などを確認しておく。
12回	授業内容	写真補正の応用-2	27回	授業内容	総合演習
	学習成果	これまで学習した機能を組み合わせ、応用問題に取り組む。		学習成果	目的に合わせた印刷物のデータが作成できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、補正目的とその手法を考える。		予習復習の内容	カードの制作を通してこれまで学習した内容を確認する。
13回	授業内容	総合演習	28回	授業内容	総合演習
	学習成果	Webサイトに掲載するバナー広告の制作		学習成果	目的に合わせた印刷物のデータが作成できる。
	予習復習の内容	バナー制作を通してこれまで学習した内容を確認する。		予習復習の内容	カードの制作を通してこれまで学習した内容を確認する。
14回	授業内容	総合演習	29回	授業内容	総合演習
	学習成果	Webサイトに掲載するバナー広告の制作		学習成果	目的に合わせた印刷物のデータが作成できる。
	予習復習の内容	バナー制作を通してこれまで学習した内容を確認する。		予習復習の内容	カードの制作を通してこれまで学習した内容を確認する。
15回	授業内容	まとめ	30回	授業内容	まとめ
	学習成果	これまでの学習内容をまとめ、総括する。		学習成果	これまでの学習内容をまとめ、総括する。
	予習復習の内容	課題の講評とまとめを振り返り、自分の課題を発見する。		予習復習の内容	課題の講評とまとめを振り返り、自分の課題を発見する。

科目名	Web デザイン基礎				担当者	村 上 航 士						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。メールでの質問などに関しては、初回授業で説明する。											
専門的 学習成果	①	Web オーサリングツールの基本概念が説明できる										
	②	Web オーサリングツールの基本操作ができる										
	③	小規模なウェブサイトが制作できる										
汎用的 学習成果	(1)	オーサリングツールでの作成方法を学ぶことを通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	サイト公開や管理をすることで、広報宣伝活動などに役立てる事ができる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(3)	オリジナルコンテンツの開発を通して、企画開発力を育てることができる。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	Microsoft 社のアプリケーション「Visual Studio Code」を使い、オーサリングツールの基本操作とサイト制作の基本を習得する。前半は基本操作を、後半では基本をベースによく使われる実践的なスキルを習得していく。簡単なページの制作を繰り返すことで、知識とスキルを結び付けていく。最後の課題制作では、それぞれ小規模の Web サイトを企画し、制作から公開までの一連を体験する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		課題	80	授業内の提出物と最終課題の制作物によって評価する。								
	平常点	20	授業への取り組み・意欲・態度により総合的に評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的評価①で評価を行う。 (2)は専門的評価①～③で評価を行う。 (3)は専門的評価②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	竹内直人、竹内留美	『これだけで基本がしっかり身につく HTML/CSS & Web デザイン』				翔泳社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	服部雄樹	『Web デザイン 見るだけノート』				宝島社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業内容は継続する内容となる。欠席した場合、次回の授業は習得理解が困難になる場合があるので、必ず補修しておくこと。 授業準備としてテキスト等に目を通し、習得内容を把握しておくこと。 授業後は不明点の解消などに、週 2 時間程度の時間外学習を求める。 ②提出課題は、速やかに評価した後、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1 回	授業内容	ガイダンス、アプリケーションの基礎知識	
	学習成果	制作環境を確認し、セットアップできる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、アプリケーションの用語などを確認する。	
2 回	授業内容	HTML の基本の学習	
	学習成果	マークアップとは何かを理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、WEB サイト制作の流れと HTML の仕組みを確認する。	
3 回	授業内容	CSS の基本の学習	
	学習成果	CSS の書き方を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、CSS の仕組みについて確認する。	
4 回	授業内容	2 カラムページの作成 -1	
	学習成果	2 カラムページの HTML を作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、使用した HTML タグについて確認する。	
5 回	授業内容	2 カラムページの作成 -2	
	学習成果	2 カラムページの CSS を作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、使用したセレクトと CSS について確認する。	
6 回	授業内容	1 カラムページの作成 -1	
	学習成果	複雑な構造の HTML を作成できる。	
	予習復習の内容	マークアップについて予習・復習をしっかりしておくこと。	
7 回	授業内容	1 カラムページの作成 -2	
	学習成果	新しい CSS プロパティを学び、表現の幅を広げられる。	
	予習復習の内容	多くの CSS プロパティが出るので、復習しておくこと。	
8 回	授業内容	1 カラムページの作成 -3	
	学習成果	新しい CSS プロパティを学び、表現の幅を広げられる。	
	予習復習の内容	多くの CSS プロパティが出るので、予習復習しておくこと。	
9 回	授業内容	1 カラムページの作成 -4	
	学習成果	CSS アニメーションとレスポンシブデザインについて理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、新しく出た用語について確認する。	
10 回	授業内容	制作の流れと Web デザインの基本	
	学習成果	レイアウトや色彩など、Web デザインの基本を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、デザインの基本について確認する。	
11 回	授業内容	レストランサイトの装飾 -1	
	学習成果	複数ページのスマートフォン用サイトを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、コーディングやプロパティについて確認しておく。	
12 回	授業内容	レストランサイトの装飾 -2	
	学習成果	複数ページのスマートフォン用サイトを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、コーディングやプロパティについて確認しておく。	
13 回	授業内容	レストランサイトの装飾 -3	
	学習成果	複数ページのパソコン用サイトを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、コーディングやプロパティについて確認しておく。	
14 回	授業内容	レストランサイトの装飾 -4	
	学習成果	複数ページのパソコン用サイトを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、コーディングやプロパティについて確認しておく。	
15 回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの学習内容をまとめ、総括する。	
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイト制作の理解を深める。	

科目名	Web デザイン応用				担当者	村 上 航 士						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。メールでの質問などに関しては、初回授業で説明する。											
専門的 学習成果	①	Web デザインの基礎を理解し、ワイヤーフレームを作成できる										
	②	デザインツールの基礎を理解し、アイデアを形にすることができる										
	③	デザインの目的と表現方法を説明できる										
汎用的 学習成果	(1)	ワイヤーフレームの構造と作成方法を学ぶことを通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(2)	情報を整理し分類することで、広報宣伝活動などに役立てる事ができる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(3)	デザインの目的を明確に制作する事で、問題解決に向けた提案ができる。(専門的学習成果②～③に関連)										
授業概要	情報をまとめ、整理し発信することはビジネスの現場で必須である。この授業では、Web サイトを制作していく上で欠かせないワイヤーフレームの作成方法を学習していく。同時に見やすいデザインや配色など、デザインの基礎知識も身につけていく。ユーザー(閲覧者)を意識し情報の整理を学ぶことで、情報伝達の本質を理解していく。「誰のために、何を使って、どう表現するか」を意識することで、ビジネスの現場でも求められる、提案力を鍛える事ができる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		課題	80	授業内の提出物と最終課題の制作物によって評価する。								
平常点	20	授業への取り組み・意欲・態度により総合的に評価する。										
汎用的 学習成果	(1)は専門的評価①～③で評価を行う。 (2)は専門的評価①～③で評価を行う。 (3)は専門的評価②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	阿部文人、今聖菜、田口冬菜、中川小雪	『これからはじめる Figma Web・UI デザイン入門』				マイナビ出版						
	松下絵梨	『Adobe XD ではじめる Web デザイン&プロトタイピング』				翔泳社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	伊東庄平、益子貴寛、久保知己、宮田優希、伊藤由暁	『Web デザインの基本 きちんと入門』				SB クリエイティブ						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業内容は継続する内容となる。欠席した場合、次回の授業は習得理解が困難になる場合があるので、必ず補修しておくこと。 授業準備としてテキスト等に目を通し、習得内容を把握しておくこと。 授業後は不明点の解消などに、週2時間程度の時間外学習を求める。 ②提出課題は、速やかに評価した後、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、アプリケーションの基礎知識-1	実習課題1 (WEBサイトの提出)
	学習成果	使用するアプリケーションの準備を行う。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、使用するツールの用語などを確認する。		
2回	授業内容	アプリケーションの基礎知識-2	
	学習成果	ツールやコンポーネントなど、アプリケーションの基本を理解する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、使用するツールの用語などを確認する。		
3回	授業内容	デザイン制作実践-1	
	学習成果	シンプルなサイトを作成しながら、Web デザインの流れを体験する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。		
4回	授業内容	デザイン制作実践-2	
	学習成果	シンプルなサイトを作成しながら、Web デザインの流れを体験する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。		
5回	授業内容	デザイン制作実践-3	
	学習成果	シンプルなサイトを作成しながら、Web デザインの流れを体験する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。		
6回	授業内容	デザイン制作応用-1	実習課題2 (WEBサイトの提出)
	学習成果	コーポレートサイトを作成しながら、デザインの特性を理解する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。		
7回	授業内容	デザイン制作応用-2	
	学習成果	コーポレートサイトを作成しながら、デザインの特性を理解する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。		
8回	授業内容	デザイン制作応用-3	
	学習成果	インテリア EC サイトを作成しながら、デザインの特性を理解する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。		
9回	授業内容	デザイン制作応用-4	
	学習成果	インテリア EC サイトを作成しながら、デザインの特性を理解する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。		
10回	授業内容	デザイン制作応用-5	
	学習成果	レシビアアプリを作成しながら、デザインの特性を理解する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。		
11回	授業内容	デザイン制作応用-6	
	学習成果	マルチデバイス対応の基本を理解し、レスポンスデザインを作成できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。		
12回	授業内容	総合演習	実習課題3 (WEBサイトの提出)
	学習成果	複合ページの WEB デザインを企画し作成する。	
予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイトを完成させる。		
13回	授業内容	総合演習	
	学習成果	複合ページの WEB デザインを企画し作成する。	
予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイトを完成させる。		
14回	授業内容	総合演習	
	学習成果	複合ページの WEB デザインを企画し作成する。	
予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイトを完成させる。		
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの学習内容をまとめ、総括する。	
予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイト制作の理解を深める。		

科目名	動画編集				担当者	木村浩之						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。メールでの質問などに関しては、初回授業で説明する。											
専門的 学習成果	①	動画、ノンリニア編集の概要を理解する										
	②	基礎知識とスキルで、動画制作のプロセスが説明できる										
	③	短時間のコンテンツが制作できる										
汎用的 学習成果	(1)	オーサリングツールでの作成方法を学ぶことを通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	サイト公開や管理をすることで、広報宣伝活動などに役立てる事ができる。(専門的学習成果③に関連)										
	(3)	オリジナルコンテンツの開発を通して、企画開発力を育てることができる。(専門的学習成果②③に関連)										
授業概要	Adobe社のアプリケーション Premiere Proの基本操作を通して、ビデオカメラやスマートフォンからの素材の取り込み、動画の並べ替えや不要部分の削除、特殊効果の設定、文字や音楽の挿入など、基本的な編集加工を習得する。また、DVDやBlu-rayディスクへの保存やインターネット配信など、メディアに合わせた形式の理解や出力を行うことで、動画編集の一連の流れを実習する。最後の課題制作では、企画から撮影・編集までを行い、ショートムービーを制作する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		課題	80	授業内の提出物と最終課題の制作物によって評価する。								
	平常点	20	授業への取り組み・意欲・態度により総合的に評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的評価①で評価を行う。 (2)は専門的評価③で評価を行う。 (3)は専門的評価②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	『さわる、楽しむ、理解する Premiere Pro 入門』		技術評論社									
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業内容は継続する内容となる。欠席した場合、次回の授業は習得理解が困難になる場合があるので、必ず補修しておくこと。 授業準備としてテキスト等に目を通し、習得内容を把握しておくこと。 授業後は不明点の解消などに、週2時間程度の時間外学習を求める。 ②提出課題は、速やかに評価した後、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、動画編集の基礎知識	実習課題1 (動画の提出)
	学習成果	動画編集の流れや動画形式を理解する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、動画の用語などを確認する。		
2回	授業内容	動画編集の準備と基本操作	
	学習成果	素材の読み込みやワークスペースを理解する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、Premiere Proの設定を確認する。		
3回	授業内容	動画編集の基本-1	
	学習成果	作例を通してカット編集と音調整の基本を理解する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、用語などを確認する。		
4回	授業内容	動画編集の基本-2	
	学習成果	作例を通してカット編集と音調整の基本を理解する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、用語などを確認する。		
5回	授業内容	テロップの基本	実習課題2 (動画の提出)
	学習成果	文字情報の扱いについて理解する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、用語などを確認する。		
6回	授業内容	品質を上げるための演出-1	
	学習成果	エフェクトや色調補正などを用いて、映像のクオリティを調整できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、動画のさまざまな表現方法を確認する。		
7回	授業内容	品質を上げるための演出-2	
	学習成果	エフェクトや色調補正などを用いて、映像のクオリティを調整できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、動画のさまざまな表現方法を確認する。		
8回	授業内容	品質を上げるための演出-3	
	学習成果	エフェクトや色調補正などを用いて、映像のクオリティを調整できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、動画のさまざまな表現方法を確認する。		
9回	授業内容	品質を上げるための音質調整	実習課題3 (動画の提出)
	学習成果	音声調整や効果音などを理解する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、音声の調整機能について確認する。		
10回	授業内容	効率を上げるテクニック	
	学習成果	ショートカットキーなど、効率を上げるテクニックを理解する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、ショートカットを確認する。		
11回	授業内容	総合演習 (企画と撮影準備)	
	学習成果	Premiere Pro を使用し、ショートムービーを作成する。	
予習復習の内容	ショートムービーの制作を通して、これまで学習した内容を確認する。		
12回	授業内容	総合演習 (撮影)	
	学習成果	Premiere Pro を使用し、ショートムービーを作成する。	
予習復習の内容	ショートムービーの制作を通して、これまで学習した内容を確認する。		
13回	授業内容	総合演習 (編集)	
	学習成果	Premiere Pro を使用し、ショートムービーを作成する。	
予習復習の内容	ショートムービーの制作を通して、これまで学習した内容を確認する。		
14回	授業内容	総合演習 (編集～書き出し)	
	学習成果	Premiere Pro を使用し、ショートムービーを作成する。	
予習復習の内容	ショートムービーの制作を通して、これまで学習した内容を確認する。		
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの学習内容をまとめ、総括する。	
予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、動画編集の理解を深める。		

科目名	生涯学習概論				担当者	水野篤						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスマールまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール											
専門的 学習成果	①	生涯学習の歴史と理念を省察できる。										
	②	関連施設の運営業務のについて説明できる。										
	③	関係施設の担当の役割について解説できる。										
	④	地域の関連施設の視察を基に生涯学習の課題が見出せる。										
汎用的 学習成果	(1)	生涯学習の概要を学ぶことを通じて社会的・職業的自立に必要な知識を習得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	生涯学習の仕組みを学び、公的関連施設の機能を理解、その役割と機能について解説できる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	習得した専門的知識や知見を活用して地域の生涯学習システムの向上に貢献することができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
授業概要	高齢化が進み、ライフスタイルが多様化する中、生涯学習への関心が高まっている。生涯学習の歴史と理論を学び、関連施設の取り組みと専門職の役割を調査し、理解を深める。司書・公務員として市民の期待に応える今後の生涯学習論、生涯学習施設について省察する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	5回実施し、各回20%を配点する。								
		小テスト	30	5回実施し、各回20%を配点する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	田中雅文他	『テキスト生涯学習 学びがむく新しい社会』				学芸社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	堀薫夫／三輪健二	『生涯学習と自己実現』				放送大学教育振興会						
	近畿大学	『生涯学習概論』				樹村房						
	朝比奈大作	『図書館員のための生涯学習概論』				日本図書館協会						
	石井敦	『日本近代公共図書館の研究』				日本図書館協会						
	ポール・ラングラン著 ／波多野完治訳	『生涯教育入門』				全日本社会教育連合会						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①司書資格取得及び公務員を目指す者必修。生涯学習施設の学外研究・調査は、生涯学習施設と調整のうえ土曜日に実施する予定である。教科書・配布資料の指定された箇所を熟読し、理解し、不明な点は明らかにした上で授業に臨むこと（予習：週2時間程度）。課題に対しては、随時フィードバックを行うので、理解不足の点や錯誤した箇所について、十分に振り返りを行うこと。(復習：週2時間程度) ②課題に対しては、随時フィードバックを行う。											

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	図書館と生涯学習論のかかわり	授業内容の適切な理解確認のために、小テストを行う。
	学習成果	生涯学習概論が、司書資格の必須科目である意味・理由について説明できる。	
	予習復習の内容	司書、学芸員、社会教育主事の役割、図書館の自由について調査する。	
	授業内容	図書館の自由について	授業内容の理解を深めるために、レポートが課される。
2回	学習成果	図書館の自由の起源と内容、そして、生涯学習との関わりについて説明できる。	
	予習復習の内容	図書館の自由の広まりについて調査する。	
	3回	授業内容	生涯学習の起源と近代における展開と変遷
学習成果	生涯学習という考え方がどのようにして誕生したか、および、近代における変遷について説明できる。		
	予習復習の内容	古代ローマの哲学や、第一次・第二次世界大戦の歴史と惨状、冷戦時代の世界の状況について調査する。	
	4回	授業内容	生涯学習施設としての図書館の役割
学習成果	図書館の生涯学習施設としての、思想と機能について理解を深めた上で、説明できる。		
	予習復習の内容	視察予定の図書館について事前調査する。	
	5回	授業内容	生涯学習施設としての博物館の役割
学習成果	博物館の生涯学習施設としての、思想と機能について理解を深めた上で、説明できる。		
	予習復習の内容	視察予定の博物館について事前調査する。	
	6回	授業内容	生涯学習施設としての生涯学習支援センターの役割
学習成果	生涯学習支援センターの、生涯学習施設としての、思想と機能について理解を深めた上で、説明できる。		
	予習復習の内容	視察予定の生涯学習支援センターについて事前調査する。	
	7回	授業内容	文部科学省と生涯学習
学習成果	日本における生涯学習の進展における文部科学省の足跡と現状について理解を深めた上で、解説できる。		
	予習復習の内容	文部科学省の部署と仕組みについて調査する。	
	8回	授業内容	生涯学習の理念と理論
学習成果	代表的な生涯学習論の理念と理論について、区別して説明ができる。		
	予習復習の内容	各生涯学習理論について、精読する。	
	9回	授業内容	人間の発達段階における課題と生涯学習
学習成果	人間の発達段階についての諸説を踏まえ、生涯学習のあり方について説明できる。		
	予習復習の内容	人間の発達段階理論の諸説について、比較し検討を行う。	
	10回	授業内容	自己実現と生涯学習
学習成果	代表的な自己実現にかかるとする諸説を踏まえ、生涯学習のあり方について説明できる。		
	予習復習の内容	自己実現理論の諸説について、比較し検討を行う。	
	11回	授業内容	教育制度と生涯学習
学習成果	公的教育制度の歴史と役割と、生涯学習を比較し、教育のあり方について論じることができる。		
	予習復習の内容	教育制度の歴史について調査する。	
	12回	授業内容	メディアリテラシーと生涯学習
学習成果	社会人として、現実世界の情報をどのように収集し、受容し、理解していくことが適切かについて論じることができる。		
	予習復習の内容	メディア情報の真正性（オーセンティシティー）について、検討する。	
	13回	授業内容	生涯学習機会の推進
学習成果	各種生涯学習施設の状態、個人の生涯学習のとらえ方を踏まえ、今後どのような生涯学習の機会が提供されるべきかについて論じることができる。		
	予習復習の内容	視察した各種生涯学習支援施設について、総括する。	
	14回	授業内容	ネットワーク社会における生涯学習の進展
学習成果	エビデンス化され、テクノロジー・シンギュラリティを目前に控えた現在、生涯学習の意義について論じることができる。		
	予習復習の内容	AI・ネットワーク社会がもたらす変容について調査する。	
	15回	授業内容	日本における生涯学習論の将来
学習成果	日本における生涯学習のあるべき姿について、授業内容・調査内容に基づいて提示することができる。		
	予習復習の内容	見識ある司書として、自らの生涯学習概論を語るために必要な知識・見識・技能について検討する。	

科目名	図書館概論				担当者	関根俊二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスパワー(初回授業で説明)か、Eメールで行う。 sekine.shunji@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	図書館の意義について理解でき、概要を説明できる。										
	②	図書館の歴史について理解でき、概要を説明できる。										
	③	司書の使命と責任について理解でき、概要を説明できる。										
	④	多様な図書館や図書館の類縁機関について理解し概要を説明できる。										
	⑤	図書館の課題を全体的に理解し、改善のための指針を提示できる。										
汎用的 学習成果	(1)	図書館運営の概要を学ぶことを通して、司書としての職業自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)										
	(2)	図書館の文化や歴史を学ぶことを通し、批判的に思考することができる。(専門的学習成果②⑤に関連)										
	(3)	図書館の課題を学ぶことを通して、問題解決の方法を提示できる。(専門的学習成果⑤に関連)										
授業概要	図書館とは何か。情報の保存と提供により私たち人類の文化を支えてきた図書館について学ぶ。司書課程で学ぶ全ての専門的な受講科目の学びに先立ち、図書館運営の全体像の概要を把握する。図書館の社会的な意義や機能、図書館の成り立ちや変遷、図書館の現在の課題やそれを改善しようとする新しい試みなどについて理解する。また、図書館の館種別の違いや類縁機関について把握し、さらに専門職としての司書の使命について理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	30	3回実施し、各回10%を配点する。3～4回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
		筆記試験	70	第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②及び⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	二村健	『図書館の基礎と展望』				学文社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本図書館協会	『図書館年鑑』										
	日本図書館協会	『図書館雑誌』										
		公共図書館の発行する各種のリーフレット										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前にテキストの該当部分を読みポイントを把握した上で(計15時間)授業に臨み、日常的に司書の視点を意識しながら公共図書館・短大図書館に親しみ講義内容の理解を深めておく(計30時間)。また、小テスト・筆記試験の準備を行い(計15時間)、理解の定着に努めること。 ②小テストは授業で返却し解説を行う。筆記試験は後期の開講期に「図書館サービス論」(1年後期・担当、関根)で返却し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	図書館の役割 ①図書館とは	小テスト(図書館の役割について)第3回に実施
	学習成果	図書館の社会的な意義を理解し概要を説明できる。	
2回	予習復習の内容	図書館見学を行い、専門的な用語とその実際を確認しておく。	
	授業内容	図書館の役割 ②生涯学習と図書館	
3回	学習成果	生涯学習と図書館の関係を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	図書館資料で生涯学習について調べておく。	
4回	授業内容	図書館の役割 ③情報社会と図書館	
	学習成果	情報社会における図書館の意義を理解し概要を説明できる。	
5回	予習復習の内容	情報社会における図書館の意義が理解できる。	
	授業内容	図書館の歴史 ①古代から中世まで	
6回	学習成果	中世までの世界の図書館の歴史を理解し概要を説明できる。	小テスト(図書館の歴史について)第6回に実施
	予習復習の内容	百科事典を活用し関連事項の理解を深めておくこと。	
7回	授業内容	図書館の歴史 ②公共図書館の成立	
	学習成果	公共図書館の意義・歴史を理解し概要を説明できる。	
8回	予習復習の内容	公共図書館がどう生まれたか、アメリカと日本での違いについてまとめておく。	
	授業内容	図書館の歴史 ③戦後の日本の図書館	
9回	学習成果	日本の戦後の図書館の歴史を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	図書館法の特徴について整理しておく。	
10回	授業内容	図書館の歴史 ④日本の公共図書館の展開	小テスト(図書館関係法規などについて)第10回に実施
	学習成果	「市民の図書館」までの公共図書館の取り組みを理解し概要を説明できる。	
11回	予習復習の内容	「中小レポート」「市民の図書館」の理念と実践についてまとめておく。	
	授業内容	地域社会と図書館	
12回	学習成果	地域社会と図書館の結びつきを理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	図書館の見学を行い、図書館が地域に向けてどんなサービスを展開しているか確認しておく。	
13回	授業内容	図書館に関する法規など	
	学習成果	図書館関係法規を理解し概要を説明できる。	
14回	予習復習の内容	「望ましい基準」などについて、理念と実践を調べておく。	
	授業内容	知的自由と図書館	
15回	学習成果	図書館の自由について背景と理念を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	図書館の自由に係る事例について調べておくこと。	
16回	授業内容	館種別の図書館	筆記試験(全15回分の内容を問う)第15回後半に実施
	学習成果	図書館の館種ごとの違いを理解し概要を説明できる。	
17回	予習復習の内容	国立国会図書館のホームページを開き、デジタルコレクションなどについて確認しておく。	
	授業内容	図書館の類縁機関・関係団体	
18回	学習成果	図書館の類縁機関・関係団体が理解できる。	
	予習復習の内容	図書館協議会について、どんな活動をしているか調べる。	
19回	授業内容	図書館の現状と課題	
	学習成果	図書館の現状・課題を理解し概要を説明できる。	
20回	予習復習の内容	「これからの図書館像」などの図書館の今日的な取り組みを理念として理解できる。	
	授業内容	図書館における先進的な取り組み①全国の実践	
21回	学習成果	図書館の今日的な取り組みの実践について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「図書館雑誌」などで図書館の今日的な取り組みについて調べておく。	
22回	授業内容	図書館における先進的な取り組み②地域の実践	
	学習成果	図書館の今日的な取り組みの実践について理解し概要を説明できる。	
23回	予習復習の内容	この授業の内容全体について整理・確認しておくこと。	

科目名	図書館サービス概論				担当者	関根俊二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業後あるいはオフィスアワー(初回授業で説明)											
専門的 学習成果	①	図書館サービスの流れ全般について概要を理解し説明できる。										
	②	近年の図書館サービスの変化と広がりを理解し、説明できる。										
	③	基礎的な行事運営を理解し実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	図書館サービスの先進的事例の理解を通し、地域課題を理解し説明できる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	行事運営の実践を通し、課題解決能力や表現力が身につく活用できる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	生涯学習や情報化の進展に伴い、図書館に寄せられる利用者の要求はますます多様化し、高度化している。現在の図書館利用者のニーズに応えられるように、司書が行うべき各種の図書館サービスについて、利用案内、閲覧、貸出、情報提供、レファレンスサービス、集会・行事活動、利用対象別サービスなどを基本から先進的事例まで学ぶ。講義を中心とするが、一部演習的な内容も含み、図書館行事の一種であるブックトークの実践にもあたってもらう。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		筆記試験	50	第15回目の授業後半に実施し、全15回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
		発表	50	ブックトークの発表による								
汎用的 学習成果	(1)	①は専門的学習成果②の評価で行う。										
	(2)	②は専門的学習成果③の評価で行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		印刷物等配布										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	小田光宏	『図書館サービス論』				日本図書館協会						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①日常的に図書館を利用し、図書館サービスの様子を観察しておくこと(15時間)。各回の授業ごとに2時間程度の時間をかけ、テキストの該当部分を読みポイントを把握しておくこと。インターネットや図書館資料を活用した講義内容関連事項などの追跡調査も必要である。また、ブックトークの発表を行うが、紹介する資料の調査・決定、発表の準備などに15時間をかける。 ②ブックトーク発表はその場で評価を伝える。筆記試験は年度内に返却を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	図書館サービスの意義	筆記試験(全15回分の内容を範囲とする。第15回目に実施)
	学習成果	図書館サービスの意義と概要について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	図書館の見学を行って各種の図書館サービスに触れておく。	
2回	授業内容	資料提供サービス① 閲覧サービス	
	学習成果	閲覧サービスを機能させる諸要件を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	図書館で閲覧・貸出サービスの諸要素を確認しておく。	
3回	授業内容	資料提供サービス② 貸出サービス	
	学習成果	貸出サービスを機能させる諸要件を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	閲覧・貸出サービスについて整理しておく。	
4回	授業内容	資料提供サービス③ 資料提供サービスの展開	
	学習成果	図書館相互貸借他、資料提供サービスの展開について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	応用的な資料提供サービスについて整理しておく。	
5回	授業内容	情報提供サービス レファレンスサービスなど	
	学習成果	レファレンスサービスなどの情報提供サービスについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	事例集でレファレンスサービスなどの実際に触れておく。	
6回	授業内容	図書館と著作権	
	学習成果	図書館サービスに不可欠な著作権のルールを理解し説明できる。	
	予習復習の内容	インターネットを活用しケーススタディを行う。	
7回	授業内容	利用対象に応じたサービス① 高齢者・障害者・多文化	
	学習成果	高齢者・障害者・多文化サービスについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	図書館を訪問し利用対象別のサービスの実際を確認する。	
8回	授業内容	利用対象に応じたサービス② 児童・ヤングアダルト	
	学習成果	児童・ヤングアダルトについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	図書館を訪問し利用対象別のサービスの実際を確認する。	
9回	授業内容	多様な利用者サービス 集会・文化活動ほか	
	学習成果	集会・文化活動ほかの多様な利用者サービスについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	図書館の行事に参加し視聴する。	
10回	授業内容	行事展開の実践 ブックトーク	ブックトーク発表
	学習成果	ブックトークについて理解し実践できる。	
	予習復習の内容	ブックトークの発表に備え準備を行う。	
11回	授業内容	行事展開の実践 ブックトーク	
	学習成果	ブックトークについて理解し実践できる。	
	予習復習の内容	ブックトークの発表に備え準備を行う。	
12回	授業内容	利用者とのコミュニケーション	
	学習成果	利用案内や図書館ツアーについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	筆記試験に備え、これまでの授業内容全般を整理・確認しておく。	
13回	授業内容	図書館サービスの広がり	
	学習成果	先進的な図書館サービスの事例について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	インターネットなどを活用して様々な先進事例に触れる。	
14回	授業内容	図書館サービスのマネジメント	
	学習成果	サービス計画の立案や業務分析について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	筆記試験に備え、これまでの授業内容全般を整理・確認しておく。	
15回	授業内容	まとめ 既習事項の整理	筆記試験(全15回分の内容を範囲とする)
	学習成果	図書館のサービス全般やサービスの新しい広がりについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	筆記試験での誤答箇所について確認する。	

科目名	図書館情報資源概論				担当者	庄子隆弘						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	図書館で扱う情報資源の種類と特徴を挙げて、説明できる。										
	②	図書館情報資源を司書、図書館員の視点で捉えたときに必要な知識、スキルを挙げることができる。										
	③	図書館情報資源を学術的視点で捉えたときに必要な知識、スキルを挙げることができる。										
	④	図書館情報資源を社会や地域の視点で捉えたときに必要な知識、スキルを挙げることができる。										
	⑤	図書館情報資源を経営的視点で捉えたときに必要な知識、スキルを挙げることができる。										
	⑥	図書館情報資源に関わる技術やツールを挙げて、説明できる。										
	⑦	図書館情報資源に関する現代の課題や解決案を議論できる。										
汎用的 学習成果	(1)	図書館情報資源の基礎的な学習スキルを身につけることで、司書、図書館員として職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①～⑥に関連)										
	(2)	図書館情報資源に関わる多様な主体への理解を深めることで、総合的な判断力を身につけ、実践につなげることができる。(専門的学習成果②～⑤に関連)										
	(3)	図書館情報資源の特性を学び、活用方法を議論することで、地域社会の課題解決や発展に積極的に貢献することができる。(専門的学習成果①⑦に関連)										
授業概要	図書館を構成する要素でも重要な「情報資源」について学ぶ。図書館＝本、と考えがちであるが、雑誌や新聞はもちろん、映画や音楽などの視聴覚メディア、CD-ROMなどの電子媒体、ネットワークを通してアクセスするデータベースなど、多種多様な「情報資源」を扱うのが現代の図書館である。こうした「情報資源」の概要を学ぶことで、司書としての基盤だけでなく、社会人としてこれから対峙するであろう様々な課題解決に役立つ知識を身につけることができる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	30	3回実施し、各回10%を配点する。3～4回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
筆記試験	70	第15回の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回の講義内容の理解について評価する。										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②～⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①及び⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	藤原是明	『図書館情報資源概論』				ミネルヴァ書房						
		『カレントアウェアネス・ポータル』※ウェブサイト										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前に前回授業の資料を読みポイントを把握した上で(計15時間)授業に臨み、日常的に触れる短大図書館の情報資源だけでなく、近隣の公共図書館や大学図書館を利用し、スマホでアクセスする情報との相違点を意識するなど、講義内容の理解を深めておく(計30時間)。また、小テスト、筆記試験の準備を行い(計15時間)、理解の定着に努めること。 ②フィードバックとして、小テスト、筆記試験は返却し解説を行う。											

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス：前期授業概要と授業計画の説明。図書館情報資源とは何か。	小テスト(図書館情報資源の種類と特徴について)を第3回に実施。
	学習成果	授業の概要を理解、到達目標を説明することができる。	
	予習復習の内容	図書館を見学し、所蔵資料に触れておく。	
2回	授業内容	アナログ資料の種類と特徴。	
	学習成果	主に冊子体などのアナログ資料の特徴を挙げて、説明できる。	
	予習復習の内容	図書館で「本」以外の資料を探してみる。	
3回	授業内容	デジタル資料の種類と特徴。	
	学習成果	デジタル資料の特徴を挙げて、説明できる。	
	予習復習の内容	スマホまたはパソコンで、本学図書館のウェブサイトを見てみる。	
4回	授業内容	図書館情報資源を選ぶ。選書・配架・除籍。	小テスト(図書館情報資源の選書、学術資料について)を第7回に実施。
	学習成果	司書、図書館員の視点で、図書館資料を捉え、説明できる。	
	予習復習の内容	「選書基準 図書館」で検索した結果を見ておく。	
5回	授業内容	図書館情報資源を活用する。利用説明・展示・イベント。	
	学習成果	図書館資料を活用した取り組みについて説明できる。	
	予習復習の内容	本学図書館の資料を使った展示企画を考えてみる。	
6回	授業内容	学術資料とは何か。大学図書館、専門図書館の視点も踏まえて。	
	学習成果	学術資料の定義と種類を挙げて、説明できる。	
	予習復習の内容	本学図書館で、学術資料と思われる資料を1冊見つける。	
7回	授業内容	研究と図書館。学術資料を活用する。	
	学習成果	学術資料の活用例などを挙げて説明できる。	
	予習復習の内容	授業で学んだことを踏まえて、本学図書館で、学術資料を1冊見つける。	
8回	授業内容	地域と行政の情報資源。	小テスト(社会の中の図書館について)を第9回に実施。
	学習成果	地域資料と行政資料の定義と種類を挙げ、説明できる。	
	予習復習の内容	本学図書館で、地域資料、行政資料と思われる資料を1冊見つける。	
9回	授業内容	マイノリティサービスのための情報資源。	
	学習成果	障がい者やLGBTといったマイノリティに関する資料を挙げ、説明できる。	
	予習復習の内容	「マイノリティ」の意味を図書館で調べておく。	
10回	授業内容	図書館情報資源の流通。	筆記試験(全15回分の内容を問う)第15回後半に実施。
	学習成果	図書館情報資源を経営的視点で捉え、流通の側面から説明できる。	
	予習復習の内容	本が図書館の棚に並ぶまでの流れを理解する。	
11回	授業内容	図書館情報資源の管理。	
	学習成果	図書館情報資源を経営的視点で捉え、管理の側面から説明できる。	
	予習復習の内容	図書館の棚が一杯になったらどうするか?を考えておく。	
12回	授業内容	情報資源へのアクセス。選書ツール、検索ツール。	
	学習成果	図書館情報資源にたどり着くための技術やツールを挙げて説明できる。	
	予習復習の内容	最低1回、本学図書館のOPACで蔵書検索をしておく。	
13回	授業内容	インターネットとソーシャルネットワーク。	
	学習成果	図書館情報資源とネットワークの関連を説明できる。	
	予習復習の内容	スマホまたはパソコンで、国立国会図書館のウェブサイトを見ておく。	
14回	授業内容	図書館が抱える課題とその解決方法を議論する。	
	学習成果	図書館情報資源に関する現代の課題や解決案を議論できる。	
	予習復習の内容	議論した課題について書いてある資料を図書館で探してみる。	
15回	授業内容	社会が抱える課題とその解決方法を議論する。	
	学習成果	図書館情報資源に関する現代の課題や解決案を議論できる。	
	予習復習の内容	議論した課題について書いてある資料を図書館で探してみる。	

科目名	情報資源組織論				担当者	クマザイ シンイチロウ 熊谷 慎一郎						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中以外の質問や相談は、メール又は講師控室で受付ける。											
専門的 学習成果	①	図書館情報資源の書誌コントロールについて理解し、その内容を説明できる。										
	②	効率的な情報資源の組織化について理論と知識を修得し、その技法を説明できる。										
	③	分類、目録、件名の作業ツールの構造と特性を理解し、最適な手法を選択できる。										
	④	一般的な情報取得についての知識及び書誌データの活用法を修得し、実践に結びつけることができる。										
	⑤	社会における新しいメディアの普及と、図書館で扱う情報資源の急速な変化とその対処法について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	大学における他の講義のための課題や予習のために必要な情報検索手法を身につけることができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	地域の公共図書館を自由に活用できるスキルを獲得し、幅広い教養を積むのに役立てることができる。(専門的学習成果③④に関連)										
	(3)	公共図書館を始め様々な情報機関を活用し、地域の課題解決に資する活動手段を身につけ、地域社会の発展に貢献できる。(専門的学習成果④⑤に関連)										
授業概要	図書館で扱う様々な情報資源の組織化のために必要な目録、分類作業を中心に、図書館情報資源の組織化の理論と技術について、演習科目「情報資源組織演習」に先立つ科目として、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、書誌データの活用法等の基本知識を身につけ、説明できるようになることを目的とする。また、情報を様々なメディアから自由に入手できる現代にあって、図書館利用者のための最良のアクセス環境とその仕組みについて考察する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	15	第4回授業時に第1～4回分の講義内容に基づき実施し、理解度を評価する。								
		小テスト	15	第7回授業時に第5～7回分の講義内容に基づき実施し、理解度を評価する。								
		筆記試験	70	第15回授業時後半に実施し、全15回分の講義内容の理解の程度および到達度の評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	志保田務・高鷲忠美編著、平井尊士共著	『情報資源組織法 第3版』				第一法規						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本図書館協会目録委員会編	『日本目録規則、1987年版改訂3版』				日本図書館協会						
	日本図書館協会分類委員会編	『日本十進分類法、新訂10版』				日本図書館協会						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前に次回講義分のテキストを読み込み予習しておくこと(計15時間)。最寄りの公共図書館を、資料整理法や利用者用検索端末の操作法に注目しながら利用してみる(15時間)。レポート、小テスト、筆記試験の準備を行い、理解の定着に努めること(30時間)。 ②課題や筆記試験については、当該授業中、または次回の講義時に解答解説および講評をとおしフィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	情報資源組織化の意義と目的	第4回授業時に第1～4回の講義内容についてレポート提出を課す。特に書架分類と書誌分類の違いの理解度を評価する。	
	学習成果	司書科目の中における組織化理論の役割を理解し説明できる。		
予習復習の内容	インターネットを活用し公共図書館の蔵書検索に実際に検索操作をしておく。			
2回	授業内容	配架と目録		
	学習成果	図書館や大型書店における資料の配置戦略について学び説明できる。		
予習復習の内容	最寄りの公共図書館や大型書店に向向き、資料配置に留意しながら観察する。			
3回	授業内容	主題目録法1 件名目録		
	学習成果	主題検索の方法の一つ、言葉による検索法のしくみについて説明できる。		
予習復習の内容	ネット上の主要な検索エンジンについてそれぞれ特色を調べておく。			
4回	授業内容	主題目録法2 分類目録 書架分類と書誌分類		
	学習成果	主題検索の方法の一つ、「日本十進分類法」による分類検索について説明できる。		
予習復習の内容	学問の発達や知識の分類について指示するテキストの該当部分を読んでおく。			
5回	授業内容	『日本十進分類法 新訂10版』の歴史と特色		第7回授業の中で第5～7回の講義内容について小テストを実施する。特に「日本十進分類法」の構造と「分類規程」について理解度を評価する。
	学習成果	『日本十進分類法 新訂10版』の構造と理論について基本概念を説明できる。		
	予習復習の内容	大学図書館所蔵の「日本十進分類法 新訂10版」の内容構成について確認する。		
6回	授業内容	『日本十進分類法 新訂10版』の分類規程		
	学習成果	『日本十進分類法 新訂10版』の分類規程について理解し説明できる。		
予習復習の内容	「分類規程」について指示するテキストの該当部分を読んでおく。			
7回	授業内容	分類規程の演習		
	学習成果	『日本十進分類法 新訂10版』の分類規程について設問に答え理由を説明できる。		
予習復習の内容	ミニテストの解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。			
8回	授業内容	『日本十進分類法 新訂10版』の補助表	筆記試験を第15回授業の後半に実施する。全15回分の内容を対象とし、理解度と到達度を評価する。	
	学習成果	『日本十進分類法 新訂10版』の補助表について理解し説明できる		
予習復習の内容	「補助表」について指示するテキストの該当部分を読んでおく。			
9回	授業内容	印刷資料以外の資料の分類		
	学習成果	図書以外のさまざまな情報資源の分類法について理解し説明できる。		
予習復習の内容	国立国会図書館の検索サイトにアクセスし、画像や、電子資料の分類を調べてみる。			
10回	授業内容	書誌情報ネットワークと図書館の書誌所蔵データ		
	学習成果	共同で作成する総合目録データベースや市販される書誌データについて説明できる。		
予習復習の内容	国立情報学研究所や国文学研究資料館の総合目録データベースを利用してみる。			
11回	授業内容	『日本目録規則、1987年版 改訂3版』		
	学習成果	図書館目録の歴史や「日本目録規則」の変化の歴史について説明できる。		
予習復習の内容	世界史における図書館の蔵書目録の発達史について調べておく。			
12回	授業内容	印刷資料の目録		
	学習成果	図書の書誌データと所在データについて学び説明できる。		
予習復習の内容	カード目録からコンピュータ可読目録への変化についてテキストを読んでおく。			
13回	授業内容	印刷資料以外の資料の目録		
	学習成果	図書以外のさまざまな情報資源の目録法について理解し説明できる。		
予習復習の内容	図書館で扱う情報資源の種類と変化について調べておく。			
14回	授業内容	ネットワーク情報資源の組織化とFRBR		
	学習成果	オンライン資料の目録(メタデータ)と目録規則の新たな考え方について説明できる。		
予習復習の内容	図書館における紙資料と、その他の資料の割合の変化を各自予想してみる。			
15回	授業内容	情報資源組織化の総括と筆記試験		
	学習成果	情報資源の多様化に対応する図書館における組織手法の変化を理解し説明できる。		
	予習復習の内容	この授業の内容全体について配付資料を含めて整理・確認しておくこと。		

科目名	児童サービス論					担当者	関根俊二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期	
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業後あるいはオフィスアワー(初回授業で説明)											
専門的 学習成果	①	児童サービスの意義と内容について理解し説明できる。											
	②	年齢ごとの児童サービスについて理解し説明できる。											
	③	児童向けの資料について知識をもって説明できる。											
	④	資料と児童をつなぐ各種の技法を身につけており実践できる。											
汎用的 学習成果	(1)	物事を的確に説明、紹介する能力をもち実践できる。(専門的学習成果④に関連)											
	(2)	地域社会で活用できる絵本の読み聞かせやブックトークなどの技術を実践できる。(専門的学習成果④に関連)											
授業概要	児童サービスの理念・内容・意義について学び、子供を取り巻く環境や子供の発達を理解した上で、絵本、昔話、児童文学、ノンフィクション、知識の本、レファレンス資料など児童向けの資料について知識を広げていく。その知識を活用して絵本の読み聞かせ発表、ストーリーテリング発表、ブックリスト制作を行い、子供と資料を結びつける実践技術を身につける。子供を取り巻く環境や発達について、年齢層ごとのサービスの違いや地域・学校との連携などについても学ぶ。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		発表	50	2回実施し各回25点を配点する。絵本の読み聞かせ及びストーリーテリングを行う。									
		課題提出	10	ブックリストを作成し提出する。									
		紹介(簡単な発表)	15	3回実施し、各回5点を配点する。絵本の紹介、昔話・児童文学の紹介、知識の本の紹介を行う。									
		筆記試験	25	第15回目後半に実施し、全15回分の講義内容の理解を評価する。									
汎用的 学習成果	(1)	①は専門的学習成果④の評価で行う。											
	(2)	②は専門的学習成果④の評価で行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名						
	堀川照代	『ライブラリー図書館情報学 7 児童サービス論』					学芸社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名						
	高山智津子ほか	『絵本でひろがる子どものえがお』					チャイルド社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①司書になったつもりで、できるだけ多くの絵本・児童書に接して意識的にこの分野での教養を高めておくこと(計30時間程度)。授業を復習し講義内容を理解すること(各回1時間程度)。絵本の読み聞かせやストーリーテリングの発表を行うので、これらの準備に計15時間程度必要である。 ②発表・提出物はつど評価を伝える。筆記試験は前期中に返却する。												

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	図書館における児童サービスの意義	筆記試験 全15回分の講義内容について第15回授業の後半に行う。
	学習成果	児童サービスの意義について理解し説明できる。	
予習復習の内容	児童サービスの意義について整理しておく。		
2回	授業内容	児童サービスの歴史	
	学習成果	児童サービスの歴史について理解し説明できる。	
予習復習の内容	児童サービスの歴史について整理しておく。		
3回	授業内容	子供の環境・発達と読書	
	学習成果	読書との関連で子供を取り巻く環境や子供の発達について理解し説明できる。	
予習復習の内容	子供の環境・発達について整理しておく。		
4回	授業内容	児童資料の理解① 絵本	
	学習成果	年齢ごとの代表的絵本を知り説明できる。	
予習復習の内容	代表的な絵本に触れておく。絵本読み聞かせ発表の準備を行う。		
5回	授業内容	絵本の読み聞かせの実践	絵本読み聞かせの発表
	学習成果	子供と本とを結びつける技法として絵本の読み聞かせを理解し実践できる。	
予習復習の内容	昔話や児童文学に触れておく。		
6回	授業内容	児童資料の理解② 昔話・児童文学	昔話・児童文学の紹介
	学習成果	代表的な昔話・児童文学を知り説明できる。	
予習復習の内容	ストーリーテリング発表の準備を行う。		
7回	授業内容	ストーリーテリングの実践	ストーリーテリングの発表
	学習成果	子供と本とを結びつける技法としてストーリーテリングを理解し実践できる。	
予習復習の内容	ストーリーテリング発表の準備を行う。		
8回	授業内容	ストーリーテリングの実践	ブックリストの提出
	学習成果	子供と本とを結びつける技法としてストーリーテリングを理解し実践できる。	
予習復習の内容	ブックリスト作成着手		
9回	授業内容	ブックリストの作成	ブックリストの提出
	学習成果	子供と本とを結びつける技法としてブックリストを制作できる。	
予習復習の内容	ブックリストを完成させる。		
10回	授業内容	児童資料の理解③ 知識の本など	知識の本の紹介
	学習成果	知識の本・レファレンス資料などについて理解し説明できる。	
予習復習の内容	さまざまな知識の本に触れておく。		
11回	授業内容	児童サービスの諸活動	
	学習成果	児童サービス特有の資料提供・情報提供などについて理解し説明できる。	
予習復習の内容	図書館訪問やホームページ検索で児童サービスの実際を確認しておく。		
12回	授業内容	乳幼児サービス	
	学習成果	乳幼児サービスの現状や展開について理解し説明できる。	
予習復習の内容	図書館訪問やホームページ検索で乳幼児サービスやヤングアダルトサービスの実際を確認しておく。		
13回	授業内容	ヤングアダルトサービス	
	学習成果	ヤングアダルトサービスの現状や展開について理解できる。	
予習復習の内容	筆記試験に備えて準備を行う。		
14回	授業内容	児童サービスの運営	
	学習成果	児童サービス運営の諸要件について理解し説明できる。	
予習復習の内容	筆記試験に備えて準備を行う。		
15回	授業内容	地域・学校との連携	
	学習成果	児童サービスに係る地域・学校との連携について理解し説明できる。	
予習復習の内容	筆記試験の誤答箇所の見直しを行う。		

科目名	図書館情報資源特論				担当者	稲 雄 次						
区 分	選択	1	単位	授業回数	7.5	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期の後半
授業時間数	15 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中、講師室、e-mail ineyuji@jcom.home.ne.jp											
専門的 学習成果	①	図書館における情報資源とは何かを説明できる。										
	②	図書館において情報資源を発見する方法を説明できる。										
	③	図書館における情報資源を発見して、それを発表することができる。										
	④	図書館におけるレファレンスを説明できる。										
	⑤	図書館におけるレファレンスの利用者対応を説明できる。										
	⑥	図書館においてレファレンスをする利用者の「質問は何なのか」を論じることができる。										
	⑦	図書館情報資源を提供するレファレンスの仕方をできるようにする。										
汎用的 学習成果	(1)	図書館情報資源を学び、司書として必要な知識と技術を習得、職業的自立をできるようにする。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	図書館情報資源を学び、司書として他者理解と問題解決能力に活用できるようにする。(専門的学習成果④⑤⑥に関連)										
	(3)	図書館情報資源を学び、司書としてそれを地域社会へ貢献できるようにする。(専門的学習成果⑦に関連)										
授業概要	図書館内外の情報資源の存在を理解する。どのようにすれば情報を得ることが出来るのかの方法を学ぶ。情報資源となるツールは多元的にある。司書としての立場からは、図書館の利用者に対して、レファレンス(参考調査支援)をするための情報資源の提供をする方法を習得する。司書課程の応用科目であるので、図書館を使って実践してみる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	課題に対してレポートを提出してもらい、それについて評価を行う。								
		小テスト	30	小テストを実施し、理解度を評価する。								
平常点	10	授業内で説明する。										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④⑤⑥で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
			教材としてはプリントを配布する。									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	高田高史		『図書館で調べる』						筑摩書房			
	大串夏身・田中均		『インターネット時代のレファレンス』						日外アソシエーツ			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①平成24年から改正になった図書館法の「図書館に関する科目」を履修してからの応用科目である(予習は週4時間程度)。司書課程の司書のモデルは公共図書館であるので、宮城県図書館、仙台メディアテーク、泉図書館などを事前に利用していただく。 ②レポートや小テストなどは授業で返却して解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	図書館情報資源とレファレンス	レポート提出実施(2回)
	学習成果	図書館情報資源を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	図書館情報資源概論(1年前期)を復習しておくこと。	
2回	授業内容	図書、逐次刊行物、新聞紙、ミニコミ紙などから見出す情報資源	
	学習成果	図書、逐次刊行物、新聞紙、ミニコミ紙などから情報を取り出して説明できる。	
	予習復習の内容	図書、逐次刊行物、新聞紙、ミニコミ紙などをよく見ておくこと。	
3回	授業内容	地域遺産と地域資料の情報資源支援	レポート提出実施(2回)
	学習成果	地域遺産と地域資料の情報を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	図書館の地域資料コーナーを調べておくこと。	
4回	授業内容	古典文学と歴史の情報資源支援	
	学習成果	古典文学と歴史の情報を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	図書館内の古典文学や歴史図書などを調べておくこと。	
5回	授業内容	経済ビジネスの情報資源支援	レポート提出実施(1回)
	学習成果	経済ビジネス情報を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	経済情勢やビジネス情報をテレビ、新聞などから調べておくこと。	
6回	授業内容	地域遺産と地域資料の情報資源とその実践	小テスト、レポート提出実施(3回)
	学習成果	地域遺産と地域資料の実践的解説ができる。	
	予習復習の内容	地域遺産と地域資料の情報資源の配布物を復習しておくこと。	
7回	授業内容	古典文学と歴史の情報資源とその実践	小テスト、レポート提出実施(3回)
	学習成果	古典文学と歴史情報の実践的解説ができる。	
	予習復習の内容	古典文学と歴史の情報資源の配布物を復習しておくこと。	
8回	授業内容	経済ビジネスの情報資源とその実践	小テスト、レポート提出実施(3回)
	学習成果	経済ビジネス情報の実践的解説ができる。	
	予習復習の内容	経済ビジネスの情報資源の配布物を復習しておくこと。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	図書館実習				担当者	関根俊二						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業後あるいはオフィスアワー(初回授業で説明) 実習中は電話・メールにも対応する(直前指導で伝える)。											
専門的 学習成果	①	司書の業務全般について概要を理解し説明できる。										
	②	基本的な司書の業務を担当することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	訪問時のマナー、電話のマナーなどを理解し、社会やビジネスの場で必要に応じて活用できる。(専門的学習成果②に関連)										
	(2)	社会性を持ち、周囲とコミュニケーションをとりながら活動できる。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	業務の質の改善を意識しながら活動できる。(専門的学習成果①②に関連)										
授業概要	市内の公共図書館で司書業務に係る実習を行って、司書養成課程で学ぶ知識・技術を実践的に確立する。実習は3日間とし、事前・事後の指導を行い、グループに分かれて実施する。司書業務全般を学び、基本的な業務が確実に担当できるように学ぶ。事前指導では一般的なビジネスマナーを確認・習得するほか、市内の公共図書館について統計的データ等を把握し理解を図る。事後指導では実習報告書に基づき実習の活動を振り返り、点検・評価を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		実習館の評価	50	実習館記載の「評価報告書」								
		授業中の課題の達成度	50	ビジネスマナー15% 図書館理解15% 実習報告(報告・連絡・相談を含む)20%								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②の評価で行う。 (2) は専門的学習成果①②の評価で行う。 (3) は専門的学習成果②の評価で行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	印刷物を配布する。											
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	気賀沢よし子他	『マナーの基本と就職対策』				専門教育出版						
	宮城県図書館	『みやぎの公共図書館』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	学外での実習を行う授業であるので、とりわけ出席やマナー、各課題への取り組みに注意して取り組むこと。これらの点で適性や改善が認められない場合は、授業開始後であっても実習を許可しないことがあるので注意する。 ①日常的に公共図書館を利用し親しんでおくこと。調査活動や図書館の下見見学など、授業外の実習も適宜求める。 ②提出物については評価を添え返却する。実習については実習終了後の報告会で評価を示す。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 図書館実習の概要	授業の内容の把握とその説明
	学習成果	授業の内容を把握し説明できる。	
	予習復習の内容		
2回	授業内容	ビジネスマナーの習得① 訪問時のマナー/実習中のマナー	小テスト(課題・ビジネスマナーの習得)
	学習成果	訪問時のマナーを理解し、社会やビジネスの場で必要に応じて活用できる。	
	予習復習の内容		
3回	授業内容	ビジネスマナーの習得② 電話のマナー	
	学習成果	電話のマナーを理解し、社会やビジネスの場で必要に応じて活用できる。	
	予習復習の内容		
4回	授業内容	ビジネスマナーの習得③ 業務活動中のマナー	
	学習成果	業務活動中のマナーを理解し、社会やビジネスの場で必要に応じて活用できる。	
	予習復習の内容	小テストに備えた準備を行う。	
5回	授業内容	実習館の理解① 各館の目標・特徴	レポート(課題・市内図書館の現状)第6回に提出
	学習成果	実習館の現状について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容		
6回	授業内容	実習館の理解② 図書館サービスに係る各種のデータ調査	
	学習成果	実習館の現状について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容		
7回	授業内容	実習館の理解③ 国内図書館との比較調査	
	学習成果	実習館の現状について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	レポート提出に備えてデータを整理しておく。	
8回	授業内容	短大図書館での業務体験①	基本的な司書業務の遂行
	学習成果	体験を通して司書業務の一端を理解し、行うことができる。	
	予習復習の内容		
9回	授業内容	短大図書館での業務体験②	
	学習成果	体験を通して司書業務の一端を理解し、行うことができる。	
	予習復習の内容		
10回	授業内容	実習館の見学	実習報告(報告・連絡・相談等、実習活動全般について)
	学習成果	実習館の施設・サービスの特徴について理解し説明できる。	
	予習復習の内容		
11回	授業内容	直前指導 実習の流れ 書類の確認 諸注意・連絡	
	学習成果	実習を行うのに必要な事項を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	実習内容、諸注意等を確認し、可能な部分の書類記載を行う。	
12回	授業内容	市内図書館での実習① 実習館が指定する業務を行う	
	学習成果	司書の業務全般について概要を理解し、改善を図りながら基本的な業務を行うことができる。	
	予習復習の内容		
13回	授業内容	市内図書館での実習② 実習館が指定する業務を行う	
	学習成果	司書の業務全般について概要を理解し、改善を図りながら基本的な業務を行うことができる。	
	予習復習の内容		
14回	授業内容	市内図書館での実習③ 実習館が指定する業務を行う	
	学習成果	司書の業務全般について概要を理解し、改善を図りながら基本的な業務を行うことができる。	
	予習復習の内容		
15回	授業内容	実習報告会 実習の報告とまとめ	
	学習成果	司書の業務全般について概要を理解し、改善を図りながら基本的な業務を行うことができる。	
	予習復習の内容	報告会での発表に備え、グループで準備を行う。	

科目名	物語を読む				担当者	大 泉 浩 一						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に対応する。										
専門的 学習成果	①	同じ物語を一緒に読んだり音読することで「読む力」を高め、読解や表現にいかすことができるようになる。										
	②	物語の構造を知り、自ら書いてみることで「読む力」を深め、読解や表現にいかすことができるようになる。										
	③	テキストの作成を通じて、社会人にとって必要な文章作成にいかすことができるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	物語についての知識を習得し、社会的・職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	物語を「読む力」を有し、論理的思考、他者理解ができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(3)	物語を「書く力」を有し、論理的思考、自己表現ができる。(専門的学習成果②③に関連)										
授業概要	私たちはなぜ作り話に過ぎない物語に心を揺さぶられるのだろうか。小説を中心に、児童書やマンガ、映像作品なども取り上げ、一緒に物語を読みながら、その持つ力について考える。また紹介文や物語を書くことを通じて、書く力を身につける。具体的には次の通り。教員が紹介する短い物語をグループごとに音読することで、注意深く読むことの大切さや読み手による受け取り方の違いに気づく。自らが気に入っている物語を紹介し合ったり、自ら物語を書いてみることで興味関心の幅を広げ、説明能力の向上や理解能力の向上を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	50	毎回簡単なレポートを課す。条件を守って書けているかで評価する。								
		課題	50	紹介文や物語を書かせる。条件を守って書けているかで評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	小川洋子・河合隼雄		『生きるとは、自分の物語をつくること』				新潮文庫					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講師による一方的な講義ではなく、一緒に読んだ物語についてディスカッションする、自分が気に入っている物語を紹介し合うなどのコミュニケーション活動が中心となる。時間外学習は、物語について図書館などで調べる、紹介する物語を選び効果的な紹介の仕方を考える、など。必要な時間は1週あたり4時間である。 ②提出されたレポートや課題に問題があれば指摘して修正を求めたり、優れた点があれば具体的に口頭で評価するなどして、読む力の向上につながるよう指導する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	物語を「楽しむ」(1) アニメーション	レポートによる
	学習成果	教員が紹介するアニメーション映画を通して、物語への関心の幅を広げる。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
2回	授業内容	物語を「楽しむ」(2) ショートショート	レポートによる
	学習成果	教員が紹介するショートショートを通して、物語への関心の幅を広げる。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
3回	授業内容	物語を「楽しむ」(3) 漫画	レポートによる
	学習成果	教員が紹介する漫画を通して、物語への関心の幅を広げる。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
4回	授業内容	物語を「楽しむ」(4) 童話	レポートによる
	学習成果	教員が紹介する童話を通して、物語への関心の幅を広げる。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
5回	授業内容	物語を「楽しむ」(5) 掌編小説	レポートによる
	学習成果	教員が紹介する掌編小説を通して、物語への関心の幅を広げる。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
6回	授業内容	「物語とは何か」を考える (1) 3分間で相互に紹介	課題(紹介文と発表)による
	学習成果	学生自身が物語を紹介し合うことで、多様な物語に触れ、考察を深める。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
7回	授業内容	「物語とは何か」を考える (2) 4分間で相互に紹介	課題(紹介文と発表)による
	学習成果	学生自身が物語を紹介し合うことで、多様な物語に触れ、考察を深める。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
8回	授業内容	「物語とは何か」を考える (3) 5分間で相互に紹介	課題(紹介文と発表)による
	学習成果	学生自身が物語を紹介し合うことで、多様な物語に触れ、考察を深める。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
9回	授業内容	「物語とは何か」を考える (4) 5分間で相互に紹介	課題(紹介文と発表)による
	学習成果	学生自身が物語を紹介し合うことで、多様な物語に触れ、考察を深める。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
10回	授業内容	「物語とは何か」を考える (5) 5分間で相互に紹介	課題(紹介文と発表)による
	学習成果	学生自身が物語を紹介し合うことで、多様な物語に触れ、考察を深める。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
11回	授業内容	物語を「書く」(1) 人物	課題(物語文)による
	学習成果	書くことで登場人物の設定の重要性を学ぶ。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
12回	授業内容	物語を「書く」(2) 展開	課題(物語文)による
	学習成果	書くことで展開の重要性を学ぶ。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
13回	授業内容	物語を「書く」(3) 内面描写	課題(物語文)による
	学習成果	書くことで物語の内面描写の重要性を学ぶ。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
14回	授業内容	物語を「書く」(4) 表現	課題(物語文)による
	学習成果	書くことで文章表現の重要性を学ぶ。	
	予習復習の内容	様々な物語を読んで味わうとともに、表現の工夫を読み取る。	
15回	授業内容	まとめ	発表とレポートによる
	学習成果	他の学生の作品を読むことで、物語についての知見を深める。	
	予習復習の内容	15回の授業を振り返り、今後の物語の読み方や自分の生き方に生かす。	

科目名	話し言葉の基礎				担当者	三浦貴子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	人が声を発する仕組みを理解し、大きく張りのある声が出せる。										
	②	状況に応じた言葉遣いができ、敬語を正しく使えるようになる。										
	③	言葉遣いに留まらず、表情、所作、態度を含めて、好印象を与えられるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	正しい発声発音を学び、堂々と人と関わる力をつけることを通して、社会的・職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	敬語の使い方や場面に合わせた言葉の選び方を学ぶことを通して、他者を理解し、論理的な思考で問題を解決する能力を有し、協働することができる。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	美しい日本語を学ぶことを通して、和を尊ぶ日本の心を理解し、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	生活の道具である「日本語」。その中でも「話し言葉」は、人との関わりの第一歩。日々使うものだけに、雑に扱うことなく、心を込めて丁寧に発することの大切さを理解する。発声、発音の基礎的練習をはじめ、実践練習の中で、簡潔にわかりやすく内容を伝える文章の組み立て方、正しい敬語表現、場面にあわせた美しい言葉の選び方を学び、活用できるようになる。さらに、言葉に連動する好印象をもたらす表情、所作、態度を身につけ、積極的に社会とつながることができるようになる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	筆記小テスト	20	「敬語」の理解について筆記試験を行い評価する。								
		期末テスト	40	声の大きさ・高低等の表現、言葉選び、態度、表情、姿勢、全般にわたり、「スピーチ」「ロールプレイング」の2つの項目を通して評価する。								
		平常点	40	演習や実習への取り組み、意欲、態度により評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	プリント資料配付											
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	NHK 放送文化研究所		『日本語発音アクセント新辞典』				NHK 出版					
	実務技能検定協会		『秘書検定1級集中講義』				早稲田教育出版					
	実務技能検定協会		『ビジネス電話検定受験ガイド』				早稲田教育出版					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①配付する資料、および視聴覚教材をもとに授業を進める。 事前学習として、授業内容理解のため、資料を読み予習しておくこと。特に、前の授業で告知する次の課題については、繰り返し声に出し練習し、授業に望めるようにしておくこと。(予習：週2時間程度) 事後学習として、授業での内容を意識し、数多くの人との「会話」を実践して、理解を深めるようにすること。(復習：週2時間程度) ②実技テストでは、その場で良い点、改善を進める点を指摘する。筆記テストは、終了後に正解を伝え解説をおこなう。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	あいさつ・返事・あいづち	
	学習成果	相手に与える印象の重要性を理解し、あいさつ、表情、所作から、好印象を残すことができる。	
	予習復習の内容	一人でも多くの方に話しかけ周囲とコミュニケーションを図り、好印象を残すことを全身で覚えるように実践を重ねる。	
2回	授業内容	発声・響鳴・発音	
	学習成果	声から与える印象を良くするために、発声発音の仕組みを理解し、明瞭な発音ができるようになる。	
	予習復習の内容	授業で伝えるボイストレーニング法を毎日実践し、大きく張りのある声を出せるようになる。	
3回	授業内容	話し方お悩み別対処法	
	学習成果	自分の話し方のクセを確認し、耳障りになりそうな点を修正する。距離感にあわせた話し方ができる。	
	予習復習の内容	大きな声を出す、言葉に言い淀まないなど、目的を持って、聴きやすい話し方を意識し練習する。	
4回	授業内容	敬語① ～丁寧に話す～	
	学習成果	上下に関係なく物事を丁寧に表すことで相手への敬意を伝え、信頼される存在になる。	
	予習復習の内容	学生ならではの話し方は社会でどう見えるか、一方、品格のある話し方はなにかを意識し、会話を実践する。	
5回	授業内容	敬語② ～敬う心を表す～	
	学習成果	尊敬語、謙譲語の正しい理解ができ、立場や場面によって瞬時に使い分けられる。	
	予習復習の内容	敬語の正誤が瞬時にわかるように、多くのビジネス会話(映像資料、接客業等)を意識して聴いて慣れる。	
6回	授業内容	好印象につながる表現 ～慣用句・クッション言葉・あとよし言葉・鼻濁音・無声化～	
	学習成果	肯定的な言葉を選ぶことで良好な人間関係が築けることを理解し、品格を身につける。	
	予習復習の内容	好印象につながるための言葉には、具体的にどのようなものがあるのか挙げて語彙を増やし、会話を実践する。	
7回	授業内容	伝える技術 ～間・強弱・高低・緩急～	
	学習成果	相手にわかりやすく正しく情報を伝えるための4つの技術を理解し、実際に使えるようになる。	
	予習復習の内容	4つの技術を使って話している具体例をテレビラジオ等で見つけること。授業でよみ文章を練習する。	
8回	授業内容	きく技術 ～聞く・聴く・訊く～	
	学習成果	会話は相手とのやりとりで成り立つことに気づき「きく」力をつけ、正しい理解判断ができるようになる。	
	予習復習の内容	抑揚や間から意図を汲めるか、話を興味をもった態度で聴いているか、日常の中で意識し、相手が話しやすい雰囲気作りを実践してみる。	
9回	授業内容	文章を組み立てる	
	学習成果	主部述部を意識した簡潔な文、相応しい接続詞句での展開、目的を意識した構成で、話を組み立てられるようになる。	
	予習復習の内容	誰かに何かを説明する場合どうしたらわかりやすいのか等、相手の立場に立った丁寧な会話を実践してみる。	
10回	授業内容	言葉を選ぶ	
	学習成果	感謝、謝罪、苦情、祝福、労い、さまざまな場面での適切な言葉遣いを身につけて表現できるようになる。	
	予習復習の内容	様々な状況をイメージし、その場に相応しい言葉を選ぶよう、本や新聞、各メディアから語彙を拾い自分のものにする。	
11回	授業内容	電話① ～うける～	
	学習成果	デモ電話機を用いて、固定電話の使い方を把握する。電話の受け方で社会での対応力をつける。	
	予習復習の内容	授業で伝える電話対応のポイントを意識し、声に出して練習し、ボイスレコーダーに録り確認する。	
12回	授業内容	電話② ～かける～	
	学習成果	電話をかけるときの要点をおさえる。電話で聴き取りやすい声はどのようなものか理解し実践できる。	
	予習復習の内容	授業で伝える電話対応のポイントを意識し、声に出して練習し、ボイスレコーダーに録り確認する。	
13回	授業内容	さまざまな受付で	
	学習成果	接遇用語を理解し、立ち居振る舞いとあわせて正しく使えるようになる。	
	予習復習の内容	来客、婚、葬での受付、言葉と行動、態度が重なるように、各自ロールプレイングを繰り返し行って慣れる。	
14回	授業内容	多様性社会でのコミュニケーション	
	学習成果	聴覚・視覚障害者、高齢者等、多様性社会での情報伝達、意思疎通のためにできることを理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実践できるように場面を想定して練習を重ねてみる。	
15回	授業内容	日常の場面で	
	学習成果	日頃の生活の中でも話し言葉で印象が左右されることを認識し、その場にあわせた適切な表現ができるようになる。	
	予習復習の内容	この授業の内容全体について整理、確認をすること。	

科目名	話し言葉の応用				担当者	関根俊二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業後あるいはオフィスアワー(初回授業で説明)											
専門的 学習成果	①	社会人にふさわしく、正確にわかりやすく話し言葉で説明できる。										
	②	言葉についての理解をもち、言葉の使い分けなど、言葉を意識的に活用できる。										
	③	傾聴する能力をもち、コミュニケーションを円滑に行うことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	場面・状況に応じた対応ができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	コミュニケーションを通して社会で協働することができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	1年次前期に学ぶ「話し言葉の基礎」の応用の授業である。社会やビジネスシーンに通用する開かれた話し言葉の習得をめざして、発表を繰り返し行って実践的に学ぶ。既習事項の整理をしながら、傾聴、自由題スピーチ、情報の正確な説明、魅力的な説明など新たな課題に取り組んでもらう。日本語検定2級程度の敬語やら抜き言葉の知識も身につけてもらう。言うまでもなく、話し言葉の技術を磨くためには、聞き手の反応に触れながら自覚的に話し言葉を使い続けるしか方法はない。発表には長所を伝えアドバイスを送り続けるので、ぜひ社会人にふさわしい話し言葉の技術を習得してほしい。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		発表	70	計5回。①が20%、②③④が各10%、⑤が20%の評価。発表で課題の達成度をみる。								
		小テスト	30	計2回実施し、各回15%で評価を行う。理解度を問う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②の評価で行う。 (2) は専門的学習成果①②③の評価で行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	印刷物配布											
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本語検定委員会	『日本語検定公式2級過去・練習問題』				東京書籍						
	鴻上尚史	『コミュニケーションのレッスン 聴く・話す・交渉する』				大和書房						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	話し言葉の技術習得の授業であるので、しばしば発表を行う。落ち着いて(あるいは楽しい感じで)話しやすい環境を作ることに配慮するので、グループ内や人前での発表に、目的意識をもって積極的にチャレンジしてもらいたい。 ①発表等の準備のために授業外で計60時間程度の学習が必要である。 ②発表に対しては、口頭で、または書面でつどアドバイスと評価を伝える。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 傾聴と他者紹介	人の話を傾聴できるか。内容を要約して効果的に説明できるか。
	学習成果	人の話を傾聴でき、それを要約して伝えることができる。	
2回	予習復習の内容	次回発表の準備	発表①(課題-自由題3分間スピーチ)
	授業内容	話をデザインする① 自由題3分間スピーチ	
3回	学習成果	構成を意識してスピーチを展開することができる。	発表①(課題-自由題3分間スピーチ)
	予習復習の内容	発表の振り返り	
4回	授業内容	話をデザインする② 自由題3分間スピーチ	発表②(課題-電話かけなどの実践)
	学習成果	構成を意識してスピーチを展開することができる。	
5回	予習復習の内容	発表の振り返り	発表②(課題-電話かけなどの実践)
	授業内容	電話と会社訪問の言葉について	
6回	学習成果	電話と会社訪問の方法を理解し説明できる。	発表②(課題-電話かけなどの実践)
	予習復習の内容	授業内容の復習	
7回	授業内容	電話と会社訪問の言葉を習得する	発表③(課題-正確な説明)
	学習成果	電話と会社訪問の方法を理解し実践できる。	
8回	予習復習の内容	授業内容の復習。次回発表の準備	発表③(課題-正確な説明)
	授業内容	正確な表現で説明する① 身近な出来事	
9回	学習成果	シンプルな出来事について、言葉を選び正確に説明できる。	発表④(課題-正確な説明)
	予習復習の内容	次回発表の準備	
10回	授業内容	正確な表現で説明する① 社会的な出来事	発表④(課題-正確な説明)
	学習成果	より複雑な出来事について、言葉を選び正確に説明できる。	
11回	予習復習の内容	発表の振り返り	発表④(課題-正確な説明)
	授業内容	正しい言葉を使う① 敬語など	
12回	学習成果	敬語について理解し、活用できる。	発表④(課題-正確な説明)
	予習復習の内容	授業内容の復習。	
13回	授業内容	正しい言葉を使う② ら抜き言葉など	発表⑤(課題-物事の効果的な紹介)
	学習成果	ら抜き言葉に注意して言葉を活用できる。	
14回	予習復習の内容	授業内容の復習。	発表⑤(課題-物事の効果的な紹介)
	授業内容	円滑で生産的なコミュニケーション リレートーク	
15回	学習成果	人の話を確実に傾聴でき、的確な言葉を続けることができる。	発表⑤(課題-物事の効果的な紹介)
	予習復習の内容	授業での実践についての振り返り	
16回	授業内容	グループディスカッション① 身近な出来事	発表⑤(課題-物事の効果的な紹介)
	学習成果	協働に向けたグループディスカッションに積極的に取り組める。	
17回	予習復習の内容	授業内容の振り返り。	発表⑤(課題-物事の効果的な紹介)
	授業内容	グループディスカッション② 社会的な出来事	
18回	学習成果	協働に向けたグループディスカッションに円滑に取り組める。	発表⑤(課題-物事の効果的な紹介)
	予習復習の内容	プレゼンテーション発表に向けた準備	
19回	授業内容	プレゼンテーションの準備	発表⑤(課題-物事の効果的な紹介)
	学習成果	プレゼンテーションの目的・方法について理解し説明できる。	
20回	予習復習の内容	プレゼンテーション発表に向けた準備	発表⑤(課題-物事の効果的な紹介)
	授業内容	プレゼンテーションの発表	
21回	学習成果	手法を選択しながら、効果的に基本的なプレゼンテーションを行える。	発表⑤(課題-物事の効果的な紹介)
	予習復習の内容	プレゼンテーション発表の振り返り	
22回	授業内容	まとめ	発表⑤(課題-物事の効果的な紹介)
	学習成果	話し言葉の活用に必要な態度・知識・方法について理解し説明ができる。	
23回	予習復習の内容	習得した知識・技術の整理	発表⑤(課題-物事の効果的な紹介)
	授業内容	話し言葉の活用に必要な態度・知識・方法について理解し説明ができる。	

科目名	絵本製作				担当者	大 泉 浩 一							
区 分	選 択	2	単 位	授業回数	15	回	授 業 形 態	演 習	学 年	1 年	開 講 期	後 期	
				授業時間数	30	時 間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に対応する。											
専門的 学習成果	①	絵本という優れた表現方法についての知識を、社会人として必要な表現に応用できるようになる。											
	②	印刷物製作の知識と技術が身につく、社会人として必要な表現に応用できるようになる。											
	③	グループ課題の製作を通してコミュニケーション能力が身につく、社会人として必要な協働に活用できるようになる。											
汎用的 学習成果	(1)	絵本についての知識を習得し、社会的・職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③に関連)											
	(2)	絵本製作の過程から社会人として必要な他者理解の能力を有し、表現することができる。(専門的学習成果①②に関連)											
	(3)	絵本製作の過程から人との関わりに必要な自己表現、他者理解の能力を有し、協働することができる。(専門的学習成果②③に関連)											
授業概要	さまざまな絵本を読み比べ、また自分で作ってみることで、子どもだけでなく大人にとっても魅力的な、絵本という表現方法について学ぶ。具体的には次の通り。教員が紹介する絵本を通して、作り手の工夫に目を向ける。学生自身が絵本を紹介することで、多様な絵本に触れ、作り手としての目を養う。実際に手を動かして絵を描いたり言葉を考えたりすることで、表現の技術を磨くとともに表現の喜びを味わう。グループで1冊の絵本を製作することで、読み手とのコミュニケーション、メンバー同士のコミュニケーションについて体験的に学ぶ。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		個人課題	30	条件を守って作成できているかで評価する。									
	グループ課題	70	提出日に間に合わせ、条件を守って作成できているかで評価する。										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②③で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名						
	長谷川集平		『絵本づくりトレーニング』				筑摩書房						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①絵本作りや印刷物の製作に興味・意欲があれば、絵を描くことや文章を書くことが苦手でも履修に問題はない。授業時間外にも、様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にしたり、絵本に関する書籍やウェブサイトを目を通すなど、準備学習に努めること。必要な時間は1週あたり4時間である。 ②提出された課題に問題があれば指摘して修正を求めたり、優れた点があれば具体的に口頭で評価するなどして、より良い作品作りにつながるよう指導する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	絵本を読む(1) 絵本の種類	個人課題による
	学習成果	教員が紹介する絵本を通して、作り手の工夫に目を向ける。	
	予習復習の内容	様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にする。	
2回	授業内容	絵本を読む(2) 絵本の再読と紹介	
	学習成果	学生自身が絵本を紹介することで、多様な絵本に触れ、作り手としての目を養う。	
	予習復習の内容	様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にする。	
3回	授業内容	絵本の作り方(1) 顔を描く	
	学習成果	簡単な図形の組み合わせで8ページの絵本が作れる。初級。	
	予習復習の内容	様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にする。	
4回	授業内容	絵本の作り方(2) 全身を描く	
	学習成果	簡単な図形の組み合わせで8ページの絵本が作れる。中級。	
	予習復習の内容	様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にする。	
5回	授業内容	絵本の作り方(3) 物語を描く	
	学習成果	簡単な図形の組み合わせで8ページの絵本が作れる。上級。	
	予習復習の内容	様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にする。	
6回	授業内容	絵本の作り方(4) 企画を考える	
	学習成果	絵と言葉を工夫し、読み手に喜ばれる12ページの絵本が作れる。企画編。	
	予習復習の内容	様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にする。	
7回	授業内容	絵本の作り方(5) 工夫して描く	
	学習成果	絵と言葉を工夫し、読み手に喜ばれる12ページの絵本が作れる。作成編。	
	予習復習の内容	様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にする。	
8回	授業内容	絵本の作り方(6) 彩色して仕上げる	
	学習成果	絵と言葉を工夫し、読み手に喜ばれる12ページの絵本が作れる。仕上げ編。	
	予習復習の内容	様々な絵本を読んで表現を味わうとともに自らの作品の参考にする。	
9回	授業内容	グループ製作実習(1) 企画を考える	グループ課題による
	学習成果	読み手を意識した絵本の企画ができる。	
	予習復習の内容	絵本に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かす。	
10回	授業内容	グループ製作実習(2) ページに割り付ける	
	学習成果	展開を考えてページの割り付けができる。	
	予習復習の内容	絵本に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かす。	
11回	授業内容	グループ製作実習(3) 表現を工夫する	
	学習成果	絵や文の内容と表現を工夫できる。	
	予習復習の内容	絵本に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かす。	
12回	授業内容	グループ製作実習(4) 工夫して描く	
	学習成果	実際に絵や文を書いて製作ができる。	
	予習復習の内容	絵本に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かす。	
13回	授業内容	グループ製作実習(5) 印刷を考えて原稿を作る	
	学習成果	実際に絵や文を書いて製作ができる。	
	予習復習の内容	絵本に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かす。	
14回	授業内容	グループ製作実習(6) 仕上げる	
	学習成果	印刷・製本・彩色して絵本を仕上げるができる。	
	予習復習の内容	絵本に関する書籍やウェブサイトを目を通すなどして製作に生かす。	
15回	授業内容	自己評価・相互評価	
	学習成果	他の作品との比較を通して自らの作品の客観的な評価ができる。	
	予習復習の内容	友人・家族・知人などに作品を紹介し、意見や感想を次の機会に生かす。	

科目名	公務員試験対策講座Ⅰ（自治体研究）				担当者	堀 良 平 ・ 鳴 海 渉						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） Classroom（登録必須）での対応も行う。 オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。										
専門的 学習成果	①	地方自治法などに規定されている目的、役割等を説明、思考できる。										
	②	地方自治体が目指すべき指針について説明、思考できる。										
	③	議会が果たしている役割について説明、思考できる。										
	④	自治体の財政状況等を知り、今後の政策形成を論じることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、公務員として行政を遂行することができる。 （専門的学習成果①②③④）										
	(2)	地域社会において人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、市民と協働することができる。（専門的学習成果①②③）										
	(3)	法律等修得した専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展及び安全・安心に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果④）										
授業概要	公務員として必要とされる自治の仕組み、市民と自治体行政の運営、地方財政・予算、議会の役割、自治体と国との関係など自治体業務の基本的な仕組みを知り、自治法など各種法律に基づいて議会の承認を経て政策を執行していくことについて考察し、公務員としての知識を高める。また、公務員にどのような役割が求められているのか市役所等の視察等をとおして職員がどのように業務を進めているのか討議研究を進め、公務員として市民の安全・安心のため尽くすことができる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	毎回の講義で授業の感想・次回の予習を期日までにWeb上で提出するとともに、定期的に記述式の800字程度のレポートを提出し、その内容を評価する。								
		討 論	20	講義内で行う、討議・グループワークにおける発表・参加態度を評価する。								
		視察対応	20	職場見学の際における対応・レポート内容を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④により行う。 (2) は専門的学習成果①②③により行う。 (3) は専門的学習成果④により行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	今村照	『地方自治のしくみ』第6次改訂版				学陽書房						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	平谷英明	『一番やさしい地方自治の本』第2次改訂版				学陽書房						
	吉田勉	『はじめて学ぶ地方自治法』第2次改訂版				学陽書房						
	大森彌 大杉覚	『これからの地方自治の教科書』				第一法規						
	地方自治法令研究会	『自治六法 令和4年版』				ぎょうせい						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①準備学習等履修上の留意点 テキスト及び参考文献、授業で配布する参考資料、地方自治体等が提供する広報誌、HP等を活用し授業を進める。 ＜事前学習＞テキスト及び地方自治体の広報資料等を参考にテーマについて考察をするとともに、課題等を抽出し公務員として基本的対処法について授業展開する。（予習：週1時間程度） ＜事後学習＞地方自治法、公務員法などの法規を知り遭遇研修、アクティブラーニング、ワールドカフェ等とおしグループ討議が行われるので、簡潔に課題となった内容を要約、確認、資料等の整理を行うこと。（復習：週1時間程度） ＜自治体等視察研修＞市役所等の視察研修を行うが、視察先により日程が前後するので初回の授業で日程及び視察事項を通知する。事前に質問事項等をまとめ、事後に討論した内容について要約しレポートを提出すること。現地集合、現地解散となる。 ②フィードバックの方法等 提出した各種レポートについては講義時にフィードバックを行う。内容によってはグループワークを通してクラス内での共有を図っていく。 ③その他 公務員志望者はもちろん、外郭団体、社会福祉協議会、商工会議所、JAなどを目指す学生も対象となる。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	1回目終了後から次回の実施単元を示し、その内容についての概要を予習し、Webを通して提出する。また、講義から得たことや今後に生かしていくべきこと、疑問点について同様に提出する。授業内では適宜グループワークを通して、理解の共有を図り、そこでも発言や参加態度なども評価の対象としていく。さらに定期的にレポートを提出させ、理解状況の確認を行うこととする。
	学習成果	本講座での学習計画について把握する。	
	予習復習の内容	シラバスとテキストの目次を読み、学習内容を確認する。	
2回	授業内容	最新の動き①地域社会の未来	
	学習成果	地方における最新の動きを理解し、今後の展望と対策について検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読むとともに、出身地の将来展望を把握する。	
3回	授業内容	最新の動き②自治体DX、大災害に備える	
	学習成果	地方における最新の動きを理解し、今後の展望と対策について検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読むとともに、出身地のDXの状況や防災の状況を把握する。	
4回	授業内容	最新の動き③地域公共交通の再構築、デジタル田園都市国家構想	
	学習成果	地方における最新の動きを理解し、今後の展望と対策について検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読むとともに、出身地のインフラの状況やデジタル化の状況を把握する。	
5回	授業内容	自治って何だろう	
	学習成果	地方自治の概要を理解し、特徴や役割分担について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、自治体の歴史と現状を理解する。	
6回	授業内容	住民と自治体行政の運営	
	学習成果	住民と自治の関わりについて理解し、今後の展望について検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、住民自治の概要と現状を理解する。	
7回	授業内容	自治体の種類と合併	
	学習成果	現状を把握し、今後の自治体運営がどうあるべきか検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、自治体の種類や合併について理解する。	
8回	授業内容	議会と長の緊張関係	
	学習成果	地方議会、首長、委員会の内容を理解し、その関わりについて説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、地方議会の概要を理解する。	
9回	授業内容	自治体の財政・財務	
	学習成果	自治体の財政・財務状況を理解し、今後の展望について検討することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、自治体財政の仕組みを理解する。	
10回	授業内容	自治体と国の関係、自治体の紛争処理	
	学習成果	自治体と国の関係や自治体の紛争処理について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、自治体と国の関係について理解する。	
11回	授業内容	自治体研究	
	学習成果	職場見学に向けた自治体研究を通して、概要や課題を説明できる。	
	予習復習の内容	見学自治体のホームページなどを通して、現状を理解する。	
12回	授業内容	職場見学	
	学習成果	疑問点について質問することで、その内容や展望を説明できる。	
	予習復習の内容	見学自治体のホームページなどを通して、現状を理解する。	
13回	授業内容	職場見学	
	学習成果	見学して得たこと等を整理し、その内容を説明できる。	
	予習復習の内容	見学自治体のホームページなどを通して、現状を理解する。	
14回	授業内容	地方自治の新しい仕組み	
	学習成果	時代に合わせて改正を行う地方自治の特性を理解し、今後の展望について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストや参考文献を通して地方自治法の改正点を理解する。	
15回	授業内容	まとめ、最終レポート作成	
	学習成果	本講座を通して学習したことを整理し、その内容を説明できる。	
	予習復習の内容	ここまでの授業内容を復習する。	

科目名	公務員試験対策講座Ⅲ - A (基礎数学)				担当者	堀 良 平 ・ 宮 城 伸 彦						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp (学籍番号、氏名必須) Classroom (登録必須) での対応も行う。 オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。										
専門的 学習成果	①	これまで学んできた数学を復習し、様々な問題に取り組むことで理解を深めることができる。										
	②	公務員試験における一般知能ならびにSPI試験における非言語分野に活用できる知識の習得ができる。										
	③	社会における様々な場面において、習得した数学の知識を活用することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	具体的な問題演習を通して進路に向けた目標を明確にすることで、社会的・職業的自立に向けての意識が向上する。(専門的学習成果①・②に関連)										
	(2)	社会人として必要とされる基礎的な一般教養について理解を深めることができる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要		公務員試験における一般知能科目や、多くの企業等で実施されるSPI試験の非言語分野等において、算数・数学の内容が出題されており、苦手意識を抱えたまま卒業後の進路選択、就職活動に直面することも少なくない。この授業では各試験の実情に合わせて必要な分野について取り上げ、公式や基本的な解法の説明を行ったのち、問題演習を通して理解を深めていく。さらに社会に出てからも様々な場面において数字と関わることが多いことから、そういった場面でも活用できるよう具体的なイメージを加えながら講義を展開していく。 受講人数や理解度に応じ、個人の希望をふまえたレベル別クラス編成を行う可能性がある。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	60	毎回授業の最初に実施し、各回5%程度を配点する。前回の授業内容についての理解の程度を評価する。								
	まとめ テスト	40	第15回目に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。									
汎用的 学習成果	(1)	①は専門的学習成果①・②で評価を行う。										
	(2)	②は専門的学習成果③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	東洋英和女学院大学 学習サポートセンター		『文系女子大学生の数学演習』						誠文堂新光社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ地方初級<教養試験>過去問350』						実務教育出版			
	柳本新二		『ドリル式SPI問題集』						永岡書店			
	畑中敦子		『畑中敦子の算数・数学キソキソ55』						エクシア出版			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①公務員志望者はもちろん、外郭団体、社会福祉協議会、商工会議所、JAなどを公的機関を目指す学生も対象となる。 広範な範囲にわたるため15回の授業としてはある程度分野を絞らざるを得ないので、「桜サクE-RUN!」その他を活用して自習したり、授業以外の範囲についても自ら積極的に学習することが望ましい。 ②毎回の小テストは評価の対象として最重視するので、講義内容を十分復習して臨むこと(復習:週1時間程度)。 評価後、次回の授業時に返却するので、間違いや苦手を理解しさらに復習に努めること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション、公務員試験ほか就職試験における基礎数学について	
	学習成果	講義の進め方を踏まえて、基礎数学の概要を説明できる。	
2回	予習復習の内容	中学・高校での数学の各自の学習状況を確認しておく。	
	授業内容	計算問題、割合と比	
3回	学習成果	計算問題や割合と比の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
4回	授業内容	1次方程式、1次不等式、連立方程式	
	学習成果	1次方程式、1次不等式、連立方程式の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
5回	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
	授業内容	因数分解と2次方程式、関数(1次関数、2次関数)	
6回	学習成果	因数分解と2次方程式、関数の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
7回	授業内容	料金の割引、代金の清算	
	学習成果	料金の割引、代金の清算の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
8回	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
	授業内容	分割払い、損益算	
9回	学習成果	分割払い、損益算の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
10回	授業内容	速さ、集合	
	学習成果	速さ、集合の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
11回	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
	授業内容	順列、組み合わせ	
12回	学習成果	順列、組み合わせの重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
13回	授業内容	確率	
	学習成果	確率の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
14回	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
	授業内容	図形①(平面図形、合同と相似)	
15回	学習成果	平面図形、合同と相似の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
16回	授業内容	図形②(円の性質、空間図形、三平方の定理)	
	学習成果	円の性質、空間図形、三平方の定理の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
17回	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
	授業内容	推論	
18回	学習成果	推論の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
19回	授業内容	資料の読み取り、グラフと領域	
	学習成果	資料の読み取り、グラフと領域の重要分野を確認し、問題に取り組むことができる。	
20回	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
	授業内容	いろいろな問題(1)、(2)	
21回	学習成果	これまでの学習内容を再確認し、応用問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのPOINTを読み、公式や基本的な解法を確認しておく。	
22回	授業内容	まとめテスト・解説	
	学習成果	まとめテストを実施し、その解説を通して基礎数学の問題に取り組むことができる。	
23回	予習復習の内容	授業内容を復習しておく。	
	学習成果	まとめテストを実施する。すべて授業内容からの出題とする。	

科目名	公務員試験対策講座Ⅲ－B（一般知能・基礎）				担当者	堀 良 平 ・ 宮 城 伸 彦						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） Classroom（登録必須）での対応も行う。 オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。										
専門的 学習成果	①	これまで学んできた基礎数学を活用し、様々な問題に取り組むことができる。										
	②	公務員試験における一般知能に活用できる知識を習得することができる。										
	③	多くの問題に取り組むことで各自の弱点を理解し、一般教養の向上につなげることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	具体的な問題演習を通して進路に向けた目標を明確にすることで、社会的・職業的自立に向けての意識が向上する。（専門的学習成果①・②・③に関連）										
	(2)	社会人として必要とされる基礎的な一般教養について理解を深めることができる。（専門的学習成果③に関連）										
授業概要		公務員試験で出題される一般知能における数的推理、判断推理、空間把握、資料解釈の科目内容に沿って、公式や基本的な解法を説明したうえで、具体的な問題演習・解答解説を行い、出題内容の理解、解法の習得、そこから見える各自の弱点の把握を通して、効果的な試験対策を進める。公務員志望者に即した内容とはなるが、一般企業などで多く課されるSPI試験等の内容にも対応している。 受講人数や理解度に応じ、個人の希望をふまえたレベル別クラス編成を行う可能性がある。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	60	毎回授業の最初に実施し、各回5％程度を配点する。前回の授業内容についての理解の程度を評価する。								
	まとめ テスト	40	第15回目に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①・②・③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	東京アカデミー	『オープンセサミシリーズ 国家公務員・地方初級⑤一般知能』				七賢出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ地方初級<教養試験>過去問350』				実務教育出版						
	資格試験研究会	『公務員試験新・初級スーパー過去問ゼミ 数的推理』				実務教育出版						
	資格試験研究会	『公務員試験新・初級スーパー過去問ゼミ 判断推理』				実務教育出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①公務員志望者はもちろん、外郭団体、社会福祉協議会、商工会議所、JAなどを公的機関を目指す学生も対象となる。 広範な範囲にわたるため15回の授業としてはある程度分野を絞らざるを得ないので、「桜サクE-RUN!」その他を活用して自習したり、授業以外の範囲についても自ら積極的に学習することが望ましい。 ②毎回の小テストは評価の対象として最重視するので、講義内容を十分復習して臨むこと（復習：週1時間程度）。 評価後、次回の授業時に返却するので、間違いや苦手を理解しさらに復習に努めること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション、公務員試験における一般知能について	小テストを行う。毎回の授業の最初に行い、前回授業内容についての確認の内容となる。
	学習成果	講義の進め方を踏まえて、公務員試験における一般知能の概要を説明できる。	
予習復習の内容	インターネットなどを通して公務員試験の概要について確認する。		
2回	授業内容	数的推理①方程式、整数、計算パズル、規則性	
	学習成果	方程式、整数、計算パズル、規則性の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
3回	授業内容	数的推理②割合	
	学習成果	割合の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
4回	授業内容	数的推理③速さ	
	学習成果	速さの重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
5回	授業内容	数的推理④確率	
	学習成果	確率の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
6回	授業内容	数的推理⑤図形の計量	
	学習成果	図形の計量の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
7回	授業内容	判断推理①順序関係、手順	
	学習成果	順序関係、手順の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
8回	授業内容	判断推理②対応関係、試合	
	学習成果	対応関係、試合の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
9回	授業内容	判断推理③位置関係、数量	
	学習成果	位置関係、数量の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
10回	授業内容	判断推理④論理、集合、証言ほか	
	学習成果	論理、集合、証言ほかの重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
11回	授業内容	空間把握①平面図形、折り紙、軌跡	
	学習成果	平面図形、折り紙、軌跡の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
12回	授業内容	空間把握②立体構成、展開図、投影	
	学習成果	立体構成、展開図、投影の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
13回	授業内容	空間把握③切断、回転体・移動、経路	
	学習成果	切断、回転体・移動、経路の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
14回	授業内容	資料解釈	
	学習成果	資料解釈の重要分野を確認し、問題に取り組み解答することができる。	
予習復習の内容	テキストの基本事項ならびに例題を確認する。		
15回	授業内容	まとめテスト・解説	まとめテストを実施する。すべて授業内容からの出題とする。
	学習成果	まとめテストを実施するとともに、その解説講義を通して一般知能全般について解答することができる。	
予習復習の内容	授業内容を復習しておく。		

科目名	公務員試験対策講座Ⅳ（理科・社会・政治）				担当者	堀 良平 ・ 本吉 祥子 ・ 宮城 伸彦						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付け、もしくはオフィスアワーで対応する。 Classroom（登録必須）での対応も行う。 それ以外はEメール（hori.ryohei@seiwa.ac.jp）で行う。											
専門的 学習成果	①	社会科学分野（政治・経済・社会）について基礎学力を高め、問題を解くことができる。										
	②	人文科学分野（日本史・世界史・地理・文学芸術）について基礎学力を高め、問題を解くことができる。										
	③	自然科学分野（物理・化学・生物・地学）について基礎学力を高め、問題を解くことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	社会科学分野の基礎知識修得を通して、それが生活に直結していることを学び、社会の一員としての自立につなげることができる。										
	(2)	人文科学分野の基礎知識修得を通して、それが生き方のヒントになることを学び、豊かな選択肢を持って自ら志向することができる。										
	(3)	自然科学分野の基礎知識修得を通して、それが論理的思考や問題解決の礎であることを学び、科学技術社会の一員として問わず理知的選択肢ができる。										
授業概要	公務員試験で問われる一般知識は、「社会科学（政治・経済・社会）」「人文科学（日本史・世界史・地理・文学芸術）」「自然科学（物理・化学・生物・地学）」の各分野にわたって広く出題されるが、過去の各分野ごとの出題率や高校における科目修得状況を踏まえて分野を絞り、基本事項を学んでいく。また当該分野の基礎知識確認問題や応用問題を通して基礎学力向上に努め、過去問題や類似問題の反復を通して解答のコツをつかんでいく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	60	毎回授業の最初に実施し、各回5％程度を配点する。前回の授業内容についての理解の程度を評価する。								
		筆記試験	40	第15回目に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	資格試験研究会	『初級公務員 一般知識らくらくマスター』					実務教育出版					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ地方初級<教養試験>過去問350』					実務教育出版					
	資格試験研究会	『公務員試験新・初級スーパー過去問ゼミ社会科学』					実務教育出版					
	資格試験研究会	『公務員試験新・初級スーパー過去問ゼミ人文科学』					実務教育出版					
	資格試験研究会	『公務員試験新・初級スーパー過去問ゼミ自然科学』					実務教育出版					
	鈴木俊士	『鈴木俊士の公務員教養試験 一般知識 一問一答』					株式会社 KADOKAWA					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①公務員志望者はもちろん、外郭団体、社会福祉協議会、商工会議所、JAなどを公的機関を目指す学生も対象となる。 広範な範囲にわたるため15回の授業としてはある程度を分野を絞らざるを得ないので、「桜サクE-RUN！」その他を活用して自習したり、授業以外の範囲についても自ら積極的に学習することが望ましい。 ②毎回の小テストは評価の対象として最重視するので、講義内容を十分復習して臨むこと（復習：週1時間程度）。 評価後、次回の授業時に返却するので、間違いや苦手を理解しさらに復習に努めること。											

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション、公務員試験一般知識科目についてのガイダンス	小テストを行う。毎回の授業の最初に行い、前回授業内容についての確認の内容となる。
	学習成果	講義の進め方を踏まえて、一般知識科目をどのように学習していくかを説明できる。	
予習復習の内容	一般知識科目の出題内容について整理し、確認しておく。		
2回	授業内容	政治 ①民主政治の基本原則、日本国憲法、基本的人権	
	学習成果	日本国憲法の三大原則と、憲法が保障する基本的人権について説明できる。	
予習復習の内容	日本国憲法や基本的人権について、具体的内容を整理し、確認しておく。		
3回	授業内容	政治 ②政治機構、国際政治	
	学習成果	国会・内閣・裁判所の役割と権限について説明できる。	
予習復習の内容	憲法条文をもとに国会・内閣・裁判所の位置付けや権限を整理し、確認しておく。		
4回	授業内容	経済 ①市場経済	
	学習成果	価格機構と独占寡占について、国民経済の流れについて説明できる。	
予習復習の内容	価格機構、独占寡占、株式会社、国民所得について整理し、確認しておく。		
5回	授業内容	経済 ②金融財政、戦後経済	
	学習成果	日銀の金融政策、財政のしくみ、租税について説明できる。	
予習復習の内容	日銀の金融政策、財政、日本経済の発展について整理し、確認しておく。		
6回	授業内容	社会 ①人口問題、社会保障	
	学習成果	少子高齢化社会とその諸問題および日本の社会保障制度について説明できる。	
予習復習の内容	少子高齢化の進行について統計データに目を通し、社会保障制度について整理し、確認しておく。		
7回	授業内容	社会 ②労働問題、消費者問題、環境問題	
	学習成果	日本が抱えている労働問題、消費者問題、環境問題の概要を説明できる。	
予習復習の内容	労働関連法とその法改正、主な環境問題や消費者問題とその関連法を整理し、確認しておく。		
8回	授業内容	日本史 ①律令国家～中世	
	学習成果	政治システムと主要人物、時代背景と文化の特色や代表的遺産等について説明できる。	
予習復習の内容	土地制度や対外関係、文化・宗教などについて、時代横断的に整理し、確認しておく。		
9回	授業内容	日本史 ②近世～近現代	
	学習成果	江戸時代の三大改革や明治維新～日清日露戦争を背景とする時代の動きを説明できる。	
予習復習の内容	織豊の政策～第二次大戦後まで、体制や文化について時代の前後を比較しながらその流れを整理し、確認しておく。		
10回	授業内容	世界史 ①古代・中世ヨーロッパ～近代ヨーロッパ	
	学習成果	ルネサンス、宗教革命、市民革命など、特に近代ヨーロッパについて具体的に説明できる。	
予習復習の内容	四大文明～産業革命まで、時代ごとの重要ポイントについて整理し、確認しておく。		
11回	授業内容	世界史 ②現代ヨーロッパ、東洋史	
	学習成果	地図上を横断的に同時代の歴史的出来事の順序関係を説明できる。	
予習復習の内容	列強のアジア進出～第二次大戦後まで、および中国史について重要ポイントを整理し、確認しておく。		
12回	授業内容	地理 ①地形、気候・土壌、世界地理	
	学習成果	特徴的な地形・気候・土壌ならびに世界地理について理解し、説明できる。	
予習復習の内容	地形、気候・土壌、および世界地理について重要ポイントを整理し、確認しておく。		
13回	授業内容	地理 ②日本地理、地図図法、人口	
	学習成果	日本の地理、地図図法や人口問題について理解し、説明できる。	
予習復習の内容	日本地理の特徴や、地図図法、人口の現状を確認しておく。		
14回	授業内容	理科（生物・地学・化学・物理）、文学芸術思想	
	学習成果	理科、文学芸術思想について重要事項を理解し、説明できる。	
予習復習の内容	理科、文学芸術思想について重要ポイントを整理し、確認しておく。		
15回	授業内容	まとめテスト、解説	筆記試験（全15回の内容を問う）
	学習成果	まとめテストを実施するとともにその解説講義を通して、一般知識全般について解答することができる。	
予習復習の内容	授業内容を復習しておく。		

科目名	公務員試験対策講座Ⅴ（文章理解・資料解釈）				担当者	宮 城 伸 彦 ・ 堀 良 平						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業後あるいはオフィスアワー（初回授業で説明）										
専門的 学習成果	①	現代文を適切に理解し、設問を解くことができる。										
	②	資料解釈の分野の基礎力を養い、設問を解くことができる。										
	③	自分の考えを小論文にまとめることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	論理的な思考力や文章表現能力が身につく活用できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	国家公務員、地方公務員、独立行政法人、JA など、筆記試験において「教養試験（文章読解）」と「小論文」が課される職種への就職を希望する学生を対象にして、過去問等の演習と解説、小論文執筆と添削を行い、公務員試験に対応できる能力を育成する。文章読解は時間の制約のある中での解答で、コツを踏まえた解答が必要であり、これを確認しながら学んでいく。小論文執筆は、まず話題の確認から行うこととする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	80	授業内の解答を小テストとして扱う。10回実施し、各回8%の評価を行う。								
		提出文	20	小論文を2回提出する。各回10%で評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③の評価で行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	資格試験研究会編	『新・初級スーパー過去問ゼミ 文章理解 資料解釈』				実務教育出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	鶴田秀樹	『公務員試験 独学で合格する人の勉強法』				実務教育出版						
	山下純一	『論文試験の秘伝』				YAC 出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①新聞記事やテレビ報道などに日常的に触れ、地域や世界の動きをしておくこと。また、授業で紹介する資料も読んでおいてほしい（以上、各回あたり2時間）。授業の復習、小論文執筆の予習などで各回1時間の予習・復習が必要となる。 ②授業での正解状況を報告してもらい、小テストとして扱うので、評価は自己管理できる。提出された小論文は添削の上、すみやかに返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 公務員試験の概要と準備・対策	
	学習成果	公務員試験の概要と準備・対策について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	概説部分に目を通しておく。	
2回	授業内容	文章理解	
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
3回	授業内容	文章理解	
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
4回	授業内容	文章理解 漢字の読み	
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
5回	授業内容	文章理解 漢字の読み	
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	発表の準備を行う。	
6回	授業内容	文章理解 漢字の読み	
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
7回	授業内容	文章理解	
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	発表の準備を行う。	
8回	授業内容	文章理解 文学史	
	学習成果	現代文を理解し設問に対応できる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
9回	授業内容	小論文の理解 テーマの探求	
	学習成果	小論文執筆の方法や社会的話題を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	小論文を執筆する。	
10回	授業内容	小論文の執筆	
	学習成果	社会的話題について小論文が執筆できる。	
	予習復習の内容	小論文推敲	
11回	授業内容	小論文の理解 テーマの探求	
	学習成果	小論文執筆の方法や社会的話題を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	小論文を執筆する。	
12回	授業内容	資料解釈	
	学習成果	割合や構成比の基礎問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
13回	授業内容	資料解釈	
	学習成果	指数の基礎問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
14回	授業内容	資料解釈	
	学習成果	複数の資料を用いた問題に取り組み解答することができる。	
	予習復習の内容	問題集の復習	
15回	授業内容	小論文の執筆	
	学習成果	社会的話題について小論文が執筆できる。	
	予習復習の内容	小論文推敲	
			提出物①（小論文）第8回
			提出物②（小論文）第15回

科目名	公務員試験対策演習（基礎編）				担当者	ホリ リョウヘイ 堀 良平 ・ ホトヨシ 本吉 祥子 ・ ミヤギ ノブヒコ 宮城 伸彦						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。											
専門的 学習成果	①	公務員試験に必要な対策について確認し、効果的な取り組みを進められる。										
	②	公務員試験出題科目それぞれの要点を理解し、適切な解法が実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	問題演習・解答解説を通し、高い目的意識をもって公務員試験対策が進捗する。（専門的学習成果①・②に関連）										
授業概要	公務員試験において出題される科目について講義で基本的な解法パターンや学習方法を示し、教材を通して各自での学習を効率よく進めることができることを目的とする。今期においては基礎数学、一般知能科目（数的推理、判断推理、空間把握）ならびに一般知識科目（政治・経済）を中心に講義を行う。公務員試験合格を目標とする講義となることから、講義を受動的に受講するだけでなく、主体的に家庭学習を進められる姿勢を強く求める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		習熟度テスト &レポート	100	講義実施内容についての習熟度を確認するテスト&レポートを最終回に行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①・②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	資格試験研究会	高卒・短大卒程度公務員コース【通信講座教材】				実務教育出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ地方初級 教養試験 過去問350』				実務教育出版						
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ国家一般職（高卒・社会人）教養試験 過去問350』				実務教育出版						
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ高卒警察官 教養試験 過去問350』				実務教育出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義時に学習方法等の指示を行うので、その内容に沿って各自家庭学習を進めること。 ②習熟度テストは実施後適宜解説を行う。（復習2時間程度）											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	
	学習成果	講義の進め方を踏まえつつ、公務員試験に向けての学習計画を立てることができる。	
	予習復習の内容	インターネットなどを通して公務員試験の概要について確認する。	
	授業内容	数学の基礎	
2回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
3回	授業内容	数学の基礎	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	数学の基礎	
4回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
5回	授業内容	数的推理	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	数的推理	
6回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
7回	授業内容	数的推理	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	判断推理	
8回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
9回	授業内容	判断推理	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	判断推理	
10回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
11回	授業内容	空間把握	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	政治・経済	
12回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
13回	授業内容	政治・経済	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	政治・経済	
14回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの講義内容を振り返り、今後の学習に繋げることができる。	
	予習復習の内容	この期間内の学習内容を振り返る。	
			習熟度テスト&レポートを実施する。

科目名	公務員試験対策演習（応用編）				担当者	堀 良平 ・ 本吉 祥子 ・ 宮城 伸彦						
区 分	選択	1	単位	授業回数	10	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	20	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。										
専門的 学習成果	①	公務員試験に必要な対策について確認し、効果的な取り組みを進められる。										
	②	公務員試験出題科目それぞれの要点を理解し、適切な解法が実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	問題演習・解答解説を通し、高い目的意識をもって公務員試験対策が進捗する。（専門的学習成果①・②に関連）										
授業概要	公務員試験において出題される科目について講義で基本的な解法パターンや学習方法を示し、教材を通して各自での学習を効率よく進めることができることを目的とする。今期においては文章理解、一般知能科目（数的推理、判断推理、空間把握、資料解釈）ならびに一般知識科目（政治・経済）を中心に講義を行う。 公務員試験合格を目標とする講義となることから、講義を受動的に受講するだけでなく、主体的に家庭学習を進められる姿勢を強く求める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		模擬試験	100	模擬試験を実施しその内容で評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1)	は専門的学習成果①・②で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	資格試験研究会		高卒・短大卒程度公務員コース【通信講座教材】						実務教育出版			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ地方初級 教養試験 過去問350』						実務教育出版			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ国家一般職（高卒・社会人）教養試験 過去問350』						実務教育出版			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ高卒警察官 教養試験 過去問350』						実務教育出版			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義時に学習方法等の指示を行うので、その内容に沿って各自家庭学習を進めること。また指定されたコース教材を購入するとともに、公務員試験対策演習（基礎編）の受講を必須とする。 ②模擬試験を実施したのち、解説講義を実施する。（復習2時間程度）										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	政治・経済	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
3・4回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	数的推理・資料解釈	
5・6回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
7・8回	授業内容	判断推理・空間把握	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
9・10回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	文章理解	
11・12回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
13・14回	授業内容	模擬試験、解説・まとめガイダンス	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
15・16回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容		
17・18回	学習成果		
	予習復習の内容		
19・20回	授業内容		
	学習成果		
21・22回	予習復習の内容		
	授業内容		
23・24回	学習成果		
	予習復習の内容		
25・26回	授業内容		
	学習成果		
27・28回	予習復習の内容		
	授業内容		
29・30回	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	人体の構造・機能・疾病				担当者	丸 山 穰						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的 学習成果	①	医療関係に従事する者に必要な基礎的な医学の知識として体の仕組みを説明できる。										
	②	他の医療関連科目履修の基礎となる基本的な臨床例を挙げることができる。										
	③	他の医療関連科目履修の基礎となる基本的な体の仕組みを説明することができる。										
	④	体の仕組みについて、食・栄養素の視点から説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	体の仕組みの基本という医療の業界における共通認識を学び職業的自立につなげることができる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
	(2)	体の仕組みの基礎知識を習得した事務員として活躍することができる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
	(3)	体の仕組み、物質の流れの学習を通して、論理的思考ができるようになる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
授業概要	生命の仕組み、人体の構造と働き、それらの名称やそこで用いられる専門用語を体の各器官別に学び、理解する。医学の基礎として、体の構造や働きを知ると同時にそこで行われる物質の移動、化学変化も概観していく。更に、疾病について、各器官の代表的な臨床例にも触れ、基礎知識の集積に努めていく。カウンターの向こう側、医療分野の一員として従事する者また介護サービスに関わる者に期待される、必要な医学的知識・用語等の意味を理解し活用できるようになる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	講義内容に関連した課題を用意する。文脈・内容・体裁・文字数・構成の工夫から理解度及び取り組みの姿勢を判断し、評価する。								
		平常点	30	授業の態度、関心、意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	専門的学習効果①②③④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名			出版社名							
	志村二三夫 他編	『解剖生理学 人体の構造と機能 第3版』			羊土社							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名			出版社名							
	志村二三夫 他編	『解剖生理学ノート 人体の構造と機能 改訂第2版』			羊土社							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①医療ベーシックユニット履修者必修。教科書で指示するので、予習復習(週に各2時間程度)を行い、確実に自身の知識として定着させること。 ②課題レポートについては実施後、適宜解説を行う。											

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス (医学一般で学ぶこと)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	この授業で学ぶ概要を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書の前書き部分をよく読み、全体に目を通しておくこと。	
	2回	授業内容	細胞と組織
学習成果	生命の基本単位である細胞の構造を説明できる。		
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	3回	授業内容	消化器系
学習成果	消化器系の仕組み働きを説明できる。		
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	4回	授業内容	血液・造血器・リンパ系
学習成果	血液の成分や作られ方を説明できる。		
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	5回	授業内容	循環器系
学習成果	循環器系の仕組みや調節方法を説明できる。		
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	6回	授業内容	呼吸器系
学習成果	呼吸器系の仕組みや機能を説明できる。		
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	7回	授業内容	腎・尿路系
学習成果	腎臓-尿路系の機能や調節の仕組みを説明できる。		
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	8回	授業内容	生殖器系
学習成果	生殖器の機能や仕組みを説明できる。		
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	9回	授業内容	骨格系
学習成果	骨格の構造、機能、名称を説明できる。		
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	10回	授業内容	筋肉系と運動機能
学習成果	筋肉や運動の機能、仕組みについて概要を説明できる。		
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	11回	授業内容	内分泌系
学習成果	内分泌系の機能・調節の仕組みについて概要を説明できる。		
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	12回	授業内容	神経系
学習成果	神経系について機能を説明できる。		
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	13回	授業内容	感覚器系
学習成果	感覚器系について概要を説明できる。		
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	14回	授業内容	免疫系
学習成果	免疫の働きについて概要を説明できる。		
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	
	15回	授業内容	皮膚組織、体温調節
学習成果	皮膚組織、体温調節について概要を説明できる。		
	予習復習の内容	教科書をよく読み、用語・概念の理解を進めること。	

科目名	疾病論				担当者	ワタナベ シゲ ヨ子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問等には、各講義の前後に対応する。											
専門的 学習成果	①	主な疾病の発症機序が説明できる。										
	②	主な疾病の症状が説明できる。										
	③	主な疾病の予防や早期発見の方法について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	医療事務職員として、医療スタッフのサポートが適切に行える。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	医療事務職員として、患者さんからの質問や相談に適切に対応できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	医療の現場で遭遇する機会が多い疾病について、症状や発症機序を解説する。また、疾病の発生要因を学び、その知識に基づいた病気の予防方法や早期発見・早期治療について解説を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	90	講義で説明した学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		平常点	10	講義中に行う理解度テストの解答内容から、授業への態度・関心・意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	井上泰		『疾病論』						健帛社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストを授業前に読んで、問題集の問題を解いてみる(予習：2時間程度)。講義終了後に内容を復習する(復習：2時間程度)。 ②教本の記載内容が理解できない、練習問題が解けない場合は質問すること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	鉄欠乏性貧血	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	鉄欠乏性貧血を説明できる。	
	予習復習の内容	鉄欠乏性貧血の定義を理解する。	
2回	授業内容	脳血管系疾患	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	脳卒中を説明できる。	
	予習復習の内容	脳血管系疾患の定義を理解する。	
3回	授業内容	高血圧	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	高血圧を説明できる。	
	予習復習の内容	高血圧の定義を理解する。	
4回	授業内容	心筋梗塞	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	心筋梗塞を説明できる。	
	予習復習の内容	心筋梗塞の定義を理解する。	
5回	授業内容	気管支ぜん息	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	気管支ぜん息を説明できる。	
	予習復習の内容	気管支ぜん息の定義を理解する。	
6回	授業内容	肺炎	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	肺炎を説明できる。	
	予習復習の内容	肺炎の定義を理解する。	
7回	授業内容	消化器系癌	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	主に胃癌、大腸癌について説明できる。	
	予習復習の内容	消化器系癌の定義を理解する。	
8回	授業内容	乳癌	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	乳癌を説明できる。	
	予習復習の内容	乳癌の定義を理解する。	
9回	授業内容	腎・泌尿器疾患	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	腎・泌尿器疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	腎・泌尿器疾患の定義を理解する。	
10回	授業内容	骨粗鬆症	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	骨粗鬆症を説明できる。	
	予習復習の内容	骨粗鬆症の定義を理解する。	
11回	授業内容	糖尿病	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	糖尿病を説明できる。	
	予習復習の内容	糖尿病の定義を理解する。	
12回	授業内容	中枢神経疾患	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	中枢神経疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	中枢神経疾患の定義を理解する。	
13回	授業内容	花粉症・アトピー性皮膚炎	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	花粉症・アトピー性皮膚炎を説明できる。	
	予習復習の内容	花粉症・アトピー性皮膚炎の定義を理解する。	
14回	授業内容	生活習慣病・メタボリックシンドローム	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	生活習慣病特にメタボリックシンドロームを説明できる。	
	予習復習の内容	生活習慣病およびメタボリックシンドロームの定義を理解する。	
15回	授業内容	感染症	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	国内外で発生している話題の感染症について説明できる。	
	予習復習の内容	インフルエンザ・新型コロナウイルス・結核・MRSA などについて理解する。	

科目名	医療と検査				担当者	渡 部 俊 彦						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問等にはメールで対応する											
専門的 学習成果	①	検査を行う目的と重要性が説明できる。										
	②	検査に関わる専門用語を説明できる。										
	③	主な疾患で行われる検査項目を挙げられる。										
	④	主な検査方法の概要を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	医療事務職員として、医療スタッフのサポートが適切に行える。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	医療事務職員として、患者さんの質問に適切に回答できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
授業概要	臨床検査がどのような目的で行われるのかを学ぶ。また、検査結果の意味を理解できるようになるために、検査方法の概要、疾病と検査との関係、検査に関わる専門用語などについても学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	100	講義で説明した内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	井上 肇		『検査・薬理学』				健帛社					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義前、講義後に講義内容に関する確認試験を行う。 その日講義する内容を教科書で確認すること（予習：2時間程度）。 また、講義終了後は確認試験を活用し、講義内容を理解できているか確認する。 理解できていない部分は、しっかりと復習すること（復習：2時間程度）。 ②確認試験を回収し、正解率が悪い項目については、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	検査の基礎知識	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	生理機能検査と献体検査の違いが説明できる。	
	予習復習の内容	生理機能検査と献体検査の定義を覚える。	
2回	授業内容	一般検査（尿検査・糞便検査、髄液検査・消化液検査など）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	一般検査の結果から、病態を予測することができる。	
	予習復習の内容	一般検査の検査目的を理解する。	
3回	授業内容	血液検査（ヘモグロビン、白血球、血液凝固）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	血液検査の結果から、病態を予測することができる。	
	予習復習の内容	血液を構成する細胞の働きを理解する。	
4回	授業内容	血液検査（血液型、輸血）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	血液検査の結果から、病態を予測することができる。	
	予習復習の内容	ABO式の血液型分類法を理解する。	
5回	授業内容	生化学的検査（蛋白質）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	抗体の役割を説明することができる。	
	予習復習の内容	赤ちゃんを母乳で育てる利点を理解する。	
6回	授業内容	生化学的検査（糖）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	糖から生命エネルギーを作り出す仕組みを説明することができる。	
	予習復習の内容	糖の生体内での役割を理解する。	
7回	授業内容	生化学的検査（糖尿病）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	糖尿病がどのような病気を説明することができる。	
	予習復習の内容	糖尿病が起こる原因を理解する。	
8回	授業内容	免疫学的検査で使用する基本的反応	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	免疫学的検査の結果から、病態を予測することができる。	
	予習復習の内容	免疫とは何かを理解する。	
9回	授業内容	アレルギー（Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ型）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	アレルギー（Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ型）によって引き起こされる病状を説明することができる。	
	予習復習の内容	アレルギー（Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ型）の発生メカニズムを理解する。	
10回	授業内容	アレルギー（Ⅲ、Ⅳ型）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	アレルギー（Ⅲ、Ⅳ型）によって引き起こされる病状を説明することができる。	
	予習復習の内容	アレルギー（Ⅲ、Ⅳ型）の発生メカニズムを理解する。	
11回	授業内容	感染症検査（ノロウイルス）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	ノロウイルスによる食中毒の予防方法を説明することができる。	
	予習復習の内容	ノロウイルスの感染経路を理解する。	
12回	授業内容	感染症検査（肝炎ウイルス）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	肝炎ウイルス感染を予防する方法を説明することができる。	
	予習復習の内容	肝炎ウイルスの感染経路を理解する。	
13回	授業内容	感染症検査（結核菌）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	結核菌感染を予防する方法を説明することができる。	
	予習復習の内容	結核菌の感染経路を理解する。	
14回	授業内容	遺伝子検査	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	遺伝子検査による診断理論を説明することができる。	
	予習復習の内容	親子鑑定、臓器移植とは何かを理解する。	
15回	授業内容	生理機能検査	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	生理機能検査の結果から、病態を予測することができる。	
	予習復習の内容	心電図とは何かを理解する。	

科目名	医療の制度				担当者	横尾由香						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	医療保険制度の全体像を理解し、概要を説明できる。										
	②	各種の健康保険制度を理解し、概要を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	医療保険制度の全体像をつかむことにより、幅広い教養を身につけ社会生活に活かすことができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	各種の健康保険制度を理解することにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	憲法で規定された「生存権」を保障するための社会保障制度の中で、医療機関は「医療保障制度」に深くかかわっている。国民が一定水準の適正な医療を安心して受けることができるために医療機関の施設・人的基準等の医療提供体制を定めている「医療法」、国民皆保険制度・現物給付制度・フリーアクセスを原則とする「健康保険法」等の医療保険に関する基本的な法律を学習することにより、専門的知識を持った医療従事者になることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	15	小テストを3回実施し、正答率に沿って5%ずつ評価を行う。								
		筆記試験	75	第15回目の授業において筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。								
	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『医療保障制度』(テキスト1)				ソラスト						
		『医療関連法規』				ソラスト						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習：週2時間程度)事後学習としては、単元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりすること。(復習：週2時間程度) ②小テストに対するフィードバックは、実施後に正解を示し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	医療機関の分類、保険医療機関	小テスト①を第3回に実施する
	学習成果	医療機関の分類、保険医療機関の施設基準等について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
2回	授業内容	医療保険とは	
	学習成果	国民皆保険、保険者と被保険者等について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
3回	授業内容	医療保険の分類、保険料	
	学習成果	社保、国保、保険料納付について、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
4回	授業内容	保険給付	小テスト②を第7回に実施する
	学習成果	療養の給付、入院時食事療養費、入院時生活療養費について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
5回	授業内容	保険給付	
	学習成果	保険外併用療養費、訪問看護療養費、療養費等について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
6回	授業内容	保険給付	
	学習成果	高額療養費の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
7回	授業内容	保険給付率、負担率	
	学習成果	年齢に応じた一部負担金を正しく計算できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
8回	授業内容	社保の種類	小テスト③を第10回に実施する
	学習成果	協会けんぽ、組合健保等について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
9回	授業内容	国保の種類	
	学習成果	一般国保、組合国保について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
10回	授業内容	後期高齢者医療制度	
	学習成果	後期高齢者医療制度について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
11回	授業内容	診療報酬請求	第15回に筆記試験を実施する
	学習成果	診療報酬請求の仕組みを理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
12回	授業内容	療養担当規則	
	学習成果	療養担当規則について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
13回	授業内容	療養担当規則	
	学習成果	療養担当規則について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
14回	授業内容	まとめ	
	学習成果	知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	総復習をする。	
15回	授業内容	筆記試験	
	学習成果	知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	総復習をする。	

科目名	医事・薬事法規				担当者	横尾由香						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	医療保障制度の全体像を理解し、概要を説明できる。										
	②	各種の公費負担医療等に関連する法規を理解し、概要を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	医療保障制度の全体像をつかむことにより、幅広い教養を身につけ社会生活に活かすことができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	各種の公費負担医療に関連する法規を理解することにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	憲法25条「生存権」を保障するための社会保障制度の中で、医療機関は医療保障制度に深く関わっている。前期の「医療の制度」で学習した医療保険制度の他に、医療従事者として知っておくべき様々な法律を学習する。医療機関において基本となる「医療法」や、「医療従事者に関する法規」、各種公費負担医療に関する法規、介護保険や労災保険、医薬品医療機器等法などを幅広く学習することにより、より専門的知識をもった医療従事者になることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	20	小テストを4回実施し、正答率に沿って5%ずつ評価を行う。								
		筆記試験	70	第15回目の授業において筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。								
	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『医療保障制度』				ソラスト						
		『医療関連法規』				ソラスト						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①「医療の制度」(1年前期)を履修していること。 テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習:週2時間程度)事後学習としては、単元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること。(復習:週2時間程度) ②小テストに対するフィードバックは、実施後に正解を示し、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	医療法	小テスト①を第3回に実施する
	学習成果 予習復習の内容	医療機関の施設基準や開設許可等について理解し、概要を説明できる。 テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
2回	授業内容	医療法	
	学習成果 予習復習の内容	医療機関の施設基準や開設許可等について理解し、概要を説明できる。 テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
3回	授業内容	医療従事者に関する法規	
	学習成果 予習復習の内容	医師法等について理解し、概要を説明できる。 テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
4回	授業内容	予防衛生に関する法規	小テスト②を第5回に実施する
	学習成果 予習復習の内容	感染症法等による医療について理解し、概要を説明できる。 テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
5回	授業内容	保健衛生に関する法規	
	学習成果 予習復習の内容	精神保健福祉法等による医療について理解し、概要を説明できる。 テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
6回	授業内容	薬事関連法規	小テスト③を第7回に実施する
	学習成果 予習復習の内容	医薬品医療機器等法等について理解し、概要を説明できる。 テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
7回	授業内容	薬事関連法規	
	学習成果 予習復習の内容	医薬品医療機器等法等について理解し、概要を説明できる。 テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
8回	授業内容	医療保険に関する法規	小テスト④を第10回に実施する
	学習成果 予習復習の内容	健康保険法等について理解し、概要を説明できる。 テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
9回	授業内容	社会福祉関連法規	
	学習成果 予習復習の内容	生活保護法等について理解し、概要を説明できる。 テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
10回	授業内容	介護保険法	
	学習成果 予習復習の内容	介護保険制度について理解し、概要を理解できる。 テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
11回	授業内容	療養担当規則	小テスト⑤を第13回に実施する
	学習成果 予習復習の内容	療養担当規則について理解し、概要を理解できる。 テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
12回	授業内容	その他の医療関連法規	
	学習成果 予習復習の内容	労災保険法等について理解し、概要を説明できる。 テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
13回	授業内容	その他の医療関連法規	
	学習成果 予習復習の内容	難病法等について理解し、概要を説明できる。 テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
14回	授業内容	まとめ	これまでの内容すべての筆記試験を15回目に実施する
	学習成果 予習復習の内容	これまでの知識の確認ができる。 総復習をする。	
15回	授業内容	筆記試験	
	学習成果 予習復習の内容	これまでの知識の確認ができる。 総復習をする。	

科目名	生命科学				担当者	丸 山 穰									
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回		授業形態		講義		学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間		講義		学年		開講期			
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。													
専門的 学習成果	①	生命の基本単位を理解し、説明できる。													
	②	ゲノム・遺伝子・発生と分化について各用語の意味と一連の流れを説明できる。													
	③	最新のバイオ技術と生命倫理について考察し、討議できる。													
	④	生命の大切さを理解し、生物多様性の保全について討議できる。													
汎用的 学習成果	(1)	生命現象の基本原則という医療の業界における共通認識を学び職業的自立につなげることができる。(専門的学習効果①②③④に関連)													
	(2)	生命科学の基礎知識を習得した事務員として活躍することができる。(専門的学習効果①②③④に関連)													
	(3)	生命科学の学習を通して、論理的思考ができるようになる。(専門的学習効果①②③④に関連)													
授業概要	人間を知るうえで非常に重要な基礎知識として、人間を含む生物の生命現象について概観する。ヒトの基礎としての生命の基本単位の細胞やゲノムについて学び、ヒトの生理として発生と分化、がん、感染と免疫をより深く探求し、ヒトと社会に関して、生命倫理や遺伝子技術・クローン技術等について考察する。また、生命科学分野の進歩は目覚ましく、生命に対する倫理観も急速に変化してきているため、ヒトゲノムやバイオテクノロジーの基礎知識について、最新のトピックスも取り入れながら学ぶ。														
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準											
	専門的 学習成果	定期試験													
		レポート	70	講義内容に関連した課題を用意する。文脈・内容・体裁・文字数・構成の工夫から理解度及び取り組みの姿勢を判断し、評価する。											
		平常点	30	授業の態度、関心、意欲を評価する。											
	汎用的 学習成果	専門的学習効果①②③④で評価を行う。													
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名									
	畠山 大	『身近な生化学 分子から生命と疾患を理解する』				羊土社									
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名									
	東京大学生命科学教科 書編集委員会/編	『現代生命科学 第3版』				羊土社									
	石浦章一	『小説みたいに楽しく読める生命科学講義』				羊土社									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①医療ベーシックユニット履修者必修。テレビや新聞等で、生命科学分野の話題に注目すること(週2時間程度)。毎回の講義の当該項目について、予め教科書を読んで概要を把握しておくこと(週1時間程度)。課題レポート作成に期間合計15時間程度。 ②課題レポートについては実施後、適宜解説を行う。														

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	生命科学と現代社会のかかわり 生物とは何か、起源と進化	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生命科学で扱う範囲と生物の定義を説明できる。	
2回	予習復習の内容	教科書の冒頭をよく読み、全体にも目を通し、「生命」について考える。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	細胞を構成する分子、生命科学	
3回	学習成果	生命の基本単位である細胞について構造と構成分子を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	細胞の構造と構成分子の確認を行う。	
4回	授業内容	生命はどのように設計されているか 細胞、遺伝情報	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	遺伝情報の伝達の仕組みを説明できる。	
5回	予習復習の内容	遺伝子、DNA、転写、翻訳など、用語や概念、仕組みを確認する。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	ゲノム情報はどのように発現するのか ゲノム、エピゲノム	
6回	学習成果	ゲノムという概念や発現を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
7回	授業内容	複雑な体はどのようにしてつくられるか 発生、分化	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	ゲノム情報がどのように利用されるか概要を説明できる。	
8回	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	脳はどこまでわかったか	
9回	学習成果	思考を司る脳について役割の概要を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
10回	授業内容	がんとはどのような現象か	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	がんの基本的な仕組みや治療方法について概要を説明できる。	
11回	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	食と健康の関係 消化、酵素、エネルギー	
12回	学習成果	食と物質移動、エネルギーの関係について概要を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
13回	授業内容	ヒトは病原体にどのように備えるか	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	病原体と免疫について概要を説明できる。	
14回	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	環境と生物はどのようにかかわるか 適応、生態系、生物多様性	
15回	学習成果	生物が環境の中で適応・進化してきたことを説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
16回	授業内容	生命科学技術はここまで進んだ	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	最先端の生命科学技術について例を挙げられる。	
17回	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	生命倫理はどこに向かいつつあるのか	
18回	学習成果	生命倫理について、概念の成立の過程と概要を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
19回	授業内容	生命や生物の不思議をどのように理解するか 1 (生命の不思議)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生命の誕生と進化の概要を説明できる。	
20回	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	授業内容	生命や生物の不思議をどのように理解するか 2 (生命の理解)	
21回	学習成果	生命現象の説明方法について、概要を説明できる。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	
22回	授業内容	私たちが今知っておくべき生命科学(まとめ)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	生命科学の明らかにしてきたこと、今後の課題について概要を説明できる。	
23回	予習復習の内容	各用語や概念、仕組みを確認する。	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。

科目名	医療事務				担当者	加藤 淳子						
区分	選択	4	単位	授業回数	30	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
授業時間数					60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	医療保険制度、公費負担制度、後期高齢者医療制度を学び、医療全体の仕組みを理解でき説明できる。										
	②	診療報酬の基礎を学び、診療報酬請求事務を理解し正しく請求ができる。										
	③	請求書である診療報酬明細書を正確に記入することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	日本国民が関わる医療の保険制度の種類や内容を学ぶことで、医療事務員として職業自立につなげる事ができる。(専門的学習成果：①)										
	(2)	診療費の計算は診療項目毎に規則があるためそれぞれの計算ルールを理解することで、正しく診療費の請求ができるようになる。(専門的学習成果：②③)										
授業概要	日本では国民皆保険が出来た事により、国民の誰もが保険で医療を受ける事が出来る。そこで医療保険制度、公費負担医療制度、後期高齢者医療制度の内容を理解する。医療機関は診療にかかった費用を患者様や保険先に請求する。この請求をするためには診療報酬請求事務をしっかりと学び、診療録(カルテ)から請求書である診療報酬明細書の作成が正確にできるように、多くの練習問題を解く。当校で目指す医療事務の資格を取得できるように学習する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	ニチイ学館		『医療事務講座 医科テキスト1～4』				ニチイ学館					
	ニチイ学館		『医療事務講座 医科スタディブック』				ニチイ学館					
	ニチイ学館		『医科 診療報酬点数表ハンドブック』				ニチイ学館					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①メディカルクラークの資格取得に必修。テキストを使用し授業を進めるため、必ずテキストを準備の上受講すること。多くの計算をするため、各自電卓を準備すること。この科目は専門用語が多く、事前にテキストを読み理解を深めておくこと。(予習：週1時間程度) 事後学習としては、毎時間学習した注意点を確認しながら宿題等の課題をこなし、技術を高めておく。(復習：週3時間程度) ②課題については実施後解答・解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	この授業の概要、医療事務とは、医療事務の仕組みについて	
	学習成果	本授業の目的と内容を理解できる。医療事務の業務内容や仕組みについて理解を深める。	
3・4回	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。	
	授業内容	投薬料の算定方法 内服薬・屯服薬・外用薬の違い	
5・6回	学習成果	内服・屯服・外用薬の違いを理解し、薬剤料の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、薬剤料の算定ができるように問題を解く。	
7・8回	授業内容	投薬料の算定方法 調剤料・処方料、その他加算など	
	学習成果	投薬料の調剤料、処方料など算定する項目を理解し、投薬料の算定が出来る。	
9・10回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、投薬料の算定ができるように問題を解く。	
	授業内容	投薬料 総合問題練習	
11・12回	学習成果	薬剤料、調剤料、処方料、その他の加算など理解し、投薬料の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、投薬料全般の問題を解く。	
13・14回	授業内容	注射料の算定方法 皮下筋肉内注射・静脈内注射	
	学習成果	注射の種類を知り、それぞれの算定方法を理解し注射料の算定が出来る。	
15・16回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、皮下筋、静脈内注射料の問題を解く。	
	授業内容	注射料の算定方法 点滴注射などその他の注射、注射料総合問題	
17・18回	学習成果	点滴注射、その他の注射を理解し、注射料の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、点滴、その他の注射の問題を解く。	
19・20回	授業内容	初診料・再診料の算定方法	
	学習成果	初診料、再診料の違いを理解し、初診、再診料の算定が出来る。	
21・22回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、初診、再診料の問題を解く。	
	授業内容	初診料・再診料の加算について	
23・24回	学習成果	時間外、休日、深夜などの加算を理解し、初診、再診料の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、加算を含む初診、再診料の問題を解く。	
25・26回	授業内容	投薬・注射・初診再診料含むカルテ内容から請求書を作成する	
	学習成果	ここまでの内容を含んだ診療内容を算定し、請求書を作成する事が出来る。	
27・28回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、請求書の作成をする。	
	授業内容	医学管理料、在宅医療の計算方法	
29・30回	学習成果	医学管理料の種類と在宅医療の算定方法を理解し、それぞれの算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、医学管理料、在宅医療の問題を解く。	
19・20回	授業内容	処置料の計算方法	
	学習成果	一般、救急、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科処置の算定方法を理解しそれぞれの算定が出来る。	
21・22回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの問題を解く。	
	授業内容	処置料含むカルテ内容から請求書を作成する。	
23・24回	学習成果	耳鼻咽喉科、整形外科の処置、ギプス料の算定方法を理解し、請求書作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの診療行為を算定し、請求書の作成をする。	
25・26回	授業内容	検査料の計算方法 検体検査について (1) 尿糞便等検査、血液学的検査	
	学習成果	尿糞便等、血液学的検査料の算定方法を理解し、算定が出来る。	
27・28回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの問題を解く。	
	授業内容	検査料の計算方法 検体検査について (2) 生化学的検査Ⅰ・Ⅱ、免疫学的検査など	
29・30回	学習成果	生科学的検査Ⅰ・Ⅱ、免疫学的検査の算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの問題を解く。	
19・20回	授業内容	検査料の算定方法 検体検査について (3) 微生物学的検査、練習問題	
	学習成果	微生物学的検査の算定方法を理解し、算定が出来る。	
21・22回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、検体検査全体の問題を解く。	

科目名	医療事務演習 I				担当者	加藤 淳子						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	診療報酬請求事務の問題を解き自分のレベルを確認できる。										
	②	診療報酬の基礎を学び、診療報酬請求事務を理解し正しく請求ができる。										
	③	入院料の基礎を学び、入院の診療報酬明細書を正確に記入する事ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	診療報酬請求事務に必要な知識と技術を確認し自分の苦手箇所を知り、レベルアップに繋げる。(専門的学習成果：①②)										
	(2)	診療費の計算は診療項目毎に規則があるためそれぞれの計算ルールを理解することで、正しく診療費の請求ができるようになる。(専門的学習成果：②③)										
授業概要	前期の医療事務で学んだ知識と技術で、診療報酬明細書の作成を迅速にかつ正確に作成できるように、診療項目の算定方法などを再度確認しながら、多くカルテ問題を解く。これにより医療事務の知識と診療報酬明細書の作成技術の向上ができる。メディカルクラークの資格を取得するための対策として、学生個々のレベルと苦手箇所を把握しかつ個人に合わせた様々な事例のカルテの問題を解く事で、苦手箇所の減少とレベルアップを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			前期の医療事務で使用した教材一式									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①1年前期で学習した「医療事務」の続きの学習となるため、授業に必要な教材、電卓の準備を忘れないこと。事前にテキストの該当部分を読み、ポイントを把握した上で授業に臨む。(予習：週1時間程度) ②宿題課題を課し翌週に提出する。採点、添削の上返却する。(復習：週1時間程度)										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	前期医療事務の復習 カルテを読み請求書作成 初再診料、投薬料、注射料含む	課題提出 これまでの内容と検査料を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	初再診料、投薬料、注射料の請求が出来る。	
3・4回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	授業内容	前期医療事務の復習 カルテを読み請求書作成 初再診料、投薬料、注射料、処置料含む	
5・6回	学習成果	初再診料、投薬料、注射料、処置料の請求が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
7・8回	授業内容	前期医療事務の復習 カルテを読み請求書作成 初再診、投薬、注射、処置、検体検査含む	
	学習成果	検体検査料を含む請求が出来る。	
9・10回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	授業内容	検査料の計算方法 生体検査について (1) 呼吸循環機能検査、超音波検査など	
11・12回	学習成果	呼吸循環機能、超音波検査の算定方法を理解し、請求書作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの問題を解く。	
13・14回	授業内容	検査料の計算方法 生体検査について (2) 脳波検査、耳鼻咽喉科学的検査など	
	学習成果	脳波検査、耳鼻咽喉科学的検査の算定方法を理解し、請求書作成が出来る。	
15・16回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの問題を解く。	
	授業内容	検査料の計算方法 生体検査について (3) 内視鏡検査	
17・18回	学習成果	内視鏡検査の算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、内視鏡検査を含む問題を解く。	
19・20回	授業内容	手術料の計算方法 手術料について	課題提出 これまでの内容と検査料を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	手術料の算定方法を理解し、算定が出来る。	
21・22回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	授業内容	手術料の計算方法 麻酔料、輸血料について	
23・24回	学習成果	麻酔料、輸血料の算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、手術料含む問題を解く。	
25・26回	授業内容	手術料を含むカルテ内容から請求書を作成する	
	学習成果	ここまでの内容を含んだ診療内容を算定し、請求書を作成する事が出来る。	
27・28回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、請求書の作成をする。	
	授業内容	画像診断料の計算方法 (1) エックス線診断料について	
29・30回	学習成果	単純撮影、造影剤使用撮影、特殊撮影などの算定方法を理解し、算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、画像診断料の問題を解く。	
31・32回	授業内容	画像診断料の計算方法 (2) コンピューター断層撮影料について	
	学習成果	CT撮影、MRI撮影の算定方法を理解し、算定できる。	
33・34回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、コンピューター断層撮影料の問題を解く。	
	授業内容	入院料の計算方法	
35・36回	学習成果	入院料の算定方法を理解し、算定が出来る。	課題提出 これまでの内容と検査料を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、入院料の問題を解く。	
37・38回	授業内容	入院時食事療養費について	
	学習成果	入院時食事療養費の算定方法を理解し、算定が出来る。	
39・40回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、入院料と食事療養費の問題を解く。	
	授業内容	総合問題練習 (1) 外来カルテ問題	
41・42回	学習成果	外来カルテを読み診療内容を算定し、請求書の作成が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、総合問題を解く。	
43・44回	授業内容	総合問題練習 (2) 入院カルテ問題	
	学習成果	入院カルテを読み診療内容を算定し、請求書の作成が出来る。	
45・46回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、総合問題を解く。	

科目名	医事コンピュータ（レセコン）				担当者	加藤 淳子						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける										
専門的 学習成果	①	医事コンピュータの操作ができる。										
	②	外来診療録の入力ができる。										
	③	入院診療録の入力ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	医事コンピュータの操作技術の習得により、専門的スキルを活用した業務に取り組むことができる（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	外来診療録、入院診療録の入力技術の習得により、専門的スキルを活用した業務に取り組むことができる（専門的学習成果②③に関連）										
授業概要	初めに医事コンピュータの役割を理解する。次に「カルテ例題集」を使用し、診療所、病院、様々な診療科や年齢、傷病名の診療内容を「診療報酬点数早見表」で確認しながら正確に入力できるようにする。様々な傷病名に対する検査内容や治療内容についても、できる限り理解しながら入力できるように指導する。各自入力したレセプトを適時出力させ、正確にチェックすることにより実践に役立つまでの力を身につけることができるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	課題を2回提出させ、5％ずつ内容に沿って評価を行う。								
		入力試験	80	第15回目の授業において入力試験を行い、正解率に沿って評価を行う。								
	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
		『カルテ例題集』						ケアアンドコミュニケーション				
		『スタディー 2』						ニチイ				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①診療報酬の内容をしっかりと身に付けておくこと。「カルテ例題集」を活用した入力により授業を進める。事前学習としては、入力内容について不明な点をあらかじめ調べておくこと、事後学習としては授業中に習得した入力上の注意点を各自ノート等にまとめておくこと。（週1時間程度） ②随時、入力レベルのチェックを行い、その都度解説をしていく。 ③飲食物持ち込み厳禁。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	基本操作、外来カルテ：初診料、再診料、投薬	第9回に課題を提出させる。	
	学習成果	基本的な操作方法を習得し、簡単な入力ができる。		
	予習復習の内容	基本操作の復習をする。		
2回	授業内容	外来カルテ：医学管理、注射		
	学習成果	医学管理、注射まで入力できる。		
	予習復習の内容	操作方法の復習をする。		
3回	授業内容	外来カルテ：在宅医療、処置		
	学習成果	在宅医療、処置まで入力できる。		
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
4回	授業内容	外来カルテ：手術、麻酔		
	学習成果	手術、麻酔まで入力できる。		
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
5回	授業内容	外来カルテ：検体検査		
	学習成果	検体検査まで入力できる。		
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
6回	授業内容	外来カルテ：病理診断		
	学習成果	病理診断まで入力できる。		
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
7回	授業内容	外来カルテ：生体検査		
	学習成果	生体検査まで入力できる。		
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
8回	授業内容	外来カルテ：画像診断		
	学習成果	画像診断まで入力できる。		
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
9回	授業内容	外来総合演習		
	学習成果	さまざまな外来カルテを入力できる。		
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
10回	授業内容	入院カルテ	第13回に課題を提出させる。	
	学習成果	外来と入院の違いに留意しながら入力できる。		
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
11回	授業内容	入院カルテ		
	学習成果	外来と入院の違いに留意しながら入力できる。		
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
12回	授業内容	入院カルテ		
	学習成果	外来と入院の違いに留意しながら入力できる。		
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
13回	授業内容	入院カルテ		
	学習成果	さまざまな入院カルテを入力できる。		
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
14回	授業内容	総合演習		第15回に入力試験を行う。
	学習成果	学習内容を総復習することができる。		
	予習復習の内容	総復習をしていく。		
15回	授業内容	まとめ（入力試験）		
	学習成果	学習内容を総復習することができる。		
	予習復習の内容	総復習をしていく。		

科目名	医療事務特別講座Ⅰ				担当者	加藤 淳 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	受付窓口での様々な問題を想定し、その対応を適切に実践できる。										
	②	医療保険制度、高齢者医療、公費負担医療等の知識の確認ができる。										
	③	診療報酬請求事務の請求書作成と点検ができる。										
	④	資格取得に向けて、検定試験の出題範囲を理解し、検定試験の対策方法を実践する。										
汎用的 学習成果	(1)	医療機関の受付窓口で行われる、様々な事例を通して医療事務の判断力、態度、説明性など身に付く。(専門的学習成果：①)										
	(2)	国民が関わる様々な保険制度を理解できる。(専門的学習成果：②)										
	(3)	カルテ内容から請求書作成と、点検作業ができる。(専門的学習成果：③④)										
	(4)	目標とする資格取得に向けて、傾向を把握し対策を行う。(専門的学習成果：①②③④)										
授業概要	様々な患者様が来院される医療機関での窓口対応では、常に臨機応変の対応が必要とされるため、受付担当者としての判断力、言葉遣い、態度、表現、説得性が求められる。窓口で想定される事例に沿って問題点を的確に把握し、常に相手の立場に立つ技術を身につける。医療保険制度、高齢者医療、公費負担医療等を理解する事で、窓口会計の計算が確実に実践できる。医療事務の資格の取得を目標に多くの過去問題を練習し資格取得に繋げることができる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
	汎用的 学習成果	平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
		汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③④で評価を行う。 (4) は、専門的学習成果①②③④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	ニチイ学館		『技能審査問題集 医科 問題編』				ニチイ学館					
	ニチイ学館		『技能審査問題集 医科 解答編』				ニチイ学館					
			前期科目医療事務で使用した教材一式									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①資格取得を目標としているため、事前に該当ポイントを把握した上で授業に臨むこと。(予習：週1時間程度必要) ②宿題課題を課し翌週に提出する。採点、添削の上返却する。(復習：週3時間程度)										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	外来カルテ問題 (1) 時間外等、幼児加算等を含む診療内容	課題提出 これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	時間外、幼児加算等を含む外来カルテを読み診療内容を算定し、請求書の作成が出来る。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、外来カルテの請求書を作成する。		
2回	授業内容	外来カルテ問題 (2) 初再診から検査料を含む診療内容	
	学習成果	初再診から検査を含む外来カルテを読み診療内容を把握し、請求書の作成が出来る。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、外来カルテの請求書を作成する。		
3回	授業内容	外来カルテ問題 (3) 初再診から手術、画像診断料を含む診療内容	
	学習成果	初再診から手術、画像診断を含む外来カルテを読み診療内容を把握し、請求書の作成が出来る。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、外来カルテの請求書を作成する。		
4回	授業内容	入院カルテ問題 (1) 入院料、手術、麻酔料を含む診療内容	
	学習成果	入院料、手術、麻酔を含む入院カルテを読み診療内容を把握し、請求書の作成が出来る。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、入院カルテの請求書を作成する。		
5回	授業内容	患者対応問題 (1) 診察券不備の患者様、薬をなくした患者様対応など	課題提出 これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	急な来院で診察券不備の患者様、処方した薬をなくした患者の対応が出来る。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、類似する事例に対応する。		
6回	授業内容	患者対応問題 (2) 健康診断後に診察する患者様、待たされて苦情を言う患者様対応など	
	学習成果	健康診断後に診察する患者様、待たされて苦情を言う患者様への対応が出来る。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、類似する事例に対応する。		
7回	授業内容	患者対応問題 (3) 会計で金額不足の患者様、保険証が変更になる患者様対応など	
	学習成果	金額不足の患者様、保険証が変更になる患者様への対応が出来る。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、類似する事例に対応する。		
8回	授業内容	学科問題 (1) 医療保険制度、公費負担制度、入院料、授業、処置などの算定	
	学習成果	医療保険制度、公費負担制度、入院料、授業、処置の算定が出来る。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。		
9回	授業内容	学科問題 (2) 療養担当規則、初再診料、医学管理、検査などの算定	
	学習成果	療養担当規則、初再診料、医学管理、検査の算定が出来る。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。		
10回	授業内容	学科問題 (3) 介護保険制度、窓口徴収額、注射などの算定	
	学習成果	介護保険制度、窓口徴収額、注射の算定が出来る。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。		
11回	授業内容	学科問題 (4) 法別番号、健康保険法、手術、麻酔などの算定	
	学習成果	法別番号、健康保険法、手術、麻酔の算定が出来る。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。		
12回	授業内容	実技問題 レセプト点検 (1) 外来問題2問	課題提出 これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	カルテ内容を読み間違っているレセプトを点検し修正・削除等を行い正しい請求書を作成する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。		
13回	授業内容	実技問題 レセプト点検 (2) 外来問題1問、入院問題1問	
	学習成果	カルテ内容を読み間違っているレセプトを点検し修正・削除等を行い正しい請求書を作成する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。		
14回	授業内容	実技問題 レセプト点検 (3) 外来問題3問	
	学習成果	カルテ内容を読み間違っているレセプトを点検し修正・削除等を行い正しい請求書を作成する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。		
15回	授業内容	実技問題 レセプト点検 (1) 外来問題3問、入院問題1問	
	学習成果	カルテ内容を読み間違っているレセプトを点検し修正・削除等を行い正しい請求書を作成する。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、間違った箇所を確認し整理しておく。		

科目名	医事業務				担当者	横尾由香						
区分	選択	4	単位	授業回数 30	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	通年	
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	医師事務作業補助者誕生の経緯を理解し、その必要性を説明することができる。										
	②	医療機関における個人情報の取り扱いや電子カルテについての注意事項について、述べることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	医師事務作業補助者誕生の経緯、その必要性を理解し、職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	医師事務作業補助者に必要な知識を習得することにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	医師事務作業補助者が誕生した背景として、医師不足や医師の過重労働という極めて深刻な現状がある。その現状をしっかりと理解し、医師事務作業補助者の技能を習得することにより医師の業務負担軽減につながる医療従事者になることを目指す。また、医師事務作業補助者に必要な個人情報の適切な取り扱い、電子カルテシステムについて、医療機関の安全管理、院内感染予防等について学習し、「医師事務作業補助者技能認定試験」合格レベルを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	レポートを提出させ、内容に沿って評価を行う。								
		小テスト										
		筆記試験	70	第15回目と第30回目の授業において筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。								
平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。										
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名			出版社名							
		『医師事務作業補助者養成講座 テキスト1・2』			ソラスト							
		『医療関連法規』			ソラスト							
		『医学入門』			ソラスト							
		『医療保障制度』(テキスト1)			ソラスト							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名			出版社名							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①「医師事務補助ユニット」履修者必修。医療の制度、医事業法規則も履修していること。テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習：週2時間程度)事後学習としては、単元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること。(復習：週2時間程度) ②小テストに対するフィードバックは、実施後に正解を示し、解説を行う。レポートに対するフィードバックは、添削を行う。											

授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	医師事務作業補助者とは	第6回にレポートを提出する
	学習成果	医師事務作業補助者の誕生経緯を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
2回	授業内容	医師事務作業補助者とは	16回
	学習成果	医師事務作業補助者の業務範囲を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
3回	授業内容	医師事務作業補助者とは	17回
	学習成果	医師事務作業補助者の業務範囲を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
4回	授業内容	医師事務作業補助者とは	18回
	学習成果	医師事務作業補助者の業務範囲を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
5回	授業内容	個人情報保護	19回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
6回	授業内容	個人情報保護	20回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
7回	授業内容	個人情報保護	21回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
8回	授業内容	個人情報保護	22回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
9回	授業内容	個人情報保護	23回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
10回	授業内容	個人情報保護	24回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
11回	授業内容	個人情報保護	25回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
12回	授業内容	個人情報保護	26回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
13回	授業内容	個人情報保護	27回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
14回	授業内容	個人情報保護	28回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
15回	授業内容	個人情報保護	29回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
16回	授業内容	個人情報保護	30回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
17回	授業内容	個人情報保護	31回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
18回	授業内容	個人情報保護	32回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
19回	授業内容	個人情報保護	33回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
20回	授業内容	個人情報保護	34回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
21回	授業内容	個人情報保護	35回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
22回	授業内容	個人情報保護	36回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
23回	授業内容	個人情報保護	37回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
24回	授業内容	個人情報保護	38回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
25回	授業内容	個人情報保護	39回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
26回	授業内容	個人情報保護	40回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
27回	授業内容	個人情報保護	41回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
28回	授業内容	個人情報保護	42回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
29回	授業内容	個人情報保護	43回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
30回	授業内容	個人情報保護	44回
	学習成果	個人情報保護について理解し、現場における注意事項まで説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	

科目名	医師事務補助特別講座Ⅰ					担当者	横尾由香					
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	様々な医療文書の役割、内容について説明することができる。										
	②	カルテを読み取り、各種の医療文書を代行作成することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	医療文書の役割を学習することにより、正確に文書の代行作成を行うことができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	医師事務作業補助者に必要な医療文書の代行作成技術を習得することにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	医療保険制度や公費負担医療等の概要を学習したうえで各種文書の利用目的を正確に理解することと、病名から必要な検査や治療を確認しながらカルテを丁寧に読み込む力を身に付けることにより、医療現場において迅速かつ正確に診療録の代り入力や医療文書作成などができる医師事務作業補助者になることを目指す。また、各種の医療文書を的確に作成できるようになることにより、「医師事務作業補助者技能認定試験」合格レベルを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	作成した医療文書を随時提出させ、内容に沿って評価を行う。								
		筆記試験	70	第15回目の授業において筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。								
	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
		『医師事務作業補助者養成講座 テキスト1・2』					ソラスト					
		『医療関連法規』					ソラスト					
		『医学入門』					ソラスト					
		『医療保障制度』(テキスト1)					ソラスト					
	『医師事務作業補助者 検定試験問題集』					ソラスト						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①「医師事務補助ユニット」履修者必修。 医療の制度、医事薬事法規も履修していること。 テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習：週2時間程度)事後学習としては授業中に行う練習問題の復習をしっかりすること。(復習：週2時間程度) ②授業中に行う練習問題に対して、その場でチェック・解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	診療録の記載について	随時、作成した文書を提出させ、内容により評価を行う。また、第15回に筆記試験を行う。
	学習成果	診療録の役割や構成を学び、文書作成に役立てることができる。	
予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
2回	授業内容	処方せんの記載について	
	学習成果	処方せんについて学び、代行作成をすることができる。	
予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
3回	授業内容	入院診療計画書、一般診断書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
4回	授業内容	入院・手術診断書、傷害保険診断書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
5回	授業内容	死亡診断書・死体検案書、出生証明書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
6回	授業内容	おむつ使用証明書、傷病手当金支給申請書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
7回	授業内容	出産手当金支給申請書、診療情報提供書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
8回	授業内容	医療要否意見書、自賠責保険診断書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
9回	授業内容	休業(補償)給付支給申請書、主治医意見書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
10回	授業内容	退院時要約、健康診断書	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
11回	授業内容	出産育児一時金支給申請書、臨床調査個人票	
	学習成果	文書の役割を理解し、代行作成をすることができる。	
予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
12回	授業内容	『医師事務作業補助者検定試験』実技問題	
	学習成果	問題集を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
予習復習の内容	ここまでの総復習、問題集の振り返り。		
13回	授業内容	『医師事務作業補助者検定試験』実技問題	
	学習成果	問題集を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
予習復習の内容	ここまでの総復習、問題集の振り返り。		
14回	授業内容	『医師事務作業補助者検定試験』実技問題	
	学習成果	問題集を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
予習復習の内容	ここまでの総復習、問題集の振り返り。		
15回	授業内容	筆記試験	
	学習成果	知識の確認ができる。	
予習復習の内容	全体の総復習をする。		

科目名	登録販売者資格特別講座Ⅰ (2学年は「登録販売者資格特別講座」)				担当者	丸山 穰・加藤 淳子・渡部 成子・渡部 俊彦						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	1学年は後期 2学年は前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	学内教員の丸山が窓口となって、非常勤講師陣への連絡や質問に対応する。											
専門的 学習成果	①	薬を服用する目的と重要性を説明できる。										
	②	薬に関わる専門用語を説明できる。										
	③	主な疾患の治療に使用される薬を挙げられる。										
	④	薬に関する法律・制度の概要を説明できる。										
	⑤	医薬品の使用方法を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	登録販売者として、医薬品を適切に提供することができる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)										
	(2)	登録販売者として、患者の質問に適切に回答できる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)										
授業概要	登録販売者の業務を遂行するために必要とされる知識を学ぶ。また、学んだ知識が登録販売者試験に活用できるように演習問題を使った学習を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	100	講義で説明した知識に関する試験を行い、知識を理解度・定着度の評価を行う。								
	汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2)は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	藤澤節子		『完全攻略 医薬品 登録販売者試験合格テキスト』						中央法規			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義する内容を教科書で確認すること(予習:1時間程度)。また、講義内容を理解できているかを練習問題を使って確認すること(復習:1時間程度)。 ②解説を見ても解けない練習問題があれば質問すること。質問についての回答は、講義中またはメールを用いて行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	薬の作用を知るための理論を学ぶ。	小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	医薬品の薬理作用を説明できる。	
予習復習の内容	代表的な医薬品の薬理作用に関する練習問題を解く。		
2回	授業内容	医薬品が人体に与える影響を学ぶ。	小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	医薬品の副作用を説明できる。	
予習復習の内容	医薬品の副作用に関する練習問題を解く。		
3回	授業内容	主な医薬品の効果や作用機序を学ぶ(1)。	小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	主な医薬品の効果や作用機序を説明することができる。	
予習復習の内容	主な医薬品の効果や作用機序に関する練習問題を解く。		
4回	授業内容	主な医薬品の効果や作用機序を学ぶ(2)。	小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	主な医薬品の効果や作用機序を説明することができる。	
予習復習の内容	主な医薬品の効果や作用機序に関する練習問題を解く。		
5回	授業内容	外用薬・禁煙補助薬・一般用検査薬等について学ぶ。	小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	外用薬・禁煙補助薬・一般用検査薬等の効果や作用機序を説明することができる。	
予習復習の内容	外用薬・禁煙補助薬・一般用検査薬等に関する練習問題を解く。		
6回	授業内容	薬事関係法規、制度について学ぶ。	小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	薬事関係法規や制度について説明することができる。	
予習復習の内容	薬事関係法規や制度に関する練習問題を解く。		
7回	授業内容	医薬品の適正使用、安全対策について学ぶ。	小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	医薬品を正しく、安全に使用方法を説明できる。	
予習復習の内容	医薬品を正しく、安全に使用方法に関する練習問題を解く。		
8回	授業内容	登録販売者試験の過去問を使い、1～7回目の内容についての復習とまとめを行う。	小テストを実施し、理解度を評価する。
	学習成果	登録販売者試験の過去問を解くことができる。	
予習復習の内容	登録販売者試験の過去問を解く。		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	ファッションビジネス				担当者	江 戸 純 美						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は、毎回授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	ファッション業界について客観的に理解でき、その流れを説明できる。										
	②	ファッションビジネスの歴史について理解でき、その概要を説明できる。										
	③	ファッション業界にかかわる者としての使命と責任について理解でき、概要を説明できる。										
	④	ファッション業界の課題を理解し、改善のための指針を提示できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたファッションビジネスに関する学習を通じて、ファッションに関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を修得し活用できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	ファッションマップの作成とプレゼンテーションを通じて、自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果①③④に関連)										
	(3)	ファッションマップの作成とプレゼンテーションを通じて、修得した知識や技能を活用し課題解決に向けた行動ができる。(専門的学習成果①③④に関連)										
授業概要	ファッション業界を、消費者側と企業側の両面からとらえ、マーケティング、マーチャンダイジング、ディストリビューション、ロジスティクス、小売り産業、VMD、消費者心理、計数管理等、多方面にわたって基礎知識を学ぶ。また、雑誌から写真の切り貼りを行うことで、マーケティングの分類方法を学び、ファッションを広い角度から理解する。同時に、「ファッションビジネス能力検定・3級」のファッションビジネス知識分野の対策を行い、プリント学習によって検定試験の合格を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	各自でショッピングリサーチを行い、期日までに提出する。各項目の理解の程度および完成度で評価を行う。								
		小テスト	30	3回実施し、各回10%を配点する。2～4回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
	課題	50	ファッションマップ作成を通して、様々なファッションイメージの分類を行う。第15回目にプレゼンテーションを行い、理解の程度および完成度で評価を行う。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①③④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本ファッション教育 振興協会	『ファッションビジネス [1] 改訂版』										
	日本ファッション教育 振興協会	『ファッションビジネス用語辞典 改訂第3版』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前にテキストの該当部分を読みポイントを把握したうえで(計15時間)授業に臨み、ファッションビジネス能力検定試験の受験を常に意識し、講義内容の理解を深めておく(計30時間)。また、小テストと課題の作成には十分な準備を行い(計15時間)理解の定着に努めること。課題の作成に必要な雑誌、ハサミ、ノリは各自で準備すること。 ②小テストは授業で返却し解説を行う。また、学習プリントも同様に解説を行う。レポートと課題は、授業の中で講評を行い、返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ファッションビジネスの概要、定義、特性、市場調査の基礎とショッピングリサーチの実践	小テスト(第1回～第4回までの内容) ・レポート提出
	学習成果	ファッションについて、客観的に考えることができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを予め読んでおくこと。リサーチしたい店舗をあらかじめ準備しておくこと。	
2回	授業内容	ファッション消費と消費者行動、ファッション表現	
	学習成果	消費者に関して、客観的に考えることができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを予め読んでおくこと。	
3回	授業内容	アパレル産業の概要	
	学習成果	商品の流れについて理解できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを予め読んでおくこと。	
4回	授業内容	小売り産業の概要	
	学習成果	店舗の特徴について理解できる。	
	予習復習の内容	普段から様々な店舗を見学しておくこと。	
5回	授業内容	ファッションマーケティングの基礎知識	小テスト(第5回～第8回までの内容)
	学習成果	マーケティングの必要性が理解できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを予め読んでおくこと。	
6回	授業内容	ファッションマーチャンダイジングの基礎知識	
	学習成果	商品の開発、企画の手順について理解できる。売り場の構成しくみやVMDの役割について理解できる。	
	予習復習の内容	人気商品の特徴など、人気の理由について考えてみる。普段から様々な店舗を見学しておくこと。	
7回	授業内容	ファッション流通、流通業務と小売企業の仕組み	
	学習成果	小売店の業種、業態について理解できる。	
	予習復習の内容	小売店の種類について確認しておくこと。	
8回	授業内容	会社の組織、計数管理の基礎知識	
	学習成果	電卓を使用し、店舗運営に必要な計算ができる。	
	予習復習の内容	会社の役割等について確認しておくこと。	
9回	授業内容	ファッションの歴史	小テスト(第9回～第10回までの内容)
	学習成果	衣服とデザインの歴史について理解し、概要を説明できる。デザイン画とその他の名称についても理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。人体のプロポーションについて、確認しておくこと。	
10回	授業内容	ファッションコーディネーションの基礎知識と企業の商品提案	
	学習成果	企業のスタイリングと個人のコーディネートの違いが理解できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
11回	授業内容	ファッションイメージ分類① 写真収集とグループ分け	課題の作成。 ファッションイメージ別、オケージョン別のマップ作成。
	学習成果	写真からイメージ分類を判断理解できる。	
	予習復習の内容	様々なジャンルの雑誌の準備、写真の収集(80体以上)を予めしておくこと。	
12回	授業内容	ファッションイメージ分類② グループ分けと貼付	
	学習成果	写真からイメージ分類を判断・理解できる。	
	予習復習の内容	様々なジャンルの雑誌の準備、写真の収集(80体以上)を予めしておくこと。	
13回	授業内容	オケージョンとスタイリング分類	
	学習成果	写真からオケージョン分類を判断・理解できる。	
	予習復習の内容	様々なジャンルの雑誌の準備、写真の収集(80体以上)を予めしておくこと。	
14回	授業内容	課題作成の仕上げとプレゼンテーション、講評	
	学習成果	課題作品によって自己表現ができる。	
	予習復習の内容	発表内容を予め準備しておくこと。	
15回	授業内容	検定対策授業 過去問と解説	
	学習成果	検定試験に向けての意識付けとスキルアップができる。	
	予習復習の内容	フィードバックされた内容を確認すること。	

科目名	ファッションアドバイザー				担当者	江 戸 純 美						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は、毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	ファッション販売にかかわる接客技術、販売知識、消費者心理について理解し、実践することができる。										
	②	ファッションビジネスに関する基礎知識を理解し、概要を説明できる。										
	③	店舗運営に関する基礎知識と、営業中のオペレーションの流れを理解し、概要を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたファッション販売に関する学習を通して、販売員の社会的地位向上に取り組むことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	多様化する消費者ニーズを把握し、課題解決の方法を提示できる。(専門的学習成果①③に関連)										
	(3)	ファッション業界が社会に与える影響を理解し、消費者への適切な提案ができる。(専門的学習成果①③に関連)										
授業概要	ファッションビジネスの基礎知識を学び、プロ販売員としての自覚を養うことを目的とする。接客・販売はもろんのこと、店舗運営や情報収集、計数管理などの様々な業務の流れについても、事例をあげながら解説を行う。同時に、ファッション販売能力検定3級 A 分野の対策授業であり、小テストや過去問題によるプリント学習を行い、検定の合格を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	課題	40	ファッションマップの作成を通して、様々なシルエットやアイテムの分類を行う。理解の程度と完成度で評価する。								
		レポート	20	各自でショップでの接客リサーチを行い、レポートにまとめ期日までに提出する。各項目の理解の程度および完成度で評価を行う。								
		小テスト	40	4回実施し、各回10%を配点する。2～4回分の授業内容について、理解の程度を評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	日本ファッション教育振興協会		『ファッション販売3』									
	日本ファッション教育振興協会		『ファッションビジネス用語辞典 改訂第3版』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前にテキストの該当部分を読みポイントを把握したうえで(計15時間)授業に臨み、ファッション販売能力検定試験の受験を常に意識し、講義内容の理解を深めておく(計30時間)。また、小テストとプリント学習には十分な準備を行い(計15時間)理解の定着に努めること。 ②小テストは授業で返却し解説を行う。また、学習プリントも同様に解説を行う。課題は第12回に講評を行い授業内で返却を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ファッションビジネスの概要について	小テスト 第3回に実施。 レポート・接客を受けてリサーチすること。期日までに提出。
	学習成果	ファッション業界を企業側の目線で考えることができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
2回	授業内容	ファッション専門用語解説①基礎用語について	小テスト(4～6回の内容)第6回に実施。
	学習成果	ファッション業界で使用する専門用語を理解し、使うことができる。	
	予習復習の内容	配布された資料に目を通しておくこと。	
3回	授業内容	接客の基本とコンサルティングセールス	小テスト(7～8回の内容)第8回に実施。
	学習成果	購買心理を理解し、接客の基本ステップを実践できる。	
	予習復習の内容	日頃から様々なサービスを受けてみること。	
4回	授業内容	販売スタッフの業務①	小テスト(4～6回の内容)第6回に実施。
	学習成果	開店から閉店までの仕事の流れを理解し説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
5回	授業内容	販売スタッフの業務②	小テスト(7～8回の内容)第8回に実施。
	学習成果	営業中の業務について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
6回	授業内容	販売スタッフの業務③ 備品、商品管理、店舗計数知識	小テスト(7～8回の内容)第8回に実施。
	学習成果	業務に関わる備品商品管理について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
7回	授業内容	店舗演出について	小テスト(7～8回の内容)第8回に実施。
	学習成果	店舗レイアウトや商品の見せ方について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
8回	授業内容	検定試験対策 過去問題	課題作成。 シルエット別、アイテムの名称別にマップを作成する。
	学習成果	検定試験に向けての意識付けとスキルアップができる。	
	予習復習の内容	フィードバックされた内容を確認すること。	
9回	授業内容	課題作成① シルエットの分類	課題作成。 シルエット別、アイテムの名称別にマップを作成する。
	学習成果	シルエットについて理解し、選択・収集することができる。	
	予習復習の内容	雑誌写真の収集は各自で行うこと、レイアウトを考えること。	
10回	授業内容	課題作成②	課題作成。 シルエット別、アイテムの名称別にマップを作成する。
	学習成果	シルエットについて理解し、選択・収集することができる。	
	予習復習の内容	雑誌写真の収集は各自で行うこと、レイアウトを考えること。	
11回	授業内容	課題作成③ アイテムのマップ作成 ブラウス、シャツ	課題作成。 シルエット別、アイテムの名称別にマップを作成する。
	学習成果	服の名称について理解し、選択・収集することができる。	
	予習復習の内容	雑誌写真の収集は各自で行うこと、レイアウトを考えること。	
12回	授業内容	課題プレゼンテーション講評 課題作成④ スカート、パンツ	課題作成。 シルエット別、アイテムの名称別にマップを作成する。
	学習成果	服の名称について理解し、選択・収集することができる。	
	予習復習の内容	雑誌写真の収集は各自で行うこと、レイアウトを考えること。	
13回	授業内容	課題作成⑤ ニット、コート	課題作成。 シルエット別、アイテムの名称別にマップを作成する。
	学習成果	服の名称について理解し、選択・収集することができる。	
	予習復習の内容	雑誌写真の収集は各自で行うこと、レイアウトを考えること。	
14回	授業内容	検定試験対策②店舗演出に関する過去問題	課題作成。 シルエット別、アイテムの名称別にマップを作成する。
	学習成果	検定試験に対する意識を持ち、合格を目指すことができる。	
	予習復習の内容	配布資料に目を通し、過去問題は繰り返しチャレンジすること。	
15回	授業内容	検定試験対策③ファッション販売業務に関する過去問題	課題作成。 シルエット別、アイテムの名称別にマップを作成する。
	学習成果	検定試験に対する意識を持ち、合格を目指すことができる。	
	予習復習の内容	配布資料に目を通し、過去問題は繰り返しチャレンジすること。	

科目名	カラーコーディネートⅠ				担当者	三 塚 由 美 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1・2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は、毎回授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	色彩の基礎を理解し、概要を説明することができる。										
	②	用途や目的に合わせた色を選択し、提案をすることができる。										
	③	色彩の知識を習得し、デザインなどの現場で活用することができる。										
	④	配色の基礎を理解し、適切な配色提案をすることができる。										
	⑤	色の心理的な効果を理解し、概要を説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた色彩の学習を通じて、色彩に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識・技術を習得し、活用することができる。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
	(2)	カード演習を通じて、目的に応じた色彩の選択・提案を行うことができる。(専門的学習成果②③④に関連)										
	(3)	色彩心理を理解し、生活に密着した安全で安心な色の使用方法を提案できる。(専門的学習成果①②⑤に関連)										
	(4)											
授業概要	色彩の基礎知識を学び、色の様々な効果や機能を理解する。安全な生活やデザインに色彩の知識を生かすため、配色カードによる演習を行い、目的に合わせた色の使い方を身に付ける。色彩能力検定3級の検定対策授業であるため、配色演習の他、プリント問題、過去問題による学習を中心に行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	40	全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
		小テスト	10	2回実施し各5%の配点とする。								
		平常点	50	テキスト中のカラーサークル作成、配色演習を時間内に完成させることで、評価を行う。10回実施し、各回5%を配点する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	色彩検定協会	『色彩検定公式テキスト3級編』 中古品の使用不可				色彩検定協会						
	日本色研事業㈱	『新配色カード199a』(リニューアル品)				日本色研事業						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①色彩能力検定3級の受験対策として開講する。テキストと配色カードの他、ハサミとノリを各自で準備すること。配色演習によって評価を行う回があるため、忘れ物がある場合には遅れをとることになるので注意が必要。 事前にテキストの該当部分を読みポイントを把握したうえで(計15時間)授業に臨み、色彩能力検定試験の受験を常に意識し、講義内容の理解を深めておく(計30時間)。また、プリント学習には十分な準備を行い(計15時間)理解の定着に努めること。 ②配色演習については、その都度詳しく説明を行うので、指示に従うこと。学習プリントや過去問題については、講義の中で解説し返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	色の三属性、光と色について	小テスト 2回目に実施
	学習成果	色の三属性と光の特性について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	配布資料に目を通しておくこと。	
2回	授業内容	色が見える仕組み、眼球の構造と脳への伝達について	
	学習成果	色が見える仕組みについて理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
3回	授業内容	PCCS ヒュートーンシステムと配色カードの使い方、カラーサークル作成	小テスト
	学習成果	ヒュートーンシステムを理解し、配色カードを使うことができる。	
	予習復習の内容	カードの裏面を確認し、記号と番号を覚えておくこと。	
4回	授業内容	色彩心理効果、色の表示方法、カラーサークル作成	カラーサークル作成
	学習成果	色の心理効果と三属性の関係を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
5回	授業内容	色名表示、等色相面、色立体、カラーサークル作成	カラーサークルの完成
	学習成果	色立体と色の配置、順序を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	カラーサークルは5回終了時まで完成させること。	
6回	授業内容	色の対比①対比現象とは 明度対比、配色演習	配色演習
	学習成果	対比について理解し、明度対比の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
7回	授業内容	色の対比②彩度対比、配色演習、プリント学習	配色演習
	学習成果	対比について理解し、彩度対比の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
8回	授業内容	色の対比③対比色相、配色演習	配色演習
	学習成果	対比について理解し、色相対比の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
9回	授業内容	色の対比④補色対比。配色演習、プリント学習	配色演習
	学習成果	対比について理解し、補色対比の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
10回	授業内容	色の同化効果、その他の色彩効果、配色演習	配色演習
	学習成果	色の対比効果と同化効果の違いを理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
11回	授業内容	配色とは 色相配色①同一色相配色、配色演習、プリント学習	配色演習
	学習成果	配色の意味を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
12回	授業内容	色相配色②隣接色相配色、類似色相配色、配色演習	配色演習
	学習成果	色相配色の計算方法を理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
13回	授業内容	色相配色③中差色相配色、対照色相配色、配色演習	配色演習
	学習成果	配色方法の計算方法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
14回	授業内容	色相配色④補色色相配色、配色演習、検定対策プリント学習	配色演習
	学習成果	配色方法の計算方法を理解し実践できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページと配布資料を読んでおくこと。	
15回	授業内容	検定対策過去問題解説	
	学習成果	過去の検定試験の傾向をつかみ、問題を解くことができる。	
	予習復習の内容	学習プリントと過去問題は、繰り返しチャレンジすること。	

科目名	カラーコーディネートⅡ				担当者	三 塚 由美子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は、毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	多様な配色方法を理解し、目的や機能に合わせた提案やアドバイスができる。										
	②	様々な事例について、色の使い方を分析し、応用、実践することができる。										
	③	色彩検定3級の受験にチャレンジし、資格を取得することで就職活動に生かすことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	多様な事例に対して、消費者への適切なアドバイスができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	資格取得に向けた色彩への取り組みを通じて、あらゆる方面への色彩活用を理解し、実践することができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	課題作品の作成を通して、自己表現と他者への理解ができる。										
授業概要	前期開講の「カラーコーディネートⅠ」に引き続いて、テキスト途中のトーン配色から開講する。配色カードを使って多様な配色方法について学び、スキルを身に付ける。様々な事例を用いながら解説し、実践に応用できるようレッスンを行う。また、色彩能力検定3級の受験対策授業であり、学習プリントや過去問題に繰り返しチャレンジし、合格を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		平常点	25	テキスト中の配色演習と配色類型の作成を時間内に完成または提出することで、評価を行う。5回実施し、各回5%を配点する。								
		課題提出	50	第11回～15回で課題を作成し、時間内に提出すること。理解の程度と完成度で評価を行う。各回10%を配点する。								
	小テスト	25	5回実施し、各回5%の配点とする。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)(2)(3)については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①②により評価を行う。 (2)は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (3)は専門的学習成果①②により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	色彩検定協会		『色彩検定公式テキスト3級編』 中古品の使用不可						色彩検定協会			
	日本色研事業株		『新配色カード199a』(リニューアル品)						日本色研事業			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①色彩能力検定3級の受験対策として開講する。そのため、「カラーコーディネートⅠ」の履修者に限って受講することができる。テキストと配色カードの他、ハサミとノリを各自で準備すること。配色演習と課題提出によって評価を行う回があるため、忘れ物がある場合には遅れをとることになるので注意が必要。 事前にテキストの該当部分を読みポイントを把握したうえで(計15時間)授業に臨み、色彩能力検定試験の受験を常に意識し、講義内容の理解を深めておく(計30時間)。また、プリント学習には十分な準備を行い(計15時間)理解の定着に努めること。 ②配色演習については、その都度詳しく説明を行うので、指示に従うこと。学習プリントや過去問題については、講義の中で解説し返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	トーン配色①同一トーン配色、類似トーン配色、配色演習	配色演習
	学習成果	トーンから考える配色を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
2回	授業内容	トーン配色②対照トーン配色、明度方向と彩度方向、配色演習	配色演習
	学習成果	トーンから考える配色を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
3回	授業内容	アクセントカラー、セパレーションカラー、グラデーション、配色演習	配色演習
	学習成果	色の面積配分、分離の目的、段階的变化について理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
4回	授業内容	生活と色彩	小テスト
	学習成果	生活全般にわたる色の効果について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
5回	授業内容	ファッションと色彩	小テスト
	学習成果	ファッションに必要な色の知識を深め、提案を実践できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
6回	授業内容	インテリア、環境と色彩	小テスト
	学習成果	インテリアや環境に必要な色の知識を深め、提案を実践できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
7回	授業内容	検定対策、過去問題解答解説	小テスト
	学習成果	色彩検定に向けて、過去問題に取り組み理解することができる。	
	予習復習の内容	配布資料と学習プリントに目を通しておくこと。	
8回	授業内容	検定対策、過去問題解答解説	小テスト
	学習成果	色彩検定に向けて、過去問題に取り組み理解することができる。	
	予習復習の内容	配布資料と学習プリントに目を通しておくこと。	
9回	授業内容	配色類型①2色～6色配色の作り方、配色演習	配色演習
	学習成果	多色配色による提案を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
10回	授業内容	配色類型②様々な配色類型、配色演習	配色演習
	学習成果	多色配色による提案を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
11回	授業内容	色彩分析①ファッションの色彩、課題作成、提出	課題提出
	学習成果	ファッションの配色の特徴を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
12回	授業内容	色彩分析②インテリアの色彩、課題作成、提出	課題提出
	学習成果	インテリアの配色の特徴を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
13回	授業内容	色彩分析③景観の色彩、課題作成、提出	課題提出
	学習成果	景観の配色の特徴を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
14回	授業内容	色彩分析④雑貨・小物の色彩、課題作成、提出	課題提出
	学習成果	雑貨・小物の配色の特徴を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
15回	授業内容	色彩分析⑤食品パッケージの色彩、課題作成、提出	課題提出
	学習成果	食品パッケージの配色の特徴を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	

科目名	ファッションデザイン				担当者	金澤千晶						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
授業時間数	30時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	2階204教室（洋裁室）の隣の研究室にいらして下さい。											
専門的 学習成果	①	ファッションデザインの歴史・過程を知り、各年代のデザイナーを知ることができる。										
	②	洋服のデザイン（シルエット・ディテール）の名称を知ることができる。										
	③	新たなデザインの発想をする力を身に付け、提案することができる。										
	④	フォーマルの場に着用する正しい服装を知ることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたフォーマルの場に着用する服装の学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果④に関連）										
	(2)	ファッションのデザインを発想し、デザイン画に表現することを通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果②③に関連）										
	(3)	ファッションデザインの種類や名称を学習することを通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
授業概要	衣服は人間が直接身につけるものであるため、非常に関心が高く、ファッションの個性化が求められる。基礎となるデザインを統計的に習得し、写真やイラストにより視覚的に理解することを目的とした。ファッションデザインの基礎的な知識や豊かで美的なデザイン発想力が養われるよう、デザインの発想法や美的形式原理などについて学ぶ。また、フォーマルスベシヤリスト検定準2級の合格を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	レポート課題を実施し、講義内容の理解の程度を評価する。								
		小テスト	10	授業内容の理解の程度を評価する。								
		筆記試験	70	第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②及び③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本フォーマル協会	『フォーマルウェア・ルールブック』				日本フォーマル協会						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	飯塚弘子・万江八重子 共著	『服飾デザイン論』				文化出版局						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①日常的にファッション誌の閲覧やファッションの流行などを意識し（計30時間）、講義内容の理解を深める。また、レポート・筆記試験の準備を行い（計30時間）、理解の定着に努めること。 ②レポートは返却し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	全15回の内容を理解できたか 資格の内容を理解できたか
	学習成果	取得できる資格について理解し、全15回の授業内容を知ることができる。	
	予習復習の内容	ファッションデザインに関心を持ち、ファッション誌など積極的に読むようにすること。	
2回	授業内容	デザインの意義	レポート（デザイン画制作）
	学習成果	デザインの語彙や歴史、創造性などについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	デザインについて理解し、発想ができるようにすること。	
3回	授業内容	デザインの分野	質問を通してデザインの分野を理解できたか
	学習成果	ファッションおよび他業界におけるデザインの分野を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	デザインを利用する業界を理解しておくこと。	
4回	授業内容	デザインの過程	質問を通してデザインの過程が理解できたか
	学習成果	デザインが生み出され、生産され、製品になっていく工程を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	一般的なデザインの過程とファッションの工場生産の流れを理解しておくこと。	
5回	授業内容	服装の意味	質問を通して服装の意味が理解できたか
	学習成果	服装の種類および服の役割について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	専門的な言葉の使い分けができ、服の役割を理解し、説明できるようにしておくこと。	
6回	授業内容	服装の美	質問を通して服装の美が理解できたか
	学習成果	デザイナーおよび服装の美しさについて、その条件を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	服装の美しさとは何か、内容美と形式美の違いについて理解しておくこと。	
7回	授業内容	美的形式原理	質問を通して美的形式原理が理解できたか
	学習成果	服装が美しく見えるテクニックについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	原理の5つのパターンについて、理解し、コーディネートできるようにすること。	
8回	授業内容	点と線のデザイン	質問を通して点と線のデザインを理解できたか
	学習成果	ファッションデザインにおける点と線を利用したデザインの種類と見え方の違いについて理解する。	
	予習復習の内容	点と線のデザインについて理解し、コーディネートの問題解決ができるようにすること。	
9回	授業内容	シルエットとディテール	小テスト（デザインの種類と名称について）
	学習成果	服装全体のシルエットの種類と細かなディテール部分のデザインの種類を知り、説明できる。	
	予習復習の内容	シルエットとディテールの違いとデザインの種類を理解し、説明できるようにしておくこと。	
10回	授業内容	服種と用途	小テスト（デザインの種類と名称について）
	学習成果	フォーマルとカジュアルのデザインおよびTPOに合わせたデザインを知ることができる。	
	予習復習の内容	TPOに合わせた服装を理解し、説明できるようにしておくこと。	
11回	授業内容	アクセサリ	小テスト（デザインの種類と名称について）
	学習成果	ネックレス、帽子、靴や宝石など、デザインの種類を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	アクセサリのデザインの種類を理解し、コーディネートできるようにすること。	
12回	授業内容	素材の効果性	筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回目に実施
	学習成果	柄やテキスタイルによる見え方の違いについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	テキスタイルについて理解し、説明できるようにしておくこと。	
13回	授業内容	色彩の役割	
	学習成果	色の基礎、感情、配色、流行色について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	色彩の原理について理解し、配色を利用してコーディネートできるようにすること。	
14回	授業内容	体型とタイプ	
	学習成果	人間の体型の種類、人格のタイプ、コーディネートのタイプについて理解し、コーディネートできる。	
	予習復習の内容	人と服の着装、スタイルについて理解し、コーディネートできるようにすること。	
15回	授業内容	服飾デザインにおける演習・まとめ	
	学習成果	全15回のまとめと筆記試験を行い、ファッションデザインの知識を習得しコーディネートできる。	
	予習復習の内容	この授業の内容全体について整理・確認しておくこと。	

科目名	洋裁実習				担当者	ラナ 金 澤 ナ チ アキ 晶						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	実習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		2階204教室（洋裁室）の隣りの研究室にいらして下さい。										
専門的 学習成果	①	洋裁の使用道具の使い方を覚え、体型に合う原型を製作することができる。										
	②	布地の特性を知り、基本的なデザインの作図および縫製することができる。										
	③	デザインに合わせたダーツやギャザーの入れ方が分かるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	服の製作の学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	自由な発想による襟や袖のデザインおよび縫製を通して、自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(3)	縫製テクニックを学習することを通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	ブラウスの製作実習を通して、被服造形のための理論と技術を学ぶ。原型の基礎から縫製の技術を習得し、部分的（衿・袖・カフス・裾など）に学生の自由なデザイン発想を取り入れ、応用・発展への能力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	第15回目に製作した作品に関するレポートについて評価を行う。								
		作品提出	60	第15回目に製作した作品について評価を行う。								
	平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①及び②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	文化服装学院		『文化ファッション大系 服飾造形講座① 服飾造形の基礎 文化服装学院編』				文化出版局					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続の授業。布地等の材料は各自準備する。洋裁用備品については一部貸出可能。事前に資料を配布するので、作業内容について、授業前に資料をよく読んでおくこと（計30時間）。 ②製作した作品が評価の対象となるため、毎時間ごとに製作した修正点などを見直し、手直し作業を行うこと。製作した部分について、毎時間、授業の時に点検し、講評する。										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	洋裁用具説明・採寸・原型作製（身頃の基礎線）	洋裁用具が分かり、原型の基礎線の作製
	学習成果	洋裁用具を知り、採寸および原型の作製に取りかかることができる。	
3・4回	予習復習の内容	洋裁用具が分かり、原型の基礎線を完成させる。	原型の身頃と袖の作製
	授業内容	原型作製（身頃の輪郭線）・原型作製（袖）	
5・6回	学習成果	原型の輪郭線と袖を完成させることができる。	ブラウスの型紙（身頃）の作製
	予習復習の内容	原型の見頃の輪郭線を描き、袖の原型を完成する。	
7・8回	授業内容	ブラウスの型紙作製（身頃）	ブラウスの型紙（衿）の作製
	学習成果	展開図であるブラウスの型紙の身頃を製作することができる。	
9・10回	予習復習の内容	ブラウスの型紙（身頃）を完成する。	ブラウスの型紙（袖）の作製
	授業内容	ブラウスの型紙作製（衿）	
11・12回	学習成果	ブラウスの型紙の衿を製作することができる。	裁断への取り組み
	予習復習の内容	ブラウスの型紙（衿）を完成する。	
13・14回	授業内容	ブラウスの型紙作製（袖）	印付けへの取り組み
	学習成果	ブラウスの型紙の袖を製作することができる。	
15・16回	予習復習の内容	ブラウスの型紙（袖）を完成する。	接着芯付けへの取り組み
	授業内容	布地の裁断	
17・18回	学習成果	型紙に合わせ、布地の裁断をすることができる。	身頃のダーツの縫製
	予習復習の内容	型紙に合わせ、布地の裁断を終える。	
19・20回	授業内容	印付け	身頃の肩・脇の縫製
	学習成果	チャコペーパーとルーレットで布地に本縫いの印を付けることができる。	
21・22回	予習復習の内容	布地に本縫いの印をつける。	身頃の肩・脇の縫製
	授業内容	接着芯付け・ミシンの使用方法について	
23・24回	学習成果	布地に接着芯を付け、ミシンの使用方法を知ることができる。	衿の作製
	予習復習の内容	布地に接着芯を付け、ミシンの使用方法を理解する。	
25・26回	授業内容	本縫い説明・示範・実習（身頃のダーツ）	衿の縫製（身頃に付ける）
	学習成果	身頃にダーツを入れることができる。	
27・28回	予習復習の内容	身頃にダーツの入れ方が分かり、実際に縫製する。	袖の作製
	授業内容	本縫い説明・示範・実習（身頃の肩・脇）	
29・30回	学習成果	身頃の肩・脇を縫製することができる。	袖の縫製（身頃に付ける）
	予習復習の内容	身頃の肩・脇を縫製をする。	
29・30回	授業内容	本縫い説明・示範・実習（衿作り）	レポート及び作品提出により評価を行う
	学習成果	身頃の衿を作ることができる。	
29・30回	予習復習の内容	身頃の衿の作製をする。	袖の縫製（身頃に付ける）
	授業内容	本縫い説明・示範・実習（袖作り）	
29・30回	学習成果	身頃の袖を作ることができる。	袖の縫製（身頃に付ける）
	予習復習の内容	身頃の袖の作製をする。	
29・30回	授業内容	本縫い説明・示範・実習（袖つけ）	レポート及び作品提出により評価を行う
	学習成果	身頃の袖を縫製することができる。	
29・30回	予習復習の内容	身頃の袖を縫製をする。	レポート及び作品提出により評価を行う
	授業内容	本縫い説明・示範・実習（ボタン付け・仕上げ）・レポート・作品提出	
29・30回	学習成果	ブラウスにボタンを取り付け、全体の仕上げを行う。また、レポートの記入をして作品を提出することができる。	レポート及び作品提出により評価を行う
	予習復習の内容	ブラウスを完成させ、レポート記入と作品の提出をする。	

科目名	和裁実習				担当者	佐藤 なおみ ・ 金澤 千晶						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1・2年	開講期	後期
授業時間数	60 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容の質問等については、毎回授業の前後に受け付ける。											
専門的 学習成果	①	和服の基礎が理解できる。										
	②	和裁の基礎技術・知識を身につける。										
	③	反物、布の扱いに慣れる。										
	④	自分自身で和服が着られようになる。										
	⑤	独自のアレンジを加える等、現代のファッションとしての着物を考える。										
汎用的 学習成果	(1)	民族衣装である和服が自ら着られようになる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	異文化に接した際にも、自分たちの文化を和服を通して説明できるようになる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(3)	課題である浴衣を最後まで自らの手で仕上げることによって、手作り、物を作る喜びを知り、消費社会における自分の立ち位置を再考確認する。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
授業概要	日本の民族衣装でありながら日常生活において触れる事も着る機会も少なくなった「きもの」だが、浴衣(ゆかた)を実際に自分の手で縫うことによって和服、和裁にふれてみる。その過程で日本の気候風土に根ざした衣服の意匠(形・柄)を知るとともに、そこに施された知恵と工夫を学ぶこととする。又、現代のファッションにおいて着物の構造や色彩、柄等が見直される事もあり、洋服・洋裁だけではなく和服の知識を習得し、服飾において幅広くいかす事が出来る。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		作品製作過程	40	授業内容を理解し、スムーズかつ丁寧に作業が出来ているか評価する。								
		作品提出	40	期限内に完成し提出する。又は、未完成でも進捗により評価する。								
平常点	20	授業への取り組み、意欲、態度により評価する。										
汎用的 学習成果	(1)は、①により評価する。 (2)は、①～④により評価する。 (3)は、①～⑤により評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名			出版社名							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名			出版社名							
	土井幸代	『和裁』			同文書院							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①布地(浴衣用反物、又は木綿地)その他裁縫道具(針、縫い糸等)は各自用意する。布地、裁縫道具、プリント等を忘れずに持ってくる。プリントと説明を聞きのがす事なくスムーズに実技に入れるようにする。②提出された作品の採点后、成果について説明する事により結果のフィードバックを行う。(15時間)											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンス、和服の基礎的な成り立ちを知る。	浴衣の成り立ちを知り手縫いで部分縫いを始める。
	学習成果	授業内容の理解。	
3・4回	予習復習の内容	ガイダンスの内容を理解し、次回まで必要な材料を準備する。	第2回から第14回まで作品製作への取り組み
	授業内容	採寸、寸法の割り出し・柄合わせ、裁断①	
5・6回	学習成果	製作課題の浴衣製作の準備の完了	
	予習復習の内容	製作内容を理解し次回までの準備	
7・8回	授業内容	柄合わせ、裁断②、背縫い①	
	学習成果	和服の柄の置き方、反物の扱い方を習得する。	
9・10回	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
	授業内容	背縫い②、身頃の標付け①	
11・12回	学習成果	基本的な縫い方、標付けの技術の習得。	
	予習復習の内容	製作する作品の全体像(独自のアレンジ等)を考える。	
13・14回	授業内容	身頃の標付け②、肩当て、居敷当てつけ	
	学習成果	肩当て等、和服独特の仕立てを理解する。	
15・16回	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
	授業内容	脇縫い、脇縫い代始末①	
17・18回	学習成果	数種類の縫い方の習得。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
19・20回	授業内容	脇縫い、脇縫い代始末①脇縫い代始末②	
	学習成果	数種類の縫い方を習得する。	
21・22回	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
	授業内容	衿付け、衿縫い代始末①	
23・24回	学習成果	和服の独特の衿について理解する。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
25・26回	授業内容	衿付け、衿縫い代始末②	
	学習成果	和服独特の衿について理解する。	
27・28回	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
	授業内容	衿下、裾始末、衿付け①	
29・30回	学習成果	新しい縫い方を習得する。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
29・30回	授業内容	衿付け②、衿付け始末	作品の完成、着付けの技術の取得
	学習成果	新しい縫い方を習得する。	
29・30回	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
	授業内容	袖縫い	
29・30回	学習成果	洋服と和服の袖の違いを理解する。	
	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
29・30回	授業内容	袖縫い、袖付け、袖付け始末①	
	学習成果	洋服と和服の袖の違いを理解する。	
29・30回	予習復習の内容	授業で終わらなかった作業を次回まで終わらせる。	
	授業内容	袖付け始末②、全体の仕上げおよびたたみ方	
29・30回	学習成果	和服のたたみ方、扱い方を習得する。	
	予習復習の内容	次回までに完成させる。	
29・30回	授業内容	まとめ、着付け、作品提出	
	学習成果	自分で着られようになる、帯等の小物類のコーディネートが出来る。	
29・30回	予習復習の内容	着方、帯結びを忘れないよう練習する。	

科目名	ファッションコーディネーター				担当者	金 澤 千 晶						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	2階204教室（洋裁室）の隣りの研究室にいらして下さい。											
専門的 学習成果	①	スタイリストとしての基本を習得することができる。										
	②	トータルスタイリングについて知ることができる。										
	③	ファッション商品について理解を深めることができる。										
	④	ファッションショーのコーディネーターの提案ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	トータルスタイリングの学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果①に関連）										
	(2)	ファッションのコーディネーターを通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果②に関連）										
	(3)	スタイリストの基本やファッションコーディネーターを提案することの学習を通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。（専門的学習成果③に関連）										
授業概要	ファッションコーディネーターとはあらゆるモノの組合せに伴う調整、調和などの技術の提案である。ファッションに関する基本的な商品知識やファッションコーディネーターに必要な基本的な知識や技術などを具体的に取り上げ、実践してゆく。さらに、次年度のファッションショーに向けて、ショーに関わる仕事内容を理解し、ショーの構成、テーマやコンセプト、衣装のデザイン、モデルの選定など、実施に向けて企画を行い、2年次の4月から衣装製作に取り組みるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	レポート課題を実施し、講義内容の理解の程度を評価する。								
		平常点	30	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	文化服装学院		『コーディネーターテクニク 演出編』						文化出版局			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①提出課題に必要な準備物（色鉛筆など）については、その都度説明するので、各自が用意すること。授業前に資料・テキストをよく読んでおくこと（計30時間）。 また、授業終了後、毎時間ごとに課題に取り組み（計30時間）、理解の定着に努めること。 ②レポート課題については、添削し返却する。										

授業計画				学習成果の評価	
1回	授業内容	コーディネーターのスペシャリスト/スタイリストとコーディネーター		(教員：三塚)	
	学習成果	コーディネーター、アドバイザー、スタイリストの共通点・相違点を理解し、説明できる。			
	予習復習の内容	ファッションに関する様々な職業について調べておくこと。			
2回	授業内容	ファッションコーディネーターの必要性/スタイリストとは		(教員：三塚)	
	学習成果	スタイリストの仕事内容について理解し、説明できる。			
	予習復習の内容	スタイリストの仕事内容について、調べてみる。			
3回	授業内容	スペシャリストに必要な知識/20世紀ファッションの歴史とデザインの4要素		(教員：三塚)	
	学習成果	ファッションやデザインの歴史について理解し、説明できる。			
	予習復習の内容	ファッションデザインのリバイバルについて、理解を深めること。			
4回	授業内容	ファッションと流行/ファッショントレンドサイクル、最新コレクション情報DVD		(教員：三塚)	
	学習成果	トレンド予測について理解し、コレクション情報を活用できる。			
	予習復習の内容	トレンド予測とインスピレーションについて、理解を深めること。			
5回	授業内容	ファッションコーディネーターの基本的な知識と技術		(教員：三塚)	
	学習成果	コーディネーターの目的について理解し、説明できる。			
	予習復習の内容	マーケティング分類方法について、復習しておくこと。			
6回	授業内容	ファッションコーディネーターとは/様々な要素に視点を置いたコーディネーター		(教員：三塚)	
	学習成果	カラー、シルエット、素材、ライフスタイルなどに視点を置いたコーディネーターができる。			
	予習復習の内容	デザインの4要素とライフスタイルについて復習しておくこと。			
7回	授業内容	課題作成と提出		(教員：三塚)	
	学習成果	与えられた条件の下で適切なコーディネーター提案を行い、時間内に提出できる。			
	予習復習の内容	課題内容は事前に説明するので、準備物等忘れ物のないようにすること。			
8回	授業内容	ファッションショーの説明・スタイリストについて		(教員：金澤)	
	学習成果	ファッションショーのスタイリストに求められる資質と役割について理解する。			
	予習復習の内容	ファッションショーの制作過程やショーに関わる職種の内容について理解し、説明できるようにすること。			
9回	授業内容	ファッションショーの演出・衣装のコーディネーター・シーン（場面）説明		(教員：金澤)	
	学習成果	映像で複数のショーを視聴し、ショーの演出方法、衣装、シーン構成について学ぶことができる。			
	予習復習の内容	インターネット等で各種のファッションショーを見て、演出・衣装等を見て理解を深めること。			
10回	授業内容	ファッションショーのテーマ決定		(教員：金澤)	
	学習成果	次年度、自分たちが開催するショーのテーマを決定することができる。			
	予習復習の内容	各種のファッションショーを見て、実施するショーに取り入れたいことをピックアップしておくこと。			
11回	授業内容	シーン（場面）コンセプト決定・メンバー決定及び役割分担		(教員：金澤)	
	学習成果	ショーのシーン（場面）それぞれのコンセプトとメンバー、役割分担を決めることができる。			
	予習復習の内容	ショーのコンセプトに合った衣装のイメージをを考えておくこと。			
12回	授業内容	デザイン画作成（各シーンの提案）		(教員：金澤)	
	学習成果	各シーンごとに衣装のデザインの話し合いや型紙を調べることができる。			
	予習復習の内容	衣装の型紙等を次回の授業に持参したり、自分の考えを説明できるようにすること。			
13回	授業内容	デザイン画作成（各シーンの打合せ）		(教員：金澤)	
	学習成果	コンセプトに合わせた各シーンのデザイン画を描き、型紙を決定することができる。			
	予習復習の内容	インターネット等で複数のショーの衣装を見たり、衣装の情報収集や型紙等を探しておくこと。			
14回	授業内容	デザイン画作成（各シーンの決定）		(教員：金澤)	
	学習成果	シーンのメンバーと話し合いを通してデザイン画を描き直し、各シーンごとに最終的な衣装のデザインを決定することができる。			
	予習復習の内容	衣装の素材などについて、布地の店舗で見たり、インターネット等で情報収集すること。			
15回	授業内容	デザイン画作成（材料について検討）・まとめ		(教員：金澤)	
	学習成果	各シーンごとに衣装に必要な材料をまとめ、費用等の計算、型紙の整理などを行い、来年度の製作方法を知ることができる。			
	予習復習の内容	布地など必要な材料を店舗で調べておくこと。			

科目名	ヘアメイク				担当者	ラナ 金 澤 千 晶						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	実習	学年	1・2年	開講期	後期集中
教員との連絡方法 質問等の受付方法		2階204教室（洋裁室）の隣りの研究室にいらして下さい。										
専門的 学習成果	①	髪の毛のケア、スタイリング方法、髪に優しいヘアアイロンの使用方法やテクニックを実践できる。										
	②	ヘアスタイルのアレンジの種類について、ダウンスタイル・ハーフアップスタイル、アップスタイルのテクニックをマスターすることができる。										
	③	服装に合わせたヘアスタイル（アレンジ）やメイクを提案することができ、ステージショー向けのヘアメイクをモデルさんにすることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	身だしなみを整えるヘアセットやメイクの方法に関する学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	ヘアアレンジやメイクのテクニックに関する学習を通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(3)	日常のヘアメイクだけでなく、TPOに合わせたアレンジを実践していく学習を通して、修得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	ヘアケアを含めながら日常用のヘアセットを基本に学び、舞台やダンス、各種のショーなどで使用する衣装に合わせたアーティスト的なヘアメイクのデザインなど、創造性の高いヘアメイクまで実践できるように、テクニックを身につける。カットマネキンを使用し練習を重ね、最終的には人頭にヘアメイクし、ファッションショーなどステージに立つモデルにセットできるように、ヘアメイクの技術を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		作品提出	40	映像やヘアメイクなど製作した作品について評価を行う。								
		平常点	60	授業の態度・関心・意欲・ファッションショーへの取り組み姿勢を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続の授業。ヘアセット用品については実習費（10,000円）の自己負担がある。授業ごとに取り組んだ内容を振り返り、練習をすること（計30時間）。 ②練習した成果が次回の授業内容に反映されるので、その際に上達具合をチェックし、講評する。										

授業計画			学習成果の評価		
1回	授業内容	ヘアメイクの授業概要の説明、材料について			ヘアメイクの授業内容の理解
	学習成果	TPOに合わせたヘアメイクを知ることができる。全15回の講義の流れ、材料について理解することができる。			
	予習復習の内容	ヘアメイクの授業内容、材料、ヘアメイクの目的や概要について理解する。			
2回	授業内容	マネキンを使用して、コームの使用方法、ブロッキング方法、ピン留めの基本			コームの使用方法、ブロッキングの取り組み
	学習成果	コームの使い方を学び、ブロッキングの仕方や、ピン留めの方法を学ぶことができる。			
	予習復習の内容	コームの使用方法、ブロッキングやピン留めの練習をする。			
3回	授業内容	ピン留めをキレイに留められるようにマスターする。			ピン留めの取り組み
	学習成果	基本のピン留めから応用のピン留めまでキレイに留められるようになる。			
	予習復習の内容	マネキンを使用して、ピン留めの練習をする。			
4回	授業内容	三つ編み、編み込み（表編み、裏編み、片編み、ツイスト編み等）			三つ編み、編み込みの取り組み
	学習成果	三つ編み、編み込み（表編み、裏編み、片編み、ツイスト編み等）をすることができる。			
	予習復習の内容	マネキンを三つ編み、編み込みの練習をする。			
5回	授業内容	ハードスプレーの使用方法、逆毛のテクニック、ボンパドールについて			逆毛やボンパドールの取り組み
	学習成果	ハードスプレーの使用方法、逆毛のテクニック、ボンパドールをすることができる。			
	予習復習の内容	マネキンを使用して、ハードスプレーを使用して逆毛やボンパドールをする。			
6回	授業内容	ストレートアイロンやカールアイロンのテクニック（ストレート、内巻き、外巻き、ミックス巻き等）			ヘアアイロンの使い方の取り組み
	学習成果	ストレートアイロンやカールアイロンのテクニックをマスターすることができる。			
	予習復習の内容	ストレートアイロンやカールアイロンで、ストレート・内巻き・外巻き・ミックス巻きの練習をする。			
7回	授業内容	ダウンスタイルのセット			ダウンスタイルへの取り組み
	学習成果	前髪の作り方やストレートや巻き髪など、ダウンスタイルを完成することができる。			
	予習復習の内容	マネキンを使用して、ダウンスタイルの練習をする。			
8回	授業内容	基本的なハーフアップスタイルのセット			基本のハーフアップスタイルへの取り組み
	学習成果	ハーフアップの盛り方など、基本的なハーフアップスタイルをセットをすることができる。			
	予習復習の内容	マネキンを使用して、盛り方などハーフアップスタイルの練習をする。			
9回	授業内容	片流しなどハーフアップスタイルのセット			片流しのハーフアップスタイルへの取り組み
	学習成果	片流しのハーフアップスタイルのセットをすることができる。			
	予習復習の内容	マネキンを使用して、片流しのハーフアップスタイルの練習をする。			
10回	授業内容	基本のアップスタイルからパーティー用のスタイル			洋風のアップスタイルへの取り組み
	学習成果	アップスタイルの方法について、基本からパーティー用のスタイルをセットすることができる。			
	予習復習の内容	マネキンを使用して、アップスタイルの練習をする。			
11回	授業内容	和髪用のアップスタイル			和風のアップスタイルへの取り組み
	学習成果	和髪のアップスタイルをセットすることができる。			
	予習復習の内容	マネキンを使用して、和髪のアップスタイルの練習をする。			
12回	授業内容	ステージ用のヘアアレンジ			ステージ上のヘアスタイルへの取り組み
	学習成果	ステージ用のヘアスタイル、アレンジ、リボンヘアなど応用的なスタイルを提案し、セットすることができる。			
	予習復習の内容	ステージ上で魅力的なヘアスタイルの練習をする。			
13回	授業内容	小物を使用したステージ用のヘアアレンジ			クリエイティブなヘアスタイルへの取り組み
	学習成果	花、わた、紐など小物を使用したアートのスタイルを提案し、セットすることができる。			
	予習復習の内容	ステージで映えるアートのスタイルの練習をする。			
14回	授業内容	ファッションショーなどステージ用のヘアメイク検討、提案、実践			ステージ用のヘアメイク検討の取り組み
	学習成果	ステージ用のヘアメイクのアイデアを出し、実際に練習することができる。			
	予習復習の内容	ステージ用のヘアメイクを検討し練習する。			
15回	授業内容	課題に合わせたステージ用のヘアメイク（タイムチェック）			ステージ用のヘアメイクの時間計測、ヘアセットの取り組み
	学習成果	ショー用の課題のヘアメイクを実際に行い、タイムを計測する。			
	予習復習の内容	ステージ用のヘアメイクが規定の時間内に終わるように練習し、マスターする。			

科目名	ネイリスト検定講座				担当者	千 葉 照 実						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	爪の構造を理解し説明できる。										
	②	衛生管理について理解し説明できる。										
	③	ネイル材料について理解し説明できる。										
	④	JNEC ネイリスト技能検定試験3級取得のための知識と技術を実践することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	ネイリストに必要な知識と技能を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(2)	ネイリストとして人との関わりに必要な自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、協働することができる。(専門的学習成果④に関連)										
	(3)	習得した専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。(専門的学習成果①～④に関連)										
授業概要	身体の一部である爪の構造を理解し、ネイリスト技能検定試験受験に必要な内容の理解を深め知識と技術及びネイルアートを学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		提出物	40	授業中に制作した作品を評価								
		実習	40	実技や模擬試験時の手順や課題達成を評価								
	平常点	20	授業への関心・意欲・態度を評価									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名		出版社名								
	NPO 法人日本ネイリスト協会・教育委員会	『JNA テクニカルシステム・ベーシック』		NPO 法人日本ネイリスト協会								
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①クラス内で2人1組の相モデルでの実技練習になるため、やむをえない理由以外での欠席をしないように心がける。 材料の不備があると実習不可の為、忘れず毎回持参する。 実習費23,100円(税込)がかかるので注意する事。 準備学習として検定試験の筆記に対して対策プリントを渡し自宅にて週1時間程度の学習後翌週に提出する。 ②実技・筆記ともに模擬テストを行い、フィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ネイルケアー概論	授業への関心・意欲・態度を評価 授業中に制作した作品を評価 実技の手順や課題達成を評価	
	学習成果	ネイリスト技能検定試験の概要を説明できる。		
	予習復習の内容	テキストを熟読する。		
2回	授業内容	爪の構造と材料の理解		
	学習成果	爪の各部位の名称を述べることができる。		
	予習復習の内容	次回までに爪の各部位の名称を覚えてくる。		
3回	授業内容	ネイルケアー実技(削り方)		
	学習成果	爪の削り方について実施できる。		
	予習復習の内容	削り方を反復練習してくる。		
4回	授業内容	ネイルケアー実技(キューティクルカット)		
	学習成果	キューティクルカットが実施できる。		
	予習復習の内容	ニッパーの取り扱いの練習		
5回	授業内容	ネイルケアー実技(キューティクルカット)		
	学習成果	キューティクルカットが実施できる。		
	予習復習の内容	ニッパーの取り扱いの練習		
6回	授業内容	ネイルケアー実技(カラーリング)		
	学習成果	カラーリング技法が実施できる。		
	予習復習の内容	チップにカラーリングしてくる。		
7回	授業内容	ネイルケアー実技(課題アート)		
	学習成果	3級試験の課題アート実技を実践できる。		
	予習復習の内容	5種類のアートを描いてくる。		
8回	授業内容	ネイルケアー実技(課題アート)		
	学習成果	3級試験の課題アート実技を実践できる。		
	予習復習の内容	モデルを決定する。		
9回	授業内容	検定試験受験の心得	授業への関心・意欲・態度を評価	
	学習成果	ネイリスト技能検定試験の概要を手順どおり実践できる。		
	予習復習の内容	検定試験の手順通り練習し、制限時間内に終われる練習をする。		
10回	授業内容	通し練習		
	学習成果	ネイリスト技能検定試験の概要を手順どおり実践できる。		
	予習復習の内容	検定試験の手順通り練習し、制限時間内に終われる練習をする。		
11回	授業内容	通し練習		
	学習成果	ネイリスト技能検定試験の概要を手順どおり実践できる。		
	予習復習の内容	検定試験の手順通り練習し、制限時間内に終われる練習をする。		
12回	授業内容	模擬試験①		模擬試験時の手順や課題達成を評価 授業への関心・意欲・態度を評価
	学習成果	検定試験の採点基準に合わせた実技ができる。		
	予習復習の内容	試験内容について復習する。		
13回	授業内容	模擬試験②		
	学習成果	検定試験の採点基準に合わせた実技ができる。		
	予習復習の内容	試験内容について復習する。		
14回	授業内容	タイムトライアル		
	学習成果	検定試験の手順通り実施し、制限時間内に終了することができる。		
	予習復習の内容	検定試験の手順通り練習し、制限時間内に終われる練習をする。		
15回	授業内容	受験準備		
	学習成果	受験に備え適切な準備を整えることができる。		
	予習復習の内容	受験に必要な準備を整える。		

科目名	ジェルネイル検定講座				担当者	千葉昭実						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	爪の構造を理解し説明できる。										
	②	衛生管理について理解し説明できる。										
	③	ネイル材料について理解し説明できる。										
	④	JNA ジェルネイル技能検定試験初級取得のための知識と技術を実践することができる。										
	⑤	ジェルネイルアートの作品を制作できる。										
汎用的 学習成果	(1)	ネイリストに必要な知識と技能を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(2)	ネイリストとして人との関わりに必要な自己表現、他者理解の能力を有し、協働することができる。(専門的学習成果④に関連)										
	(3)	習得した専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
授業概要	身体の一部である爪の構造を理解し、ジェルネイル技能検定試験初級受験に必要な内容の理解を深め知識と技術及びネイルアートを学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		提出物	40	授業中に制作した作品を評価								
		実習	40	実技や模擬試験時の手順や課題達成を評価								
	平常点	20	授業への関心・意欲・態度を評価									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名			出版社名							
		不要(講師プリント準備)										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名			出版社名							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①クラス内で2人1組の相モデルでの実技練習になるため、やむをえない理由以外での欠席をしないように心がける。 材料の不備があると実習不可の為、忘れず毎回持参する。 実習費28,600円税込がかかるので注意する事。 準備学習として検定試験の筆記に対して対策プリントを配付し自宅にて週1時間程度学習後翌週までに提出する。 ②実技・筆記ともに模擬テストを受験し、その結果をフィードバックする。その後校内にて検定筆記・実技試験を実施する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ジェルネイルケア概論	授業への関心・意欲・態度を評価
	学習成果	ジェルネイル技能検定試験の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを熟読する。	
2回	授業内容	爪の構造と材料の理解	
	学習成果	爪の各部位と材料の名称を述べることができる。	
	予習復習の内容	次回までに爪の各部位の名称を覚えてくる。	
3回	授業内容	ジェルネイル基本実技(プリパーレーション)	実技の手順や課題達成を評価
	学習成果	プリパーレーションについて実施できる。	
	予習復習の内容	プリパーレーションの反復練習	
4回	授業内容	ジェルネイル基本実技(塗布)	
	学習成果	赤ジェルの塗布が実施できる。	
	予習復習の内容	塗布の反復練習	
5回	授業内容	ジェルネイル基本実技(塗布)	
	学習成果	赤ジェルの塗布が実施できる。	
	予習復習の内容	塗布の反復練習	
6回	授業内容	受験用通し練習	実技の手順や課題達成を評価
	学習成果	時間内に規定の技術が達成できる。	
	予習復習の内容	時間制限を設けた練習	
7回	授業内容	受験用通し練習	
	学習成果	時間内に規定の技術が達成できる。	
	予習復習の内容	時間制限を設けた練習	
8回	授業内容	筆記試験(初級試験筆記試験校内実施)	課題達成を評価
	学習成果	初級試験筆記試験の採点基準をクリアできる。	
	予習復習の内容	筆記試験対策用のプリント学習	
9回	授業内容	実技試験(初級試験実技校内実施)	課題達成を評価
	学習成果	初級試験実技の採点基準をクリアできる。	
	予習復習の内容	検定試験の手順通り練習し、制限時間内に終わる練習をする。	
10回	授業内容	ジェルアート作品制作(授業中にテーマを発表)	授業への関心・意欲・態度を評価 制作した作品を評価
	学習成果	テーマに沿って作品を作ることができる。	
	予習復習の内容	作品制作のためのモチーフ集めをする。	
11回	授業内容	ジェルアート作品制作(授業中にテーマを発表)	
	学習成果	テーマに沿って作品を作ることができる。	
	予習復習の内容	提出の準備をする。	
12回	授業内容	ジェルアート作品制作(授業中にテーマを発表)	
	学習成果	テーマに沿って作品を作ることができる。	
	予習復習の内容	提出の準備をする。	
13回	授業内容	ジェルアート作品制作(授業中にテーマを発表)	
	学習成果	テーマに沿って作品を作ることができる。	
	予習復習の内容	提出の準備をする。	
14回	授業内容	ジェルアート作品制作(授業中にテーマを発表)	
	学習成果	テーマに沿って作品を作ることができる。	
	予習復習の内容	提出の準備をする。	
15回	授業内容	ジェルアート作品制作(授業中にテーマを発表)	
	学習成果	今まで習得した技術をもとにした作品を提出することができる。	
	予習復習の内容	提出の準備をする。	

科目名	ベーシックメイク				担当者	芳賀正明						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1・2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	皮膚に関する知識を理解し、その内容を説明できる。										
	②	化粧品の使用目的を理解し、ケアを実践できる。										
	③	色彩とメイクアップの関係性を理解し、メイクアップテクニックを実践できる。										
	④	正しいメイクアップテクニックや情報を理解し、セルフメイクアップを実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	皮膚と化粧品の関係から、必要なケア商品を選択できる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	ポイントメイクアップのテクニックを自己表現できる。(専門的学習成果③④に関連)										
	(3)	メイクアップテクニックをマスターし、ファッションバランスを養う。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	フェイスプローション分析と、化粧品概論から皮膚とスキンケア(洗顔、化粧水、乳液、美容液、その他のスキンケア商品)の関係と、メイクアップの知識とテクニック(スキンケア、ベースメイク、アイシャドウ、アイライン、ビューラー、マスカラ、チーク、リップ、ローライト、ハイライト)を専門的に習得し、カラーとメイクアップの関連性・トレンド情報を提供し個々の内面的美・外面的美の総合的自己表現バランスの実践力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	メイクアップ表現を評価する。								
		テクニック	40	実習時のテクニックを評価する。								
平常点	30	実習の取り組み・意欲・態度により評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)(2)(3)については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①②により評価を行う。 (2)は専門的学習成果③④により評価を行う。 (3)は専門的学習成果③④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	随時資料を配布											
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週約1時間程度行うこと。事前学習としてファッション誌や情報を深めておくこと(予習約1時間程度)。メイクアップバレット教材(10,000円+税)を徴収する。評価【優】以上の者はベーシックメイクアップ修了時ディプロマ授与。ただし欠席3回以上の者は評価が良くてもディプロマ無。 ②レポート提出により自己まとめ及び情報吸収ができる為、授業内で課題に対するフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、自己フェイスバランス分析	自己フェイスバランス分析シート提出
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	スキンケア化粧品の目的を理解する。	
2回	授業内容	スキンケア・ベースメイクアップの肌別分析	レポート作成し提出
	学習成果	目的に応じて商品が選択できる。	
	予習復習の内容	皮膚とスキンケア商品の関係を理解する。	
3回	授業内容	皮膚知識とスキンケアの関係	レポート作成し提出
	学習成果	スキンケアが皮膚に対する効果を説明できる。	
	予習復習の内容	ベースメイクアップの種類を理解する。	
4回	授業内容	スキンケアとベースメイクアップ	レポート作成し提出
	学習成果	スキンケア効果とベースメイクアップの仕上げ方を説明できる。	
	予習復習の内容	アイシャドウと色彩の関係を理解する。	
5回	授業内容	色彩知識とアイシャドウ	色相環レポート作成し提出
	学習成果	アイシャドウと色のバランスの説明ができる。	
	予習復習の内容	トレンドカラーを理解する。	
6回	授業内容	アイシャドウとアイラインテクニック	レポート作成し提出
	学習成果	アイシャドウカラーバランスとアイライン目的が説明できる	
	予習復習の内容	ビューラー・マスカラ・アイブローを理解する。	
7回	授業内容	アイメイクアップ(アイシャドウ・アイライン・ビューラー・マスカラ)	レポート作成し提出
	学習成果	アイメイクアップの仕上げバランスが説明できる。	
	予習復習の内容	アイブローの形、仕上げ方を理解する。	
8回	授業内容	アイメイクアップ・アイブロー	レポート作成し提出
	学習成果	アイブローの大切さと形の完成度が説明できる。	
	予習復習の内容	チーク・リップの仕上げ方を理解する。	
9回	授業内容	ナチュラルメイクアップのフルメイクアップ	デザイン画作成し提出
	学習成果	フルメイクアップしたマイフェイスバランスを説明できる。	
	予習復習の内容	色彩とアイシャドウバリエーションを理解する。	
10回	授業内容	アイシャドウバリエーション	アイシャドウバリエーション作成と提出
	学習成果	定番アイシャドウから多色使用のアイシャドウを説明できる。	
	予習復習の内容	各ジャンルメイクアップバリエーションを理解する。	
11回	授業内容	ジャンル別メイクアップ	デザイン画作成し提出
	学習成果	各ジャンルのメイクアップ仕上げを説明できる。	
	予習復習の内容	テーマ別(提案)メイクアップを理解できる。	
12回	授業内容	テーマ別(提案)メイクアップ仕上げ	デザイン画作成し提出
	学習成果	提案したメイクアップテーマを説明できる。	
	予習復習の内容	トレンドメイクアップを理解できる。	
13回	授業内容	トレンドメイクアップ(化粧品メーカー)	デザイン画作成し提出
	学習成果	メーカー別メイクアップを説明できる。	
	予習復習の内容	トレンドメイクアップ(ファッション編)を理解できる。	
14回	授業内容	トレンドメイクアップ(ファッション編)	デザイン画作成し提出
	学習成果	トレンドファッションとメイクアップ関係が説明できる。	
	予習復習の内容	トータルメイクアップとフォトを理解できる。	
15回	授業内容	トータルメイクアップと撮影	デザイン画作成し提出
	学習成果	メイクアップ効果のある表情を説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容全体について確認しておくこと。	

科目名	アーティストメイク				担当者	芳 賀 正 明						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問は毎回授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	メイクアップアドバイスの知識を説明できる。										
	②	相モデルでコミュニケーションを計るテクニックを説明できる。										
	③	メイクアッププランを提案しイベントに実践できる。										
	④	クリエイティブな発想やメイクアップテクニックを実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	メイクアップをして上げる時の相手とのコミュニケーションを養う。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	相手のフェイスバランスを把握し、ポイントメイクアップのアドバイスができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	ファッション・スチール・ステージ・イベントメイクの実践ができる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	相手のフェイスプロポーション分析をしながら、アイシャドーカラーアドバイス、アイライン提案、アイブrouデザインアドバイス、チークカラーアドバイス、リップカラー提案等を行いトータルメイクアップアップを仕上げる。生かすメイクアップの提案と各ジャンルのメイクアップテクニック(ファッション・スチール・ステージ・年代別・キャラクター・イベント等)をマスターし、撮影効果的に仕上げ映えるメイクアップを完成させる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	仕上げたメイクアップのデザイン画を評価する。								
		テクニック	40	仕上げるプロセスと完成度を評価する。								
	平常点	30	実技の取り組み・意欲・態度・相手とのコミュニケーションにより評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)(2)(3)については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①②により評価を行う。 (2)は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (3)は専門的学習成果③④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		随時資料配布										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週約1時間行うこと。事前学習としてファッション誌や情報を深めておくこと(予習約1時間程度)。メイクアッププラシセット(ケース付)教材10,000円+税を徴収する。評価【優】以上の者は日本メイクアップ協会ディプロマ授与。ただし欠席3回以上の者はディプロマ授与無。 ②レポート提出により自己まとめ及び情報吸収ができる為、授業内で課題に対するフィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス・相モデルでフェイスプロポーション分析	相手のフェイスプロポーション分析
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	相モデルへのアドバイスメッセージを理解する。	
	2回	授業内容	相モデルにてスキンケア
学習成果	モデルに対し、肌に向う施術ができる。		
	予習復習の内容	ベースメイクアップの施術法を理解する。	
	3回	授業内容	相モデルにてベースメイクアップ
学習成果	ベースメイクアップの仕上げ方を説明できる。		
	予習復習の内容	相モデルに対し、アイシャドーのアドバイスを理解する。	
	4回	授業内容	イベントメイクアップ
学習成果	メイクアップデザインと仕上げ方を説明できる。		
	予習復習の内容	メイクアップデザイン案を理解する。	
	5回	授業内容	メイクアップデザイン画作成しメイクアップ仕上げ
学習成果	デザイン画をモデルに提案し説明できる。		
	予習復習の内容	ファッション誌のメイクアップを理解する。	
	6回	授業内容	雑誌ファッションメイクアップ
学習成果	模写メイクアップの説明ができる。		
	予習復習の内容	提案するメイクアップデザインを理解する。	
	7回	授業内容	ステージメイクアップ
学習成果	ステージ(舞台等)の効果的な説明ができる。		
	予習復習の内容	ファッションショーのメイクアップを理解する。	
	8回	授業内容	イベントにおけるファッションショー(フロア)メイクアップ
学習成果	会場によってメイクアップの表現が違うので、その説明ができる。		
	予習復習の内容	撮影用メイクアップを理解する。	
	9回	授業内容	撮影用メイクアップ
学習成果	カメラを通してのメイクアップ仕上げと照明(ライト)の説明ができる。		
	予習復習の内容	ファッション(モード)メイクアップを理解する。	
	10回	授業内容	モードメイクアップ①
学習成果	斬新なメイクアップの説明ができる。		
	予習復習の内容	提案メイクアップを理解する。	
	11回	授業内容	モードメイクアップ②
学習成果	創造と感性を育む。		
	予習復習の内容	メイクアップデザイン案と完成までのプロセスを理解する。	
	12回	授業内容	テーマ別メイクアップ(提案)
学習成果	提案したメイクアップテーマを説明できる。		
	予習復習の内容	トレンドメイクアップを理解できる。	
	13回	授業内容	トレンドメイクアップ
学習成果	ファッションや化粧品メーカーのトレンドを説明できる。		
	予習復習の内容	トータルメイクアップ(ヘアメイクアップ等)を理解する。	
	14回	授業内容	ヘアメイクアップ
学習成果	ヘアセットを含めたメイクアップの説明ができる。		
	予習復習の内容	修了作品案を理解する。	
	15回	授業内容	修了作品(撮影)
学習成果	ナチュラルメイクからファッションメイクのジャンルを説明できる。		
	予習復習の内容	メイクアップ各ジャンルの再確認と情報を確認する。	

科目名	カフェプランニング					担当者	ヨシダ 正					
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	カフェビジネス全般を体系的に分類することができる。										
	②	カフェ業界の職業人としての社会貢献について自身の考えを論じることができる。										
	③	カフェ文化の現状と課題について論じることができる。										
	④	多様化するカフェショップのビジネススタイルの違いを理解し、その概要を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	カフェの文化と歴史を学ぶことで飲食業界に従事の際、自己表現と問題解決ができる。(専門的学習成果①③)										
	(3)	飲食業界において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を身に付ける。(専門的学習成果①②③④)										
授業概要	カフェ業界には様々な料理・ドリンクのメニュー開発から、マーケティングに至るまでの幅広い専門知識を持ち、カフェ出店から始まり、経営管理、販売促進までのすべてに精通した人材が求められている。この授業では「カフェをつくる」ためのプロセスを段階的に学習して「自分スタイルのカフェ」を構築できるようにする。併せてカフェについての歴史や文化などを探り、現代のカフェビジネスの現状を理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。								
		レポート	20	2回実施し各回10%に配点する。カフェ開業のプランニングができていくか評価する。								
		市場調査	20	市場調査した内容をプレゼンテーションする。								
	平常点	10	授業に取り組む姿勢、意欲、理解度を総合評価する。									
汎用的 学習成果												
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	有限会社バウンド		『人気カフェが開ける本』				インフォレスト					
	日本フードライセンス 国際協会		『カフェプロデュース検定教本』				書肆侃侃房					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①普段の生活でも街・地域にある飲食店、特にカフェスタイルで経営している店舗に興味をもち、積極的に利用してみる。(予習として時間外学習30時間程度)その後、利用したカフェについて立地条件、メニュー内容(商品、金額)客層等を自分なりにレポート形式でまとめておく(復習として時間外学習30時間程度) ②レポート内容、試験については実施後に適宜解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 実習室・器材の使用法	ワークシートへの取り組み
	学習成果	授業内容を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。次回以降の学習計画を立てる。	
2回	授業内容	カフェビジネスとは	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。
	学習成果	ビジネスとしてカフェを営むための概要を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
3回	授業内容	日本のカフェ市場と歴史	
	学習成果	日本のカフェ市場と歴史を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返りカフェの市場と歴史について理解を深める。	
4回	授業内容	バリスタの仕事 ①カフェスキル	
	学習成果	バリスタの仕事、特に技術について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
5回	授業内容	バリスタの仕事 ②サービス	
	学習成果	バリスタの仕事、特に接客サービス、ホスピタリティについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
6回	授業内容	マーケティングと出店戦略	
	学習成果	マーケティングと出店戦略の方法を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
7回	授業内容	コンセプトとカフェスタイル	
	学習成果	コンセプトとカフェスタイルを構築できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
8回	授業内容	カフェリサーチ・フィールドワーク	調査内容をまとめて発表する。 発表内容について評価する。
	学習成果	調査方法を理解してカフェに出向いて調査を実践できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
9回	授業内容	メニュープランニング①ドリンクメニュー	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。
	学習成果	ドリンクメニューのプランニングを理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
10回	授業内容	メニュープランニング②フードメニュー	
	学習成果	フードメニューのプランニングを理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
11回	授業内容	空間プロデュース①食空間のありかた	
	学習成果	カフェにおける食空間のありかたを理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
12回	授業内容	空間プロデュース②テーブルコーディネートとカラーコーディネート	
	学習成果	テーブルコーディネートとカラーコーディネートの概要を理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
13回	授業内容	カフェ開業計画①手続きと届け出	
	学習成果	カフェを開業するにあたり必要な手続きと届け出を理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
14回	授業内容	カフェ開業計画②事業計画と経営計画	
	学習成果	カフェ開業に必要な事業計画と経営計画を理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	
15回	授業内容	カフェプランニングまとめ	
	学習成果	カフェを開業するためのプランニングを理解して、説明できる。	
	予習復習の内容	授業内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。	

科目名	カフェード実習				担当者	前澤正人・阿部加奈子						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスマワーは初回の授業時に連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	食産業、外食産業の基本的な教養調理技術を身につけ、その内容を説明できる。										
	②	調理理論の知識基礎技術を習得し実践できる。										
	③	旬の調理基礎から食育的栄養学の応用まで食の大切さを習得し実践できる。										
	④	実習で習得した知識と技能を活用し習得し実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	外食産業全般、職業自立に必要な知識と基礎技術を習得し実践活用できる。(専門的学習成果①②③④に関連する)										
	(2)	季節の基本調理法の習得により、栄養のバランス、食の大切さを習得と活用できる。(専門的学習成果③に関連する)										
	(3)	習得した専門知識や技能を活用して作品発表し、新たな発想や課題の解決に向け、行動ができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	外食産業、カフェビジネスが大きな産業として発展して行くなか、今後大いに活躍が期待できる。将来、第一線で活躍する上で基本技術を身に付ける事は非常に重要である。基本技術を理解し外食産業、カフェビジネスの展開について考え今後の新たな食文化について実戦力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	10	筆記試験を行い、講義内容の理解について評価する。								
		レポート										
		平常点	20	授業態度、関心、意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	実習作品 提出	70	毎回の実習作品を試験評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①調理実習が中心の授業なので、重要な事は実習内容を忘れない内に実習調理を自宅で作成し復習、調理準備から手順、盛り付けデッサン、仕上げ味覚表現まで調理の理解を深め能力を身につける事を求める。自宅で再現調理(1時間程度)を行うこと。 ②前回の課題の調理実習の正確な分量をレポート提出フィードバック、実習調理の理解を深め自らの考察をしっかりと記述する事を求める。予習として料理のデザイン、色調、立体感などに興味を持ち専門誌を絶えず観る様にする事を求める。										

授業計画			学習成果の評価	
1・2回	授業内容	スモークサーモンと海老、アボカドのチャパタ ジャガイモのポタージュ	前澤	立体感、仕上げのデザイン
	学習成果	イタリア風サンドウィッチの表現、季節感の表現、栄養のバランスの習得ができる。		
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。		
3・4回	授業内容	バリジャンの3種ハムとチーズのサンドウィッチ、野菜のブイヨンスープ	前澤	立体感、仕上げのデザイン
	学習成果	バリ風サンドウィッチの表現、季節感の表現、栄養のバランスの習得ができる。		
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。		
5・6回	授業内容	アメリカンクラブハウスサンド、アサリのチャウダースープ	前澤	立体感、仕上げのデザイン
	学習成果	アメリカ風のサンドウィッチ、栄養のバランスの習得、調理技術の習得ができる。		
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。		
7・8回	授業内容	オムライスと温製サラダ	前澤	立体感、仕上げのデザイン 味覚
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。		
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。		
9・10回	授業内容	ミネストローネ、3種のブルスケッタ	阿部	味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	イタリア各州の郷土料理の把握、季節感の表現、調理技術の習得ができる。		
	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。		
11・12回	授業内容	トマトソースパゲッティ、タコとセロリのサラダ	阿部	味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	イタリア各州の郷土料理の把握、季節感の表現、調理技術の習得ができる。		
	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。		
13・14回	授業内容	ジャガイモのニョッキ、サルティンボッカ	阿部	味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	イタリア各州の郷土料理の把握、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。		
	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。		
15・16回	授業内容	ボローニャ風タリアテッレ、洋梨のサラダ	阿部	味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。		
	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。		
17・18回	授業内容	オレキエッテ、パブリカマリネ	阿部	味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、調理技術の習得ができる。		
	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。		
19・20回	授業内容	マスカルポーネチーズのリゾット、カツレツケッカソース	阿部	味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、調理技術の習得ができる。		
	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。		
21・22回	授業内容	ラザニア、レンズ豆のサラダ	阿部	味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、調理技術の習得ができる。		
	予習復習の内容	自宅での再現調理の実施をする。		
23・24回	授業内容	ドライカレー 海老のクリームソース ジャガイモのサラダ	阿部	味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。		
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。		
25・26回	授業内容	白身魚のパン粉焼き シチリア風 キャベツとソーセージのスープ	前澤	味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。		
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。		
27・28回	授業内容	鶏肉のクリーム煮 キノコのサラダ	前澤	味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。		
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。		
29・30回	授業内容	鶏肉のソテー ベーコンと野菜のソテー添え、さつま芋のポタージュ	前澤	味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得ができる。		
	予習復習の内容	事前専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施をする。		

科目名	食品学Ⅰ（製菓）				担当者	丸山 稜						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的 学習成果	①	製菓技術者として、個々の食材についてあらためて意識する。										
	②	食品に要求される機能・条件を理解する。										
	③	個々の食材の特徴を理解する。										
	④	製菓衛生師試験の食品学の分野に十分な知識を習得する。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた食品に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習効果①②③④に関連）										
	(2)	食品の成分や機能を学ぶことを通して論理的思考方法をもつようになる。（専門的学習効果②③に関連）										
	(3)	食品に関連した専門知識を活用して地域社会の発展に貢献することができる。（専門的学習効果①②③④に関連）										
授業概要	私達は一生を通じて食品を食物として食べ、その成分を代謝、利用して健康を維持、増進し、社会生活を営んでいる。このように、食品はヒトの一生の営みの根本にかかわりあう重要なものである。本講義では、製菓技術者として、また、製菓衛生師資格取得に必要とされる幅広い知識や技能のうち、「食品学」の分野に関する基本的な知識を幅広く学ぶ。更に、15回の講義を通して、サイエンスとしての基本的発想法・論理的な思考についても触れていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	90	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格とする。								
		レポート										
		平常点	10	授業の態度、関心、意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習効果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習効果②、③で評価を行う。 (3) は専門的学習効果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本』				全国製菓衛生師養成施設協会						
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書 和洋菓子・パンのすべて』				日本菓子教育センター						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	新栄養士課程講座	『食品学総論』				建帛社						
	新栄養士課程講座	『食品学各論』				建帛社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義中に次回の内容の予告をするので、教科書の該当項目に目を通しておくこと（週1時間程度）。また、普段の生活の中で、食材やそのラベル表示、加工方法など意識していること（週3時間程度）。 ②試験については実施後、適宜解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス（製菓衛生師資格、学び方、食品に対する姿勢）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	製菓技術者として食品に対する姿勢を表明できる。	
	予習復習の内容	教科書全体に目を通しておくこと。	
2回	授業内容	食品学とは	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	製菓衛生師として、食品学の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日常での食について理解を深める。	
3回	授業内容	食品の機能と条件	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の機能と必要な条件を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
4回	授業内容	食品の分類と特性（種類、分類）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の分類の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
5回	授業内容	食品の分類と特性（食品の特性）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の分類の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
6回	授業内容	食品の分類と特性（食品微生物応用食品）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の分類の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
7回	授業内容	食品の成分と性質（水分、たんぱく質・アミノ酸）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の成分を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
8回	授業内容	食品の成分と性質（炭水化物）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の成分を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
9回	授業内容	食品の成分と性質（脂質）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の成分を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
10回	授業内容	食品の成分と性質（ビタミン類、無機質）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の成分を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
11回	授業内容	食品の成分と性質（嗜好成分とその他）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の成分を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
12回	授業内容	食品成分表について	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品成分表の意味、役割を理解して活用できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
13回	授業内容	食品の生産と消費（消費構造の変化）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の消費構造の変化の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
14回	授業内容	食品の生産と消費（食品生産）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品生産について生産の動向や有機農産物、遺伝子組み換え食品など概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
15回	授業内容	まとめ（総合的にまとめ）	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品学の総論的内容を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	

科目名	栄養学 B				担当者	菊 地 香保里						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1 年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室または非常勤講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。										
	②	栄養素の消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学び、各栄養素の消化酵素を挙げることができる。										
	③	人体での水の働きについて学び、水分補給の重要性を説明できる。										
	④	健康を維持増進するために、6つの基礎食品をバランスよく摂取することを学び、6つの基礎食品を説明することができる。										
	⑤	体内でのホルモンの働きについて学び、ホルモンの名前と働きを挙げることができる。										
	⑥	排泄の仕組みについて学び、腸内細菌の働き、食物繊維（水溶性・不溶性）の重要性を説明することができる。										
	⑦	製菓衛生師国家試験の過去問題を解くことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	栄養学で習得した知識を活用して健康を維持増進する食生活の課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(2)	栄養学の学習を通して、健康な食生活、アレルギー対応の商品開発などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(3)	栄養学の学習を通して社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、疾病予防などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①③④に関連）										
	(4)	栄養学の学習を通して、社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、製菓衛生師国家試験などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦に関連）										
授業概要	栄養学の基礎として五大栄養素の働きと消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学ぶ。また、エネルギーにはならないが、第六の栄養素として生活習慣病の予防に効果があると近年注目されている食物繊維の働きや、栄養素に含まれないが身体のエネルギー代謝に必要な水の働きについても学ぶ。自分の食生活と健康について理解し、水分や栄養の摂取を意識して生活できるようにする。身体の消化器官についても理解を深め、消化、吸収、代謝、排泄が日々スムーズに行われるよう意識し、自分の健康についても考察する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート	20	8回実施し、各回2.5%を配点する。体裁、文脈、内容で評価を行う。								
		小テスト	30	6回実施し、各回5%を配点する。2～3回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③④で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	全国製菓衛生師養成施設協会編	『新訂製菓衛生師教本』				全国製菓衛生師養成施設協会						
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』				日本菓子教育センター						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	中村丁次監修	『栄養の基本がわかる図解事典』				成美堂出版						
	新食品成分表編集委員会編	『新食品成分表 FOOD 2019』				東京法令出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと。（予習：週2時間程度）。事後学習としては、單元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること。（復習：週2時間程度）。 ②フィードバックとして、小テスト（理解度確認テスト）を回収後、解答の解説を行う。											

		授業計画	学習成果の評価
1 回	授業内容	ガイダンス、栄養の意義	○レポート提出 課題「炭水化物、糖質について」をまとめる。4回目までに提出。 ○小テスト1回～3回までの内容を4回目に実施（30分間）。栄養素の分類、炭水化物、糖質について復習しておくこと。
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の栄養素に関する問題を解く。	
	授業内容	栄養素の分類、6つの基礎食品	
2 回	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。健康を維持増進するために、6つの基礎食品をバランスよく摂取することを学び、6つの基礎食品を説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の栄養素の分類、6つの基礎食品に関する問題を解く。	
	授業内容	炭水化物、糖質	
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
3 回	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の炭水化物、糖質に関する問題を解く。	
	授業内容	脂質	
4 回	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	○レポート提出 課題「脂質について」をまとめる。5回目までに提出。○小テスト4回の内容を5回目に実施（30分間）。脂質について復習。
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の脂質に関する問題を解く。	
5 回	授業内容	たんぱく質	○レポート提出 課題「たんぱく質について」をまとめる。6回目までに提出。○小テスト5回の内容を6回目に実施（30分間）。タンパク質について復習。
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集のたんぱく質に関する問題を解く。	
	授業内容	無機質①	
6 回	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	○レポート提出 課題「無機質について」をまとめる。7・8回目までに提出。○小テスト6・7回の内容を8回目に実施（30分間）。無機質について復習。
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の無機質（カルシウム、リン、マグネシウム、カリウム、ナトリウム）に関する問題を解く。	
	授業内容	無機質②	
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
7 回	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の無機質（鉄、銅、亜鉛、マンガン、ヨウ素他）に関する問題を解く。	
	授業内容	脂溶性ビタミン	
8 回	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	○レポート提出 課題「脂溶性ビタミンについて」をまとめる。9・10回目までに提出。○小テスト8・9回の内容を10回目に実施（30分間）。ビタミンについて復習。
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の脂溶性ビタミンに関する問題を解く。	
	授業内容	水溶性ビタミン	
	学習成果	栄養学の基礎として栄養素の働きを説明できる。	
9 回	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の水溶性ビタミンに関する問題を解く。	
	授業内容	水、食欲と身体機能の調節、ホルモンとその機能	
10 回	学習成果	人体での水の働きについて学び、水分補給の重要性を説明できる。摂食行動の仕組み、体内でのホルモンの働きについて学び、ホルモンの名前と働きを挙げることができる。	○レポート提出 課題「消化酵素と各器官での働き」をまとめる。14回目までに提出。○小テスト10～13回の内容を14回目に実施（30分間）。摂食行動、ホルモン、消化酵素について復習。
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集のホルモンに関する問題を解く。	
	授業内容	消化と吸収 消化器の構造と機能	
	学習成果	栄養素の消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学び、各栄養素の消化酵素を挙げることができる。	
11 回	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の消化酵素に関する問題を解く。	
	授業内容	消化管内での消化吸収 消化酵素と各器官での働き	
12 回	学習成果	栄養素の消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学び、各栄養素の消化酵素を挙げることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の消化酵素と各器官での働きに関する問題を解く。	
13 回	授業内容	栄養素の代謝	
	学習成果	栄養素の消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学び、各栄養素の消化酵素を挙げることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の栄養素の代謝に関する問題を解く。	
	授業内容	排泄の仕組み、食物繊維（水溶性、不溶性）、水の働き	
14 回	学習成果	排泄の仕組みについて学び、腸内細菌の働き、食物繊維（水溶性・不溶性）の重要性を説明することができる。人体での水の働きについて学び、水分補給の重要性を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の食物繊維、水に関する問題を解く。	
15 回	授業内容	栄養素の吸収、消化吸収率	
	学習成果	栄養素の消化・吸収・代謝・排泄の仕組みを学び、各栄養素の消化酵素を挙げることができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の消化吸収率に関する問題を解く。	

科目名	食品衛生学Ⅰ（製菓）				担当者	ワタナベ トシヒコ 渡 部 俊 彦						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等にはメールで対応する メールアドレス： twatanab@tohoku-mpu.ac.jp				授業時間数	30	時間						
専門的 学習成果	①	食品衛生の意義が説明できる。										
	②	食品添加物の役割について説明できる。										
	③	食品添加物の人体への影響を説明できる。										
	④	食品添加物の使用上の規則が説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食に関わる仕事で、食品添加物を適切に使用することができる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
授業概要	食品衛生の意味を解説し、食品衛生が人の食生活や健康に深く関わっていることを学ぶ。また、食品添加物には食品を作る上で便利な働きと、人の健康を害する働きがあることを理解し、食品添加物を安全に適切に使用するための知識を身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	100	講義で説明した内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
汎用的 学習成果	(1)	は専門的学習成果①～④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師 試験問題集』				全国製菓衛生師養成施設協会						
全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本 上』				全国製菓衛生師養成施設協会							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義前、講義後に講義内容に関する確認試験を行う。 その日講義する内容を教科書で確認すること（予習：1時間程度）。 また、講義終了後は確認試験を活用し、講義内容を理解できているか確認する。 理解できていない部分は、しっかりと復習すること（復習：1時間程度）。 ②確認試験を回収し、正解率が悪い項目については、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	食品衛生学の概要	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	食品衛生学を学ぶ目的を説明できる。	
	予習復習の内容	食品衛生の定義を理解する。	
2回	授業内容	食品添加物の概要	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	食品添加物の食品衛生法上の分類を説明できる。	
	予習復習の内容	食品添加物の定義を理解する。	
3回	授業内容	保存料、防ばい剤、殺菌料	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	保存料、防ばい剤、殺菌料の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	保存料、防ばい剤、殺菌料の定義を理解する。	
4回	授業内容	甘味料、発色料	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	甘味料、発色料の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	甘味料発色料の定義を理解する。	
5回	授業内容	調味料、酸味料	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	調味料、酸味料の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	調味料、酸味料の定義を理解する。	
6回	授業内容	栄養強化剤	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	栄養強化剤の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	栄養強化剤の定義を理解する。	
7回	授業内容	香料、乳化剤	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	香料、乳化剤の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	香料、乳化剤の定義を理解する。	
8回	授業内容	結着剤、膨張剤、防虫剤	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	結着剤、膨張剤、防虫剤の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	結着剤、膨張剤、防虫剤の定義を理解する。	
9回	授業内容	酸化防止剤	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	酸化防止剤の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	酸化防止剤の定義を理解する。	
10回	授業内容	チューインガム基剤	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	チューインガム基剤の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	チューインガム基剤の定義を理解する。	
11回	授業内容	消泡剤	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	消泡剤の役割について説明できる。	
	予習復習の内容	消泡剤の定義を理解する。	
12回	授業内容	食品取扱者の衛生管理	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	食品衛生法に基づいた食品取扱者の衛生管理について学び、実践することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
13回	授業内容	食品の表示、食品の保存、菓子製造業の営業施設基準準則	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	食品表示法に基づいた食品表示、アレルギー表示、その他の表示を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
14回	授業内容	食品の表示、アレルギー物質を含む食品の表示について、食品表示法	確認試験を実施し、評価します
	学習成果	食品表示法に基づいた食品表示、アレルギー表示、その他の表示を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。	
15回	授業内容	総まとめ	演習問題を使い、評価します
	学習成果	食品衛生学Ⅰに関する演習問題を解くことができる。	
	予習復習の内容	演習問題を解いてみて、理解できない点を明確にしておく。	

科目名	食品学Ⅱ				担当者	丸山 稜						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30 <th>時間</th>	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。										
専門的 学習成果	①	製菓技術者として、個々の食材についてあらためて意識する。										
	②	食品に要求される機能・条件を理解する。										
	③	個々の食材の特徴を理解する。										
	④	製菓衛生師試験の食品学の分野に十分な知識を習得する。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた食品に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
	(2)	食品の成分や機能を学ぶことを通して論理的思考方法をもつようになる。(専門的学習効果②③に関連)										
	(3)	食品に関連した専門知識を活用して地域社会の発展に貢献することができる。(専門的学習効果①②③④に関連)										
授業概要	私達は一生を通じて食品を食物として食べ、その成分を代謝、利用して健康を維持、増進し、社会生活を営んでいる。このように、食品はヒトの一生の営みの根本にかかわりあう重要なものである。本講義では、食品学Ⅰに続いて、製菓技術者として、また、製菓衛生師資格取得に必要とされる幅広い知識や技能のうち、「食品学」の分野に関する基本的な知識を幅広く学ぶ。更に、15回の講義を通して、サイエンスとしての基本的発想方法・論理的な思考についても触れていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	90	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格とする。								
		レポート										
		平常点	10	授業の態度、関心、意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習効果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習効果②、③で評価を行う。 (3) は専門的学習効果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	全国製菓衛生師養成施設協会		『製菓衛生師教本』				全国製菓衛生師養成施設協会					
	日本菓子教育センター		『製菓衛生師全書 和洋菓子・パンのすべて』				日本菓子教育センター					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	新栄養士課程講座		『食品学総論』				建帛社					
	新栄養士課程講座		『食品学各論』				建帛社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義中に次回の内容の予告をするので、教科書の該当項目に目を通しておくこと(週1時間程度)。また、普段の生活の中で、食材やそのラベル表示、加工方法など意識していること(週3時間程度)。 ②試験については実施後、適宜解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス(食品学Ⅰの振り返りとⅡの概要について)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品学Ⅰの範囲の定着、Ⅱの概要を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書の当該する章を確認する。	
2回	授業内容	食品の特性 穀類(米)及び、でんぷん	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	米及びでんぷんについて特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
3回	授業内容	食品の特性 穀類(麦・とうもろこし、他)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	麦・とうもろこし他について特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
4回	授業内容	食品の特性 いも類・でんぷん類、砂糖・甘味類	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	いも類・でんぷん類、砂糖・甘味類について特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
5回	授業内容	食品の特性 豆類、種実類、野菜類、果実類、きのこ類、藻類	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	豆類、種実類、野菜類、果実類、きのこ類、藻類について特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
6回	授業内容	食品の特性 肉・魚	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	肉・魚について特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
7回	授業内容	食品の特性 卵・乳製品、油脂、嗜好品	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	卵・乳製品、油脂、嗜好品について特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
8回	授業内容	食品の特性 調味料・香辛料、調理加工食品類	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	調味料・香辛料、調理加工食品類について特性と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
9回	授業内容	日本の醸造食品	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	日本の特徴的な醸造食品について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
10回	授業内容	微生物利用食品	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	微生物利用食品について特徴と利用を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
11回	授業内容	食品の変質と機構	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品の変質について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
12回	授業内容	食品の変質の防止と保存法(変質の防止)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	変質防止方法について概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
13回	授業内容	食品の変質の防止と保存法(保存方法)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	変質を防止した保存方法について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
14回	授業内容	食品に関する最近の話題	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品に関係した話題に関心を持てる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	
15回	授業内容	まとめ(総合的振り返り)	各回において、冒頭に前回までの学習内容の再確認を口頭にて行う。
	学習成果	食品に関係した話題に関心を持てる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身の回りの食材を確認し理解を深める。	

科目名	栄養学各論				担当者	菊地香保里						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室または非常勤講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	三大栄養素のエネルギーが理解でき、基礎代謝、活動代謝を説明できる。										
	②	日本人の食事摂取基準について三大栄養素の一日に必要なエネルギー摂取量の目標量を挙げるができる。										
	③	国民の健康・栄養状態の現状を説明できる。										
	④	健康を維持増進するために、食事バランスガイドを説明することができる。										
	⑤	人生の諸段階（ライフステージ）に必要な栄養摂取の仕方を説明できる。										
	⑥	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。										
	⑦	製菓衛生師国家試験の過去問題を解くことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	栄養学各論で習得した知識を活用して健康を維持増進する食生活の課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(2)	栄養学各論の学習を通して、健康な食生活につながる商品開発などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(3)	栄養学各論の学習を通して社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、疾病予防などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(4)	栄養学各論の学習を通して、社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、製菓衛生師国家試験などの実践につなげることができる。（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦に関連）										
授業概要	栄養素のエネルギー、基礎代謝、活動代謝、推定エネルギー必要量について学び、食事によるエネルギー摂取の重要性を理解する。日本人の食事摂取基準、国民健康・栄養調査から、国民の健康・栄養状態の現状を知り、食事バランスガイドについても学ぶ。 人生の諸段階（ライフステージ）において必要な栄養のとり方を学び、健康増進について理解し、「栄養」「運動」「休養」を意識して生活し、一生を通して病気を予防する知識を得る。健康増進における今後の課題についても考察する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート	20	4回実施し、各回5%を配点する。体裁、文脈、内容で評価を行う。								
		小テスト	30	3回実施し、各回10%を配点する。5回分の講義内容について理解の程度を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	全国製菓衛生師養成施設協会編		『新訂製菓衛生師教本』				全国製菓衛生師養成施設協会					
	日本菓子教育センター		『製菓衛生師全書』				日本菓子教育センター					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	中村丁次監修		『栄養の基本がわかる図解事典』				成美堂出版					
新食品成分表編集委員会編		『新食品成分表 FOOD 2019』				東京法令出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと。（予習：週2時間程度）。事後学習としては、単元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること。（復習：週2時間程度）。 ②フィードバックとして、小テスト（理解度確認テスト）を回収後、解答の解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	栄養素のエネルギー、エネルギー代謝、消費エネルギー、基礎代謝	
	学習成果	三大栄養素のエネルギーが理解でき、基礎代謝、活動代謝を説明できる。	
2回	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集のエネルギー代謝に関する問題を解く。	
	授業内容	日本人の食事摂取基準	
3回	学習成果	日本人の食事摂取基準について三大栄養素の一日に必要なエネルギー摂取量の目標量を挙げるができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の日本人の食事摂取基準に関する問題を解く。	
4回	授業内容	国民の健康・栄養状態の現状と施策	
	学習成果	国民の健康・栄養状態の現状を説明できる。	
5回	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の国民健康・栄養調査に関する問題を解く。	
	授業内容	食事バランスガイド	
6回	学習成果	健康を維持増進するために、食事バランスガイドを説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の食事バランスガイドに関する問題を解く。	
7回	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（妊娠期）	
	学習成果	妊娠期に必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
8回	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の妊娠期に関する問題を解く。	
	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（授乳期）	
9回	学習成果	授乳期に必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の授乳期に関する問題を解く。	
10回	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（乳児期）	
	学習成果	乳児期に必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
11回	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の乳児期に関する問題を解く。	
	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（幼児期）	
12回	学習成果	幼児期に必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の幼児期に関する問題を解く。	
13回	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（学童期・思春期・青年期）	
	学習成果	学童期・思春期・青年期に必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
14回	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の学童期・思春期・青年期に関する問題を解く。	
	授業内容	ライフステージ・ライフスタイルと栄養（成人期・更年期・高齢期）	
15回	学習成果	成人期・更年期・高齢期に必要な栄養摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の成人期・更年期・高齢期に関する問題を解く。	
16回	授業内容	病態と栄養、栄養素の過不足と病気、糖尿病	
	学習成果	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。	
17回	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の糖尿病に関する問題を解く。	
	授業内容	循環器の病気と栄養	
18回	学習成果	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の消化管の病気に関する問題を解く。	
19回	授業内容	消化管の病気と栄養	
	学習成果	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。	
20回	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の循環器の病気に関する問題を解く。	
	授業内容	痛風、貧血、骨粗鬆症、食物アレルギーと栄養	
21回	学習成果	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の痛風、貧血、食物アレルギーに関する問題を解く。	
22回	授業内容	栄養機能食品、特定保健用食品	
	学習成果	自分や周囲の人の健康増進の課題について理解し、必要な栄養摂取について説明することができる。	
23回	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は製菓衛生師国家試験過去問題集の栄養機能食品、特定保健用食品に関する問題を解く。	

科目名	公衆衛生学 I				担当者	渡 部 俊 彦						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		質問等にはメールで対応する メールアドレス： twatanab@tohoku-mpu.ac.jp										
専門的 学習成果	①	公衆衛生を学ぶ意義を説明できる。										
	②	公衆衛生の現状を説明できる。										
	③	衛生統計の内容を理解できる。										
	④	衛生統計に関する用語を理解できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食に関わる仕事で発生する産業廃棄物の廃棄を適切に行うことができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	製菓の現場で公衆衛生学で習得した内容に基づき製菓を安全かつ衛生的に実施できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
授業概要	公衆衛生を維持するために、国や行政がどのような制度に基づき活動しているかを学ぶ。また、国民生活の現状や未来を考える上で重要な指標となる統計データに関する用語や統計解析方法について学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	100	講義で説明した内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師 試験問題集』				全国製菓衛生師養成施設協会						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義前、講義後に講義内容に関する確認試験を行う。 その日講義する内容を教科書で確認すること(予習：2時間程度)。また、講義終了後は確認試験を活用し、講義内容を理解できているか確認する。理解できていない部分は、しっかりと復習すること(復習：2時間程度)。 ②確認試験を回収し、正解率が悪い項目については、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	公衆衛生の概要	定期試験を実施し、評価する
	学習成果	公衆衛生を学ぶ意義を説明することができる。	
予習復習の内容	公衆衛生の定義を理解する。		
2回	授業内容	予防医学の概要	
	学習成果	一次予防、二次予防、三次予防を説明することができる。	
予習復習の内容	一次予防、二次予防、三次予防の定義を理解する。		
3回	授業内容	世界の公衆衛生に関わる組織の概要	
	学習成果	世界の公衆衛生に関わる組織とその業績について説明することができる。	
予習復習の内容	WHO という組織の概要と業績を理解する。		
4回	授業内容	日本の公衆衛生に関わる組織の概要	
	学習成果	日本の公衆衛生に関わる組織とその業績について説明することができる。	
予習復習の内容	公衆衛生に関わる省庁について理解する。		
5回	授業内容	労働者の健康に関わる法律	
	学習成果	労働環境を衛生条件を守るための制度について説明することができる。	
予習復習の内容	労働衛生法の概要について理解する。		
6回	授業内容	衛生統計概要	
	学習成果	衛生統計の解析結果から、その地域の文化や習慣を理解することができる。	
予習復習の内容	人口動態統計、人工静態統計の定義を理解する。		
7回	授業内容	衛生統計各論(老年人口指数、老年化指数、従属人口指数、労働力率)	
	学習成果	老年人口指数、老年化指数、従属人口指数、労働力率の活用方法を説明できる。	
予習復習の内容	老年人口指数、老年化指数、従属人口指数、労働力率の定義を理解する。		
8回	授業内容	衛生統計各論(出生率)	
	学習成果	出生率の活用方法を説明できる。	
予習復習の内容	出生率の定義を理解する。		
9回	授業内容	衛生統計各論(粗死亡率、年齢調整死亡率)	
	学習成果	粗死亡率、年齢調整死亡率の活用方法を説明できる。	
予習復習の内容	粗死亡率、年齢調整死亡率の定義を理解する。		
10回	授業内容	寿命(平均寿命、平均余命)	
	学習成果	生命表を用いて、平均寿命、平均余命を算出することができる。	
予習復習の内容	平均寿命、平均余命の定義を理解する。		
11回	授業内容	食中毒統計(細菌)	
	学習成果	発生頻度の高い細菌性食中毒の予防方法を説明できる。	
予習復習の内容	食中毒を引き起こす細菌について理解する。		
12回	授業内容	食中毒統計(ウイルス)	
	学習成果	発生頻度の高いウイルス性食中毒の予防方法を説明できる。	
予習復習の内容	食中毒を引き起こすウイルスについて理解する。		
13回	授業内容	感染症発生動向調査	
	学習成果	国内外に蔓延している感染症について説明することができる。	
予習復習の内容	結核、麻疹、風疹、ポリオ、狂犬病について理解する。		
14回	授業内容	国民健康・栄養調査	
	学習成果	国民の健康と食事との関係性を説明することができる。	
予習復習の内容	食事をとらないことによる健康への影響について理解する。		
15回	授業内容	総まとめ	
	学習成果	公衆衛生学 I に関する演習問題を解くことができる。	
予習復習の内容	演習問題を解いてみて、理解できない点を明確にしておく。		

科目名	公衆衛生学Ⅱ				担当者	ワタナベ シンゴ コ 渡 部 成 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				質問等には、各講義の前後に対応する								
専門的 学習成果	①	人が生活している環境について説明できる。										
	②	公衆衛生を維持するための仕組みを説明できる。										
	③	環境保健と人の健康の関係について説明できる。										
	④	環境改善の方法を具体的に例示できる。										
汎用的 学習成果	(1)	人が安全で快適に働ける理想的な労働環境を提案することができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
授業概要	公衆衛生とは何かを身の回りの環境(空気、水、土、生き物など)と関連させて学ぶ。環境と人の生活との関わりを理解した上で、人が健康的に生活するための環境条件や人の健康を害する環境汚染について学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	90	講義で説明した学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		平常点	10	講義中に行う理解度テストの解答内容から、授業への態度・関心・意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	全国製菓衛生師養成施設協会		『製菓衛生師 試験問題集』				全国製菓衛生師養成施設協会					
	全国製菓衛生師養成施設協会		『製菓衛生師教本 上』				全国製菓衛生師養成施設協会					
	日本菓子教育センター		『製菓衛生師全集』				日本菓子教育センター					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストを授業前に読んで、問題集の問題を解いてみる(予習:2時間程度)。講義終了後に内容を復習すること(2時間程度) ②教本の記載内容が理解できない、練習問題が解けない場合は質問すること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	公衆衛生	定期試験を実施し、評価する
	学習成果	生活環境の衛生を説明できる。	
	予習復習の内容	公衆衛生の定義を理解する。	
2回	授業内容	環境因子・大気の組成・住居	
	学習成果	現代の生活環境、環境因子・大気の組成・住居の生活との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	生活環境、環境因子の定義、大気を構成する成分・住居の定義を理解する。	
3回	授業内容	気候・上下水道・衣服	
	学習成果	気候・上下水道・衣服と生活との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	気候・上下水道・衣服の定義を理解する。	
4回	授業内容	ごみ、そ属・衛生害虫、電離放射線	
	学習成果	ごみ、そ属・衛生害虫、電離放射線と生活との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	ごみ、そ属・衛生害虫、電離放射線の定義を理解する。	
5回	授業内容	空気汚染・水質汚染	
	学習成果	空気汚染・水質汚染と生活との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	空気汚染・水質汚染の定義を理解する。	
6回	授業内容	騒音、振動、悪臭、環境ホルモン、地球温暖化	
	学習成果	騒音、振動、悪臭、環境ホルモン、地球温暖化と生活との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	騒音、振動、悪臭、環境ホルモンの定義を理解する。	
7回	授業内容	酸性雨、オゾン層の破壊、循環型社会の形成	
	学習成果	酸性雨、オゾン層の破壊、循環型社会の形成と生活との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	酸性雨、オゾン層の破壊、循環型社会の形成の定義を理解する。	
8回	授業内容	生活習慣病・メタボリックシンドロームについて解説する。	
	学習成果	メタボリックシンドロームについて説明できる。	
	予習復習の内容	メタボリックシンドロームを未然に防ぐための実生活上の注意点を考察する。	
9回	授業内容	生活習慣病、特に、糖尿病について解説する。	
	学習成果	糖尿病について説明できる。	
	予習復習の内容	糖尿病を未然に防ぐための実生活上の注意点を考察する。	
10回	授業内容	生活習慣病、特循環器系疾患、がんについて解説する。	
	学習成果	循環器系疾患・がんについて、具体的に説明できる。	
	予習復習の内容	循環器系疾患を未然に防ぐための生活上の注意点、実生活においてがんにならないための注意点について考察する。	
11回	授業内容	健康増進法について具体的に解説する。	
	学習成果	健康増進法について内容を説明できる。	
	予習復習の内容	健康増進法の実生活での応用について考察する。	
12回	授業内容	新しい健康作りについて解説する。	
	学習成果	実生活上での健康作りについて説明できる。	
	予習復習の内容	実生活上で新しい健康作りをするに当たっての注意点を考察する。	
13回	授業内容	労働者の健康に関わる法律	
	学習成果	労働環境を衛生条件を守るための制度について説明できる。	
	予習復習の内容	労働衛生法の概要について理解する。	
14回	授業内容	労働衛生管理について解説する。	
	学習成果	製菓の現場での労働衛生管理の実施方法を説明できる。	
	予習復習の内容	労働衛生管理の実施上の注意点を考察する。	
15回	授業内容	総まとめ	
	学習成果	公衆衛生学Ⅱに関する演習問題を解くことができる。	
	予習復習の内容	演習問題を解いてみて、理解できない点を明確にしておく。	

科目名	衛生法規				担当者	アノハノケンシニ 相原健二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業前後に質問等を受け付ける。										
専門的 学習成果	①	衛生法規の意義が説明できる。										
	②	食品衛生法を菓子製造業務に関連付けることができる。										
	③	製菓衛生師法の目的を論じることができる。										
	④	製菓衛生師として菓子等の食品を安全に提供するにあたり、関係法規を関連付けることができる。										
	⑤	製菓衛生師として公衆衛生に寄与できる基本知識を身につけ、実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食関連の仕事に従事した際、法的な視点から社会的自立や専門的自立において客観視する能力を高めることができる。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
	(2)	食の安全を理解することで日頃から健康保持や健康増進を実践できる。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
	(3)	製菓衛生師として食の安全を保持し提供できる。(専門的学習成果①～⑤に関連)										
授業概要	一般に衛生とは人の健康の保持及び増進を図ることである。この授業では主として製菓衛生師として、「菓子製造業に従事する者の資質を向上させ、もって公衆衛生の向上および増進に寄与する」という法の目的を達成すべく食品に関する法規・法令について学ぶ。製菓衛生師養成課程の必修授業である。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。								
		レポート										
		平常点	30	授業に取り組む姿勢、意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①～⑤で行う。 (2) は専門的学習評価①～⑤で行う。 (3) は専門的学習評価①～⑤で行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	全国製菓衛生師養成施設協会編		『製菓衛生師教本』				全国製菓衛生師養成施設協会					
	日本菓子教育センター		『製菓衛生師全書』				日本菓子教育センター					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	日本食品衛生協会		新訂『早わかり食品衛生法』（食品衛生法逐条解説）第8版				公益社団法人日本食品衛生協会					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①製菓衛生師養成課程必修。 日常の飲食物の購入の際、当品がどのような法に規制され、製造されているのか意識する。 また、食品表示は妥当であるかを法律に照らし併せて自主学習し、ノートにまとめておく。(時間外学習60時間必要) ②試験・レポートに対するフィードバックを行う。										

		授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、法学に関する基礎的事項		各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。
	学習成果	法学に関する基礎的事項について理解する。		
予習復習の内容	授業内容を振り返り法学の基礎について考察する。			
2回	授業内容	衛生行政概説①		
	学習成果	衛生行政に関する基礎的事項について理解し説明できる。		
予習復習の内容	授業内容を振り返り衛生行政について考察する。			
3回	授業内容	衛生行政概説②		
	学習成果	わが国の衛生行政機構について理解し説明できる。		
予習復習の内容	授業内容を振り返り衛生行政機構について考察する。			
4回	授業内容	製菓衛生師法①		
	学習成果	製菓衛生師法の沿革について理解し説明できる。		
予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。			
5回	授業内容	製菓衛生師法②		
	学習成果	製菓衛生師法の概要について理解し説明できる。		
予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。			
6回	授業内容	関係法令 食品衛生法①		
	学習成果	概要、食品及び添加物、食品規格基準、器具及び容器包装の規格基準について理解できる。		
予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。			
7回	授業内容	関係法令 食品衛生法②		
	学習成果	表示の規制、臨検取去、食品衛生監視員による監視指導について理解できる		
予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。			
8回	授業内容	関係法令 食品衛生法③		
	学習成果	公衆衛生上必要な措置の基準、施設基準、営業許可、行政処分、食中毒調査について理解できる。		
予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令について考察する。			
9回	授業内容	関係法令 食品衛生法④		
	学習成果	準用、罰則、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理について理解できる。		
予習復習の内容	授業内容を振り返り食の法令とHACCPについて考察する。			
10回	授業内容	関係法令 食品表示法等食品表示関連法規		
	学習成果	食品表示関連法規について理解し説明できる。		
予習復習の内容	授業内容を振り返り食品表示について考察する。			
11回	授業内容	一般衛生法規①		
	学習成果	地域保健法、健康増進法等について理解し説明できる。		
予習復習の内容	授業内容を振り返り公衆衛生について考察する。			
12回	授業内容	一般衛生法規②		
	学習成果	感染症予防法等について理解し説明できる。		
予習復習の内容	授業内容を振り返り公衆衛生について考察する。			
13回	授業内容	一般衛生法規③		
	学習成果	食品安全基本法、食育基本法等について理解し説明できる。		
予習復習の内容	授業内容を振り返り食の関係法令について考察する。			
14回	授業内容	関係法令 その他の関係法令		
	学習成果	環境保全法規、消費者政策関連法規、その他の衛生法規について理解し説明できる。		
予習復習の内容	授業内容を振り返り衛生法規について考察する。			
15回	授業内容	衛生法規についてのまとめ		
	学習成果	衛生法規全般を理解し、説明できる。製菓衛生師国家試験問題に解答できる能力がある。		
予習復習の内容	授業内容を振り返り衛生法規全般について考察する。			

科目名	食品衛生学Ⅱ				担当者	相原 健二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に質問等を受け付ける											
専門的 学習成果	①	食中毒の発生状況を説明できる。										
	②	食中毒の病因物質の予防対策が説明できる。										
	③	菓子と食中毒の関連を説明できる。										
	④	食の安全を提供する製菓衛生師としての基本的な衛生知識を習得し実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食関連の仕事に従事した際食品衛生の視点から社会的自立や専門的自立において客観視する能力を高めることができる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(2)	食中毒について理解することで、健康保持や健康増進を実践できる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(3)	製菓衛生師として食の安全を保持し提供できる。(専門的学習成果①～④に関連)										
授業概要	食品衛生学Ⅱでは、主に食中毒と衛生管理について学ぶ。食中毒とは食中毒菌が付着した飲食物あるいは器具、容器包装を介して摂取することにより起きる健康障害である。食品衛生の目的は飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止することにあるが、ここでは主として食中毒についての概要、病因物質と予防対策について学ぶ。製菓衛生師養成課程は必修授業である。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。								
		レポート										
		平常点	30	授業に取り組む姿勢、意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①～④で行う。 (2) は専門的学習評価①～④で行う。 (3) は専門的学習評価①～④で行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	全国製菓衛生師養成施設協会編		『製菓衛生師教本』									
	日本菓子教育センター		『製菓衛生師全書』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキスト、配布資料、視聴覚教材を活用し、授業を進める。事前学習として、新聞・テレビ・インターネット等で報道される飲食物による食中毒事件、食の安全に関わる記事等を日々探求し、自己研鑽すること。探求した内容はノートにまとめておく。(時間外学習60時間程度) ②試験・レポートに対するフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、食中毒の概要	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。
	学習成果	食中毒の概要について理解し説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。		
2回	授業内容	食中毒の分類、発生状況	
	学習成果	食中毒の分類と発生状況を理解し説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。		
3回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策 細菌性食中毒 (1) 感染型食中毒	
	学習成果	サルモネラ属菌、腸炎ビブリオ、病原性大腸菌、ウエルシ菌、カンピロバクター、エルシニア菌、リステリア菌等について理解し説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。		
4回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策 細菌性食中毒 (2) 毒素型食中毒	
	学習成果	黄色ブドウ球菌、ボツリヌス、セレウス菌等について理解し説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。		
5回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策 ウィルス性食中毒	
	学習成果	ノロウイルス等について理解し説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。		
6回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策 化学性食中毒、アレルギー物質	
	学習成果	化学物質、アレルギー物質について、理解し説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。		
7回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策 自然毒食中毒	
	学習成果	自然毒について理解し説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。		
8回	授業内容	食中毒の病因物質・予防対策 寄生虫食中毒	
	学習成果	寄生虫(アニサキス等)について理解し説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。		
9回	授業内容	菓子と食中毒、異物混入	
	学習成果	和菓子、洋菓子、パンによる食中毒や異物混入の事例と予防対策を理解し説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。		
10回	授業内容	食中毒の予防①	
	学習成果	微生物(細菌、ウイルス、かび)による食中毒の予防について理解し説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。		
11回	授業内容	食中毒の予防②	
	学習成果	化学物質、自然毒、寄生虫等による食中毒の予防について理解し説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本を読み予習・復習しておく。		
12回	授業内容	食品衛生法及び食品表示法に基づく食品の取扱い	
	学習成果	食品衛生法及び食品表示法に基づく食品の規格基準、製造基準、保存基準、表示基準を説明することができる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書、製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。		
13回	授業内容	消毒の方法(物理的消毒方法、科学的消毒方法)	
	学習成果	食品衛生についての知識を学び、科学的な根拠をもとに実践方法を説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書、製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。		
14回	授業内容	HACCPによる衛生管理(概論)	
	学習成果	HACCPについての知識を学び、科学的な根拠をもとに実践方法を説明できる。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書、製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。		
15回	授業内容	食品衛生についてのまとめ	
	学習成果	食中毒、衛生管理全般を理解し、説明できる。製菓衛生師国家試験問題に解答できる能力を高める。	
予習復習の内容	製菓衛生師全書 製菓衛生師教本 製菓衛生師試験問題集を読み予習・復習しておく。		

科目名	食品衛生学Ⅲ				担当者	ワタ ナベ シゲ ヨ 渡 部 成 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問等には、各講義の前後に対応する。											
専門的 学習成果	①	食物連鎖について説明できる。										
	②	重金属、化学物質、農薬などの人体への影響を説明できる。										
	③	農薬や異物が食品に混入する原因を説明できる。										
	④	農薬や放射線の適切な利用方法を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食材に混入する可能性がある有害成分を考慮して、食材を選ぶことができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	野菜などを栽培する際に、農薬を適切に選択し、使用することができる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	食品に混入する危険性がある有害物質(重金属、化学物質、農薬など)の性質や人体への影響について学ぶ。また、こうした有害物質の安全で有効的な活用方法や食品への混入を防ぐ方法などについても学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	90	講義で説明した学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		平常点	10	講義中に行う理解度テストの解答内容から、授業への態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)	は専門的学習成果①～④で評価を行う。										
	(2)	は専門的学習成果③～④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	全国製薬衛生師養成施設協会	『製薬衛生師 試験問題集』				全国製薬衛生師養成施設協会						
	全国製薬衛生師養成施設協会	『製薬衛生師教本 上』				全国製薬衛生師養成施設協会						
	日本菓子教育センター	『製薬衛生師全集』				日本菓子教育センター						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストを授業前に読んで、問題集の問題を解くこと(予習:週1時間程度)。講義終了後に内容を復習すること(復習:週3時間程度)。 ②教本の記載内容が理解できない、練習問題が解けない場合は質問すること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	食物連鎖	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	食物連鎖と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	食物連鎖の定義を理解する。	
2回	授業内容	生物濃縮	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	生物濃縮と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	生物濃縮の定義を理解する。	
3回	授業内容	重金属	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	重金属と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	重金属の定義を理解する。	
4回	授業内容	放射性物質	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	放射性物質と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	放射性物質の定義を理解する。	
5回	授業内容	放射線、滅菌	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	放射線、滅菌の活用方法を説明できる。	
	予習復習の内容	放射線、滅菌の定義を理解する。	
6回	授業内容	有機塩素系農薬	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	有機塩素系農薬と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	有機塩素系農薬の定義を理解する。	
7回	授業内容	PCB	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	PCBと健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	PCBの定義を理解する。	
8回	授業内容	ダイオキシン	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	ダイオキシンと健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	ダイオキシンの定義を理解する。	
9回	授業内容	残留農薬	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	残留農薬と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	残留農薬の定義を理解する。	
10回	授業内容	残留動物用医薬品	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	残留動物用医薬品と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	残留動物用医薬品の定義を理解する。	
11回	授業内容	残留飼料添加物	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	残留飼料添加物と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	残留飼料添加物の定義を理解する。	
12回	授業内容	動物性の異物	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	動物性の異物と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	動物性の異物の定義を理解する。	
13回	授業内容	植物性の異物	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	植物性の異物と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	植物性の異物の定義を理解する。	
14回	授業内容	鉱物性の異物	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	鉱物性の異物と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	鉱物性の異物の定義を理解する。	
15回	授業内容	総まとめ	演習問題を使い、評価する。
	学習成果	食品衛生学Ⅲに関する演習問題を解くことができる。	
	予習復習の内容	演習問題を解いてみて、理解できない点を明確にしておく。	

科目名	食品衛生学Ⅳ（衛生管理）				担当者	菊地香保里						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室または非常勤講師室で受け付ける										
専門的 学習成果	①	衛生管理を実習を通して学び、清潔な身だしなみができる。										
	②	衛生管理についての知識を学び、日常生活の健康管理の重要性を科学的な根拠をもとに説明できる。										
	③	衛生管理を学び、食品の衛生管理を実践することができる。										
	④	衛生管理について実習を通して学び、洗剤の使用法や消毒剤の使用法を説明することができる。										
	⑤	食品衛生法に基づいた食品取扱者の衛生管理について学び、実践することができる。										
	⑥	製菓業務における HACCP システムについて学び、危害リストの作成ができ、説明できる。										
	⑦	製菓衛生師国家試験の過去問題を解くことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	衛生管理で習得した知識を活用して、衛生管理の課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(2)	衛生管理で習得した知識や技能を活用して菓子製造現場の課題に取り組み、問題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(3)	衛生管理で習得した知識を活用して菓子製造現場の衛生管理に取り組み、実践することができる。（専門的学習成果①～⑥に関連）										
	(4)	衛生管理で習得した知識を活用して、製菓衛生師国家試験等の資格取得に活用することができる。（専門的学習成果①～⑦に関連）										
授業概要	食に携わるものの義務として、人々に製造した食品を販売する社会的責任について十分に理解し、食品衛生法を遵守する重要性を学ぶ。そのために食品衛生法で定められている衛生管理全般についての知識が必要である。食品衛生法では、洋生菓子の衛生規範、営業施設基準準則、食品の表示、アレルギー物質を含む食品の表示等が示されている。食品衛生法について理解を深め、行動しながら考える習慣を身につけ、衛生管理の現状と今後の課題について考察する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	40	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート	40	7回レポート、学習プリントを提出し、各回5％を配点する。内容により評価する。								
		衛生点検表	20	10回実施し、各回2％を配点する。特につめが長い、ネイル、濃い化粧、マスカラ等は評価が低くなる。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～⑥で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	高谷 幸		『食品衛生責任者 / 実践マニュアル 食品取扱者・調理従事者必携 衛生管理ガイドブック』						社団法人 日本食品衛生協会			
	全国製菓衛生師養成施設協会編		『新訂製菓衛生師教本』						全国製菓衛生師養成施設協会			
	日本菓子教育センター		『製菓衛生師全書』						日本菓子教育センター			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	仙台市健康福祉局保健衛生部生活衛生課監修		『食品衛生責任者養成講習会テキスト・知っておきたい食品衛生』						社団法人 仙台市食品衛生協会			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習していただくこと。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと。（予習：週2時間程度）。事後学習としては、單元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること。（復習：週2時間程度）。授業計画の1回目と2回目と3回目は講義とし、4回目以降は演習を行う。 ②フィードバックとして、小テスト（理解度確認テスト）を回収後、解答の解説を行う。											

		授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス、衛生管理の意義、健康管理の重要性、食品取扱いの三原則		○レポート課題1「衛生管理の意義」「食品取扱いの三原則」を2回目までに提出する。「衛生管理点検表」の記入提出。	
	学習成果	衛生管理を実習を通して学び、個人の健康管理、清潔な身だしなみを学ぶ。			
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。			
2回	授業内容	施設、設備の要件と管理、営業者の責務		○レポート課題2「菓子製造業者として人々に食品を販売する社会的責任について」のまとめを3回目までに提出。「衛生管理点検表」の記入提出。	
	学習成果	食品衛生法に基づいた食品取扱者の衛生管理について学び、説明することができる。			
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。			
3回	授業内容	総合衛生管理製造過程、食品の保存と表示		○レポート課題3「食品の保存と表示」のまとめを4回目までに提出する。「衛生管理点検表」の記入提出。	
	学習成果	食品衛生法に基づいた食品取扱者の衛生管理について学び、実践することができる。			
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。			
4回	授業内容	滅菌、殺菌、消毒、牛乳の殺菌方法（実習室）		○「衛生管理点検表」の記入提出。	
	学習成果	菓子製造者として、食品衛生についての知識を学び、科学的な根拠をもとに実践することができる。			
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。			
5回	授業内容	服装、身だしなみ、入室マニュアル		○「衛生管理点検表」の記入提出。	
	学習成果	食品衛生法に基づいた食品取扱者の衛生管理について学び、清潔な身だしなみができる。			
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。			
6回	授業内容	手洗い、手洗いチェック		○「衛生管理点検表」の記入提出。	
	学習成果	食品衛生法に基づいた食品取扱者の衛生管理について学び、実践することができる。			
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。			
7回	授業内容	食材および加工済み食品の受け入れと保管時の衛生管理		○「衛生管理点検表」の記入提出。	
	学習成果	衛生管理を学び、食品の衛生管理を実践することができる。			
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。			
8回	授業内容	食材の適切な下処理、解凍と保存（実習室）		○「衛生管理点検表」の記入提出。	
	学習成果	衛生管理を学び、食品の衛生管理を実践することができる。			
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。			
9回	授業内容	食材の加熱処理、加工工程のない食材の取扱い（実習室）		○「衛生管理点検表」の記入提出。	
	学習成果	衛生管理を学び、食品の衛生管理を実践することができる。			
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。			
10回	授業内容	調理終了から喫食までの衛生管理 器具、容器、設備の洗浄、消毒、保管（実習室）		○「衛生管理点検表」の記入提出。	
	学習成果	衛生管理を学び、食品の衛生管理、洗剤や消毒剤の使用法を正しく実践することができる。			
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。			
11回	授業内容	給水・汚物処理、菓子製造業の施設基準と施設設備の構造（実習室）		○「衛生管理点検表」の記入提出。	
	学習成果	食品衛生法に基づいた管理運営基準、洋生菓子の衛生規範を学び、実践することができる。			
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。			
12回	授業内容	食品事業者の危機管理、事故など発生時の対応方法、異物混入の防止対策（実習室）		○学習プリントの練習問題1～10記入。レポート課題4「製品説明書」「製造工程一覧図」を記入し13回目まで提出。	
	学習成果	食品衛生法に基づいた管理運営基準、洋生菓子の衛生規範を学び、食品の衛生管理を実践することができる。			
	予習復習の内容	製菓衛生師全書、新訂製菓衛生師教本の該当する頁を読み予習する。復習は食品衛生法の関連する頁を読む。			
13回	授業内容	製菓業務における HACCP システムの検討		○学習プリントの練習問題11～20記入。レポート課題5「HACCPの計画書」に記入し、14回目まで提出。	
	学習成果	製菓業務における HACCP システムについて学び、危害リストの作成ができる。			
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。			
14回	授業内容	製菓業務における HACCP システムの検討		○学習プリントの練習問題21～30記入。レポート課題6「標準作業手順書」に記入し作成15回目まで提出。	
	学習成果	製菓業務における HACCP システムについて学び、衛生標準作業手順書の作成ができる。			
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。			
15回	授業内容	細菌性食中毒、ウイルス性食中毒の特徴と予防対策		レポート課題7「ノロウイルスの予防対策」をまとめて提出。学習プリントファイルを点検し、記入状況で評価する。	
	学習成果	衛生管理について実習を通して学び、洗剤の使用法や消毒剤の使用法を説明することができる。			
	予習復習の内容	テキストを読み予習し、演習後、関連する頁を読んで復習する。			

科目名	製菓社会論				担当者	相良奈津						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		sagara.natsu@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	菓子店を開業する為の必要最低限の事を説明できる。										
	②	菓子店経営の為に何が必要か説明できる。										
	③	菓子店経営の為にすべき事を体系的に論じることができる。										
	④	繁盛店になる為には何をすべきか説明できる。										
	⑤	菓子の歴史・文化について理解する。										
	⑥	菓子・製菓業界の現状と課題について理解し考察しプレゼンテーションができる。										
	⑦	自らの製菓観、菓子製造者・経営観を構築できる。										
汎用的 学習成果	(1)	製菓衛生師養成課程必須科目である、菓子店経営・菓子文化論に関する学習を通じて、菓子に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を修得し活用できる。(専門的学習成果①②③⑤⑦に関連)										
	(2)	経営に関連した専門知識を活用して、地域社会の発展に貢献できる。(専門的学習成果②③④に関連)										
	(3)	菓子・製菓業界の現状の調査や、プレゼンテーションを通じて、自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果④に関連)										
	(4)	菓子・製菓業界の現状の調査を通じて、修得した知識を活用し課題の設定や解決法について考察ができる。(専門的学習成果⑦に関連)										
授業概要	製菓衛生師必須科目である。テキストに沿って、菓子店開業の為に必要な届け出や準備すべき備品・什器、資金等、様々な角度から見つけ出す。さらに菓子店を経営していく上で売れるための仕組みと、売り上げ向上に繋がる為に必要不可欠な事や留意点を体験に基づき具体例を交えて講義するしていく。受講学生自らオーナーの立場となって繁盛店となるポイントを探る授業とする。菓子の歴史や現代生活との結びつきをテキストや文献に基づき深く見つめなおす。具体的には菓子の始まりから、日本における和・洋菓子文化に重点を置き知識を修得する。フランス等、欧州の古典菓子の名前と由来などについては講義の中で解説をする。また、調査を通じ現在の日本の菓子店・菓子の動向を調べ、自らの製菓観、菓子製造者・経営者感を構築しプレゼンテーションを行い、自己表現を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	30	筆記試験形式で行い全15回分の講義の内容の理解について評価を行う。								
		レポート										
		プレゼンテーション	30	テーマに基づいたプレゼンテーションの内容・発表により評価する。								
		平常点	10	調査やプレゼンテーションへの取り組み・意欲・態度により評価する。								
		提出物	10	パワーポイントについてその内容・形式により評価する。								
小テスト	20	第8回、第15回に実施。各回10%を配点する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) (4) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習評価①③⑤⑦により評価を行う (2) は専門的学習評価②③④により評価を行う (3) は専門的学習評価④⑥により評価を行う (4) は専門的学習評価⑦により評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名	書名		出版社名								
	全国製菓衛生師養成施設協会編	『製菓衛生師教本』		全国製菓衛生師養成施設協会								
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
	猫井 登	『お菓子の由来物語』		幻冬舎ルネッサンス								
	大森由紀子	『フランス菓子図鑑 お菓子の名前と由来』		世界文化社								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①製菓衛生師養成課程必須科目である。テキストを使用し授業を進めるため、必ずテキストを準備のうえ受講すること。授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週4時間程度行うこと。また、日常的に菓子店・製パン店・和菓子店・デパート食品売り場等に出向き菓子店の動向などを視察し考察を深めること。 ②小テスト・筆記試験は答案を返却するとともに、問題・解答についての解説を行うことにより、結果のフィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、菓子店経営論概要、菓子と食生活	○小テスト 8回目に実施
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンス内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	ビジネスプランの企画開発の手順・企業戦略の確立	
	学習成果	ビジネスプランの企画開発の手順と企業戦略の確立を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
	授業内容	企業戦略の確立・店舗オペレーションの原理原則	
3回	学習成果	企業戦略の確立方法と店舗オペレーションの原理原則を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
4回	授業内容	商品計画・商品の価値・味	
	学習成果	商品計画の方法・商品の価値・味を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
	授業内容	店舗計画・店舗設計について	
5回	学習成果	店舗計画の方法・店舗設計について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
6回	授業内容	経営計画の立て方・マニュアルの作成方法	
	学習成果	経営計画の立て方・マニュアルの作成方法を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
	授業内容	人事に関する法規・サービスからホスピタリティに	
7回	学習成果	人事に関する法規・サービスからホスピタリティを理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
8回	授業内容	接客サービスの基本・販売促進計画・開店計画・菓子店経営についてのまとめ	
	学習成果	接客サービスの基本・販売促進計画・開店計画・菓子店経営全般についてのまとめを理解し説明できる。	
	予習復習の内容	製菓衛生師教本「社会」分野を予習、復習する。	
	授業内容	菓子の役割 (1) 歴史的背景 (2) 現代社会の場合	○小テスト 15回目に実施 15回分の授業内容の理解について 筆記試験で評価。
9回	学習成果	菓子の歴史的背景・現代社会での役割を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、菓子の歴史的背景・現代社会での役割について理解を深める。	
	授業内容	日本の工芸菓子文化・都市部の菓子店の現状の調査	
10回	学習成果	ジャパンケーキショーを調査し、工芸菓子について説明ができる。都市部の菓子店を調査し、店のポイントや味、地方との違いについて説明ができる。	
	予習復習の内容	調査を振り返り、日本の工芸菓子文化、都市部の菓子店の現状について理解を深める。	
11回	授業内容	調査研究の発表	
	学習成果	パワーポイントを製作し、他者の前で発表できる。	
	予習復習の内容	パワーポイント製作及び発表に向けて必要な準備を行う。	
	授業内容	菓子の歴史 (1) 縄文時代から鎌倉時代まで (2) 江戸時代から現代まで	
12回	学習成果	菓子の歴史の縄文時代から現代まで、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、菓子の歴史の縄文時代から現代までについて理解を深める。	
13回	授業内容	パンの歴史 (1) 世界編 (1) 日本編	
	学習成果	パンの歴史の世界編・日本編について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、パンの歴史の世界編・日本編について理解を深める。	
	授業内容	菓子製造の要件 (1) 美と味覚 (2) 衛生と栄養	
14回	学習成果	菓子製造の要件の美と味覚・衛生と栄養について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、菓子製造要件の美と味覚・衛生と栄養について理解を深める。	
15回	授業内容	菓子の生産と消費・菓子の包装	
	学習成果	菓子の生産と消費・菓子の包装について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、菓子の生産と消費・菓子の包装について理解を深める。	

科目名	創作演習				担当者	関根俊二							
区分	選択	2	単位	授業回数 15	回 15	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期		
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業後あるいはオフィスアワー(初回授業で説明)												
専門的 学習成果	①	表現行為に自覚的になり、言葉を選び表現することができる。											
	②	表現する立場からさまざまな作品に触れることで、文学作品の理解が深まり説明できる。											
	③	グループ活動を通して円滑なコミュニケーションを実践できる。											
汎用的 学習成果	(1)	相手の立場に立ち相手の本意に向き合おうとする他者理解を行うことができる。(専門的学習成果②③に関連)											
	(2)	自覚的で選択的な自己表現を行うことができる。(専門的学習成果①③に関連)											
授業概要	エッセイ、童話、短編小説、シナリオの創作にチャレンジする。人の心へ届く作品を目指して、内容の選択、構成・表現への配慮に通常よりも時間をかけて執筆してもらう。 授業の流れとしては、まずそれぞれの分野で自分が関心をもつ作品について説明、ジャンルの表現特徴について確認した上で執筆に取り組んでもらう。創作後は作品を朗読し意見交換して、自分の作品を客観的に振り返ってもらう。 作品は冊子の形に取りまとめて3月に配布する。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		提出物	100	執筆した作品を4回にわたって提出する。各回、25点を配点する。独創性と表現力を評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果②③の評価で行う。 (2)は専門的学習成果①③の評価で行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名				
				印刷物等配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名				
				『文章の工房 2019』(前年度の成果報告書)									
				河北新報投稿欄「ティータイム」						河北新報社			
	江国香織		『すいかの匂い』				新潮社						
	さくらももこ		『ものかんづめ』				集英社						
	佐野洋子		『100万回生きたねこ』				講談社						
いなづまかつら他		『ゆきのひのくまさん』				鈴木出版							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①開講前に、また、授業と並行して参考文献またはそれに準じた作品に触れてほしい(計16時間程度)。4回実施する作品の執筆は授業で行うが、それで完了しない場合は教室外での執筆となる。意見交換後の振り返りに基づき作品の手直しもする。ジャンルによってかかる時間は異なるが、各ジャンルごとに平均11時間取り組む。 ②執筆された作品については、教室内で発表の機会を与え、講評を伝える。3月に成果報告書『文章の工房2019』を配布する。											

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 授業の進め方 作品紹介(『文章の工房 2019』を中心に)	創作エッセイの提出(第5回)
	学習成果	前年度の授業成果報告書に触れて具体的に目標を設定できる。	
2回	予習復習の内容	参考文献の作品を読んでおく。	
	授業内容	作品紹介の続き(参考文献など)	
3回	学習成果	さまざまな作品に触れながら柔軟に構想を立てられる。	
	予習復習の内容	参考文献に類した作品を読んでおく。	
4回	授業内容	エッセイ創作 エッセイの表現 さまざまなエッセイ	
	学習成果	エッセイの表現を理解し説明できる。	
5回	予習復習の内容	参考文献に類した作品を読んでおく。自分の作品の構想を練る。	
	授業内容	エッセイの創作 エッセイの執筆	
6回	学習成果	内容・表現を追求してエッセイを執筆できる。	
	予習復習の内容	エッセイを完成する。	
7回	授業内容	エッセイの創作 発表と意見交換	
	学習成果	自分のエッセイについて客観的に評価できる。	
8回	予習復習の内容	振り返りに基づき作品を調整する。	
	授業内容	童話の創作 童話の表現 さまざまな童話	
9回	学習成果	童話の表現を理解し説明できる。	創作童話の提出(第8回)
	予習復習の内容	参考文献に類した作品を読んでおく。自分の作品の構想を練る。	
10回	授業内容	童話の創作 童話の執筆	
	学習成果	内容・表現を追求して童話を執筆できる。	
11回	予習復習の内容	童話を完成する。	
	授業内容	童話の創作 発表と意見交換	
12回	学習成果	自分の童話について客観的に評価できる。	
	予習復習の内容	振り返りに基づき作品を調整する。	
13回	授業内容	コートの創作 コートの表現 さまざまなコート	創作コートの提出(第11回)
	学習成果	コートの表現を理解し説明できる。	
14回	予習復習の内容	参考文献に類した作品を読んでおく。自分の作品の構想を練る。	
	授業内容	短編小説の創作 短編小説の表現 さまざまな短編小説	
15回	学習成果	短編小説の表現を理解し説明できる。	創作小説の提出(第14回)
	予習復習の内容	参考文献に類した作品を読んでおく。自分の作品の構想を練る。	
16回	授業内容	短編小説の創作 短編小説の執筆	
	学習成果	内容・表現を追求して短編小説を執筆できる。	
17回	予習復習の内容	短編小説を完成する。	
	授業内容	短編小説の創作 発表と意見交換	
18回	学習成果	自分の短編小説について客観的に評価できる。	
	予習復習の内容	振り返りに基づき作品を調整する。	
19回	授業内容	まとめ 各作品の入力 『文章の工房2019』について	
	学習成果	自分の創作について客観的に評価できる。	
20回	予習復習の内容	入力を完了し提出する。	

科目名	公務員試験対策演習（過去問演習）				担当者	堀 良平 ・ 本吉 祥子 ・ 宮城 伸彦						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。											
専門的 学習成果	①	公務員試験に必要な対策について確認し、効果的な取り組みを進められる。										
	②	公務員試験出題科目それぞれの要点を理解し、適切な解法が実践できる。										
	③	公務員試験における適性試験ならびに作文、面接試験について理解し、効果的な対策を検討することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	問題演習・解答解説を通し、高い目的意識をもって公務員試験対策が進捗する。（専門的学習成果①・②・③に関連）										
授業概要	公務員試験において出題される科目について講義で基本的な解法パターンや学習方法を示し、教材を通して各自での学習を効率よく進めることができることを目的とする。今期においては一般知能科目（数的推理、判断推理、空間把握、資料解釈）ならびに一般知識科目を中心に講義を行う。 公務員試験合格を目標とする講義となることから、講義を受動的に受講するだけでなく、主体的に家庭学習を進められる姿勢を強く求める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		習熟度テスト & レポート	100	講義実施内容についての習熟度を確認するテスト&レポートを最終回に行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①・②・③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	資格試験研究会		高卒・短大卒程度公務員コース【通信講座教材】						実務教育出版			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ地方初級 教養試験 過去問350』						実務教育出版			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ国家一般職（高卒・社会人）教養試験 過去問350』						実務教育出版			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ高卒警察官 教養試験 過去問350』						実務教育出版			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義時に学習方法等の指示を行うので、その内容に沿って各自家庭学習を進めること。 ②習熟度テストは実施後適宜解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	
	学習成果	講義の進め方を踏まえつつ、公務員試験に向けての学習計画を立てることができる。	
	予習復習の内容	インターネットなどで試験情報の収集などを行う。	
2回	授業内容	過去問演習（数的推理・資料解釈）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
3回	授業内容	過去問演習（数的推理・資料解釈）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
4回	授業内容	過去問演習（数的推理・資料解釈）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
5回	授業内容	過去問演習（判断推理・空間把握）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
6回	授業内容	過去問演習（判断推理・空間把握）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
7回	授業内容	過去問演習（判断推理・空間把握）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
8回	授業内容	過去問演習（判断推理・空間把握）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
9回	授業内容	過去問演習（文章理解）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
10回	授業内容	過去問演習（文章理解）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
11回	授業内容	過去問演習（政治・経済）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
12回	授業内容	過去問演習（政治・経済）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
13回	授業内容	過去問演習（政治・経済）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
14回	授業内容	適性試験、作文・面接試験 基礎	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
15回	授業内容	まとめ	習熟度テスト&レポートを実施する。
	学習成果	これまでの講義内容を振り返り、今後の学習に繋げることができる。	
	予習復習の内容	この期間内の学習内容を振り返る。	

科目名	公務員試験対策演習（直前編）				担当者	堀 良平 ・ 本吉 祥子 ・ 宮城 伸彦						
区 分	選択	2	単位	授業回数	10	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期集中
				授業時間数	20	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。										
専門的 学習成果	①	公務員試験に必要な対策について確認し、効果的な取り組みを進められる。										
	②	公務員試験出題科目それぞれの要点を理解し、適切な解法が実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	問題演習・解答解説を通し、高い目的意識をもって公務員試験対策が進捗する。（専門的学習成果①・②に関連）										
授業概要	9月に実施される国家公務員並びに地方公務員採用試験に向けて、暗記系科目（日本史・世界史・地理、社会・労働・国際関係）の重要ポイントの整理や一般知能の予想問題の演習・解説、二次試験に向けた実践形式の講義を行う。また、模擬試験を実施し、解説講義を通して弱点の把握を目指す。 公務員試験合格を目標とする講義となることから、講義を受動的に受講するだけでなく、主体的に家庭学習を進められる姿勢を強く求める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		模擬試験	100	模擬試験を実施しその内容で評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①・②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	資格試験研究会		高卒・短大卒程度公務員コース【通信講座教材】						実務教育出版			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ地方初級 教養試験 過去問350』						実務教育出版			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ国家一般職（高卒・社会人）教養試験 過去問350』						実務教育出版			
	資格試験研究会		『公務員試験合格の350シリーズ高卒警察官 教養試験 過去問350』						実務教育出版			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義時に学習方法等の指示を行うので、その内容に沿って各自家庭学習を進めること。また指定されたコース教材を購入するとともに、公務員試験対策演習（過去問演習）の受講を必須とする。 ②模擬試験を実施したのち、解説講義を実施する。										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	一般知能全般	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	社会・労働・国際関係	
3・4回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
5・6回	授業内容	日本史・世界史・地理	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	適性試験、作文・面接試験対策 実践	
7・8回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
9・10回	授業内容	模擬試験、解説・まとめガイダンス	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容		
11・12回	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
13・14回	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
15・16回	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
17・18回	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
19・20回	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
21・22回	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
23・24回	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
25・26回	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
27・28回	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
29・30回	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		

科目名	薬理学				担当者	渡 部 成 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		質問等には、各講義の前後に対応する。										
専門的 学習成果	①	医薬品とは何かを説明できる。										
	②	医薬品を取扱う上での規則が説明できる。										
	③	医薬品の人体への作用を説明できる。										
	④	主な疾患に適用される医薬品を挙げて、その薬理作用を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	医療事務職員として、医療スタッフのサポートが適切に行える。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	医療事務職員として、患者さんからの質問や相談に適切に対応できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
授業概要	医薬品の性質や人体に及ぼす作用を学び、医薬品を安全に取り扱える知識を学ぶ。また、薬事法による医薬品の規制を学び、医薬品を適切に取り扱える知識を習得する。主な疾患の治療には、どのような医薬品が使われているのか学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	90	講義で説明した学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		平常点	10	講義中に行う理解度テストの解答内容から、授業への態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名			出版社名						
	井上 肇		『検査・薬理学』			健帛社						
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名			出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストを授業前に読んで、問題集の問題を解く(2時間程度)。講義終了後に内容を復習する(2時間程度)。 ②教本の記載内容が理解できない、練習問題が解けない場合は質問すること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	医薬品、日本薬局方	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	医薬品、日本薬局方について説明できる。	
	予習復習の内容	医薬品、日本薬局方の概要を理解する。	
2回	授業内容	医薬品の名称と分類	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	医薬品の名称と分類について説明できる。	
	予習復習の内容	医薬品の分類方法を理解する。	
3回	授業内容	医薬品の安定性と剤型	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	医薬品の安定性と剤型について説明できる。	
	予習復習の内容	医薬品の安定性と剤型の概要を理解する。	
4回	授業内容	医薬品の体内での働きについて	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	医薬品の体内での働きについて説明できる。	
	予習復習の内容	医薬品の体内での働きを理解する。	
5回	授業内容	薬理作用の分類、特徴、薬物間相互作用	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	薬理作用の分類、特徴、薬物間相互作用について説明できる。	
	予習復習の内容	薬理作用の分類、特徴、薬物間相互作用の概要を理解する。	
6回	授業内容	反復作用、主作用と副作用、薬物療法の分類	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	反復作用、主作用と副作用、薬物療法の分類について説明できる。	
	予習復習の内容	反復作用、主作用と副作用、薬物療法の分類の概要を理解する。	
7回	授業内容	医薬品の投与方法、包装、販売	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	医薬品の投与方法、包装、販売について説明できる。	
	予習復習の内容	医薬品の投与方法、包装、販売の概要を理解する。	
8回	授業内容	調剤薬局業務<処方箋について>、ジェネリック医薬品	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	調剤薬局業務<処方箋について>、ジェネリック医薬品について説明できる。	
	予習復習の内容	調剤薬局業務<処方箋について>、ジェネリック医薬品の概要を理解する。	
9回	授業内容	末梢神経作用薬、中枢神経作用薬	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	末梢神経作用薬、中枢神経作用薬について説明できる。	
	予習復習の内容	末梢神経作用薬、中枢神経作用薬の概要を理解する。	
10回	授業内容	消化器系疾患に用いる薬、循環器系疾患に用いる薬	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	消化器系疾患に用いる薬、循環器系疾患に用いる薬について説明できる。	
	予習復習の内容	消化器系疾患に用いる薬、循環器系疾患に用いる薬の概要を理解する。	
11回	授業内容	代謝系疾患に用いる薬、呼吸器系疾患に用いる薬	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	代謝系疾患に用いる薬、呼吸器系疾患に用いる薬について説明できる。	
	予習復習の内容	代謝系疾患に用いる薬、呼吸器系疾患に用いる薬の概要を理解する。	
12回	授業内容	アレルギー性疾患治療薬、抗炎症薬	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	アレルギー性疾患治療薬、抗炎症薬について説明できる。	
	予習復習の内容	アレルギー性疾患治療薬、抗炎症薬の概要を理解する。	
13回	授業内容	ホルモン・ビタミン製剤、貧血および血液系疾患治療薬	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	ホルモン・ビタミン製剤、貧血および血液系疾患治療薬について説明できる。	
	予習復習の内容	ホルモン・ビタミン製剤、貧血および血液系疾患治療薬の概要を理解する。	
14回	授業内容	感染症治療薬および抗悪性腫瘍薬	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	感染症治療薬および抗悪性腫瘍薬について説明できる。	
	予習復習の内容	感染症治療薬および抗悪性腫瘍薬の概要を理解する。	
15回	授業内容	輸血製剤	演習問題を使い、評価する。
	学習成果	輸血製剤について説明できる。	
	予習復習の内容	輸血製剤の概要を理解する。	

科目名	公衆衛生学				担当者	渡 部 俊 彦						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問等にはメールで対応する メールアドレス： twatanab@tohoku-mpu.ac.jp											
専門的 学習成果	①	健康とは何か説明できる。										
	②	公衆衛生の現状や人の健康を守る制度について説明できる。										
	③	主な疾病の特徴や病因を説明できる。										
	④	生活習慣・生活環境と健康との関係について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	医療事務職員として、患者さんに衛生的な環境の作り方を提案できる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	医療事務職員として、健康に関する患者さんの質問に対応できる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	公衆衛生を学ぶ意義と公衆衛生の現状を学ぶ。健康とは何か、また主な疾病の特徴やその原因は何かを学ぶ。生活習慣や生活環境が、人の健康にどのような影響を与えているかを学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	100	講義で説明した内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
				テキストは使用せずプリントを配布する。								
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義前、講義後に講義内容に関する確認試験を行う。 その日講義する内容を教科書で確認すること（予習：2時間程度）。 また、講義終了後は確認試験を活用し、講義内容を理解できているか確認する。 理解できていない部分は、しっかりと復習すること（復習：2時間程度）。 ②確認試験を回収し、正解率が悪い項目については、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	公衆衛生の概要	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	公衆衛生を学ぶ意義を説明することができる。	
	予習復習の内容	公衆衛生の定義を理解する。	
2回	授業内容	公衆衛生のための設備	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	公衆衛生を維持するための施設を説明することができる。	
	予習復習の内容	公衆便所、公衆浴場の公衆衛生上の役割を理解する。	
3回	授業内容	感染症発生动向調査	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	国内外に蔓延している感染症について説明することができる。	
	予習復習の内容	天然痘、マラリア、エイズ、結核について理解する。	
4回	授業内容	環境保健	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	人と環境の関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	生態系の仕組みを理解する。	
5回	授業内容	炭素の循環	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	二酸化炭素、メタンガスと環境との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	地球温暖化の原因と影響を理解する。	
6回	授業内容	カリウム、窒素、リンの循環	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	カリウム、窒素、リンと環境との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	カリウム、窒素、リンの自然界での役割を理解する。	
7回	授業内容	大気の組成	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	大気を構成する成分と環境との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	大気を構成する成分には、何があるか理解する。	
8回	授業内容	大気圧	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	大気圧と生活や健康との関係を説明できる。	
	予習復習の内容	大気圧の定義を理解する。	
9回	授業内容	水	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	水と健康の関係を説明できる。	
	予習復習の内容	脱水症状、硬水、軟水とは何か理解する。	
10回	授業内容	衣服	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	衣服と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	衣服の素材には何があるか理解する。	
11回	授業内容	住居	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	住居と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	快適な生活を送るための換気および照明の方法を理解する。	
12回	授業内容	廃棄物	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	廃棄物の適切な処理方法を説明できる。	
	予習復習の内容	一般廃棄物と産業廃棄物の廃棄方法について理解する。	
13回	授業内容	公害（大気汚染）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	大気汚染の原因と健康への影響を説明できる。	
	予習復習の内容	四日市喘息、光化学スモッグ、PM2.5について理解する。	
14回	授業内容	公害（水質汚染）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	水質汚染の原因と健康への影響を説明できる。	
	予習復習の内容	水俣病、イタイイタイ病について理解する。	
15回	授業内容	公害（騒音、振動、悪臭）	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	騒音、振動、悪臭の健康への影響を説明できる。	
	予習復習の内容	騒音、振動、悪臭の発生要因について理解する。	

科目名	医療事務演習Ⅱ				担当者	加藤 淳子							
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回		授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果		①	多くの診療行為の中で、組み合わせにより特殊な計算をする項目の算定ができる。										
		②	数多くの問題を解く事で知識と技術の幅を広げることができる。										
		③	診療報酬請求事務の総括作業ができる。										
汎用的 学習成果		(1)	医療事務の複雑に絡み合う診療行為の算定方法を理解し、正しく診療報酬の請求ができるようになる。(専門的学習成果①に関連)										
		(2)	乳幼児から高齢者、外来、入院と多くのカルテ問題を解き、迅速に正確に請求書の作成ができるようになる。(専門的学習成果①②に関連)										
		(3)	医療機関で作成された請求書は特定の規則によって集計され、まとめられている。この総括作業を理解し実践する。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要		1年次で学んだ医療事務演習Ⅰに引き続きカルテを読み請求書の作成と点検を行うが、診療内容がとても濃い内容のカルテになるため、一つひとつ算定方法を正確に確認をする。また全体の診療内容を把握することと診療行為の組み合わせなどを読み取り、間違いない請求書の作成ができるようになる。医療機関で実際に行われている、診療報酬明細書のまとめ方、提出の仕方の総括作業を理解し、実際に仕分けし総括表の作成をする事で医療事務全体の作業を理解できる。											
評価方法 基準等		学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
		専門的 学習成果	定期試験										
			レポート										
			平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
	筆記試験	80	第30回目の授業後半に筆記試験形式で行い、全30回分の授業内容の理解について評価を行う。										
		汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は、専門的学習成果①②で評価を行う。 (3)は、専門的学習成果③で評価を行う。										
テキスト 等		著者・編集者名		書名		出版社名							
				1年の医療事務で使用した教材一式									
				プリント配布									
参考書 参考文献		著者・編集者名		書名		出版社名							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前にテキストの該当部分を読み、ポイントを把握した上で授業に臨む。(予習：週1時間程度) ②多くのカルテ問題を練習する事で、知識と技術の向上を図るため、宿題課題を課し翌週に提出してもらい、採点、添削の上返却する。(復習：週1時間程度)											

授業計画			学習成果の評価	
1・2回	授業内容	外来カルテ問題① 十二指腸潰瘍、びらん性胃炎等の診療内容		課題提出 これまでの内容を含み課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	造影剤使用撮影、内視鏡検査、特定疾患管理料等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
3・4回	授業内容	外来カルテ問題② 大腿部挫創、不眠症等の診療内容		
	学習成果	緊急手術等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
5・6回	授業内容	外来カルテ問題③ 大腸癌、脳動脈瘤の疑い等の診療内容		
	学習成果	外来化学療法、腫瘍マーカー検査等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
7・8回	授業内容	入院カルテ問題① 虫垂穿孔性急性腹膜炎等の診療内容		課題提出 これまでの内容を含み課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	緊急入院、緊急手術等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
9・10回	授業内容	入院カルテ問題② 慢性胆のう炎、胆のう結石症等の診療内容		
	学習成果	胆のう摘出術等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
11・12回	授業内容	入院カルテ問題③ 肝細胞癌、C型肝炎等の診療内容		
	学習成果	輸血、肝切除術等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
13・14回	授業内容	外来カルテ問題④ 下腿部裂創(乳幼児)等の診療内容		課題提出 これまでの内容を含み課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	乳幼児加算、時間外加算、手術等算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
15・16回	授業内容	外来カルテ問題⑤ 尿管結石、水腎症(高齢者)等の診療内容		
	学習成果	CT撮影、尿管結石破砕術等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
17・18回	授業内容	入院カルテ問題④ 高血圧症、脳腫瘍等の診療内容		
	学習成果	輸血、頭蓋内腫瘍摘出術等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
19・20回	授業内容	入院カルテ問題⑤ すい臓がん、2型糖尿病等の診療内容		
	学習成果	麻酔困難者の麻酔、すい体尾部腫瘍摘出術等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
21・22回	授業内容	筆記問題① 医療保険制度、公費負担制度、初再診料、入院料問題		課題提出 これまでの内容を含み課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	医療保険制度から入院料までの問題を解くことができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
23・24回	授業内容	筆記問題② 高齢者医療、医学管理料、在宅医療、投薬、注射料問題		
	学習成果	高齢者医療から注射料問題を解くことができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
25・26回	授業内容	筆記問題③ 処置、手術、検査、画像診断料問題		
	学習成果	処置、手術、検査、画像診断料の問題を解くことができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
27・28回	授業内容	診療報酬請求事務 総括① 請求書の仕分け		課題提出 これまでの内容を含み課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	診療報酬明細書の保険者別に仕分けができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、保険者毎の特徴を理解する。			
29・30回	授業内容	診療報酬請求事務 総括② 請求書のまとめ方、総括表の記入		
	学習成果	診療報酬明細書のまとめと、総括表の記載ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、総括表を作成する。			

科目名	医療事務演習Ⅲ（調剤報酬）				担当者	丸山 稔 ・ 加藤 淳 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	23	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
授業時間数					46	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的 学習成果	①	調剤報酬の算定の制度についての知識を活用できる。										
	②	調剤報酬請求明細（レセプト）の作成ができる。										
	③	調剤薬局における患者対応がスムーズにできるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	調剤報酬の算定の制度を学ぶことを通して、調剤事務員として職業自立につなげることができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	処方箋から調剤報酬を算定する方法を学ぶことを通して、問題解決の能力をもつことができる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(3)	習得した専門知識を活用し、正しい保険医療の啓蒙や、調剤事務員として社会で活躍できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	1枚の処方箋がどのように流れて処理されていくのか？ 調剤薬局での事務職の基礎となる知識を学ぶと同時に、調剤報酬と調剤レセプトの作成について学ぶ。また、コンピュータによる調剤報酬請求事務や薬歴管理等について学ぶ。期間の前半7回は講義形式で、処方箋の見方や、健康保険医療における調剤報酬の算定方法を習得する。後半は2コマ連続の8回（16コマ）で、調剤会計事務専用のパソコンソフトを用い、実践的能力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		確認試験	60	学習内容に基づき、学習熟度に関するテスト等を実施し、評価を行う。								
	平常点	40	演習への取り組み、意欲、態度により判断する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	NI メディカルオフィス編	『調剤報酬請求事務 基礎知識とレセプト作成』				一ツ橋書店						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①前半の7回分は講義を行う（予習復習として週に4時間必要）。 後半の8回（16コマ）は2コマ連続の演習形式の授業を行う（授業後、作業内容の振り返りとして週1時間必要）。後半の演習では、USB フラッシュメモリを各自用意すること。履修にあたり、1年次のレセプト作成の学習をしっかり身につけておくこと。 ②随時解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	調剤薬局における事務職の役割	
	学習成果	調剤薬局における事務職の役割を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り再確認すること。	
2回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接遇マナー	
	学習成果	受付業務と接遇マナーを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。	
3回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接遇マナー	
	学習成果	受付業務と接遇マナーを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。	
4回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接遇マナー	
	学習成果	受付業務と接遇マナーを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。	
5回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接遇マナー	
	学習成果	受付業務と接遇マナーを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。	
6回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接遇マナー	
	学習成果	受付業務と接遇マナーを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。	
7回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接遇マナー	
	学習成果	受付業務と接遇マナーを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、意味を再確認すること。	
8・9回	授業内容	調剤報酬請求事務処理用 PC について、電子化の概要	
	学習成果	調剤薬局における事務処理の電子化の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、目的を再確認すること。	
10・11回	授業内容	PC ソフトの使い方	
	学習成果	調剤事務ソフトウェアの概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。	
12・13回	授業内容	処方箋よりレセプトの作成と点検（初期設定、患者登録）	
	学習成果	初期設定と患者登録ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。	
14・15回	授業内容	処方箋よりレセプトの作成と点検（調剤報酬算定）	
	学習成果	調剤報酬算定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。	
16・17回	授業内容	処方箋よりレセプトの作成と点検（レセプト点検）	
	学習成果	レセプト作成と点検ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。	
18・19回	授業内容	練習問題（レセプトの作成と点検）	
	学習成果	レセプト作成と点検ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。	
20・21回	授業内容	実践的練習問題（総合）	
	学習成果	処方箋から会計とレセプトを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各操作の意味を再確認すること。	
22・23回	授業内容	修了試験	
	学習成果	調剤薬局における事務全般について概要を把握できる。	
	予習復習の内容	授業内容全体について、整理・確認しておくこと。	

科目名	医事接遇マナー					担当者	加藤 淳子					
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	接遇の必要性を学び、身近な問題として理解し応用できる。										
	②	一般的な接遇と医療接遇の違いが比較できる。										
	③	医療接遇の必要性を学んだ上で、接遇の技術を実施できる。										
	④	様々な患者様やご家族の立場を理解し、適切な接遇が実施できる。										
汎用的 学習成果	(1)	なぜ接遇が必要なのか、また具体的にどのようなサービスが必要なのかを理解し実践につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	一般的な接遇と医療接遇の違いを学ぶことで、より一層相手を思いやる接遇ができる。(専門的学習成果②③④に関連)										
	(3)	医療従事者のそれぞれの役割を理解しどのように振る舞うのか、という技術を習得し実践につなげることができる。(専門的学習成果③④に関連)										
	(4)	医療従事者と患者様とのコミュニケーションを高めるための、知識と技術を習得し積極的に行動がとれる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要		医療機関で働くスタッフは、「なぜ、医療接遇が必要なのか」また「具体的にどんなサービスが必要なのか」を身近な問題として理解していく必要がある。医療機関に対する患者様の不満は、「患者様への声掛け」といったほんの少しのサービスの前進で解決できる事も少なくない。この授業では医療接遇の基本的な部分を理解し、患者様一人ひとりに合う接遇ができるように、患者様の特性や医療接遇の知識を学ぶことで技術を習得する。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
筆記試験	80	第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回分の授業内容の理解について評価を行う。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は、専門的学習成果②③④で評価を行う。 (3)は、専門的学習成果③④で評価を行う。 (4)は、専門的学習成果③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			プリント配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	ニチイ学館		『医療事務講座 患者接遇マナー』				ニチイ学館					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①配布資料や参考資料を事前学習として授業内容理解のため読み予習しておくこと。(予習：週2時間程度)事後学習としては、単元ごとに小テストを実施するため復習をしっかりとすること(復習：週2時間程度) ②授業で学んだ箇所の問題を解き適宜説明をする。										

	授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	社会人、組織人としての心構えとは		筆記試験 第15回の後半50分で、全15回分の 内容の試験を行い評価する。
	学習成果	社会は多くの人と関わるため、人間関係を円滑にするポイントを説明できる。		
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、ポイントについて理解を深める。			
2回	授業内容	医療とは、病院とは		
	学習成果	医療提供の理念、医療の歴史、病院組織、部門ごとの従事者を学び理解ができる。		
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、医療の在り方、病院組織について説明できるようにする。			
3回	授業内容	患者様の来院時における心のあり方、ホスピタリティとは		
	学習成果	患者様の心理、接遇の意義を学び理解ができる。		
予習復習 の内容	接遇に必要なポイントは何か、の学習内容を振り返り理解を深めておく。			
4回	授業内容	サービス業としての医療、プロフェッショナルとしての条件		
	学習成果	医療はサービス業であり第三者から評価される事や、プロとして必要な考えを学び理解できる。		
予習復習 の内容	仕事をしていく上で必要な事について復習しておく。			
5回	授業内容	今後の医療に求められる接遇		
	学習成果	高齢社会を迎え変わる患者意識を学び理解ができる。		
予習復習 の内容	患者様の意識を理解し、間接的接遇やサポート接遇の必要性を復習しておく。			
6回	授業内容	病院を決める第一印象 (1) 表情・動作・姿勢		
	学習成果	TPOに合わせた顔、身体、姿勢の変化について理解し、実践できる。		
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、表情や姿勢など実践する。			
7回	授業内容	病院を決める第一印象 (2) あいさつ・身だしなみ		
	学習成果	あいさつの重要性、おしゃれと身だしなみの違いについて説明ができる。		
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、理解を深め復習しておく。			
8回	授業内容	言葉美人になるために、電話応対の決めて		
	学習成果	話し言葉の正しい使い方や感じ良く話す、電話対応の基本を学び、実践できる。		
予習復習 の内容	正しい話し方を実践する。			
9回	授業内容	部門別接遇ポイント (1) 受付窓口の心構え		
	学習成果	受付対応の基本ポイントを学び、実践できる。		
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、窓口対応の基本を復習しておく。			
10回	授業内容	部門別接遇ポイント (2) 会計窓口・薬局窓口		
	学習成果	会計窓口の接遇に必要な基本や薬局窓口での基本ポイントを学び、実践できる。		
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、それぞれの基本を復習しておく。			
11回	授業内容	部門別接遇ポイント (3) 医師・看護師など		
	学習成果	医師、看護師などが行う接遇の基本ポイントを学び理解ができる。		
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、それぞれの基本を復習しておく。			
12回	授業内容	患者様別接遇ポイント (1) 高齢者・ご家族		
	学習成果	高齢の方や患者様のご家族への対応を学び、実践できる。		
予習復習 の内容	学習内容を振り返り、それぞれの対応の理解を深めておく。			
13回	授業内容	患者様別接遇ポイント (2) 身体障害者の方		
	学習成果	聴覚、視覚、肢体不自由の患者様を理解し、接遇のポイントを学び実践できる。		
予習復習 の内容	それぞれの接遇ポイントを振り返り、実践する。			
14回	授業内容	情報の管理、一般文書、医療文書について		
	学習成果	医療機関での個人情報の取り扱いや、ビジネス文書、医療文書について理解できる。		
予習復習 の内容	個人情報の取り扱いや、文書作成など実践する。			
15回	授業内容	社会人に必要なマナーについて。筆記試験実施。		
	学習成果	冠婚葬祭、食事のマナーなど社会人に必要なマナーを学び実践できる。		
予習復習 の内容	マナーのポイントを振り返り、実践する。			

科目名	医療事務特別講座Ⅱ						担当者		加藤 淳 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期			
				授業時間数	30	時間									
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。													
専門的 学習成果	①	医学分野と併せて学習する事で、疾病の特徴や治療方法を関連付けることができる。													
	②	薬剤と疾病の関係を理解する事で、カルテ内容をより深く理解し関連付けることができる。													
	③	診療報酬請求事務の明細書作成で、正解率を高めることができる。													
	④	多くの資格を取得するために、技術を高めることができる。													
汎用的 学習成果	(1)	診療内容を読み診療費を算定する医療事務では、身体の構造、疾病の特徴、薬剤との関連性を理解する技術を活用できる。(専門学的成果①②に関連)													
	(2)	複雑な診療内容であっても、正しく請求書を作成する技術を活用できる。(専門学的成果③に関連)													
	(3)	主催が異なる検定試験では出題傾向が変わるため、医療事務全体をより深く理解する技術を活用できる。(専門学的成果③④に関連)													
授業概要		医療は医学の知識、薬剤との関係がとて大きく係わっている。疾病の特徴と治療方法、関連性のある薬剤の専門知識を習得する事で、カルテに記載された診療内容をしっかり読み込むことが出来るようになる。カルテの患者の疾病原因から治療の一連の流れを把握すると共に、複雑な診療内容のカルテから正しく診療費の算定が出来る。目標とする資格の取得の他に、主催が異なる医療事務関連の資格取得を目指す。出題傾向が変わるためより広く深く医療事務の知識と技術を身につける事が出来る。													
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準											
	専門的 学習成果	定期試験													
		レポート													
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。											
筆記試験	80	全15回分の授業内容の理解について評価を行う。													
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③④で評価を行う。														
テキスト等	著者・編集者名		書名					出版社名							
			1年次の医療事務特別講座Ⅰで使用した教材一式												
			プリント配布												
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名							
①準備学習等履修上の留意点		①事前にテキストの該当部分を読み、ポイントを把握した上で授業に臨む。(予習：週2時間程度)													
②課題に対するフィードバックの方法等		②多くのカルテ問題を練習する事で、知識と技術の向上を図るため、宿題課題を課し翌週に提出してもらい、採点、添削の上返却する。(復習：週2時間程度)													

授業計画				学習成果の評価	
1回	授業内容	人体の構造、各器官の名称		課題提出	これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	体の仕組みや各器官の名称や働きについて説明できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
	授業内容	疾病と薬剤、治療との関係			
2回	学習成果	疾病と関連する薬剤とその治療について説明できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
3回	授業内容	学科問題① 医療用語、明細書の記載要領問題			
	学習成果	専門的な医療用語や、明細書の記載要領について説明できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
	授業内容	学科問題② 医学、薬学の基礎知識問題			
4回	学習成果	医療事務に必要な医学と薬剤の知識について説明できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
5回	授業内容	学科問題③ 医療関係法規問題			
	学習成果	医療に關係する各法規について説明できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
	授業内容	学科問題④ 総合問題			
6回	学習成果	医学、薬学、法規など様々な問題について説明できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
7回	授業内容	明細書作成① 脂質異常症、黄色腫、糖尿病の疑い等の外来診療内容		課題提出	これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	糖負荷試験、医学管理、検査料等の算定ができる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
	授業内容	明細書作成② 副腎嚢、慢性腎不全等の入院診療内容			
8回	学習成果	人口腎臓に關連する薬剤、全身麻酔、手術等の算定ができる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
9回	授業内容	明細書作成③ 頭部挫創、拇指捻挫等の外来診療内容			
	学習成果	矯正固定、CT撮影、縫合手術等の算定ができる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
	授業内容	明細書作成④ 変形性頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア等の入院診療内容			
10回	学習成果	手術前医学管理料、全身麻酔、手術、呼吸心拍監視等の算定ができる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
11回	授業内容	明細書点検① 急性胃炎、胃潰瘍の外来明細書、くも膜下出血の入院明細書		課題提出・筆記試験	これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	それぞれの明細書の間違い箇所を見つけ、正しい請求ができる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
	授業内容	明細書点検② てんかん、耳垢栓塞の外来明細書、化膿性尿管管のう胞の入院明細書			
12回	学習成果	それぞれの明細書の間違い箇所を見つけ、正しい請求ができる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
13回	授業内容	明細書点検③ 腰椎椎間板ヘルニアの外来明細書、第5指中節関節内骨折の入院明細書			
	学習成果	それぞれの明細書の間違い箇所を見つけ、正しい請求ができる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
	授業内容	明細書作成と点検① 白内障等の診療内容、薬物アレルギー、じん麻疹等の診療内容			
14回	学習成果	白内障、じん麻疹に関連する診療内容を理解し、明細書の作成と点検ができる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
15回	授業内容	明細書作成と点検② 溶連菌感染症等の診療内容、膝半月板損傷等の診療内容			
	学習成果	溶連菌感染症、膝半月板損傷に関連する診療内容を理解し、明細書の作成と点検ができる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			

科目名	調剤事務資格特別講座				担当者	横尾由香							
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期	
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	処方箋について詳しく理解し、正しく扱うことができる。											
	②	調剤報酬を正確に算定できる。											
	③	調剤薬局に関連する保険制度を理解し、説明することができる。											
汎用的 学習成果	(1)	処方箋について詳しく理解することにより、職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①②に関連)											
	(2)	様々な調剤報酬、保険制度を学ぶことにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。(専門的学習成果②③に関連)											
授業概要	処方箋について正しく理解し、正確に調剤報酬を算定できるようになることにより、認定試験合格を目指す。調剤報酬算定だけではなく、薬についての基本知識や各種医療保険制度、保険請求の流れなど、2年前期までの学習内容をより深く学習することで、調剤薬局事務員としての実践的能力を養う。また、近年重視されている在宅患者への医療やかかりつけ制度についても学習することで、幅広い知識をもった医療関連職員になることを目指す。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	20	随時、課題を提出させ、内容に沿って評価を行う。									
		小テスト											
		筆記試験	70	筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。									
	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。										
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名				
			『医療保障制度』(テキスト1)						ソラスト				
			『調剤薬局事務 テキスト2 3』						ソラスト				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名				
			『調剤試験問題集』						ソラスト				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習：週2時間程度)事後学習としては、課題を行い、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること。(復習：週2時間程度) ②小テストに対するフィードバックは、実施後に正解を示し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	薬局の基礎知識		小テスト①を第5回に実施する
	学習成果	薬局と医薬品販売業の違い等を理解し、説明することができる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
2回	授業内容	処方箋の基礎知識		
	学習成果	処方箋の様式や記載内容を把握し、正しく取り扱うことができる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
3回	授業内容	算定の基礎知識		
	学習成果	処方欄の内容を理解し、正しく読み取ることができる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
4回	授業内容	調剤基本料、調剤料について理解し、正確な算定をすることができる。		
	学習成果	調剤基本料、調剤料について理解し、正確な算定をすることができる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
5回	授業内容	調剤料の加算		
	学習成果	様々な加算を理解し、正確な算定をすることができる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
6回	授業内容	薬学管理料		小テスト②を第10回に実施する
	学習成果	様々な管理料を理解し、正確な算定をすることができる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
7回	授業内容	調剤レセプト		
	学習成果	様々な調剤レセプトのパターンを知り、正確な算定をすることができる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
8回	授業内容	〔検定試験〕対策学科問題		
	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
9回	授業内容	〔検定試験〕対策学科問題		
	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
10回	授業内容	〔検定試験〕対策学科問題		
	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
11回	授業内容	〔検定試験〕対策実技問題		筆記試験を実施する
	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
12回	授業内容	〔検定試験〕対策実技問題		
	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
13回	授業内容	〔検定試験〕対策実技問題		
	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。		
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
14回	授業内容	まとめ		
	学習成果	知識の確認ができる。		
	予習復習の内容	総復習をする。		
15回	授業内容	まとめ		
	学習成果	知識の確認ができる。		
	予習復習の内容	総復習をする。		

科目名	医療情報演習（電子カルテ含む）				担当者	横尾由香							
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期	
授業時間数		60		時間									
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	電子カルテシステムについて理解し、概要を説明できる。											
	②	電子カルテを使って代行入力、オーダリング、医療文書作成をすることができる。											
汎用的 学習成果	(1)	電子カルテシステムの特徴、扱いに必要な知識を習得し、専門的スキルを活用した業務に取り組むことができる。（専門的学習成果①②に関連）											
授業概要	電子カルテシステムとは何か、医療の現場で起きているIT化の流れと診療録等の電子化について理解し、電子カルテシステムの定義と機能について学修する。また、電子カルテシステムの関連知識と、地域医療情報システム等、今後の展開について理解を深める。電子カルテシステムの操作方法を習得するなかで診療録、各種診断書・意見書、診療情報提供書等も電子カルテシステムを使って作成できるようになり、現場における実践力を養う。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	10	課題提出をさせ、内容に沿って評価を行う。									
		試験	80	筆記試験と入力試験を行い、正解率に沿って評価を行う。									
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名						
			『医師事務作業補助者養成講座 テキスト1・2』				ソラスト						
			『診療報酬点数表』				社会保険研究所						
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名						
			『電子カルテシステムの理解と演習』				ケアアンドコミュニケーション						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①「医師事務補助ユニット」履修者。2コマ連続授業。 飲食物持ち込み厳禁。 事前学習として、入力するカルテの内容を詳しく調べておくこと。事後学習として授業中に習得した入力上の留意点を各自ノート等にまとめておくこと。（週1時間程度） ②随時入力のチェックを行い、その都度解説をしていく。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	電子カルテシステムとは？（全体俯瞰）IT化の流れと診療録の電子化への道	随時、課題を提出させる。 第30回後に入力試験を行う。
	学習成果	電子カルテシステムの全体像を把握することにより、今後の学習概要がつかめる。	
予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
3・4回	授業内容	入力演習：診療所（外来）	
	学習成果	電子カルテと医事会計の違いに注意しながら入力できる。	
予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
5・6回	授業内容	電子カルテの定義、機能、関連知識	
	学習成果	電子カルテシステムの定義、電子カルテシステムの役割を説明することができる。	
予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
7・8回	授業内容	入力演習：診療所（外来）、文書作成	
	学習成果	カルテ入力とあわせて文書作成ができる。	
予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
9・10回	授業内容	医師事務作業補助者とは、電子カルテの代行入力	
	学習成果	医師事務作業補助者の加算、代行入力の留意点を説明することができる。	
予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
11・12回	授業内容	入力演習：病院（外来）	
	学習成果	診療所との違いを理解し、病院の電子カルテの入力ができる。	
予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
13・14回	授業内容	文書作成の代行入力	
	学習成果	文書の代行作成に必要な知識を学ぶことにより、正しい文書を作成することができる。	
予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。		
15・16回	授業内容	入力演習：病院（外来）、文書作成	
	学習成果	カルテ入力と合わせて文書作成ができる。	
予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
17・18回	授業内容	入力演習：病院（外来・オーダリング）、文書作成	
	学習成果	オーダリングシステムを使った病院の電子カルテの入力ができる。	
予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
19・20回	授業内容	入力演習：病院（外来・問答形式）	
	学習成果	SOAPをしっかりと区別しながら入力ができる。	
予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
21・22回	授業内容	入力演習：病院（外来・問答形式）、文書作成	
	学習成果	SOAPをしっかりと区別しながら入力ができる。	
予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
23・24回	授業内容	入力演習：病院（入院）	
	学習成果	外来カルテとの違いに注意しながら入力できる。	
予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
25・26回	授業内容	入力演習：病院（入院、オーダリング）	
	学習成果	オーダリングシステムを使った入院カルテの入力ができる。	
予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
27・28回	授業内容	入力演習：総合演習	
	学習成果	システム管理の重要性を理解し、実践を想定した入力ができる。	
予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。		
29・30回	授業内容	まとめ	
	学習成果	知識の確認をすることができる。	
予習復習の内容	全体の総復習をしていく。		

科目名	医師事務補助特別講座Ⅱ				担当者	横尾由香						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	医療文書作成に必要な知識を深め、各種の医療文書を作成することができる。										
	②	電子カルテの基本操作ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	医師事務作業補助者に必要な業務スキルを習得することにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	電子カルテの基本操作ができることにより、現代社会に対応できる医療従事者に近づくことができる。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	傷病・疾病についての理解、カルテの読解力を高めることにより、医療文書作成の力を総合的に高め、「医師事務作業補助者」に求められる知識を習得する。また、電子カルテの代行入力と合わせて「電子カルテシステム」を使った医療文書の作成を行い、迅速かつ正確に紹介状や診断書、証明書等の文書を作成できるようになることを目指す。実践を意識した内容を盛り込むことにより、医療機関に求められる「医師事務作業補助者」になることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	レポートを1回提出させ、内容に沿って評価を行う。								
		筆記試験	80	筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。								
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
小テスト												
汎用的 学習成果	(1)	専門的学習成果①で評価を行う。										
	(2)	専門的学習成果②で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『医師事務作業補助者養成講座 テキスト1・2』				ソラスト						
		『医療関連法規』				ソラスト						
		『医学入門』				ソラスト						
		『医師事務作業補助者 検定試験問題集』				ソラスト						
		『医療保障制度』(テキスト1)				ソラスト						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①「医師事務補助ユニット」履修者。 医療事務、医療の制度、医事薬事法規を1年時に履修していること。 テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習：週2時間程度)事後学習としては授業中に行う練習問題の復習をしっかりすること。(復習：週2時間程度) ②授業中に行う練習問題に対して、その場でチェック・解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	骨格、筋肉系	随時、小テストを行う。
	学習成果	骨格、筋肉系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
2回	授業内容	循環器系	
	学習成果	循環器系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
3回	授業内容	消化器系	
	学習成果	消化器系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
4回	授業内容	呼吸器系	
	学習成果	呼吸器系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
5回	授業内容	泌尿器系	
	学習成果	泌尿器系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
6回	授業内容	内分泌系	
	学習成果	内分泌系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
7回	授業内容	感覚器系	
	学習成果	感覚器系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
8回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(診療所)	全体の内容の筆記試験を実施する。
	学習成果	基本的な操作方法を習得する。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する。	
9回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(診療所)	
	学習成果	診療所の基本的な電子カルテの入力ができる。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する入力内容を予習復習する。	
10回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(診療所)、文書作成	
	学習成果	電子カルテによる簡単な文書作成ができる。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する。	
11回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(診療所)、文書作成	
	学習成果	電子カルテによる簡単な文書作成ができる。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する入力内容を予習復習する。	
12回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(病院)、文書作成	
	学習成果	病院の基本的な電子カルテの入力ができる。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する。	
13回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(病院)、文書作成	
	学習成果	病院の基本的な電子カルテの入力ができる。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する。	
14回	授業内容	まとめ	
	学習成果	知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	全体の総復習をする。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	全体の総復習をする。	

科目名	クリエイティブデザイン				担当者	金 澤 千 晶						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		2階204教室（洋裁室）の隣りの研究室にいらして下さい。										
専門的 学習成果	①	ファッションショーの構成（企画）を提案し、ショーのテーマに添った衣装のデザインを考え、衣装製作ができる。										
	②	高度な縫製テクニックや立体裁断など応用し、衣装をイメージ通りに創作することができる。										
	③	衣装に合わせたファッションモデルのヘア・メイクのトータルコーディネートを提案することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	衣装の製作の学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	自由な発想によるデザインおよび製作を通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(3)	縫製テクニックやコーディネート、ヘアメイクを学習することを通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	ファッションショーを構成する諸要素を理解し、衣装製作・企画・演出・モデルウォーキング等の体験を通して、衣装のデザイン感覚、造形技術の向上を目指す。 ファッションショー開催のために必要な役割を具体的に分担することによって、その完成に導く行動力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	第15回目に製作した作品に関するレポートについて評価を行う。								
		作品提出	60	第15回目に製作した作品について評価を行う。								
	平常点	30	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
			印刷物等配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続の授業。布地等の材料は各自準備する。洋裁用備品については一部貸出可能。事前に作成手順の資料を準備するので、作業内容について、授業前に資料をよく読んでおくこと（計30時間）。 ②製作した作品が評価の対象となるため、毎時間ごとに製作した修正点などを見直し、手直し作業を行うこと。製作した部分について、毎時間、授業の時に点検し、講評する。										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ファッションショー打合せ・材料および作業分担の確認	ファッションショーの企画の確認と作業分担への取り組み
	学習成果	ファッションショーの企画の打ち合わせを行い、材料及び作業分担の確認をすることができる。	
3・4回	予習復習の内容	ファッションショーの企画の打ち合わせと、今後の作業分担を確認する。	型紙作製への取り組み
	授業内容	前半のシーンの衣装製作（型紙作製）	
5・6回	学習成果	衣装の型紙作製をすることができる。	型紙作製への取り組み
	予習復習の内容	衣装の型紙作製をする。	
7・8回	授業内容	前半のシーンの衣装製作（型紙作製）	型紙作製への取り組み
	学習成果	衣装の型紙作製をすることができる。	
9・10回	予習復習の内容	衣装の型紙作製をする。	布の裁断への取り組み
	授業内容	前半のシーンの衣装製作（布の裁断）	
11・12回	学習成果	衣装の布の裁断をすることができる。	衣装の縫製への取り組み
	予習復習の内容	衣装の布の裁断をする。	
13・14回	授業内容	前半のシーンの衣装製作（布の縫製）	衣装の縫製への取り組み
	学習成果	衣装の布の縫製をすることができる。	
15・16回	予習復習の内容	衣装の布の縫製をする。	型紙作製への取り組み
	授業内容	後半のシーンの衣装製作（型紙作製）	
17・18回	学習成果	衣装の型紙作製をすることができる。	型紙作製への取り組み
	予習復習の内容	衣装の型紙作製をする。	
19・20回	授業内容	後半のシーンの衣装製作（型紙作製）	型紙作製への取り組み
	学習成果	衣装の型紙作製をすることができる。	
21・22回	予習復習の内容	衣装の型紙作製をする。	布の裁断への取り組み
	授業内容	後半のシーンの衣装製作（布の裁断）	
23・24回	学習成果	衣装の布の縫製をすることができる。	衣装の縫製への取り組み
	予習復習の内容	衣装の布の縫製をする。	
25・26回	授業内容	後半のシーンの衣装製作（布の縫製）	衣装の縫製への取り組み
	学習成果	衣装の布の縫製をすることができる。	
27・28回	予習復習の内容	衣装の布の縫製をする。	衣装の補正作業
	授業内容	衣装製作（試着・補正）	
29・30回	学習成果	衣装を試着し補正作業をすることができる。	レポート及び作品提出により評価を行う
	予習復習の内容	体型に合わせて補正を行い調整をする。	
29・30回	授業内容	まとめ・衣装撮影・衣装提出	レポート及び作品提出により評価を行う
	学習成果	衣装を完成させ撮影を行い、レポートの記入及び衣装の作品提出をすることができる。	
29・30回	予習復習の内容	完成した衣装の撮影をして、レポートの記入及び衣装の作品提出をする。	
	授業内容		

科目名	ステージショー演出				担当者	カナ 金 澤 千 晶						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	実習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	60							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		2階204教室（洋裁室）の隣の研究室にいらして下さい。										
専門的 学習成果	①	衣装に合わせたヘアセット・メイクを他者にすることができる。										
	②	ショーのイメージに合わせた映像の製作、音響と照明を検討し、ステージ上で演出することができる。										
	③	ショーのためのウォーキング方法、ポーズ、ルートを考え、モデルに指示を出し、ショーを作り上げることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	ステージでのショー演出の方法に関する学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	ステージ上のウォーキングパターンの学習を通して、自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	映像や音響、ヘアメイクのテクニックの学習を通して、修得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要		ショーのイメージに大きく影響する演出について、ショーに登場するモデルに関わるヘアメイクからウォーキングを練習し、完成度の向上を目指す。 ステージ上に映し出す映像の製作、音響（ショー用のテンポ）、照明の色などについて演出方法を具体的に考え、実際にショーを実施する能力を養う。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		作品提出	40	映像やヘアメイクなど製作した作品について評価を行う。								
		平常点	60	授業の態度・関心・意欲・ファッションショーへの取り組み姿勢を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
			印刷物等配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続の授業。授業ごとに取り組んだ内容を振り返り、練習をすること（計30時間）。 ②練習した成果が次の授業内容に反映されるので、その際に上述具合をチェックし、講評する。										

		授業計画		学習成果の評価	
1・2回	授業内容	ショーのコンセプトおよび衣装の確認・映像製作・ヘアメイク材料について		ファッションショーの企画の確認と授業内容の理解	
	学習成果	ファッションショーの企画の確認を行い、半期の流れ、材料について理解することができる。			
3・4回	予習復習の内容	ファッションショーの企画の確認を行い、半期の流れ、材料について理解する。		CG映像製作・BGM選曲への取り組み	
	授業内容	CG映像製作・BGM選曲			
5・6回	学習成果	CG映像製作及びBGMの選曲を行うことができる。		CG映像製作・BGM選曲への取り組み	
	予習復習の内容	CG映像製作及びBGMの選曲を行う。			
7・8回	授業内容	CG映像製作・BGM選曲		CG映像製作・BGM選曲への取り組み	
	学習成果	シーンのメンバーで話し合いながら、CG映像製作及びBGMの選曲を行うことができる。			
9・10回	予習復習の内容	話し合いを通して、CG映像製作及びBGMの選曲を行う。		CG映像製作・BGM選曲への取り組み	
	授業内容	CG映像製作・BGM選曲			
11・12回	学習成果	各シーンを全員で検討、確認、修正しながら、CG映像製作及びBGMの選曲を行うことができる。		ファッションショーのヘアメイク検討への取り組み	
	予習復習の内容	話し合いを通して、CG映像製作及びBGMの選曲を行う。			
13・14回	授業内容	CG映像製作の完成・BGMの決定		ファッションショーのヘアメイクの時間計測	
	学習成果	CG映像の完成及びBGMを決定することができる。			
15・16回	予習復習の内容	CG映像が完成し、BGMを決定する。		ウォーキング基礎のテスト	
	授業内容	ファッションショーのヘアメイク検討・計画			
17・18回	学習成果	ファッションショーのヘアメイクを検討することができる。		ウォーキングルート検討への取り組み	
	予習復習の内容	衣装に合わせたファッションショーのヘアメイクを検討する。			
19・20回	授業内容	ファッションショーのヘアメイク（タイムチェック）		ステージレイアウト・照明の検討への取り組み	
	学習成果	ファッションショーのヘアメイクを実際に行い、タイムを計測する。			
21・22回	予習復習の内容	ファッションショーのヘアメイクが規定の時間内に終わるように練習する。		ウォーキング（タイムチェック）への取り組み	
	授業内容	ウォーキング基礎（姿勢・ターン・ポーズ・テスト）			
23・24回	学習成果	ウォーキング基礎（姿勢・ターン・ポーズ）を修得することができる。		ウォーキング（タイムチェック）への取り組み	
	予習復習の内容	ウォーキング基礎（姿勢・ターン・ポーズ）を修得する。			
25・26回	授業内容	ウォーキングルート検討		リハーサル（衣装着用・ヘアメイク含む）への取り組み	
	学習成果	ステージ上のウォーキングルート検討をすることができる。			
27・28回	予習復習の内容	ステージ上のウォーキングルート検討をする。		ファッションショー実施の取り組み	
	授業内容	ステージレイアウト・照明の検討			
29・30回	学習成果	ステージレイアウト・照明の色について話し合いをして決定することができる。		ファッションショーの実施の取り組み	
	予習復習の内容	話し合いを通して、ステージレイアウト・照明の色を決定する。			
29・30回	授業内容	ウォーキング（タイムチェック）		ウォーキング（タイムチェック）への取り組み	
	学習成果	ステージ上のウォーキングルートに合わせてウォーキングの時間を確認することができる。			
29・30回	予習復習の内容	ステージ上のウォーキングルート時間を調整し、ルート変更をする。		リハーサル（衣装着用・ヘアメイク含む）への取り組み	
	授業内容	ウォーキング（タイムチェック・再考）			
29・30回	学習成果	ステージ上のウォーキングルートに合わせてウォーキングの時間を確認することができる。		ファッションショー実施の取り組み	
	予習復習の内容	ステージ上のウォーキングルート時間を調整し、ルート変更をする。			
29・30回	授業内容	リハーサル（衣装着用・ヘアメイク含む）		ファッションショー実施の取り組み	
	学習成果	衣装を着用し、ヘアメイクを行って実際の時間計測をすることができる。			
29・30回	予習復習の内容	衣装を着用し、ヘアメイクを行って実際の時間計測をして、調整する。		ファッションショー実施の取り組み	
	授業内容	ファッションショー実施（ヘアメイク・ステージショー運営）			
29・30回	学習成果	ヘアメイク、衣装着用、ショーの運営および開催をすることができる。		ファッションショーの取組姿勢で評価を行う	
	予習復習の内容	ヘアメイクを行い、衣装を着用し、実際にショーを実施する。			
29・30回	授業内容	ショーの振り返り		ファッションショーの取組姿勢で評価を行う	
	学習成果	ファッションショーの振り返りを行い、改善点等を話し合うことができる。			
29・30回	予習復習の内容	話し合いを通して、ファッションショーの振り返りを行い、改善点等を話し合う。			

科目名	カフェスキル演習				担当者	松尾 勲 ・ 兼子 貞紀弘 ・ 土井 香織							
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	演習	学年	2 年	開講期	前期	
				授業時間数	60								時間
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	飲食店、カフェで活用できるメニュー撮影や SNS 発信できる写真撮影方法を実践できる。											
	②	飲食店、カフェで活用できるチョークアートでの POP 製作を実践できる。											
	③	飲食店インテリアの基本と表現方法について理解して、実践できる。											
	④	飲食店、カフェの空間デザインを提案できる。											
汎用的 学習成果	(1)	空間プロデュースを学ぶことにより創造的に思考することができる。(専門的学習成果④に関連)											
	(2)	カフェスキルの技術を修得することで、社会的、職業的自立に繋げることができる。(専門的学習成果①②③④に関連)											
	(3)	制作した作品を発表することで自己表現と他者理解ができる。(専門的学習成果①②③④に関連)											
授業概要	近年カフェは若者男女と大変人気となっている。オープンカフェスタイルカフェ、雑貨に囲まれたカフェ、自家焙煎カフェ、チェーン展開のカフェ等そのスタイルは多様化している。多くのカフェでは飲食サービスだけではなく、その個性を出そうと時間や空間に付加価値を見出し、利用するお客様に提供している。この授業では、カフェの空間を個性的に演出する技術を修得する。インテリア・チョークアート・写真撮影の知識と技術を学び、将来、飲食店やカフェで働くことを想定した実践的な技能を養う。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
		専門的 学習成果	定期試験										
			レポート										
			作品課題	80	各授業で制作した作品を評価する。								
	平常点	20	授業態度、意欲、理解度の総合評価。										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名									出版社名		
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名									出版社名		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①2コマ連続授業、2 クラス編成。教材費として16,000円徴収する。 ○インテリア：リアルなサイズ感を感じてもらうために使っているテーブルや椅子などを自ら測って図面化する作業がある。 ○写真撮影：カフェ・飲食に関する本やネットで素敵だと思う写真を常に見つける努力が必要。本は購入するか、ネットであれば保存しておくこと。自分で撮影する際はその見本を真似ることが大切。 ○チョークアート：授業時間に実習に必要な材料（ボード）が配られ、時間内に作品を製作することを原則とし、最後の授業時に作品を製作して提出する。 ○各自で準備するもの：(インテリア授業 色鉛筆・定規) (チョークアート授業 エプロン・作品持ち帰りの袋・指を拭く為のウェットティッシュ) (写真撮影授業 デジタルカメラ・見本の写真) 予習復習あわせて週2 時間程度必要。 ②課題等は解説及び結果のフィードバックを行う。</p>												

授業計画			学習成果の評価		
1 回	授業内容	デザインの手法「表現と方法」(松尾)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	デザインの手法における「表現と方法」を理解して実践できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。			
2 回	授業内容	ブランニングの手法「イメージの具体化」(松尾)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	ブランニングの手法における「イメージの具体化」を理解して実践できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。			
3 回	授業内容	飲食店のブランニング「計画図の作成/文書」(松尾)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	飲食店のブランニングにおける「計画図の作成/文書」を理解して実践できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。			
4 回	授業内容	飲食店のブランニング「動線計画」(松尾)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	作業動線と回避動線を理解し実践できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。			
5 回	授業内容	飲食店のブランニング「計画図の作成/図面」(松尾)			インテリア授業課題提出
	学習成果	飲食店のブランニングにおける「計画図の作成/図面」を理解して実践できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。			
6 回	授業内容	チョークアートの理解、道具の使い方、チョークアートの基礎技術、小品の製作 (土井)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	チョークアートの理解、道具の使い方、チョークアートの基礎技術を理解して小品の製作ができる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。			
7 回	授業内容	レタリングと花の表現演習 (土井)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	チョークアートでレタリングと花の表現を製作できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。			
8 回	授業内容	ガラスの表現とパンの表現のテクニック (土井)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	ガラスの表現とパンの表現のテクニックを理解して実践できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。			
9 回	授業内容	メニューボードの構図と表現 (土井)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	バランスと構成を理解し表現できる			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。			
10回	授業内容	メニューボード作品製作(評価) (土井)			チョークアート課題提出
	学習成果	チョークアートの技術を使いメニューボードが完成できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。			
11回	授業内容	素敵だと思う飲食の写真を、本やネットで見つける(兼子)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	写真撮影の題材を探しの必要性を理解して実践できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。			
12回	授業内容	その気に入った写真を見本に真似て撮影してみよう(兼子)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	撮影技術を理解して実践できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。			
13回	授業内容	撮影した写真を添削して、その後見本に近い写真を撮る(兼子)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	写真加工の方法を理解し、実践できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。			
14回	授業内容	指定された撮影題材をイメージ通りに撮影する(兼子)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	写真加工の方法を理解し、実践できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。			
15回	授業内容	さらに憧れの写真を見つけて、自分なりに工夫と真似て撮影する(兼子)			写真撮影課題提出
	学習成果	課題製作に取り組み完成できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。			

科目名	カフェデザート実習				担当者	相良 奈津 (実務家教員) ・ 吉田 正						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		sagara.natsu@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	カフェデザートメニューを提供できる。										
	②	カフェデザートメニューの新しい商品を提案できる。										
	③	菓子製造を通じておもてなしの心を考え実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	カフェデザート実習を通じて、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	カフェデザートの製作を通じて、他者との協力や材料の特性などを理解できる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	カフェデザートの製作を通じて習得した専門知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献できる。(専門的学習成果②③に関連)										
授業概要	昨今のカフェブームに伴い、カフェにおけるデザートについて学習する。この授業で習得するのは和菓子・洋菓子の基本的なレシピである。和・洋菓子で使用する専門的な食材、器具、器材の知識、使用法などを学習し、カフェで提供できる和・洋菓子製造を習得を目的とする。菓子製造を通じておもてなしの心を考え実践できる。洋菓子の実習は、ホテルパティシエールとしての実務経験を生かした、デザートの皿盛りや提供方法等も指導する。実習時に必要な他者との協力体制の実践力や実習を行う上での身だしなみ等の衛生的管理について知識を習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	6回目、10回目、14回目、18回目、22回目、26回目の授業終わりに提出。内容により評価する。								
		筆記試験	20	カフェデザート実習の総合的な理解について30回目に筆記試験を行い評価する。								
	平常点	50	実習への取り組み・意欲・態度・身だしなみにより評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により評価を行う (2) は専門的学習成果②③により評価を行う (3) は専門的学習成果②③により評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
	吉田菊次郎		『物語に出てくる楽しいお菓子の作り方』					朝文社				
	津田洋子		『さくさくクッキー』					文化出版局				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続授業。実習費として8,000円徴収する。平常点の身だしなみとして、カフェ実習服・製菓実習服のいずれかを必ず着用すること。衛生面(髪・爪・化粧・香水・アクセサリ)には特に注意して実習すること。配布したレシピを元に毎回必ず復習を1時間程度行うこと。 ②提出されたレポートは全体的な講評を行い添付して返却する。(30回目)										

		授業計画		学習成果の評価	
1・2回	授業内容	1回目ガイダンス、2回目実習の心得		実習への取り組みを評価	
	学習成果	1回目、本授業の内容を理解し、説明できる。2回目実習の心得を理解し、衛生管理や身だしなみの必要性が説明できる。			
3・4回	予習復習の内容	1回目、シラバスを事前に読み、その内容を理解する。2回目ガイダンス内容を踏まえて学習計画を立てる。			
	授業内容	3回目クレープ、4回目小麦粉とは			
5・6回	学習成果	クレープ(3回目)小麦粉(4回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。		レポートの提出(実習について)6回目提出	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、クレープ(3回目)、小麦粉(4回目)について理解を深める。			
7・8回	授業内容	5回目パウンドケーキ、6回目ベーキングパウダーとは			
	学習成果	5回目パウンドケーキに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。6回目ベーキングパウダーの特性について説明ができる。			
9・10回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、パウンドケーキ(5回目)、ベーキングパウダー(6回目)について理解を深める。			
	授業内容	7回目おしるこ、8回目白玉について			
11・12回	学習成果	おしるこ(7回目)、白玉(8回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、おしるこ(7回目)、白玉(8回目)について理解を深める。			
13・14回	授業内容	9回目クッキー、10回目バターとは		レポートの提出(実習について)10回目提出	
	学習成果	9回目クッキーに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。10回目バターの特性について学習し、説明できる。			
15・16回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、クッキー(9回目)、バター(10回目)について理解を深める。			
	授業内容	11回目杏仁豆腐、12回目ゼラチンとは			
17・18回	学習成果	杏仁豆腐(11回目)、ゼラチン(12回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。		レポートの提出(実習について)14回目提出	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、杏仁豆腐(11回目)、ゼラチン(12回目)について理解を深める。			
19・20回	授業内容	13回目プリン、14回目卵とは			
	学習成果	13回目、プリンに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。10回目、卵の特性について学習し、説明できる。			
21・22回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、プリン(13回目)、卵(14回目)について理解を深める。			
	授業内容	15回目スコーン、16回目バターとは			
23・24回	学習成果	スコーン(15回目)、バター(16回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。		レポートの提出(実習について)18回目提出	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、スコーン(15回目)、バター(16回目)について理解を深める。			
25・26回	授業内容	17回目レアチーズケーキ、18回目チーズとは			
	学習成果	17回目、レアチーズケーキに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。18回目、チーズの特性について学習し、説明できる。			
27・28回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、レアチーズケーキ(17回目)、チーズ(18回目)について理解を深める。			
	授業内容	19回目マフィン、20回目アレンジ食材とは			
29・30回	学習成果	マフィン(19回目)、アレンジ食材(20回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。		レポートの提出(実習について)22回目提出	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、マフィン(19回目)、アレンジ食材(20回目)について理解を深める。			
23・24回	授業内容	21回目ブラウニー、22回目チョコレートについて			
	学習成果	21回目ブラウニーに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。22回目チョコレートの特性について学習し、説明できる。			
25・26回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ブラウニー(21回目)、チョコレート(22回目)について理解を深める。			
	授業内容	23回目バンケーキ、24回目メレンゲとは			
27・28回	学習成果	バンケーキ(23回目)、メレンゲ(24回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。		レポートの提出(実習について)26回目提出	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、バンケーキ(23回目)、メレンゲ(24回目)について理解を深める。			
29・30回	授業内容	25回目アップルパイ、26回目パイ生地について			
	学習成果	25回目、アップルパイに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。26回目、パイ生地の特性について学習し、説明できる。			
27・28回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、アップルパイ(25回目)、パイ生地(26回目)について理解を深める。			
	授業内容	27回目イチゴのショートケーキ、28回目スポンジについて			
29・30回	学習成果	イチゴのショートケーキ(27回目)、スポンジ(28回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、イチゴのショートケーキ(27回目)、スポンジ(28回目)について理解を深める。			
29・30回	授業内容	29回目まとめ、30回目筆記試験			
	学習成果	カフェデザート実習で学習した内容を生かして、新メニューの提案ができる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、カフェデザート実習について理解を深める。			

科目名	カフェドリンク実習 I				担当者	小野寺 靖忠・吉田 正・細貝 涼哉・ 里館 薫・梅津 裕子							
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期	
				授業時間数	60								時間
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	カフェ(珈琲)の生産国事情を知り、生豆原料基礎知識について述べることができる。											
	②	飲料原料、加工原料への加工工程を説明できる。											
	③	カフェの現場で働く為の基本的な知識と技術を実践できる。											
	④	カフェ(コーヒー)飲用がもたらす効果について論じることができる。											
	⑤	エスプレッソ、カプチーノ、カフェラテ、紅茶の抽出方法及びオペレーションが実践できる。											
汎用的 学習成果	(1)	知識と技術を習得することにより、社会的、職業的な自立に繋がる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連する)											
	(2)	飲食に関連した知識を活用して、食の課題に取り組み、地域社会の発展に貢献することができる。(専門的学習成果①②③④に関連する)											
	(3)	習得した知識技能を活用して、飲食業界で課題に取り組み、問題解決に向け行動できる。(専門的学習成果⑤に関連する)											
授業概要	カフェ業界はここ数年目まぐるしい発展と変化が起きている。個人事業でも大手企業でもコーヒービジネスでは知識と技能は必要不可欠である。この授業では、コーヒーマイスター(Meister:独)、コーヒーバリスタ(barista:伊)に必要な知識を取得する為に写真、表、グラフにて解り易く理解を深める。味覚(風味)と嗜好の違いを認識して正しいカフェ(コーヒー)を啓蒙できる。又、実践的な技術を習得する為に受講生全員が抽出実習を行う。基本的なエスプレッソ、スペシャルティコーヒー(カプチーノ、カフェラテ)と紅茶の抽出工程を理解し実践する。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		筆記試験	50	講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。									
		作品課題	40	実習作品を評価する。									
	平常点	10	授業態度、意欲、理解度の総合評価										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名					
	全日本コーヒー検定委員会		『コーヒー検定教本』					全日本コーヒー商工組合連合会					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		① 2 コマ連続授業。2 クラス編成 ○実習費、テキスト代として12,000円徴収する。○ 1 ～ 10 は里館先生 11～20は小野寺先生21～24は細貝先生 25～30は吉田先生が担当する(担当教員の授業日程は開講期に知らせる)。実習着を着用する。特に衛生面(頭髮・化粧・爪・アクセサリー)には注意する。※前回の授業内容を踏まえた上での実技指導となる為、授業の復習(技術注意点の再確認や配布資料の知識)がないと次回授業の実技に進むことができない。2 回目以降は授業前に必ず前回までの復習や見直しをしておく。事前学習時間として15時間、反復学習時間として15時間を必要とする。 ②レポート・課題については評価、解説の後、返却する。実技指導はその都度行う。											

授業計画		学習成果の評価
1・2回	授業内容	カフェ(珈琲)に関わる小売り業界と飲食業界 コーヒーインストラクター検定について(里館)
	学習成果	カフェ(珈琲)に関わる小売り業界と飲食業界について理解し説明できる。
3・4回	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。
	授業内容	世界のカフェ(珈琲)と日本のカフェの歴史(里館)
5・6回	学習成果	世界のカフェ(珈琲)と日本のカフェの歴史を理解しコーヒー抽出できる。
	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。
7・8回	授業内容	珈琲の生産国事情 1.世界のカフェを楽しむ「アフリカ大陸編」(里館)
	学習成果	産地別のコーヒーの違いを理解し、コーヒー抽出できる。
9・10回	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。
	授業内容	抽出実習 基礎「ペーパードリッップ、サイフォン、長時間抽出と短時間抽出の風味変化」(里館)
11・12回	学習成果	ペーパードリッップ、サイフォン、長時間抽出と短時間抽出の風味変化を理解して実践できる。
	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。
13・14回	授業内容	バリスタとは エスプレッソの知識(小野寺)
	学習成果	バリスタとエスプレッソの知識を理解してエスプレッソマシンを操作できる。
15・16回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、エスプレッソマシンについて理解を深める。
	授業内容	エスプレッソの抽出工程のエスプレッソカリブレーション抽出調整(小野寺)
17・18回	学習成果	エスプレッソの抽出工程エスプレッソカリブレーション抽出調整を実践できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、抽出調整について理解を深める。
19・20回	授業内容	エスプレッソの知識を深める エスプレッソアレンジ(小野寺)
	学習成果	エスプレッソアレンジを理解して実践ができる。
21・22回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、エスプレッソアレンジについて理解を深める。
	授業内容	カプチーノの作成(初級) ミルクフォーミング(小野寺)
23・24回	学習成果	カプチーノミルクフォーミングが実践できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ミルクフォーミングについて理解を深める。
25・26回	授業内容	カプチーノの作成(中級) カップに注ぐ工程(小野寺)
	学習成果	ミルクフォーミングからカップに注ぐまでの工程を実践できる。
27・28回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、カップに注ぐ工程について理解を深める。
	授業内容	カフェオーナーの基礎(1) ドリッップコーヒー(細貝)
29・30回	学習成果	ドリッップコーヒーの入れ方を習得して、実践できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ドリッップコーヒーについて理解を深める。
29・30回	授業内容	カフェオーナーの基礎(2) エスプレッソ(細貝)
	学習成果	エスプレッソの入れ方を習得して実践できる。
29・30回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、エスプレッソについて理解を深める。
	授業内容	スイーツドリンク(1) スムージー(吉田)
29・30回	学習成果	スムージーの作り方を習得して実践できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、スイーツドリンクについて理解を深める。
29・30回	授業内容	スイーツドリンク(2) グラニータ(吉田)
	学習成果	グラニータの作り方を習得、実践できる。
29・30回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、スイーツドリンクについて理解を深める。
	授業内容	紅茶のいれ方実習(梅津)
29・30回	学習成果	ストレートティー、アイ스티ーのいれ方について習得し、実践できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ストレートティー、アイ스티ーのいれ方について理解を深める。

科目名	カフェドリンク実習Ⅱ				担当者	小野寺 靖忠・吉田 正・細貝 涼哉・ 里館 薫・梅津 裕子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	珈琲の種、生産国、生産方法による風味の違いを論じることができる。										
	②	コーヒー豆の焙煎を理解して実践できる。										
	③	カフェの現場で働く為の専門的な知識と技術を実践できる。										
	④	カフェ(コーヒー) 飲用がもたらす効果及びフードファディズムについて論じることができる。										
	⑤	エスプレッソ、カプチーノ、カフェラテ、紅茶の高度な抽出方法及びオペレーションが実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	知識と技術を習得することにより、社会的、職業的な自立に繋がる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連する)										
	(2)	飲食に関連した知識を活用して、食の課題に取り組み、地域社会の発展に貢献することができる。(専門的学習成果①②③④に関連する)										
	(3)	習得した知識技能を活用して、飲食業界で課題に取り組み問題解決に向け行動できる。(専門的学習成果⑤に関連する)										
授業概要	<p>カフェ業界はここ数年目まぐるしい発展と変化が起きている。個人事業でも大手企業でもコーヒービジネスでは知識と技能は必要不可欠である。この授業では、コーヒーマイスター(Meister：独)、コーヒーバリスタ(barista：伊)に必要な知識を取得する為に写真、表、グラフにて解り易く理解を深める。味覚(風味)と嗜好の違いを認識して正しいカフェ(コーヒー)を啓蒙できる。又、実践的な技術を習得する為に受講生全員が抽出実習を行う。カフェドリンクⅠを発展させた、より専門的なエスプレッソ、スペシャルティコーヒー(カプチーノ、カフェラテ)と紅茶の抽出工程の理解と実践をする。</p> <p>*高度な技術習得を目指す為、カフェドリンクⅠを受講しておくことが望ましい。</p>											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		筆記試験	50	講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。								
		作品課題	40	実習作品を評価する。								
平常点	10	授業態度、意欲、理解度の総合評価										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名		出版社名								
	全日本コーヒー検定委員会	『コーヒー検定教本』		全日本コーヒー商工組合連合会								
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①2コマ連続授業。2クラス編成 ○実習費として8,000円徴収する。○1～10は里館先生 11～20は小野寺先生 21～24は細貝先生 25～28は吉田先生 29～30は梅津先生が担当する(担当教員の授業日程は開講期に知らせる)。実習着を着用する。特に衛生面(頭髮・化粧・爪・アクセサリー)には注意する。※前回の授業内容を踏まえた上での実技指導となる為、授業の復習(技術注意点の再確認や配布資料の知識)がないと次回授業の実技に進むことができない。2回目以降は授業前に必ず前回までの復習や見直しをしておく。事前学習時間として15時間、反復学習時間として15時間を必要とする。</p> <p>②レポート・課題については評価、解説の後、返却する。実技指導はその都度行う。</p>											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	抽出実習 専門(高温度抽出と低温度抽出の風味変化)	実習への取り組みについて授業態度、意欲、理解度の総合評価、実習作品を評価する。講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。
	学習成果	高温度抽出と低温度抽出の風味変化を理解してコーヒー抽出が実践できる。	
3・4回	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。	
	授業内容	コーヒー生豆から加工工程 1.焙煎実習(選別→焙煎→飲料)	
5・6回	学習成果	コーヒー焙煎を理解して焙煎を実践できる。	
	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。	
7・8回	授業内容	コーヒー生豆から加工工程 2.粉砕実習(粉砕→抽出→飲料) 総合判断	
	学習成果	コーヒー粉砕を理解して粉砕を実践できる。	
9・10回	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。	
	授業内容	焙煎工場視察	
11・12回	学習成果	焙煎工場を視察して加工工程を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。	
13・14回	授業内容	手煎り焙煎実習 My Coffee にチャレンジ	
	学習成果	オリジナルのブレンドコーヒー知識を習得してコーヒー抽出実践ができる。	
15・16回	予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。	
	授業内容	カプチーノの作成(上級) カプチーノデザインアレンジ	
17・18回	学習成果	カプチーノデザインアレンジの技術を習得して実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、カプチーノアレンジについて理解を深める。	
19・20回	授業内容	カフェラテの作成(基礎) ミルクフォーム、注ぐ工程について	
	学習成果	カフェラテミルクフォームを注ぐ工程を習得して、実践できる。	
21・22回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、カフェラテについて理解を深める。	
	授業内容	カフェラテの作成(応用) カフェラテデザインアレンジ	
23・24回	学習成果	カフェラテデザインアレンジの技術を習得して、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、カフェラテアレンジについて理解を深める。	
25・26回	授業内容	オリジナルカフェドリンク製作(1) オリジナルドリンク製作の説明、ポイント	
	学習成果	オリジナルドリンク製作ポイントを理解して製作できる。	
27・28回	予習復習の内容	オリジナルドリンク製作ポイントについて理解を深める。	
	授業内容	オリジナルカフェドリンク製作(2) オリジナルドリンク作成、発表	
29・30回	学習成果	オリジナルドリンクを完成させ発表できる。	
	予習復習の内容	オリジナルドリンクについて理解を深める。	
27・28回	授業内容	カフェオーナーのテクニック応用編(1) ドリップコーヒーオペレーション	
	学習成果	ドリップコーヒーを抽出する際のオペレーションを理解して実践できる。	
29・30回	予習復習の内容	オペレーション作業の理解を深める。	
	授業内容	カフェオーナーのテクニック応用編(2) エスプレッソマシンオペレーション	
29・30回	学習成果	エスプレッソを抽出する際のオペレーション理解して実践できる。	
	予習復習の内容	オペレーション作業の理解を深める。	
27・28回	授業内容	スイーツドリンク応用編 ホットスイーツドリンク	
	学習成果	ホットスイーツドリンク作成技術を習得して、実践できる。	
29・30回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、スイーツドリンクについて理解を深める。	
	授業内容	スイーツドリンク応用編 オリジナルドリンク	
29・30回	学習成果	オリジナルのスイーツドリンク考案し、制作できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、スイーツドリンクについて理解を深める。	
29・30回	授業内容	紅茶のいれ方実習 アレンジティー	
	学習成果	アレンジティーのいれ方について習得し、実践できる。	
29・30回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、アレンジティーのいれ方について理解を深める。	

科目名	製菓衛生師試験対策講座Ⅱ				担当者	岩松 秀夫 ・ 吉田 正 ・ 相良 奈津						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期集中
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業前後に対応する。										
専門的 学習成果	①	製菓衛生師としての食品衛生を理解し、その内容を説明できる										
	②	製菓衛生師としての公衆衛生を理解し、その内容を説明できる										
	③	製菓衛生師としての食品や栄養、法令に関する内容を理解し、その内容を説明できる										
	④	製菓衛生師としての製菓理論を理解し、その内容を説明できる										
	⑤	製菓衛生師として必要とされる職務知識・技能を理解し実践できる										
汎用的 学習成果	(1)	製菓衛生師養成課程を学ぶことを通じて、製菓衛生師としての職業自立につなげることができる（専門的学習成果①②③④⑤に関連）										
	(2)	製菓衛生師として必要とされる実務能力を習得することによって、社会人としてその技能を活用することができる（専門的学習成果①②③④⑤に関連）										
	(3)	製菓衛生師としてふさわしい態度・人柄を理解し、身につけることによって他者理解ができコミュニケーション能力を養うことができる（専門的学習成果⑤に関連）										
授業概要		製菓衛生師試験合格のために必要な基礎知識と技能の習得を目的とする。具体的には製菓衛生師として必要とされる、食品衛生、公衆衛生、食品学、栄養学、衛生法規、衛生管理、製菓理論を製菓衛生師ユニットで学び、試験対策講座として、各都道府県の過去問題や、宮城県での製菓衛生師試験の傾向などをふまえて講座を行う。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	毎回出される過去問題をきちんと解いてくる。								
		模擬試験	10	検定直前に模擬試験を行い、採点し評価する。								
	平常点	60	授業への取り組み・態度・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う (2) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	全国製菓衛生師養成施設協会編		『これで合格 製菓衛生師試験問題集』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	全国製菓衛生師養成施設協会編		『新訂製菓衛生師教本』									
	日本菓子教育センター		『製菓衛生師全書』									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2年生前期集中講義である。岩松秀夫、吉田正、相良奈津の共同授業とする。事前学習として配布される過去問題を解いて授業に臨むこと（予習、復習共に週二時間程度） ②過去問題に対しては授業内で返却し解説を行う。講義内の解答を持ってフィードバックとする。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 製菓衛生師試験について	
	学習成果	製菓衛生師試験の概要を説明できる	
	予習復習の内容	製菓衛生師試験の概要を理解してくる	
	2回	授業内容	過去問題①
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
3回	授業内容	過去問題②	
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
	4回	授業内容	過去問題③
学習成果		過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
	5回	授業内容	過去問題④
学習成果		過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
	6回	授業内容	過去問題⑤
学習成果		過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
	7回	授業内容	過去問題⑥
学習成果		過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
	8回	授業内容	過去問題⑦
学習成果		過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
	9回	授業内容	過去問題⑧
学習成果		過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
	10回	授業内容	過去問題⑨
学習成果		過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
	11回	授業内容	過去問題⑩
学習成果		過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
	12回	授業内容	過去問題⑪
学習成果		過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
	13回	授業内容	模擬試験①今年行われた一番身近な試験の問題を解く
学習成果		合格点（7割以上正解）に達する	
	予習復習の内容	試験内容について復習する	
	14回	授業内容	模擬試験②昨年の宮城県の試験問題を解く
学習成果		合格点（7割以上正解）に達する	
	予習復習の内容	試験内容について復習する	
	15回	授業内容	受験準備
学習成果		受験に備え適切な準備を整えることができる	
	予習復習の内容	受験に必要な準備を整える	

科目名	製菓技術Ⅰ				担当者	吉田 正・加藤 信樹・高橋 義弘・渡辺 靖美						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwai.ac.jp											
専門的 学習成果	① 洋菓子の種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。											
	② 菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。											
	③ 洋菓子分野の専門的技術を駆使した菓子製作ができる。											
	④ 国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を活用できる。											
	⑤ 造形菓子の取り組みから芸術性の観点をもち菓子製作ができる。											
汎用的 学習成果	(1) 食に携わる意義と使命を理解し、職業選択を行うことができる。（専門的学習成果①②③④に関連）											
	(2) 洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③に関連）											
	(3) 製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を活用できる。（専門的学習成果①②③④に関連）											
	(4) グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる（専門的学習成果②③④に関連）											
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して、より専門的洋菓子実習で活用していく技法を習得する。この授業ではフランス菓子以外にドイツ菓子、イタリア菓子についての知識と技術も習得する。また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。更にコンテスト出場に向けた高度なマジバン細工を習得して菓子の芸術的要素を表現できる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	洋菓子製造に必要な専門的技法（アントルメ・ドゥミセック）の実技試験を実施する。								
		レポート	30	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
汎用的 学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④にて評価を行う (2) は専門的学習成果①③にて評価を行う (3) は専門的学習成果①②③④にて評価を行う (4) は専門的学習成果②③④にて評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』										
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』										
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本 上・下』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2コマ連続で授業を行う。製菓技術Ⅱへと続く。授業計画に沿って制作する菓子・ケーキの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週1時間程度）授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる。（復習として週2時間程度）授業で使用する食材等の入荷状況により授業回数が入れ替わる事もある。②課題として提出されたノートは点検後返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	マジバン細工の応用 1) テーマに基づいたマジバン作製	毎授業で作製したケーキ・菓子について実習終了後に評価・総評を行う。自身で作製したケーキ・菓子を記録し、レポートとして提出する。
	学習成果	マジバン造形 人形と動物を作製できる。	
3・4回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	マジバン細工の応用 2) テーマに基づいたマジバン作製	
5・6回	学習成果	マジバン造形 人形と動物を作製できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
7・8回	授業内容	マジバン細工の表現方法 1) コンテスト出場への取り組み	
	学習成果	土台とカバーリングを作製できる。	
9・10回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	マジバン細工の表現方法 2) コンテスト出場への取り組み	
11・12回	学習成果	デザイン構成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
13・14回	授業内容	イタリア菓子の技法	
	学習成果	ティラミスとパンナコッタを作製できる。	
15・16回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	ドイツ菓子の技法	
17・18回	学習成果	ザッハトルテとリンツァートルテを作製できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
19・20回	授業内容	フランス菓子 1) アントルメの応用 ショコラムースとベリームース	
	学習成果	5工程で構成される現代フランス菓子2品を作製できる。	
21・22回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	フランス菓子 2) アントルメの応用 コーヒーとスガー	
23・24回	学習成果	ガトーカフェノアとタルトレットフロランティーズを作製できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
25・26回	授業内容	フランス菓子 2) アントルメの応用 シュー生地	
	学習成果	プロフィットロールとバリブレストを作製できる。	
27・28回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	糖化の技法	
29・30回	学習成果	パートドフリュイとキャラメルムーを作製できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
1・2回	授業内容	ケーキサレとケーキシュクレ	
	学習成果	野菜を使用したケーキサレとキャラメルショコラマフィンを作製できる。	
3・4回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 1) ゲル化剤の活用方法	
5・6回	学習成果	杏仁豆腐とレモンゼリーを作製できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
7・8回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 2) ゲル化剤の活用方法	
	学習成果	マンゴープリンとオレンジヨーグルトを作製できる。	
9・10回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 3) アニバーサリーケーキ	
11・12回	学習成果	マリargeジュマドレーヌとル・レ・オ・ティバールを作製できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
13・14回	授業内容	課題作製	
	学習成果	各自で設定した課題で菓子を製作できる。	
15・16回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	課題作製	
17・18回	学習成果	各自で設定した課題で菓子を製作できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	

科目名	製菓技術Ⅱ					担当者	吉田 正・加藤 信樹・高橋 義弘・渡辺 靖美					
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	60							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp										
専門的 学習成果	① 洋菓子の種類、使用材料について理解し、その内容を十分に説明できる。											
	② 菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が十分に実践できる。											
	③ 洋菓子分野の専門的技術を駆使した菓子製作を完成できる。											
	④ 国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を十分に活用できる。											
	⑤ 造形菓子の取り組みから芸術性の観点をもち菓子製作を完成できる。											
汎用的 学習成果	(1) 食に携わる意義と使命を理解し、職業選択を適切に行うことができる。（専門的学習成果①②③④に関連）											
	(2) 洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③に関連）											
	(3) 製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を活用できる。（専門的学習成果①②③④に関連）											
	(4) グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる（専門的学習成果②③④に関連）											
授業概要		国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。 洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して、より専門的洋菓子実習で活用していく技法を習得する。この授業ではフランス菓子以外にドイツ菓子、イタリア菓子についての知識と技術も習得する。 また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。 更にコンテスト出場に向けたマジパン細工を習得して菓子の芸術性要素を表現できる。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	洋菓子製造に必要な専門的技法（アントルメ・ドゥミセック）の実技試験を実施する。								
		レポート	30	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
汎用的 学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④にて評価を行う (2) は専門的学習成果①③にて評価を行う (3) は専門的学習成果①②③④にて評価を行う (4) は専門的学習成果②③④にて評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	日本菓子教育センター		『製菓衛生師全書』									
	日本菓子教育センター		『洋菓子教本』									
	全国製菓衛生師養成施設協会		『製菓衛生師教本 上・下』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続で授業を行う。製菓技術Ⅰからの続き。 授業計画に沿って制作する菓子・ケーキの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週1時間程度）授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる。（復習として週2時間程度） 授業で使用する食材等の入荷状況により授業回数が入れ替わる事もある。 ②課題として提出されたノートは点検後返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	マジパン細工の応用 1) テーマに基づいたマジパン作製	毎授業で作製したケーキ・菓子について実習終了後に評価・総評を行う。自身で作製したケーキ・菓子を記録し、提出する。
	学習成果	マジパン造形 人形と動物を完成できる。	
3・4回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	マジパン細工の応用 2) テーマに基づいたマジパン作製	
5・6回	学習成果	マジパン造形 人形と動物を完成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
7・8回	授業内容	マジパン細工の表現方法 1) コンテスト出場への取り組み	
	学習成果	土台製作とカバーリングを完成できる。	
9・10回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	マジパン細工の表現方法 2) コンテスト出場への取り組み	
11・12回	学習成果	デザイン構成を完成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
13・14回	授業内容	イタリア菓子の技法	
	学習成果	ティラミスとパンナコッタを完成できる。	
15・16回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	ドイツ菓子の技法	
17・18回	学習成果	ザッハトルテとリンツァートルテを完成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
19・20回	授業内容	フランス菓子 1) アントルメの応用 ショコラムースとベリームース	
	学習成果	5工程以上で構成される現代フランス菓子2品を完成できる。	
21・22回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	フランス菓子 2) アントルメの応用 コーヒーとスガー	
23・24回	学習成果	ガトーカフェノアとタルトレットフロランティーズを完成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
25・26回	授業内容	フランス菓子 2) アントルメの応用 シュー生地	
	学習成果	プロフィットロールとバリプレストを完成できる。	
27・28回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	糖化の技法	
29・30回	学習成果	パートドフリュイとキャラメルムーを完成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
1・2回	授業内容	ケーキサレとケーキシュクレ	
	学習成果	野菜を使用したケーキサレとキャラメルショコラムフィンを完成できる。	
3・4回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 1) ゲル化剤の活用方法	
5・6回	学習成果	杏仁豆腐とレモンゼリーを完成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
7・8回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 2) ゲル化剤の活用方法	
	学習成果	マンゴープリンとオレンジヨーグルトを完成できる。	
9・10回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 3) アニバーサリーケーキ	
11・12回	学習成果	マリージュマドレーヌとル・レ・オ・ティバールを完成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
13・14回	授業内容	課題作製	
	学習成果	各自で設定した課題で菓子を完成できる。	
15・16回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	

科目名	製菓技術Ⅲ				担当者	吉田・相良・高橋・加藤・堀田						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法		研究室への訪問、又はEメールで行う。										
質問等の受付方法		tadashi.yoshida@seiwai.ac.jp										
専門的 学習成果	①	洋菓子・パンの種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	③	洋菓子・パン分野の専門的技術を駆使した菓子製作ができる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を習得する。										
	⑤	造形菓子の取り組みから菓子製作の芸術性を習得する										
	⑥	学内販売を通じて職業的自立について必要なことを習得する。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる（専門的学習成果①②③④⑥に関連）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③⑥に関連）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。（専門的学習成果①②③④⑤⑥に関連）										
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる（専門的学習成果②③④⑥に関連）										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して、より専門的洋菓子実習で活用していく技法を習得する。この授業ではフランス菓子以外にドイツ菓子、イタリア菓子についての知識と技術も習得する。また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。更にコンテスト出場に向けた高度なマジパン細工を習得して菓子の芸術的要素を表現できる。又、製造した菓子・パン類を学内での販売を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	学内販売の企画・製造・販売の実施。								
		レポート	30	学内販売の企画・製造・販売についてのレポート。								
		ノート提出	20	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
汎用的 学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④⑥にて評価を行う (2) は専門的学習成果①③⑥にて評価を行う (3) は専門的学習成果①②③④⑤⑥にて評価を行う (4) は専門的学習成果②③④⑥にて評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名		書名			出版社名						
	日本菓子教育センター		『製菓衛生師全書』									
	日本菓子教育センター		『洋菓子教本』									
	全国製菓衛生師養成施設協会		『製菓衛生師教本 上・下』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名			出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続で授業を行う。製菓技術Ⅱへと続く。 授業計画に沿って制作する菓子・ケーキ・パンの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。 (事前学習として週1時間程度) 授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる (復習として週2時間程度) 授業で使用する食材等の入荷状況により授業回数が入れ替わる事もある。 ②課題として提出されたノート・レポートは点検後返却する。										

		授業計画		学習成果の評価	
1・2回	授業内容	ガイドンス・マジパン細工コンテスト・学内展示に向けて		毎授業で作製したケーキ・菓子について実習終了後に評価・総評を行う。また、自身で作製したケーキ・菓子を写真に撮り、提出用ノートに張り付ける。	
	学習成果	コンテスト作品用土台焼き・カバーリング用マジパン練り			
3・4回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる			
	授業内容	マジパン細工の表現方法 1) コンテスト出場・学内展示への取り組み			
5・6回	学習成果	カバーリングとスプレー着色			
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる			
7・8回	授業内容	マジパン細工の表現方法 2) コンテスト出場・学内展示への取り組み			
	学習成果	デザイン構成の乗った作品製作			
9・10回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる			
	授業内容	マジパン細工の表現方法 3) コンテスト出場・学内展示への取り組み			
11・12回	学習成果	デザイン構成の乗った作品製作			
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる			
13・14回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 1) アントルメの応用①			
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類			
15・16回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる			
	授業内容	学内イベントで販売を目的とした菓子と技法 1) 学園祭			
17・18回	学習成果	オープンで焼き上げる菓子の生地とクリーム類の生地			
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる			
19・20回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 2) アントルメの応用②			
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類			
21・22回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる			
	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 3) アントルメの応用③			
23・24回	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類			
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる			
25・26回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 4) アントルメの応用④			
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類			
27・28回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる			
	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 5) アントルメの応用⑤			
29・30回	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類			
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる			
29・30回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 2) キャリアフェスティバル			
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・練り生地・気泡生地・堅果生地			
29・30回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる			
	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 6) アントルメの応用⑥			
29・30回	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類			
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる			
29・30回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 3) クリスマス			
	学習成果	クリスマスイベントで販売するケーキ類の製造			
29・30回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる			
	授業内容	製パン店のパンと技法			
29・30回	学習成果	パンの製造について			
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる			
29・30回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 4) 製パン			
	学習成果	高級食パンの技法を学び製造する			
29・30回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる			

科目名	製菓技術Ⅳ				担当者	吉田・相良・高橋・加藤・堀田						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法		研究室への訪問、又はEメールで行う。										
質問等の受付方法		tadashi.yoshida@seiwai.ac.jp										
専門的学習成果	①	洋菓子・パンの種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	③	洋菓子・パン分野の専門的技術を駆使した菓子製作ができる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を習得する。										
	⑤	造形菓子の取り組みから菓子製作の芸術性を習得する										
	⑥	学内販売を通じて職業的自立について必要なことを習得する。										
汎用的学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる（専門的学習成果①②③④⑥に関連）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③⑥に関連）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。（専門的学習成果①②③④⑤⑥に関連）										
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる（専門的学習成果②③④⑥に関連）										
授業概要	<p>国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して、より専門的洋菓子実習で活用していく技法を習得する。この授業ではフランス菓子以外にドイツ菓子、イタリア菓子についての知識と技術も習得する。また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。更にコンテスト出場に向けた高度なマジパン細工を習得して菓子の芸術的要素を表現できる。又、製造した菓子・パン類を学内での販売を行う。</p>											
評価方法基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的学習成果	定期試験	50	学内販売の企画・製造・販売の実施。								
		レポート	30	学内販売の企画・製造・販売についてのレポート。								
		ノート提出	20	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
汎用的学習成果	<p>汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。</p> <p>(1) は専門的学習成果①②③④⑥にて評価を行う</p> <p>(2) は専門的学習成果①③⑥にて評価を行う</p> <p>(3) は専門的学習成果①②③④⑤⑥にて評価を行う</p> <p>(4) は専門的学習成果②③④⑥にて評価を行う</p>											
テキスト等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	日本菓子教育センター		『製菓衛生師全書』									
	日本菓子教育センター		『洋菓子教本』									
	全国製菓衛生師養成施設協会		『製菓衛生師教本 上・下』									
参考書参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点		①2コマ連続で授業を行う。製菓技術Ⅱへと続く。授業計画に沿って制作する菓子・ケーキ・パンの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週1時間程度）授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる（復習として週2時間程度）										
②課題に対するフィードバックの方法等		授業で使用する食材等の入荷状況により授業回数が入れ替わる事もある。②課題として提出されたノート・レポートは点検後返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンス・マジパン細工コンテスト・学内展示に向けて	毎授業で作製したケーキ・菓子について実習終了後に評価・総評を行う。また、自身で作製したケーキ・菓子を写真に撮り、提出用ノートに張り付ける。
	学習成果	コンテスト作品用土台焼き・カバーリング用マジパン練り・デザインチェック	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
3・4回	授業内容	マジパン細工の表現方法 1) コンテスト出場・学内展示への取り組み	
	学習成果	カバーリングとスプレー着色	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
5・6回	授業内容	マジパン細工の表現方法 2) コンテスト出場・学内展示への取り組み	
	学習成果	デザイン構成の乗った作品製作	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
7・8回	授業内容	マジパン細工の表現方法 3) コンテスト出場・学内展示への取り組み	
	学習成果	デザイン構成の乗った作品製作	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
9・10回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 1) アントルメの応用①	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
11・12回	授業内容	学内イベントで販売を目的とした菓子と技法 1) 学園祭	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子の生地とクリーム類の生地	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
13・14回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 2) アントルメの応用②	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
15・16回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 3) アントルメの応用③	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
17・18回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 4) アントルメの応用④	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
19・20回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 5) アントルメの応用⑤	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
21・22回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 2) キャリアフェスティバル	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・練り生地・気泡生地・堅果生地	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
23・24回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 6) アントルメの応用⑥	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
25・26回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 3) クリスマス	
	学習成果	クリスマスイベントで販売するケーキ類の製造	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
27・28回	授業内容	製パン店のパンと技法	
	学習成果	パンの製造について	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
29・30回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 4) 製パン	
	学習成果	高級食パンの技法を学び製造する	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	

科目名	製菓学外実習 I				担当者	ヨシダ 正						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwai.ac.jp											
専門的 学習成果	①	職業人として社会に貢献できる専門知識と技術を習得する。										
	②	グループで協力しながら作業する事により、他者とのコミュニケーションを図れるようにする。										
	③	企画・生産・流通・販売までの流れを理解して実践できる。										
	④	ビジネスマネジメント能力を身に付ける。										
汎用的 学習成果	(1)	食に関連した職業的・社会的自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	協働作業の実践により自己表現と他者理解ができる。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	ビジネスの一連の流れを実践することにより、習得した知識や技術を活用して、地域社会に貢献できる。(専門的学習成果①③④に関連)										
授業概要	製菓衛生師養成課程で学習した専門知識と技術を基に地域のイベントに出店して活動する。イベント出店の際は企画から運営のすべてを手掛け、販売する商品については開発と製造を行う。イベント出店に先立ち、学内授業ではマーケティングとマネジメント能力の必要性を学習し、フードビジネス全般のスキルを身につけ実践できる能力を養う。また、イベント出店の際には社会人との交流が多くなりコミュニケーション力を磨く。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	フードマネジメントとマーケティングの理解を評価する。								
		平常点	30	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
		製品発表	25	テーマに基づいた製品提案の内容により評価する。								
製品製作	25	企画に基づいた製品製作の内容により評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④にて評価を行う。 (2) は専門的学習成果②にて評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2コマ連続授業。 校外での活動があるため、授業時間が変動的になる場合がある。事前学習として出店計画と商品製作時間に40時間程度必要となる。また事後学習として報告書作成に15時間程度必要とする。 ②課題として提出された製品は点検後に返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンス フードビジネスとは	
	学習成果	授業の概要を理解し説明できる	
3・4回	予習復習の内容	シラバスを読み授業内容を理解する	
	授業内容	マーケティングの基礎	
5・6回	学習成果	マーケティングのプロセスを理解できる	
	予習復習の内容	授業内容を振り返りマーケティングの理解を深める	
7・8回	授業内容	マーケティングの実践	
	学習成果	商品のスパイラル分析を理解する	
9・10回	予習復習の内容	授業内容を振り返りマーケティングの理解を深める	
	授業内容	市場調査 (1) 繁盛店の実態	
11・12回	学習成果	マーケティングの理解を深める	
	予習復習の内容	授業内容を振り返りマーケティングの理解を深める	
13・14回	授業内容	市場調査 (2) 地域イベント	
	学習成果	食分野の繁盛店を調査し、その実態を分析する	
15・16回	予習復習の内容	インターネット等を利用して仙台市内の食の繁盛店を調べる	
	授業内容	市場調査 (2) 地域イベント	
17・18回	学習成果	地域のイベントに出向き、マーケティングの観点から調査する	
	予習復習の内容	仙台市内で行われている食にまつわる地域イベントを調べる	
19・20回	授業内容	商品開発 (1) 流行と傾向	
	学習成果	トレンド食を取り入れた製品を構築できる	
21・22回	予習復習の内容	流行している食について調べる	
	授業内容	商品開発 (2) 食シーンから発想する	
23・24回	学習成果	季節の食材を取り入れた製品を構築できる	
	予習復習の内容	身近にある食の季節商品を調べる	
25・26回	授業内容	商品化する製品のプレゼンテーション	
	学習成果	レシピ調整と売価・原価計算が完成できる	
27・28回	予習復習の内容	製造に向けて原材料の調達方法を考える	
	授業内容	地域イベントへの出店準備 (1) 店舗運営の方法	
29・30回	学習成果	6w1hを理解して計画を立てることができる	
	予習復習の内容	グループ内で役割分担を決め出店準備をする	
1・2回	授業内容	地域イベントへの出店準備 (2) 商品製造の方法	
	学習成果	目標数値の決定ができる	
3・4回	予習復習の内容	目標数値を達成できるように計画を立てる	
	授業内容	地域イベントでの活動	
5・6回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
7・8回	授業内容	地域イベントでの活動	
	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
9・10回	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
	授業内容	地域イベントでの活動	
11・12回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
13・14回	授業内容	地域イベントでの活動	
	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
15・16回	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
	授業内容	地域イベントでの活動	
17・18回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
19・20回	授業内容	地域イベントでの活動	
	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
21・22回	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
	授業内容	地域イベントでの活動	
23・24回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
25・26回	授業内容	地域イベントでの活動	
	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
27・28回	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
	授業内容	地域イベントでの活動	
29・30回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
1・2回	授業内容	イベント出店の検証と課題 まとめ	
	学習成果	PCDAサイクルの理解を深め店舗運営の実践につなげる	
3・4回	予習復習の内容	学習内容を振り返りフードビジネスについての理解を深める	
	学習成果	マーケティングについてのレポートを提出する	
5・6回	予習復習の内容	市場調査に出向いた際のレポートを提出する	
	学習成果	試作商品の提出 1回目	
7・8回	予習復習の内容	試作商品の提出 2回目	
	学習成果	完成した商品のプレゼンテーション	
9・10回	予習復習の内容	イベント出店の企画書作成	
	学習成果	一日ごとの日計表を作成する	
11・12回	予習復習の内容	出店したイベントについての検証と課題をレポートにまとめて提出する	
	学習成果	出店したイベントについての検証と課題をレポートにまとめて提出する	

科目名	製菓学外実習Ⅱ				担当者	ヨシダ タカシ						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwai.ac.jp											
専門的 学習成果	①	職業人として社会に貢献できる専門知識と技術を習得する。										
	②	グループで協力しながら作業する事により、他者とのコミュニケーションを図れるようにする。										
	③	企画・生産・流通・販売までの流れを理解して実践できる。										
	④	ビジネスマネジメント能力を身に付ける。										
汎用的 学習成果	(1)	食に関連した職業的・社会的自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	協働作業の実践により自己表現と他者理解ができる。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	ビジネスの一連の流れを実践することにより、習得した知識や技術を活用して、地域社会に貢献できる。(専門的学習成果①③④に関連)										
授業概要	製菓衛生師養成課程で学習した専門知識と技術を基に地域のイベントに出店して活動する。イベントでは企画から運営のすべてを手掛け、販売する商品については製品開発と製造を行う。イベント出店に先立ち、学内授業ではマーケティングの活用方法とマネジメント能力の実践方法を学習し、フードビジネス全般のスキルを身につけて実践できる能力を養う。また、PDCAサイクルを取り込み、より高度な出店スタイルを構築する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	フードマネジメントとマーケティングの理解を評価する。								
		平常点	30	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
		製品発表	25	テーマに基づいた製品提案の内容により評価する。								
製品製作	25	企画に基づいた製品製作の内容により評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④にて評価を行う。 (2) は専門的学習成果②にて評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2コマ連続授業。 前期授業「製菓学外実習Ⅰ」で学習したビジネスマネジメントを理解していることが望ましい。 校外での活動があるため、授業時間が変動的になる場合がある。事前学習として出店計画と商品製作時間に40時間程度必要となる。また事後学習として報告書作成に15時間程度必要とする。 ②課題として提出された製品は点検後に返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 出店計画	マーケティングについてのレポートを提出する
	学習成果	授業の概要を理解し説明できる	
2回	予習復習の内容	シラバスを読み授業内容を理解する	
	授業内容	マーケティングの活用	
3回	学習成果	セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニングの理解	
	予習復習の内容	授業内容を振り返りマーケティングの理解を深める	
4回	授業内容	マーケティングの効率	
	学習成果	マーケティングミックスを理解して実践につなげる	
5回	予習復習の内容	授業内容を振り返りマーケティングの理解を深める	
	授業内容	商品開発 (1) 味を設計する	
6回	学習成果	年代で変化する嗜好と欲求を理解する	
	予習復習の内容	世代別での食のターゲティングを調べておく	
7回	授業内容	商品開発 (2) ネーミング・パッケージ	
	学習成果	商品に付加価値をつける方法を理解する	
8回	予習復習の内容	ブランド品の魅力を調べておく	
	授業内容	商品化する製品のプレゼンテーション	
9回	学習成果	レシビ調整と売価・原価計算が完成できる	
	予習復習の内容	製造に向けて原材料の調達方法を考える	
10回	授業内容	地域イベントへの出店準備 商品製造の方法	
	学習成果	目標数値の決定ができる	
11回	予習復習の内容	目標数値を達成できるように計画を立てる	
	授業内容	地域イベントでの活動 (1)	
12回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
13回	授業内容	地域イベントでの活動 (2)	
	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
14回	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
	授業内容	地域イベントでの活動 (3)	
15回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
16回	授業内容	イベント出店の検証と課題 (1) 改善計画の構築	
	学習成果	PDCAサイクルの理解を深め店舗運営の実践につなげる	
17回	予習復習の内容	出店を振り返り次回出店の問題点と課題を見つけ改善方法を探る	
	授業内容	地域イベントでの活動 (4)	
18回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
19回	授業内容	地域イベントでの活動 (5)	
	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
20回	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
	授業内容	地域イベントでの活動 (6)	
21回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
22回	授業内容	イベント出店の検証と課題 (2) まとめ	
	学習成果	PDCAサイクルの理解を深め店舗運営の実践につなげる	
23回	予習復習の内容	学習内容を振り返りフードビジネスについての理解を深める	
	授業内容	イベント出店の検証と課題 (2) まとめ	
24回	学習成果	PDCAサイクルの理解を深め店舗運営の実践につなげる	
	予習復習の内容	学習内容を振り返りフードビジネスについての理解を深める	

科目名	インターンシップ				担当者	ヨシダ 正						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	実習	学年	1年	開講期	集中
授業時間数				30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 Tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	企業・施設での業務活動の実際について理解する。										
	②	ビジネスマナーの理解と実践ができる。										
	③	企業・施設で基本的な業務が行えるようになる。										
	④	将来の職業について考え、志望先の業界の仕組み、仕事内容を理解する。										
汎用的 学習成果	(1)	社会人としての職業自立につなげることができる。(専門学習①②③④に関連)										
	(2)	企業研修を行うことで、自己表現と他者理解ができる。(専門学習①②③④に関連)										
	(3)	企業研修を行うことで、問題解決に向けて行動できる。(専門学習①②③④に関連)										
授業概要	業界研究及び企業研究を行い研修先を自ら選定し、7日間以上の実務研修を実施する。実務研修を通して働く意義と目的を見出す。実務研修に先立ち、学内授業においてビジネスマナーと社会人としての心得を理解し実践できる能力を身に付けた後、研修にあたる。企業の業務内容を体験することから、職業選択の際に活用できる。 ※原則として研修時期については1年次の春休み期間を利用して行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	企業研究の理解度により評価する。								
		実習報告書	40	研修先での業務日報報告書を研修終了後担当教員に提出する。内容により評価する。								
		企業評価	40	研修企業先から後日、評価が示される。								
汎用的 学習成果	平常点	10	出席状況、授業内容の理解度により評価する。									
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
			『マナーの基本と常識』						専門教育出版			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①出席及び課題の達成度が不十分である場合は、企業・施設での研修を認めないので注意すること。 事前学習として研修先の企業調査と訪問（15時間程度）を必要とする。 ②業務日報報告書は担当教員が点検後、返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 研修企業・業界調査	希望する研修先を選定する。 選定するにあたり企業研究を行う。希望先を調査用紙に記入し後日提出する。提出日時は1回目授業時に連絡する。
	学習成果	授業内容を理解し、研修の意義と目的を理解する	
	予習復習の内容	希望する研修先を選定する。	
2回	授業内容	ビジネスマナー (1) エチケットとマナー	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	ビジネスとしての態度とお辞儀を理解し実践できる	
	予習復習の内容	学習内容の振り返りをする。	
3回	授業内容	ビジネスマナー(2) 話し方・聞き方	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	敬語での話し方、電話対応について理解し実践できる	
	予習復習の内容	学習内容の振り返りをする。	
4回	授業内容	ビジネスマナー(3) ビジネス文書の基本	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	企業先に提出するプロフィールとお礼状をビジネス書式で書ける	
	予習復習の内容	学習内容の振り返りをする。	
5回	授業内容	ビジネスマナーの実践 (1) 電話・メール	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	Aポイントの取り方を理解して実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容の振り返りをする。	
6回	授業内容	ビジネスマナーの実践 (2) 企業訪問	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	企業担当者との応対を理解して実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容の振り返りをする。	
7回	授業内容	研修前事前指導	研修先にて小テストを実施する。
	学習成果	企業研修にむけたビジネスマナー全般を理解して実践できる。	
	予習復習の内容	研修内容の確認と目標を設定する	
8回	授業内容	企業研修（インターンシップ）1日目	研修先にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
9回	授業内容	企業研修（インターンシップ）2日目	研修先にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
10回	授業内容	企業研修（インターンシップ）3日目	研修先にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
11回	授業内容	企業研修（インターンシップ）4日目	研修先にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
12回	授業内容	企業研修（インターンシップ）5日目	研修先にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
13回	授業内容	企業研修（インターンシップ）6日目	研修先にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
14回	授業内容	企業研修（インターンシップ）7日目	研修先にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
15回	授業内容	研修報告とまとめ	報告書の提出。
	学習成果	報告書の研修レポートを作成する。	
	予習復習の内容	担当教員への報告	

科目名	観光ガイドトレーニング				担当者	尾 形 和 悦						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2 年	開講期	後期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に受け付ける										
専門的 学習成果	①	時刻表にある地図を使用して、時刻表を読み取ることができる。										
	②	観光素材について説明することができる。										
	③	宿泊施設の選択のアドバイスができる。										
	④	国内旅行の日程表の作成ができる。										
	⑤	旅行会社カウンターでの接客ができる。										
	⑥	添乗員の業務内容の理解ができる。										
	⑦	旅行会社の営業の仕組みが理解できる。										
汎用的 学習成果	(1)	時刻表を読み取ることで、社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)										
	(2)	観光を理解することによって自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)										
	(3)	時刻表などの読み取りを理解し、習得した専門知識や技能を活用し問題解決に向け行動できる。(専門的学習成果④⑤⑥⑦に関連)										
授業概要		旅行会社のプランナーとして、JRや航空機等を利用して、顧客に最適な旅行プランの作成、併せて宿泊、定期観光バス、レンタカーなどの素材を利用して付加価値付与の方法を学習する。また旅行会社の添乗員として、顧客に同行する添乗員の接客サービスの流れ、旅行会社でのカウンター及びアウトセールスの基本を接客と接客サービスに必要な共通ポイントを学習する。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	旅行プラン作成								
		平常点	10	受講態度								
		小テスト	30	7回実施(各回10問)								
筆記試験	50	これまでの学習内容についての学習理解をはかる。(15回目授業時)										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④⑤⑥⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
			『JR時刻表』2024年 9月号						交通新聞社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
			授業計画のテーマに基づき、関係資料を適時配布する									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①予習・復習を各2時間程度行うこと。 ②フィードバックとして、理解度確認テストを回収後、回答・解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション/旅行会社の業務内容及び観光ビジネスの概要	
	学習成果	観光に関係する仕事について論ずることができる。	
	予習復習の内容	JR時刻表の目次書かれている項目から、時刻表に取られている内容を把握する。	
	2回	授業内容	国内旅行の基礎知識①-JR時刻表を読み取る(JR時刻表活用)
	学習成果	JR時刻表にある地図から乗車区間の時刻を読み取ることができる。	
	予習復習の内容	JR時刻表の地図を利用し、自分の行きたい観光地への列車時刻を調べる。	
3回	授業内容	国内旅行の基礎知識②-JR時刻表を読み取る(JR時刻表活用)	
	学習成果	JR時刻表に掲載されている観光素材を読み取ることができる。	
	予習復習の内容	JR時刻表にある地図を利用して、自分が行きたい観光地への移動方法をシミュレーションする。	
	4回	授業内容	国内旅行の基礎知識③-旅行日程表作成(JR利用)(JR時刻表活用)
学習成果		列車を利用した旅行日程表が作成できる。	
	予習復習の内容	JR時刻表にある駅構内図を利用して、列車乗り換えの時間を調べる。	
	5回	授業内容	国内旅行の基礎知識④-旅行日程表作成(航空機+公共交通機関利用)
学習成果		航空機を利用した日程表を作成できる。	
	予習復習の内容	JR時刻表にある地図を利用して、自分が行きたい観光地への航空機プランをたてる。	
	6回	授業内容	海外旅行の基礎知識-仙台空港発着路線(運航会社時刻表利用)
学習成果		仙台空港発着の海外路線と時差のある国間の所要時間を説明できる。	
	予習復習の内容	Google Map等を利用して、仙台空港発着便の行先を確認する。	
	7回	授業内容	国内添乗業務の基礎知識①-添乗員の役目、責任
学習成果		添乗ガイド業務について述べるができる。	
	予習復習の内容	これまで参加した(修学)旅行の添乗員の仕事内容をレポートにまとめておく。	
	8回	授業内容	国内添乗業務の基礎知識②-接客の技術、知識
学習成果		貸切バス、航空機を利用した添乗における接客ポイントを説明できる。	
	予習復習の内容	交通機関の遅延等によるコース変更発生時の代案を提案してみる。	
	9回	授業内容	海外添乗業務の基礎知識①-出入国時のルーティーン
学習成果		C.I.Q.について説明し、EDカード等の記入のアドバイスができる。	
	予習復習の内容	日本帰国時の通関、検疫手続きについて調べておく。	
	10回	授業内容	海外添乗業務②-準備、必要書類の把握
学習成果		添乗中に使用する書類の説明、変更内容を英語で述べるができる。	
	予習復習の内容	海外ホテルの部屋タイプを調べておく。	
	11回	授業内容	旅行案内業務①-カウンター業務の基本
学習成果		カウンター業務を分類できる。	
	予習復習の内容	旅行会社のカウンターを訪ね、どんなサービスを展開しているか調べておく。	
	12回	授業内容	旅行案内業務②-カウンター業務の接客
学習成果		接客ポイントを説明することができる。	
	予習復習の内容	旅行会社を訪れるお客さんは、旅行会社に何を求めるのか推察してみる。	
	13回	授業内容	旅行案内業務③-営業セールスの基本
学習成果		アウトセールスに必要な語法を一般化できる。	
	予習復習の内容	飛び込みセールス(新規開拓)とルートセールスを理解しておく。	
	14回	授業内容	旅行案内業務④-営業セールスの販売ポイント
学習成果		団体セールス業務を区別し、対応することができる。	
	予習復習の内容	手配旅行と企画型手配旅行の違いを調べておく。	
	15回	授業内容	旅行案内業務⑤-接客サービスポイント
学習成果		接客サービスのポイントを述べるができる。	
	予習復習の内容	この授業の内容全体について整理、確認しておく。	

科目名	ブライダル実務				担当者	山 川 奈 美						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間に直接。または Classroom、Eメール（yamakawa.na@m.seiwa.ac.jp）にて行う。											
専門的 学習成果	①	挙式・披露宴で求められる行動を実践できる。										
	②	ブライダル関連商品の説明ができる。										
	③	オリジナルウエディングを考え、実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	身のこなし方を学び、好感の持てるマナーを実践できる。（専門的学習成果①③）										
	(2)	幅広いブライダル関連商品の知識を習得することで、社会人としてのコミュニケーション能力を養うことができる。（専門的学習成果①②③）										
授業概要	1年後期「ブライダル概論」で学んだことを活かし、履修学生の発案・実演による「オリジナルウエディング」を本学オープンキャンパス（予定）にて発表する。習った知識を実際に形にすることで、知識を定着させる。新郎新婦、司会、音響、照明、装花、ブーケ、ブートニア、アテンドなど役割分担をし、チームワークの大切さを学び、コミュニケーション能力を高め、社会人マナーの向上にもつなげていく。また、準備や費用、様々な要因を考えながら実践するので、希望を形にできた時の達成感と共に、机上では感じにくい「ブライダルマーケット」の部分を理解することができる。適宜 Google ワークスペース等を使用し、快適な学習環境作りを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	オリジナルウエディングでの自身の役割、取り組みを述べ、更に全体を見通した感想をまとめたものを評価する。								
		平常点	80	オリジナルウエディングを作り上げていく過程を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)	は専門的学習成果①③で評価を行う										
	(2)	は専門的学習成果①②③で評価を行う										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	(一財)日本ホテル教育センター編		『ブライダル総論』						(一財)日本ホテル教育センター			
	BIA(公社)日本ブライダル文化振興協会		『ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード』						BIA(公社)日本ブライダル文化振興協会			
			『ゼクシィ』									
			『Hotel Wedding』などブライダル関連雑誌									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①オリジナルウエディングの実施に向けて各々が自身の役割をしっかりと認識し、他のメンバーと協力して作り上げていく。役割を全うするために婚礼関連情報を雑誌やインターネットを通して、情報収集し、研究する。(30時間) 授業で不足する部分を SNS などを使って情報交換や意見交換をする。(30時間) ②レポートは後期開講後に返却し、フィードバックします。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、オリジナルウエディングのテーマ、内容の検討	グループワークへの取り組み 役割への責任感をみる
	学習成果	ブライダル関連の知識を活かしてプランニングする	
	予習復習の内容	オリジナリティを発揮できる内容を考えてくる	
2回	授業内容	オリジナルウエディングの各係・パート分担	
	学習成果	仕事の内容を理解し、係を分担することができる	
	予習復習の内容	それぞれの役割を細かく分析してくる	
3回	授業内容	オリジナルウエディングの各パートの作業内容の確認	
	学習成果	2回目講義の内容をパートで共有、相談し、確定させる	
	予習復習の内容	文章にまとめたり、工夫して全員が共有できるようにする	
4回	授業内容	オリジナルウエディングの準備・制作①	
	学習成果	必要な物資や知識は何かなど考えながら担当係ごとに準備を進める（協力する）	
	予習復習の内容	買い物や文書化することなどは復習時間に使う	
5回	授業内容	オリジナルウエディングの準備・制作②	
	学習成果	必要な物資や知識は何かなど考えながら担当係ごとに準備を進める	
	予習復習の内容	各自で全体通した流れをイメージトレーニングしてみる	
6回	授業内容	オリジナルウエディングの準備・制作③	
	学習成果	必要な物資や知識は何かなど考えながら担当係ごとに準備を進める	
	予習復習の内容	各自で全体通した流れをイメージトレーニングしてみる	
7回	授業内容	オリジナルウエディングの準備・制作④	
	学習成果	通し練習前にできる限り、考えられる限りのことをまとめシミュレーションする	
	予習復習の内容	各自で全体通した流れをイメージトレーニングしてみる	
8回	授業内容	オリジナルウエディング 通し練習①	
	学習成果	4回分の授業の内容をしっかりと形にして表現してみる	
	予習復習の内容	問題点を考え、改善するためにアイデアをまとめておく	
9回	授業内容	オリジナルウエディング 反省・調整	
	学習成果	全員で問題点を考え、改善してよりよいオリジナルウエディングを目指す	
	予習復習の内容	次の授業までに改善点をまとめ、すぐに行えるように準備しておく	
10回	授業内容	オリジナルウエディング 通し練習②	
	学習成果	声を出す、実際に動く、動線の確認、など現場でしかできないことを学ぶ	
	予習復習の内容	各パートごとに反省をまとめ、次回に活かす	
11回	授業内容	オリジナルウエディング 装飾・装花レクチャー	
	学習成果	どのように何を飾るのが効果的かを考え、実行する	
	予習復習の内容	1年の知識を復習しつつ、全体の装飾イメージを考えてくる	
12回	授業内容	オリジナルウエディング 装花制作	
	学習成果	大きな装花やブーケなどを作成 担当に分けても一斉に作ることで全員が別のもものも作れるようにする	
	予習復習の内容	自分の作ったもの以外も作れるように復習する	
13回	授業内容	オリジナルウエディング リハーサル	
	学習成果	本番同様の緊張感の中でいかに平常心で実行できるか、を体験する	
	予習復習の内容	衣装なども着けるので、保管やケアの大切さを学ぶ	
14回	授業内容	オリジナルウエディング リハーサル、本番	
	学習成果	役取り通りにできるかどうか、しっかり検証し、実行する	
	予習復習の内容	後片付けまでして完了であることを学ぶ	
15回	授業内容	オリジナルウエディング レポートによるまとめ	レポート提出
	学習成果	自身の役割と全体像をしっかりと検証する 良いところ悪いところ、両方から学ぶ	
	予習復習の内容	オリジナルウエディングの反省点をまとめる	

科目名	ゲストサービス演習				担当者	高橋見時						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
授業時間数					30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー。											
専門的 学習成果	①	ホスピタリティマインド豊かな社会人として基礎的マナーを身につけることができる。										
	②	接客サービスの応対の基本を身につけることができる。										
	③	接客マナーの基本を習得できる。										
	④	「サービスマインド」と「セールスマインド」を理解することができる										
汎用的 学習成果	(1)	接客での「もてなす心」・「思いやり」の大切さを理解できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	接客応対の基本を理解できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(3)	社会人としての挨拶・返事・お辞儀の仕方の大切さを身につけることができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	ビジネスの世界では「人・物・金・情報」が大切だといわれている。企業や店が成り立つのはこの四つの要素がうまくかみ合っており、お客様に満足していただけるからである。特に人によるサービスという目に見えない商品によりお客様に満足していただくゲストサービスの基礎を学び、実務訓練を通して接客業務の基本である「ホスピタリティマインド」豊かな基礎的マナーを身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		筆記試験	80	第15回目の授業後半に筆記試験を行い講義内容の理解について評価を行う。								
	平常点	20	実技への取り組み、授業態度について評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	キャリア総研	『接客サービス基本テキスト』				日本能率協会						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストを使用し授業を進めるため、必ずテキストを準備のうえ受講すること。予習・復習等の時間外学習を週に1～2時間程度行うこと。事前学習として、テキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業の内容について振り返りを行い、疑問などがあれば調べるなどして学習内容の理解を深めること。 ②授業の最後にその都度小テスト（理解度チェック）を行い、問題・解答についての解説を行うことにより、結果のフィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	接客サービスの基本を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	接客の基本はお客様満足	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	CS（顧客満足）の大切さを理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、「お客様満足」とは何か理解を深める。	
3回	授業内容	真の接客をめざす	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	接客の心得と、接客に求められていることを理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、真の「接客とは何か」ということについて理解を深める。	
4回	授業内容	就業中のマナーと接客時のマナー	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	仕事の基本と就業中のマナーについて理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、就業中のマナーと接客時のマナーについて理解を深める。	
5回	授業内容	好印象を与えるポイント	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	身振りや表情、立ち居振る舞いの大切さを理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、良い印象を与えるにはどうすれば良いか考える。	
6回	授業内容	接客の言葉遣い	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	少しの心配りから感じの良い言葉遣いができる。	
	予習復習の内容	接客10大用語をマスターすることと、正しい敬語の使い方を考える。	
7回	授業内容	感じの良い話し方と聞き方	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	良い人間関係を生むための話し方が理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、相手に感じよく話すことについて理解を深める。	
8回	授業内容	接客応対の基本	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	接客サービスの流れに沿った対応ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、さまざまなお客様の応対について理解を深める。	
9回	授業内容	セールストークの基本	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	状況に応じたセールストークについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、状況に応じたセールストークの理解を深める。	
10回	授業内容	電話応対の基本	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	感じの良い電話の受け方とかけ方ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、友人同士での電話で理解を深める。	
11回	授業内容	ユニバーサルサービスの基本	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	障害を持ったお客様やお年寄りに対するの応対について理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、少しの思いやりと気配りでできることを理解する。	
12回	授業内容	クレームへの対応の基本	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	クレームへの対応の態度と言葉づかいについて理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、クレームの解決の仕方の理解を深める。	
13回	授業内容	お客さま心理の理解	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	基本的欲求と購買心理について理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、心理的ステップを理解する。	
14回	授業内容	顧客満足	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	「顧客」とは、「顧客満足」とは何か、何故大切なかが理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、顧客について理解する。	
15回	授業内容	コスト感覚とお金の動き	筆記試験を実施
	学習成果	仕事とお金の動き（売り上げ・コスト・利益）について理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、自分の仕事の結果について理解を深める。	

科目名	ブライダルフラワービジネスⅡ				担当者	山 川 奈 美					
区 分	選択		単位	授業回数	15	回	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間					
教員との連絡方法 質問等の受付方法	毎授業毎に配布する小テストにて質問等を受付ける。もしくは授業中や授業後に直接。(内容によるので必要に応じて個別にメール可、アドレス:yamakawa.na@seiwai.ac.jp)										
専門的 学習成果	①	1年生で習得した知識・技術を確認し、更に発展させることができる。									
	②	ブライダルフラワービジネス検定2級レベルの知識を身につけ、応用することができる。									
	③	フラワーデザインとブライダルの関わりを知り、プランニングまでを行うことができる。									
	④	ブライダルの装花に関する知識を用いて、他者に説明することができる。									
	⑤	商業ラッピング検定3級受検レベルの技術を持って作業を行うことができる。									
汎用的 学習成果	(1)	1年生で習得した知識を更に向上させ、ブライダルに関する装花について説明したり、実際にプランニングができる(専門的学習成果①②③④に関連)									
	(2)	ブライダルフラワービジネス検定2級レベルの知識を身につけ、フラワーデザインに関する専門的な説明をすることができる(専門的学習成果①②③④に関連)									
	(3)	商業ラッピング検定3級受検に向けて技術を高め、サービス業に使われる技術を応用することができる(専門的学習成果⑤に関連)									
授業概要	1年生での知識、技術を発展させ、ブライダルにおけるフラワーデザインの分野を具体的に学習する。グループ作業を通じて実際に会場の装花を作成し、実技試験ではブーケを作成する。会場内装花やブーケを作成することによって、イメージが作りやすくなったところで、プランニング(チャペル装飾、ブーケ、会場装飾など)を行う。単位取得者にはブライダルフラワービジネス2級の検定の受検資格付与。ブライダルフラワービジネス検定は3、2級を授業内で受検可。(2級は3級取得者のみ受検可)商業ラッピング検定は希望者多数で校内受検可。(詳細は授業で説明)机上の学習だけでなく、個々のプレゼン能力やグループ作業を通じた協働の学習にも配慮する。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準							
	専門的 学習成果	定期試験									
		レポート									
		筆記試験	40	講義内容全般、各講義内容に基づいた小テストから出題する筆記試験を第14回目の講義内で行う。(60分)							
		作品評価	40	講義内で2回練習したラウンドのブーケを、3回目で実技試験を行う。(60分、予定では第10回の講義)							
平常点	20	講義中の態度、取り組み姿勢(準備物含む)、小テストの理解度・提出状況、などにより総合的に評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)、(2)、(3)については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①、②、③、④により評価を行う。 (2)は専門的学習成果①、②、③、④により評価を行う。 (3)は専門的学習成果⑤により評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名		
	栗林 登		『全国フラワーデザイン検定テキスト』						NPO法人フラワーデザイン普及協会		
	商業ラッピング協会テキスト委員会		『ラッピングテキスト3級』						(社)商業ラッピング協会		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名		
			ブライダル関連雑誌(ゼクシィ、ヴァンサンカンウェディングなど)								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①ブライダルフラワービジネスⅠを履修した学生が受講できるもので、1年時の内容を復習して準備しておく。引き続き刈物を扱う授業なので注意が必要。花代、資材、テキスト類の費用別途あり。(1年生履修時に使用したものがあればそのまま使用 紛失したものは再度購入) 授業計画に従って、予習復習を計4時間程行うこと。予習は基本的にテキストを読むこと、講義内容はしっかり聴き、その都度行う小テストにて理解を確認する。小テストは返却するので必ず事後学習(復習)に努めること。小テストは事後学習用に配布する(次回講義にて回収)。 ②フィードバックとして全体評価をみながら小テストの解説を行う。小テストには質疑応答の場を設けるので積極的に活用し、疑問や不明なことをそのままにしないようにする。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	1年生時の復習 ラッピング(復習、続き)	小テスト(各回共に、講義内容に関して)
	学習成果	前年度の学習をまとめて復習し、今年度の学習へとつなげて知識を発展させることができる	
	予習復習の内容	前年度の小テスト見直し ラッピングテキストを読む	
2回	授業内容	ラッピング(斜め包み、リボンのかけ方、結び)	小テスト
	学習成果	基本のラッピングをきちんと行い、必要に応じたラッピングを施すことができる	
3回	予習復習の内容	テキストの読み込み ラッピングの苦手な箇所を練習	小テスト
	授業内容	ラッピング(斜め包み、リボンの復習、のしなど)	
	学習成果	のしなどの基本知識を用いて、商品を提案することができる	
4回	予習復習の内容	テキストの読み込み ラッピングの苦手な箇所を練習 チャペルの装飾(テキスト)復習	小テスト
	授業内容	チャペルの装飾(装花含む) 会場の装花、ブーケなど	
	学習成果	チャペルの装花に関連した流れで、全体を意識した内容を花の視点から論じることができる	
5回	予習復習の内容	チャペルについて(1年時)テキストの先の内容も話に合わせて取り入れるので先で読み込む	小テスト
	授業内容	ドレスの形や色、それに合わせるブーケについて	
	学習成果	どんなドレスにどんなブーケを合わせるといいのか、基本概念を念頭にお客様に提案できる	
6回	予習復習の内容	テキストはもちろん、雑誌などでドレスのコーディネートを見つけてくる	小テスト
	授業内容	(実技)キャンドルとケーキの装花を作成する(グループ作業)	
	学習成果	実際の会場装花を順番に作成することにより、大きさや配置などが予測でき、コーディネートに応用することができる	
7回	予習復習の内容	会場全体のテキスト部分をしっかりと読み込んでくる	小テスト
	授業内容	(実技)メインテーブルと卓上の装花を作成する(グループ作業)	
	学習成果	第6回と併せて、更にコーディネートへと応用できる	
8回	予習復習の内容	会場全体のテキスト部分をしっかりと読み込んでくる	小テスト
	授業内容	(実技)ラウンドブーケの作成(1回目)	
	学習成果	最もポピュラーなブーケを作成することができる	
9回	予習復習の内容	家に持ち帰り、練習する	小テスト
	授業内容	(実技)ラウンドブーケの作成(2回目)	
	学習成果	実技試験のために復習、再確認、質問などより完成度をあげることができる	
10回	予習復習の内容	家に持ち帰り、練習する ブーケとドレスのマッチングをシミュレーションする	小テスト
	授業内容	(実技)ラウンドブーケの作成 実技試験	
	学習成果	時間内に作品を仕上げることができる	
11回	予習復習の内容	家に持ち帰り、練習する ブーケとドレスのマッチングをシミュレーションする	小テスト
	授業内容	(実技)季節を感じるアレンジメントとしてクリスマスのアレンジメントを作成	
	学習成果	フラワーデザインにおいても重要なクリスマスをテーマに商業的な視点で議論できる	
12回	予習復習の内容	クリスマスだけでなく、季節を取り入れた場合を考えてみる 会場コーディネートのシミュレーション	第13回の講義までに、花に着目した結婚式のコーディネートレポートにまとめて提出 詳細は講義内で説明
	授業内容	実際の結婚式を想定して、プランニングする(レポート提出)	
	学習成果	自分の理想の結婚式を花目線で考えることにより、お客様へ対し提案することができる	
13回	予習復習の内容	雑誌などを利用し、自分の理想を形にする 休み明けに試験前の質問ができるよう1年時も含めて復習	小テスト
	授業内容	(実技)コサージュの作成	
	学習成果	ワイヤリングの技術を知り、どのような仕組みで作られているのかを説明することができる	
14回	予習復習の内容	フラワーデザインの歴史を復習 コサージュとブトニアの違い 学科試験のための復習	学科試験(小テストの内容をと講義内容全般から)
	授業内容	学科試験(60分)	
	学習成果	今までの学習内容を総括し、基礎からブライダルまで説明することができる	
15回	予習復習の内容	1年生の範囲も含めて小テストを中心に全てを復習する	2つの試験の成績次第でレポート提出あり(内容は必要に応じて対応するため未定)
	授業内容	検定試験(希望者のみ)、学科試験・実技試験 再試験	
	学習成果	ブライダルフラワービジネスⅡ又は3級の資格を取得できる 1回目の試験で不合格者のみ学科、実技共に再試験を受けることができる	
予習復習の内容	学科試験の結果を発表するので全員出席 不合格の場合に備え、復習しておく		

科目名	スポーツ社会学				担当者	高 間 章						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	望ましいスポーツのあり方について説明できる。										
	②	現代スポーツの諸問題について説明できる。										
	③	スポーツ指導や運営に興味を持ち、意欲的に取り組むことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたスポーツ社会学に関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。										
	(2)	スポーツ社会学を学ぶことでスポーツをめぐる現状と今後の課題を思考し、自身とこれからのスポーツの関わりに活かすことができる（専門的学習成果①②③④関連）。										
	(3)	スポーツ社会学に関わる専門的知識を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果①②③④に関連）。										
授業概要	スポーツと社会との関係から、スポーツの意義、役割を解説する。スポーツの多様性、スポーツ振興のあり方について解説する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		筆記試験	60	第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
		小テスト	30	授業で実施する。60%以上の得点を合格点とする。								
	平常点	10	授業への意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名			出版社名							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名			出版社名							
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』			日本スポーツ協会							
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』			日本スポーツ協会							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	スポーツの価値について	1回目から5回目の内容について小テストを実施する	
	学習成果	スポーツ社会学の概要について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。		
2回	授業内容	社会におけるスポーツの価値について		
	学習成果	スポーツの概念とスポーツの歴史の発展について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
3回	授業内容	文化としてのスポーツ		
	学習成果	スポーツの文化的特性、スポーツ文化の内容、スポーツマンシップとフェアプレーについて理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
4回	授業内容	スポーツ宣言日本とオリンピックにおけるスポーツの意義と価値		
	学習成果	現代社会とスポーツ、スポーツの産業化、地域生活とスポーツについて理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
5回	授業内容	スポーツの価値を守るスポーツ権		
	学習成果	グローバルゼーションと日本のスポーツ、諸外国と日本のスポーツプロモーションについて理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
6回	授業内容	スポーツの自治-ガバナンスとコンプライアンス 暴力・ハラスメントの根絶	6回目から8回目の内容について小テストを実施する	
	学習成果	現代の諸問題とジュニア期のスポーツと運動発達について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
7回	授業内容	スポーツのインテグリティ		
	学習成果	望ましいジュニア期のスポーツ指導について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
8回	授業内容	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任		
	学習成果	目指すジュニアスポーツ指導員像について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
9回	授業内容	スポーツ仲裁、スポーツ倫理		9回目から14回目の内容について小テストを実施する
	学習成果	運動と老化、運動プログラムについて理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
10回	授業内容	性的マイノリティ、多様な文化背景とスポーツ		
	学習成果	体格と身体組成など女性の体力の特徴について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
11回	授業内容	女性とスポーツ		
	学習成果	妊娠・出産・育児とスポーツなど、女性のライフスタイルとスポーツ関係について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
12回	授業内容	スポーツ組織のマネジメント		
	学習成果	スポーツ行動における性差など、女性の心理的特徴について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
13回	授業内容	スポーツ組織の特性		
	学習成果	女性の特徴に応じたスポーツプログラムについて理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
14回	授業内容	障害者とスポーツ		
	学習成果	障害者のスポーツの現状と課題について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
15回	授業内容	スポーツをめぐる現状と今後の課題	1回～14回目の内容について筆記試験を実施する	
	学習成果	これまでの学習内容について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	これまでの授業内容全体について整理・確認しておくこと。		

科目名	コーチング実習Ⅲ（健康スポーツ）				担当者	シバ タニ ヌノ コノ タカ マ アキヲ 渋谷 祐子・高間 章						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	安全で効果的な運動プログラムを作成する。										
	②	健康スポーツ指導の理論、指導者の心構えを習得する。										
	③	健康スポーツ指導に必要なエアロビックエクササイズ等の指導法を習得する。										
	④	履修者や地域の方への実技指導を通してコミュニケーション能力を向上させる。										
	⑤	4泳法と補助法を習得し、実践できる。										
	⑥	水中ウォーキング、水中レジスタンストレーニングなどの水中運動を体験し、そのプログラミング法を習得する。										
	⑦	水の特性と水泳・水中運動の効果を理解する。										
汎用的 学習成果	(1)	健康スポーツに関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦に関連）。										
	(2)	グループで協力して健康スポーツ指導を経験することから、コミュニケーション能力を高めることができる（専門的学習成果③④に関連）。										
	(3)	健康スポーツ指導の専門的知識、技術を習得し、指導する経験から、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果①②③④⑤⑥⑦に関連）。										
授業概要	健康体力づくりの運動であるフィットネスエクササイズについて理解し、安全で効果的な運動プログラムを構成する。水泳・水中運動、エアロビックダンスプログラム、筋力トレーニング、ストレッチングの指導法、指導上の理論、安全管理、指導者としての心構えなどを習得する。学んだことを活かして授業で高齢者に健康づくり運動の指導を実践し、指導力を身につける。さらに健康運動実践指導者、GFIの資格を取得できる実技指導能力を養成する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		平常点	50	取組・意欲・態度により評価する								
		実技試験	25	指導法の試験や、地域の方へのフィットネス指導の内容から評価する								
	レポート	25	授業の感想カードの内容により評価する									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』						日本スポーツ協会				
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』						日本スポーツ協会				
	健康・体力づくり事業 財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』						南江堂				
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』						日本フィットネス協会				
	日本フィットネス協会	『ADBI・ADIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論』						日本フィットネス協会				
	日本フィットネス協会	『SEBI・SEIのためのストレッチングエクササイズ指導理論』						日本フィットネス協会				
日本フィットネス協会	『REBI・REIのためのレジスタンスエクササイズ指導理論』						日本フィットネス協会					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。②毎回の授業で記入する感想カードの提出後は担当教員が確認して、フィードバックを行う。											

		授業計画	学習成果の評価			授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要と進め方の説明、フィットネス指導資格の理解	授業内容から学んだことや気づいたことを感想シートに記入し、提出する。	16回	授業内容	授業の概要と進め方の説明、資格試験の練習計画	授業内容から学んだことや気づいたことを感想シートに記入し、提出する。
	学習成果	授業の概要と進め方について理解し、指導資格について説明できる。			学習成果	後期の授業の概要と進め方について理解し、指導資格について説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
2回	授業内容	水中レジスタンストレーニングの理論 健康運動実践指導者試験		17回	授業内容	介護予防体操指導の実践方法について	
	学習成果	水中レジスタンストレーニングの試験内容を理解し、適切な指導内容を理解する。			学習成果	介護予防体操指導の指導法を習得する。	
3回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		
	授業内容	水中レジスタンストレーニングの実践 健康運動実践指導者試験		18回	授業内容	介護予防体操指導の指導練習	
4回	学習成果	水中レジスタンストレーニングの各種目の動作の指導方法を理解し、習得する。		学習成果	介護予防体操指導を練習し、指導法を習得する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		
5回	授業内容	水中ウォーキングの理論 健康運動実践指導者試験		19回	授業内容	介護予防体操指導実践	
	学習成果	水中ウォーキングの試験内容を理解し、適切な指導内容を理解する。			学習成果	地域向けの健康教室を開催し、介護予防体操指導の実践を行う。	
6回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		予習復習の内容	健康教室の準備を行い、指導を振り返り、反省点をまとめる。		
	授業内容	水中ウォーキングの実践 健康運動実践指導者試験		20回	授業内容	レジスタンストレーニングの理論 健康運動実践指導者試験	
7回	学習成果	水中ウォーキングの指導方法を理解し、習得する。		学習成果	レジスタンストレーニングの試験内容を理解し、適切な指導内容を理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		
8回	授業内容	水中エアロビクス理論と実際		21回	授業内容	レジスタンストレーニングの実践 健康運動実践指導者試験	
	学習成果	水中エアロビクスの基本動作や効果について説明できる。			学習成果	レジスタンストレーニングの各種目の動作の指導方法を理解し、習得する。	
9回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、水中エアロビクスの理解を深める。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		
	授業内容	水泳の浮き身、呼吸、キックの基本		22回	授業内容	エアロビックスの理論 健康運動実践指導者試験	
10回	学習成果	浮き身や呼吸方法、キックの基本動作について説明できる。		学習成果	エアロビックスの試験内容を理解し、適切な指導内容を理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各種技術を習得する。		予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		
11回	授業内容	クロール 基本的な練習方法		23回	授業内容	エアロビックスの実践 健康運動実践指導者試験	
	学習成果	クロールの特性や練習方法を説明できる。			学習成果	エアロビックスの指導方法を理解し、習得する。	
	予習復習の内容	クロールの泳法について理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
12回	授業内容	背泳ぎ 基本的な練習方法		24回	授業内容	ファシリテーションスキル	
	学習成果	背泳ぎの特性や練習方法を説明できる。			学習成果	グループに対してファシリテーションスキルを実践し、適切な指導法を習得する。	
	予習復習の内容	背泳ぎの泳法について理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
13回	授業内容	平泳ぎ 基本的な練習方法		25回	授業内容	指導者のセルフマネジメント	
	学習成果	平泳ぎの特性や練習方法を説明できる。			学習成果	指導者に必要なセルフマネジメントを理解し説明できる。	
	予習復習の内容	平泳ぎの泳法について理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、セルフマネジメント法を習得する。	
14回	授業内容	バタフライ 基本的な練習方法		26回	授業内容	エアロビックスのプログラミング	
	学習成果	バタフライの特性や練習方法を説明できる。			学習成果	メインエクササイズのアップ、キープ、ダウンの強度調節を理解し、プログラミングを習得する。	
	予習復習の内容	バタフライの泳法について理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
15回	授業内容	安全管理・着衣泳・実技試験		27回	授業内容	エアロビックスのプログラミングの実践 プログラム作成	
	学習成果	クロールの特性や練習方法を説明できる。			学習成果	運動強度を上げる分間のプログラムを作成する。	
	予習復習の内容	クロールの泳法について理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
16回	授業内容	介護予防体操指導の実践方法について ストレッチング運動とレジスタンス運動		28回	授業内容	エアロビックス指導の実践 キューイング指導	
	学習成果	介護予防体操指導の指導法を習得する。			学習成果	見本となる適切な動作を身につけ、作成したプログラムを多様なキューイングを使用して指導する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
17回	授業内容	介護予防体操指導の練習 ストレッチング運動とレジスタンス運動		29回	授業内容	エアロビックス指導の実践 指導の循環	
	学習成果	介護予防体操指導を練習し、指導法を習得する。			学習成果	参加者を観察し、指導の循環を用いて、適切な指導法を習得する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。	
18回	授業内容	介護予防体操指導の実践 ストレッチング運動とレジスタンス運動		30回	授業内容	エアロビックス指導の評価	
	学習成果	地域向けの健康教室を開催し、介護予防体操指導の実践を行う。			学習成果	エアロビックス指導を振り返り、修正して再指導を行い、適切な指導法を習得する。	
	予習復習の内容	健康教室の準備を行い、指導を振り返り、反省点をまとめる。			予習復習の内容	これまでの授業内容全体について整理・確認しておくこと。	

科目名	コーチング実習Ⅳ（ダンス）				担当者	高 岡 章 ・ 及 川 佳 澄						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間	形態					
教員との連絡方法 質問等の受付方法	takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前・後で教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	ダンス運動の特性を理解し、ダンスの基礎的な動作を習得する。										
	②	ダンス指導を通してコミュニケーション能力を高める。										
	③	ダンス指導に必要な知識、技術を習得し、ダンスを指導できる。										
	④	ダンスの振付を習得し、グループで協力して学内で発表する。										
汎用的 学習成果	(1)	ダンスの学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。										
	(2)	グループで協力してダンス創作し、指導する経験から、コミュニケーション能力を高めることができる（専門的学習成果②③に関連）。										
	(3)	ダンス指導の専門的知識、技術を習得し、指導する経験から地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果②③に関連）。										
授業概要	この授業では現代的なリズムのダンスを中心に、「踊る」「創る」「見る」活動を体験し、楽しみながらダンスの基礎的能力の習得をはかることを目的とする。対象やテーマから表したいイメージをとらえ、作品を創作したりして踊ることができる。友達や子ども達の良い動きのポイントを理解して、表現や動きを評価することができると共に、互いの違いやよさを認めることができる。授業では地域の子ども達にダンスを指導することを体験し、子ども達と地域や学内のイベントで発表を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	4回実施し、理解の程度を評価する。								
		実技試験	40	友達や子ども達への指導実践から評価する。								
	平常点	20	授業への意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②、③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②、③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』				日本スポーツ協会						
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト』				日本スポーツ協会						
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』				南江堂						
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』				日本フィットネス協会						
	日本フィットネス協会	『GFIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論』				日本フィットネス協会						
	日本フィットネス協会	『SEBI・SEIのためのストレッチングエクササイズ指導理論』				日本フィットネス協会						
日本フィットネス協会	『REBI・REIのためのレジスタンスエクササイズ指導理論』				日本フィットネス協会							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②レポートに対するフィードバックは実施後に評価を示し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要と進め方の説明	ダンス指導の指導案の作成、指導の反省カードを担当教員に提出する。
	学習成果	ダンス指導を中心に授業展開することを理解し、進め方や分担といった指導計画を作成する。	
予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。		
2回	授業内容	ダンス指導 1・2フレーズ	
	学習成果	地域の児童に対してダンス指導を行う。	
予習復習の内容	振付を習得し、ダンス指導に備える。学習内容を振り返り、指導の反省をまとめる。		
3回	授業内容	ダンス指導 3・4フレーズ	
	学習成果	地域の児童に対してダンス指導を行う。	
予習復習の内容	振付を習得し、ダンス指導に備える。学習内容を振り返り、指導の反省をまとめる。		
4回	授業内容	ダンス指導 5・6フレーズ	
	学習成果	地域の児童に対してダンス指導を行う。	
予習復習の内容	振付を習得し、ダンス指導に備える。学習内容を振り返り、指導の反省をまとめる。		
5回	授業内容	ダンス指導 リハーサル指導	
	学習成果	地域イベントのリハーサル指導を行う。	
予習復習の内容	振付を習得し、ダンス指導に備える。学習内容を振り返り、指導の反省をまとめる。		
6回	授業内容	地域イベントでの発表	
	学習成果	児童と協力して地域イベントでダンス発表を行う。	
予習復習の内容	ダンス指導の反省をまとめる。振付を習得し、ダンス指導に備える。		
7回	授業内容	ダンス発表会の反省 学内イベントに向けての練習 1・2フレーズ メンタリング	
	学習成果	発表会を振り返り、学内イベントに向けての発表練習を行う。	
予習復習の内容	発表会の感想をまとめる。ダンス練習を行い、振付を習得する。		
8回	授業内容	学内イベントに向けての練習 3・4フレーズ 時代をリードするコーチング	ダンス発表について、代表者、衣装担当、練習指導担当者、リハーサル担当者に役割を分担し、役割毎に計画書を作成し、担当教員に提出する。
	学習成果	学内発表会に向けて担当教員が振付したダンスを練習し、習得する。	
予習復習の内容	ダンス練習を行い、振付を習得する。		
9回	授業内容	学内イベントに向けての練習 5・6フレーズ 時代をリードするコーチング	
	学習成果	学内発表会に向けて担当教員が振付したダンスを練習し、習得する。	
予習復習の内容	ダンス練習を行い、振付を習得する。		
10回	授業内容	学内ダンス発表会に向けての児童練習指導	
	学習成果	学内発表会での共同発表を希望する児童に対してダンス指導を行う。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導の反省をまとめる。		
11回	授業内容	学内イベントに向けての最終練習 チームビルディング	
	学習成果	学内発表会に向けて担当教員が振付したダンスを練習し、習得する。	
予習復習の内容	ダンス練習を行い、振付を習得する。発表会の準備を行う。		
12回	授業内容	学内発表会 リハーサル	
	学習成果	学内で児童と一緒にダンス発表を行う。	
予習復習の内容	発表会の感想をまとめる。ダンス練習を行い、振付を習得する。		
13回	授業内容	学内発表会	
	学習成果	学内で児童と一緒にダンス発表を行う。	
予習復習の内容	発表会の感想をまとめる。ダンス練習を行い、振付を習得する。		
14回	授業内容	学内発表会の振り返り	ダンス指導を振り返り、最終レポートを作成し、提出する。
	学習成果	授業内でこれまでの指導を振り返り、反省点や改善点をまとめる。	
予習復習の内容	これまでの授業内容全体について整理・確認しておくこと。		
15回	授業内容	学内発表会の振り返り	
	学習成果	授業内でこれまでの指導を振り返り、反省点や改善点をまとめる。	
予習復習の内容	これまでの授業内容全体について整理・確認しておくこと。		

科目名	スポーツ資格検定対策講座				担当者	高 間 章						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期集中
教員との連絡方法 質問等の受付方法	takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	これまでに学んできた知識を活用し、スポーツに関わる必要な問題に取り組むことができる。										
	②	スポーツ資格検定において活用できる知識を習得することができる。										
	③	様々な分野の問題に取り組むことで、知識技術を向上させることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	具体的な問題演習を通して、進路に向けた目標を明確にすることで、社会的・職業的自立に向けての意識が向上する。(専門的学習成果①②③に関連)。										
	(2)	ジュニア育成や生涯の健康づくりに必要とされる知識の理解を深めることができる。(専門的学習成果③に関連)。										
授業概要	当科目はスポーツ資格取得に必要な知識、用語の理解を習得することが目的のため、生涯スポーツ、健康スポーツユニットの授業を履修した者、またはスポーツ理論を理解する意欲が高いものが受講対象となる。スポーツ系の資格や検定で必要とされる知識を健康運動実践指導者の資格試験内容に沿って解説し、受講者の希望する資格と関連して展開する。授業内容は各章の説明と具体的な問題演習、解答解説を行う。出題内容の理解を通して効果的な試験対策を進める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	65	毎回の授業の最初に実施し、各回5%程度を配点する。前回の授業内容についての理解の程度を評価する。								
		まとめテスト	35	第15回目に筆記試験を行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』				日本スポーツ協会						
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』				日本スポーツ協会						
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』				南江堂						
日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』				日本フィットネス協会							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②レポートに対するフィードバックは実施後に評価を示し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション、スポーツ系資格試験で必要とされる一般知識について	
	学習成果	講義の進め方を踏まえて、スポーツ系資格試験における一般知識の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、内容を理解する。授業内容の理解を深める。	
	授業内容	健康づくり施策概論	
2回	学習成果	健康づくり施策概論の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
3回	授業内容	運動生理学 運動の発現と筋収縮の仕組みの理解	
	学習成果	運動生理学の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	運動生理学 呼吸循環系の機能とトレーニングによる適応	
4回	学習成果	運動生理学の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
5回	授業内容	運動生理学 発育発達と体力・基本的動作スキル	
	学習成果	運動生理学の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	機能的解剖学	
6回	学習成果	機能的解剖学の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
7回	授業内容	栄養摂取と運動	
	学習成果	栄養摂取と運動の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	体力測定と評価	
8回	学習成果	体力測定と評価の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
9回	授業内容	健康づくりと運動プログラム	
	学習成果	健康づくりと運動プログラムの分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	運動指導の心理学的基礎	
10回	学習成果	運動指導の心理学的基礎の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
11回	授業内容	健康づくり運動の実際 ウォームアップとクールダウン、ジョギング・ウォーキング	
	学習成果	健康づくり運動の実際の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	健康づくり運動の実際 ストレッチング、レジスタンスエクササイズ	
12回	学習成果	健康づくり運動の実際の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
13回	授業内容	健康づくり運動の実際 エアロビックダンス、水泳・水中運動	
	学習成果	健康づくり運動の実際の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	模擬問題と解説	
14回	学習成果	模擬問題の内容を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
15回	授業内容	まとめテスト・解説	
	学習成果	まとめテストの問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	

科目名	トレーニング実技				担当者	高 間 章						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	takama.akira@seiwa.ac.jp オフィサーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前で教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	発達、成熟の過程での身体活動・運動の重要性を説明できる。										
	②	メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームといった健康問題に対して身体活動・運動の有効性を説明できる。										
	③	アيسブレイクやコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。										
	④	見学を通して健康づくりの現場の理解を深め、施設の概要や運動の内容を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた健康づくりの学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。										
	(2)	健康づくりに関わる団体、企業の理解を深めて、自身の進路活動の問題解決に活かすことができる（専門的学習成果④に関連）。										
	(3)	健康づくりの指導法を理解し、専門的知識や技能を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果①②③④に関連）。										
授業概要	人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活、高齢者の健康について講義を行う。また健康支援・介護予防の指導に必要な知識と指導技術、特にアيسブレイクやコミュニケーションスキルについて、講義、実技、実習の学習形態を通して教授する。学内の健康づくり教室やフィットネスクラブ、アイサービセンターの見学体験を通じて健康づくりの現場の理解を深めて、現代社会の健康問題の考察や自身の将来の職業選択に役立てる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	4回実施し、理解の程度を評価する。								
		実習評価	40	実習先の指導者からの評価シートをもとに評価を行う。								
	平常点	20	授業への意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』				日本スポーツ協会						
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』				日本スポーツ協会						
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』				南江堂						
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』				日本フィットネス協会						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②レポートに対するフィードバックは実施後に評価を示し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価											
1回	授業内容	授業計画とトレーニングの運営について											レポート課題「アيسブレイク、コミュニケーションゲームの指導案」第5回で配布、第7回で回収	
	学習成果	適切なトレーニング機器や環境、リスクマネジメントを理解し、実践できる。												
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、内容を理解する。授業内容の理解を深める。												
2回	授業内容	上肢の機能解剖とトレーニング												
	学習成果	上肢の機能解剖（主に骨・関節）を理解し、トレーニングを実践できる。												
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、上肢の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。												
3回	授業内容	上肢の機能解剖とトレーニング												
	学習成果	上肢の機能解剖（主に筋肉・神経）を理解し、トレーニングを実践できる。												
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、上肢の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。												
4回	授業内容	脊柱と胸郭の機能解剖とトレーニング												
	学習成果	脊柱と胸郭の機能解剖（主に骨・関節）を理解し、トレーニングを実践できる。												
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、脊柱と胸郭の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。												
5回	授業内容	脊柱と胸郭の機能解剖とトレーニング												
	学習成果	脊柱と胸郭の機能解剖（主に筋肉・神経）を理解し、トレーニングを実践できる。												
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、脊柱と胸郭の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。												
6回	授業内容	下肢の機能解剖とトレーニング												
	学習成果	下肢の機能解剖（主に骨・関節）を理解し、トレーニングを実践できる。												
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、下肢の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。												
7回	授業内容	下肢の機能解剖とトレーニング											レポート「実習報告書」第6回で配布、第9回で提出	
	学習成果	下肢の機能解剖（主に筋肉・神経）を理解し、トレーニングを実践できる。												
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、下肢の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。												
8回	授業内容	バイオメカニクスの基礎理論とスポーツ動作												
	学習成果	バイオメカニクスの基礎理論を理解し、身体活動・トレーニングに応用、実践できる。												
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、バイオメカニクスの基礎理論の理解を深める。												
9回	授業内容	スポーツ動作とトレーニング動作のバイオメカニクス												
	学習成果	トレーニング動作のバイオメカニクス理論を理解し、実践できる。												
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、トレーニング動作のバイオメカニクス理論の理解を深める。												
10回	授業内容	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの実際												レポート「実習報告書」第9回で配布、第12回で提出
	学習成果	ウォーミングアップとクールダウンの目的と方法を正しく理解し実践できる。												
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ウォーミングアップとクールダウンの理解を深める。												
11回	授業内容	筋力トレーニングの実際 プログラミングとコーチング												
	学習成果	マシン、フリーウエイト等を利用した筋力アップのためのトレーニングを理解し、実践できる。												
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、筋力を高める方法の理解を深める。												
12回	授業内容	パワー向上トレーニングの実際 プログラミングとコーチング												
	学習成果	パワー向上のためのトレーニングを理解し、実践できる。												
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、パワーを高める方法の理解を深める。												
13回	授業内容	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの実際 プログラミングとコーチング											レポート「実習報告書」第12回で配布、第15回で提出	
	学習成果	フィットネスクラブを見学し、運動プログラムやレッスン内容を理解し説明できる。												
	予習復習の内容	事前に実習の適切な準備を行い、学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。												
14回	授業内容	スピード向上トレーニングの実際 プログラミングとコーチング												
	学習成果	実習での学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。												
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、次回の実習の準備を行う。												
15回	授業内容	指導実践												
	学習成果	実習を振り返り、実習レポートを発表できる。												
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ジュニアスポーツについて理解を深める。												

科目名	運動障害と救急法				担当者	佐々木 秀 将 ・ 橋 本 実						
区 分	選択	3	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	運動に関連する外傷、障害について理解し、説明できる。										
	②	発育発達段階においての外傷、障害について理解し、説明できる。										
	③	各外傷、障害についての応急処置を学び、実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた運動障害と救急法学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する(専門的学習成果①②③に関連)。										
	(2)	運動障害の概要を学ぶことで適切な生活習慣、体力トレーニングの方法を思考し、自身の生活の問題解決に活かすことができる(専門的学習成果①②③関連)。										
	(3)	運動障害と救急法に関する運動プログラムの作成、指導に関する専門的知識を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる(専門的な学習成果①②③に関連)。										
授業概要	運動は、長期的には生活習慣病を予防する大きな効果がある反面、無理をすると重大事態に至る危険性がある。運動に関わる代表的な外傷、障害、疾患の対処法を学び、固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDの使用法を学び、実践できるようになる。具体的には、傷害評価、意識障害、頭頸部外傷、熱中症、発熱、けいれん、胸痛、腹痛などの基本的な理解や対処法について解説し、外傷の応急処置、テーピング、および心肺蘇生法を実際に習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		筆記試験	50	運動障害と救急法の基本的な理解について学期の途中で筆記試験を行い評価する。								
		レポート	30	9回実施し、内容を理解できているかを観点に評価を行う。								
	平常点	20	授業への意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』						日本スポーツ協会				
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』						日本スポーツ協会				
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』						南江堂				
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』						日本フィットネス協会				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 理論と実技を行うので、各自A4サイズのファイルと運動の出来る服装・シューズを各自準備すること。 ②レポートに対するフィードバックは実施後にコメントを記入し返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	スポーツと健康 運動中止の判定方法、メディカルチェックについて	
	学習成果	運動中止の判定方法を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
3・4回	授業内容	内科的な急性障害 突然死、熱中症について	
	学習成果	熱中症に対する基本的な応急処置を学び、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
5・6回	授業内容	過換気症候群、運動誘発性喘息、運動時側腹部痛、運動誘発アナフィラキシーについて	
	学習成果	過換気症候群に対する基本的な応急処置を学び、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
7・8回	授業内容	内科的な慢性障害 貧血、オーバートレーニング症候群	
	学習成果	内科的な慢性障害である貧血、オーバートレーニング症候群の予防、改善法を学び、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
9・10回	授業内容	救急蘇生法	
	学習成果	成人、子どもの救急蘇生法の内容を学び、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
11・12回	授業内容	女性アスリートの障害、スポーツによる精神障害 ジュニア期のスポーツ医学	
	学習成果	女性アスリートの障害、スポーツによる精神障害の内容を学び、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
13・14回	授業内容	創傷処置法、止血法、ファーストエイド、搬送法	
	学習成果	創傷に対する基本的な応急処置を学び、止血法を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
15・16回	授業内容	整形外科的障害と外科的救急処置 RICE処置、固定法	
	学習成果	RICE処置、三角巾、包帯を使用した固定法を学び、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
17・18回	授業内容	頭頸部傷害、肩関節周辺のスポーツ障害とテーピング	
	学習成果	頭頸部傷害の内容や基本的な応急処置を学び、脳震盪チェックを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
19・20回	授業内容	手関節周辺、肘関節周辺のスポーツ障害とテーピング	
	学習成果	上肢のスポーツ障害の内容を理解し、予防、改善のためのテーピングを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
21・22回	授業内容	体幹部、腰部周辺のスポーツ障害とテーピング	
	学習成果	上肢のスポーツ障害の内容を理解し、予防、改善のためのテーピングを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
23・24回	授業内容	膝関節周辺、股関節周辺のスポーツ障害とテーピング	
	学習成果	下肢のスポーツ障害の内容を理解し、予防、改善のためのテーピングを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
25・26回	授業内容	足関節周辺のスポーツ障害とテーピング	
	学習成果	下肢のスポーツ障害の内容を理解し、予防、改善のためのテーピングを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
27・28回	授業内容	アンチ・ドーピング	
	学習成果	アンチ・ドーピングについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
29・30回	授業内容	まとめ 実技試験・筆記試験	
	学習成果	テーピング法を習得し、運動障害と救急法の重点的な内容を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	

科目名	運動処方演習				担当者	高 岡 章 ・ 大 内 昭 浩						
区 分	選択	3	単位	授業回数	30	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	60							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前夜で教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	有酸素性および無酸素性体力を表す指標とその測定法を理解させ、それらのフィールド・テストについての測定ができる。										
	②	体脂肪量の測定原理および測定方法（皮脂厚法、生体電気インピーダンス法など）を理解し、測定ができる。										
	③	新体力テストの各項目と体力要素との関連を理解し、実際に測定・評価ができる。										
	④	体力テストの結果評価方法（基本的な統計量（統計値）、体力プロフィールの作成方法など）を理解し、健康・体力づくりやトレーニングに活用できる。										
	⑤	健康増進のための運動効果と運動不足が健康に与える影響を理解し、説明できる。										
	⑥	トレーニングの原則と効果について各原則の重要性を説明し、特にオーバーロードの原則に則ったプログラムについて理解し、説明できる。										
	⑦	健康づくりのための運動プログラム作成上のポイント（身体活動ピラミッド）について説明し、運動強度、時間、頻度の観点から理解し、説明できる。										
	⑧	有酸素性作業能力、筋力、平衡性、柔軟性の向上が日常生活にどのような影響を与えるのかを理解し、説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた健康づくりと運動プログラムに関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦⑧に関連）。										
	(2)	身体の仕組みを学ぶことで適切な生活習慣、体力トレーニングの方法を思考し、自身の生活の問題解決に活かすことができる（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦⑧に関連）。										
	(3)	健康づくりに関する運動プログラムの作成、指導に関する専門的知識を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦⑧に関連）。										
授業概要	ジュニアスポーツ指導で基礎体力や競技能力を向上させたり、健康づくりのための運動指導を効果的に行ったりするためには指導対象者の体力や運動能力を十分に理解した上で指導を行う必要がある。本科目では、体力や運動能力の特徴、体力測定の基本的な考え方について学ぶとともに、体力や運動能力の測定方法の実際について学習する。新体力テストの正しい実施方法を習得し、得られた測定結果を分析、評価し、運動・スポーツ指導での活用の仕方について習得する。さらに個々の健康や体力の維持・向上を目的とした運動プログラムを作成するに当たり、様々な学問的分野から身体の機能を考慮した上で実際の動きを観察し、その時に最善のアドバイスを運動を提供できる知識を身につけるものとする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	内容を理解できているかを観点に評価を行う。								
		平常点	30	授業への意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑧で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～⑧で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～⑧で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	著者・編集者名	書名					出版社名					
参考書 参考文献	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』					日本スポーツ協会					
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』					日本スポーツ協会					
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』					南江堂					
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』					日本フィットネス協会					
	日本フィットネス協会	『ADBI・ADIのためのエアロビクスエクササイズ指導理論』					日本フィットネス協会					
	日本フィットネス協会	『SEBI・SEIのためのストレッチングエクササイズ指導理論』					日本フィットネス協会					
	日本フィットネス協会	『REBI・REIのためのレジスタンスエクササイズ指導理論』					日本フィットネス協会					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②小テスト及びレポートに対するフィードバックは実施後に正解を示し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価	
1・2回	授業内容	体脂肪率の測定方法 形態計測	レポート「体力プロフィールの作成」 2回目に配布、12回目に回収	
	学習成果	体脂肪率の測定方法、形態計測について理解し、説明できる。		
予習復習の内容	体脂肪率の測定方法について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			
3・4回	授業内容	新体力テスト 成人を対象とした測定		
3・4回	学習成果	成人を対象とした新体力テストの測定方法について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	新体力テストについて調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。		
5・6回	授業内容	新体力テスト 高齢者を対象とした測定		
5・6回	学習成果	高齢者を対象とした新体力テストの測定方法について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	新体力テストについて調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。		
7・8回	授業内容	新体力テストの総合評価 基本的な統計法 トレーニングプログラムの作成		
7・8回	学習成果	体力テストの基本的な統計法について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
9・10回	授業内容	無酸素性作業能力を表す指標と測定法、幼児、高齢者を対象とした各種体力測定		
9・10回	学習成果	無酸素性作業能力の測定や幼児、高齢者を対象とした各種体力測定について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	高齢者体力テストについて調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。		
11・12回	授業内容	有酸素性作業能力の測定（運動負荷試験による最大酸素摂取量の測定）		
11・12回	学習成果	運動負荷試験による最大酸素摂取量の測定法を理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	最大酸素摂取量の測定について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。		
13・14回	授業内容	健康づくりのための運動指針2006、2013 エネルギー消費量の測定原理と測定方法		レポート「最大酸素摂取量の推定と評価」 13回目に配布、16回目に回収
学習成果	エネルギー消費量の測定方法と共に健康づくりのための運動指針2006・2013について理解し説明できる。			
予習復習の内容	健康づくりのための運動指針2006、2013について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			
15・16回	授業内容	健康づくりのためのトレーニングの原則 筋力・瞬発力の測定、評価		
15・16回	学習成果	筋力・瞬発力の測定方法や健康づくりのためのトレーニングの原則について理解し説明できる。		
	予習復習の内容	健康づくりのためのトレーニングの原則について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。		
17・18回	授業内容	運動プログラム作成上のポイント 健康づくり運動の強度測定		
17・18回	学習成果	運動プログラム作成上のポイントについて理解し、説明できる。		レポート「健康づくり運動の強度測定」 17回目に配布、26回目に回収
	予習復習の内容	運動プログラム作成上のポイントについて調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。		
19・20回	授業内容	健康づくりと運動プログラム作成の基礎 血圧・肺活量の測定		
19・20回	学習成果	健康づくりと運動プログラム作成の基礎について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	健康づくりと運動プログラム作成の基礎について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。		
21・22回	授業内容	ウォーミングアップとクーリングダウン 全身反応時間の測定		
21・22回	学習成果	ウォーミングアップとクーリングダウンについて理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	ウォーミングアップとクーリングダウンについて調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。		
23・24回	授業内容	有酸素性運動とその効果		
23・24回	学習成果	有酸素運動とその効果について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	有酸素運動とその効果について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。		
25・26回	授業内容	レジスタンス運動とその効果		
25・26回	学習成果	レジスタンス運動とその効果について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	レジスタンス運動とその効果について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。		
27・28回	授業内容	ストレッチングの効果と柔軟性の測定、評価と改善方法		
27・28回	学習成果	柔軟性の測定、評価と改善方法について理解し、説明できる。	レポート「柔軟性、アライメントの測定評価とトレーニング方法」 27回目に配布、30回目に回収	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。		
29・30回	授業内容	年齢区分に適したトレーニングとコーチング トレーニングの効果		
29・30回	学習成果	年齢区分に適したトレーニング内容とその効果について説明できる。		
	予習復習の内容	有酸素運動とその効果について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。		

科目名	食文化論				担当者	梅 津 裕 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	umetsu.yuko@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	食料の確保や世界の3大食法について理解し、その概要を説明できる。										
	②	人の移動と食の創造について理解し、その概要を説明できる。										
	③	各国料理の歴史と特長及び料理様式と献立について理解し、その概要を説明できる。										
	④	食文化についてのレポートを作成し、その結果をまとめて発表できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた食文化に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	食文化についてのレポート作成及び発表を通して、自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	フードコーディネーター資格取得のために必要な食文化に関する知識の習得を目的とする。食文化は、世界それぞれの地域、民族、風土に根ざした生活文化である。食材、調理法、調理器具、食事作法など歴史的そして地理的な広がりをもって現代にまで受け継がれてきた。本授業では食料の確保や世界の3大食法、人の移動と食の創造、各国料理の歴史と特長及び料理様式と献立等について学ぶとともに、食文化についてのレポート作成及び発表に取り組むことにより調べて書く力、表現する力を習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	全講義内容の理解について定期試験期間に筆記試験を行い評価する。								
		レポート	20	レポート作成及び発表についてその内容・形式・表現により評価する。								
		小テスト	10	各回の講義内容の理解について学期の途中で小テストを行い評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)(2)については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2)は専門的学習成果④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本フードコーディネーター協会編	『新・フードコーディネーター教本2023』				柴田書店						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①フードコーディネーター3級の資格取得に必修。授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に4時間程度行うこと。事前学習として、テキストや資料をよく読むこと。レポート課題に取り組むこと。課題の提出期限は厳守すること。レポート作成及び発表に向けて必要な準備を行うこと。小テストのための準備を行うこと。事後学習として、各回の学習内容とそれに関連する事項を調べノートにまとめること。小テスト及び授業の内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②小テストは返却するとともに、問題・解答についての解説を行うことにより結果のフィードバックを行う。											

授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、食文化とフードコーディネーター
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。
2回	授業内容	食料の確保(1) 食物獲得形態の移り変わり
	学習成果	食物獲得形態の移り変わりについて、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、食物獲得形態の移り変わりについて理解を深める。
3回	授業内容	レポート発表に向けて資料の作成
	学習成果	レポート発表のための発表資料を作成することができる。
	予習復習の内容	レポート発表に向けて必要な準備を行う。
4回	授業内容	食料の確保(2) 世界の主食の類型及びレポート発表
	学習成果	世界の主食の類型について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、世界の主食の類型について理解を深める。
5回	授業内容	世界の3大食法(1) 世界の民族の食べ方の違い及びレポート発表
	学習成果	世界の民族の食べ方の違いについて、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、世界の民族の食べ方の違いについて理解を深める。
6回	授業内容	人の移動と食の創造(1) 新しい食の創造及びレポート発表
	学習成果	新しい食の創造について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、新しい食の創造について理解を深める。
7回	授業内容	人の移動と食の創造(2) 日本での食の創造及びレポート発表
	学習成果	日本での食の創造について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日本での食の創造について理解を深める。
8回	授業内容	各国料理の歴史と特長(1) 日本の食の生い立ち 縄文～平安及びレポート発表
	学習成果	日本の食の生い立ちについて、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日本の食の生い立ちについて理解を深める。
9回	授業内容	各国料理の歴史と特長(2) 日本の食の生い立ち 鎌倉～安土桃山及びレポート発表
	学習成果	日本の食の生い立ちについて、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日本の食の生い立ちについて理解を深める。
10回	授業内容	各国料理の歴史と特長(3) 日本の食の生い立ち 江戸及びレポート発表
	学習成果	日本の食の生い立ちについて、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日本の食の生い立ちについて理解を深める。
11回	授業内容	各国料理の歴史と特長(4) 西洋料理の発展の歴史及びレポート発表
	学習成果	西洋料理の発展の歴史について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、西洋料理の発展の歴史について理解を深める。
12回	授業内容	各国料理の歴史と特長(5) 中国料理の発展の歴史及びレポート発表
	学習成果	中国料理の発展の歴史について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、中国料理の発展の歴史について理解を深める。
13回	授業内容	料理様式と献立(1) 日本料理の料理様式と献立及びレポート発表
	学習成果	日本料理の料理様式と献立について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日本料理の料理様式と献立について理解を深める。
14回	授業内容	料理様式と献立(2) 中国料理の料理様式と献立及びレポート発表
	学習成果	中国料理の料理様式と献立について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、中国料理の料理様式と献立について理解を深める。
15回	授業内容	料理様式と献立(3) 西洋料理の料理様式と献立及びレポート発表
	学習成果	西洋料理の料理様式と献立について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、西洋料理の料理様式と献立について理解を深める。
		定期試験 定期試験期間に全講義内容の理解についての筆記試験を実施する。

科目名		食環境コーディネーター				担当者		佐藤 睦子・今野 則幸					
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期	
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー(初回授業で説明)か、Eメールで行う。konno.noriyuki@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	建築的側面から食空間の基礎知識を習得し、実践に応用できる。											
	②	厨房の語源・歴史・文化を説明することができる。											
	③	各種料理のテーブルマナーを実践することができる。											
	④	国際儀礼(プロトコル)を説明することができる。											
	⑤	フードコーディネーター3級資格に必要なレベルの知識を習得し、適用できる。											
汎用的 学習成果	(1)	コーディネーターとして専門的な提案及びアドバイスができることにより職業的自立に繋がる知識を習得し活用できる。(専門的学習成果①に関連)											
	(2)	各種料理のテーブルマナーの習得を通して、社会人マナーを実践することができる。(専門的学習成果③④⑤に関連)											
	(3)	国際儀礼(プロトコル)の学習を通して、社会人マナーを実践することができる。(専門的学習成果④⑤に関連)											
授業概要		インテリアと建築の学習を通して、快適な食空間についての知識を習得する。近年、欧米諸国では食の安全に対応した様々な調理技術が開発され、それに伴う設備の改良・進化には目覚ましいものがある。わが国でも特に厨房施設・機器の開発はそのスピードを加速している。飲食店経営に必要な店舗設計の概要を学ぶ。また、各種料理のテーブルマナーや国際儀礼(プロトコル)を学習することにより、社会人として必要な外国人に対するマナーや食事のマナーを学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
		筆記試験	60	第5回・第15回の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回の講義内容について評価する。									
小テスト	20	2回実施し各10%を配点する。											
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①により評価する。 (2)は専門的学習成果③④⑤により評価する。 (3)は専門的学習成果④⑤により評価する。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名				
	日本フードコーディネーター協会編		『新・フードコーディネーター教本2022』						柴田書店				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①飲食店におけるお客様側とサービス側両方の立場に立って、快適な食空間とはどのようなものかを、飲食店を訪れた時に細かく観察すること(10時間)。空間・色彩・サービスについての各自の考え方をまとめておくこと(10時間)。 事前にテキストを読んでおく(20時間)。外食時、店舗設計・お客様の誘導等観察する(20時間)。また授業中にその内容を含めた課題を課し、フィードバックする。 ②試験は後期開講直後返却する。											

授業計画			学習成果の評価	
回数	授業内容	ガイダンス・1.食空間とは 2.食空間のデザインとフードコーディネーターのかかわり		
	学習成果	フードコーディネーターの役割について説明できる。		
2回	予習復習の内容	どのような業種・職種があるのか調べる。		
	授業内容	業種・業態の把握と食空間デザイン		
3回	学習成果	業種・業態による店舗構成の違いについて学習した内容を説明できる。		
	予習復習の内容	実際に飲食店に行き、店舗構成を図案化してみる。		
4回	授業内容	平面計画における構成と動線計画・客席レイアウト・厨房のプランニング		
	学習成果	食空間の構成について学習した内容を説明できる。		
5回	予習復習の内容	実際に飲食店に行き、快適な空間寸法を検討する。		
	授業内容	客席レイアウト演習・カラーコーディネート・インテリアエレメント		
6回	学習成果	食空間における色彩の構成及びインテリアエレメントの種類を説明できる。		
	予習復習の内容	日本及び西洋の家具の歴史を調べ、その違いについて予習する。		
7回	授業内容	家具の様式・建築様式・近代デザインの歴史		
	学習成果	家具及び建築の歴史について学習した内容を説明できる。		
8回	予習復習の内容	授業の内容について、整理・確認する。		
	授業内容	ガイダンス 厨房の歴史		
9回	学習成果	飲食店にとって重要な厨房の歴史を説明することができる。		
	予習復習の内容	講義で説明したことを整理する。		
10回	授業内容	調理システムと厨房形態		
	学習成果	様々な調理システムとそれに伴う厨房形態を説明できる。		
11回	予習復習の内容	講義で説明したことを整理する。		
	授業内容	洗浄について		
12回	学習成果	飲食店にとって重要な厨房の洗浄について説明できる。		
	予習復習の内容	講義で説明したことを整理する。		
13回	授業内容	キッチンスタイルの基本		
	学習成果	様々な料理に合わせたキッチンスタイルを区別できる。		
14回	予習復習の内容	講義で説明したことを整理する。		
	授業内容	西洋料理のテーブルマナー		
15回	学習成果	フランス料理を中心としたテーブルマナーを実践することができる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルマナーについての理解を深める。		
16回	授業内容	日本料理のテーブルマナー		
	学習成果	日本料理のテーブルマナーを実践することができる。		
17回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルマナーについての理解を深める。		
	授業内容	中華料理・立食パーティーのテーブルマナー		
18回	学習成果	中華料理・立食パーティーのテーブルマナーを実践することができる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルマナーについての理解を深める。		
19回	授業内容	飲料		
	学習成果	アルコール飲料を区別し、説明することができる。		
20回	予習復習の内容	講義で説明したことを整理する。		
	授業内容	国際儀礼		
21回	学習成果	世界に共通する儀礼を述べることができる。		
	予習復習の内容	講義で説明したことを整理する。		
22回	授業内容	サービスマナー		
	学習成果	様々な料理を提供することができる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルマナーについての理解を深める。		

科目名	フードショッププランニング				担当者	今 野 則 幸						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー(初回授業で説明)か、Eメールで行う。konno.noriyuki@seiwa.ac.jp										
専門的 学習成果	①	外食産業の歴史を説明できる。										
	②	日本の外食産業の文化を理解し、概要を説明できる。										
	③	飲食店経営に必要なマーケティングを説明できる。										
	④	出店に必要な計数管理を述べることができる。										
	⑤	フードコーディネーター3級資格に必要なレベルの知識を習得し、適用できる。										
汎用的 学習成果	(1)	外食産業の概要を学ぶことにより、幅広い社会の産業構造を説明できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	食文化を通し、社会人に必要なマナーを実践することができる。(専門的学習成果②③⑤に関連)										
	(3)	計数管理を通し、物事を論理的に考え、比較・検討することができる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	現代社会の流れは社会全体のIT化と相まって、非常に早いスピードで進化している。フードビジネスの世界でも例外ではなく、人々のライフスタイルの変化に伴い、業界のトレンドも刻々変化している。「自分の店を持つ」という考えを前提に、業態のみならず、マーケティング、経理簿記、メニュープランニング等を学ぶ。また、グループワークを通じ、履修者同士で議論を重ね店舗プランニングをしていく。フードコーディネーター3級資格にふさわしい知識を習得し、実践できるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	マーケティングの理解20%、自身の店舗計画を練り、収支計画作成に40%を配点、それを評価する。								
		小テスト	30	3回実施し、各回10%を配点する。								
	平常点	10	授業への取り組み・意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③により評価する。 (2) は専門的学習成果②③⑤により評価する。 (3) は専門的学習成果③④により評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	日本フードコーディネーター協会		『新・フードコーディネーター教本2022』						柴田書店			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	柏野 満		『飲食店の店長の実務がわかる本』						旭屋出版			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①フードコーディネーター3級資格取得必修。翌週の授業に関するテキスト内容を把握して頂くこと(30時間)。外食する場合、講義で学んだことの視点で、店舗・サービス・料理・飲み物等観察し自身に生かす(30時間)。 ②レポートについては、講義内でフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、フードショッププランニング	
	学習成果	授業内容を理解し、概要を説明できる。	
2回	予習復習の内容	ガイダンス内容を踏まえ、学習計画を立てる。	
	授業内容	日本のフードビジネスの歴史	
3回	学習成果	外食産業の過去から現在までの変遷を説明できる。	
	予習復習の内容	テキスト内容を整理しておく。	
4回	授業内容	マーケティング 企業戦略の歴史	
	学習成果	企業のマーケティングの歴史を説明できる。	
5回	予習復習の内容	パワーポイントでの講義をまとめておく。	
	授業内容	マーケティング 顧客満足	
6回	学習成果	顧客の種類による満足を説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントでの講義をまとめておく。	
7回	授業内容	マーケティング 基本原理	
	学習成果	R-STPを説明できる。	
8回	予習復習の内容	パワーポイントでの講義をまとめておく。	
	授業内容	経営 損益計算書	
9回	学習成果	財務に必要な損益計算書を説明できる。	
	予習復習の内容	テキスト内容を整理しておく。	
10回	授業内容	経営 貸借対照表・キャッシュフロー	
	学習成果	貸借対照表・キャッシュフローを関連付けることができる。	
11回	予習復習の内容	テキスト内容を整理しておく。	
	授業内容	経営 損益分岐点	
12回	学習成果	財務に必要な損益分岐点を検討することができる。	
	予習復習の内容	テキスト内容を整理しておく。	
13回	授業内容	業態開発	
	学習成果	業種・業態、店舗コンセプトを論じることができる。	
14回	予習復習の内容	パワーポイントでの講義をまとめておく。	
	授業内容	出店計画 出店戦略	
15回	学習成果	店舗コンセプトに基づき、出店計画を作成できる。	
	予習復習の内容	自身の出店店舗を考えておく。	
16回	授業内容	出店計画 事業計画書	
	学習成果	出店計画に基づき、事業計画書を作成できる。	
17回	予習復習の内容	出店計画を基に、財務諸表を考えておく。	
	授業内容	販売促進	
18回	学習成果	販売計画を作成できる。	
	予習復習の内容	出店計画を基に、販売計画を考えておく。	
19回	授業内容	メニュープランニング プランニングの流れ	
	学習成果	メニュー作成に必要な事項を関連付けることができる。	
20回	予習復習の内容	パワーポイントでの講義をまとめておく。	
	授業内容	メニュープランニング 事例	
21回	学習成果	事例を参考に、メニュー作成ができる。	
	予習復習の内容	自身が経営する店舗のメニューを考えておく。	
22回	授業内容	店舗経営	
	学習成果	自身が経営する店舗を総合的にプロデュースできる。	
23回	予習復習の内容	店舗経営できるよう計画書を作成しておく。	
	レポート提出(マーケティングの重要性について)		
レポート提出(貸借対照表)			
レポート提出(損益分岐点)			
レポート提出(店舗計画書)			

科目名	調理方法と調理機器				担当者	前澤 正人 ・ 深見 信也 ・ 吉田 正						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。授業の内容に関する質問等は授業終了後に教室で受ける。											
専門的 学習成果	①	フードコーディネーター資格取得に関する専門知識を理解し、その内容を説明できる。										
	②	基本調理技法、知識を体験する事で習得し、実践できる。										
	③	季節の基本調理方法の実践より 栄養のバランス 食の大切さを習得し、実践できる。										
	④	調理機器と調理器具の必要な知識と技能を習得し 実践につながる操作ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	食に関連した業界全般の職業的自立に繋がる知識 基礎技術を習得し活用できる (専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	食品業界に必要な商品開発 自己表現、他者理解 問題解決能力を有し協働することができる。専門的学習成果②③④に関連)										
	(3)	フードコーディネーターの専門的知識、技能を習得活用する事で、食業界の課題解決に向け行動ができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
授業概要	フードコーディネーターとして資格取得し活躍する為に 多くの食材に触れ調理技法を体験し理解を深めて行く必要がある。フードコーディネーターとして商品開発、店舗開発やメニュープランニングを行う上で、基礎調理技法を知り体験することは、非常に重要な事である。授業では調理機器、器具の取り扱いや調理手順、準備 季節感、栄養、デザイン 仕上げ構成まで基礎調理を習得し、食文化に貢献できる実践力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		筆記試験	10	15回目の授業後半に筆記試験を行い、講義内容の理解について評価を行う。								
		平常点	10	授業態度、関心、意欲を評価を行う。								
	実習作品 提出	80	毎回の実習作品試験評価を行う。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) 専門的学習成果①②③④により評価する。 (2) 専門的学習成果②③④により評価する。 (3) 専門的学習成果①②③④による評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	日本フードコーディネーター協会編	『新・フードコーディネーター教本2023』					柴田書店					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①フードコーディネーター3級 資格取得に必修。調理実習が中心の授業なので 重要な事は実習内容を忘れない内に実習調理を自宅で繰り返し作り直し作り直し復習、調理準備から手順 盛り付けデザイン、仕上げ味覚表現まで調理の理解を深め能力を身につける事を求める。各回ごと1時間程度。 ②前回 調理実習の正確な分量をレポート提出フィードバック、実習調理の理解を深め自らの考察をしっかり記述する事を求める。 予習として 料理のデザイン、色調、立体感などに興味を持ち専門誌を絶えず観る様にする事を求める。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンス、基本的な器具、調理技法、切り方、出しの説明	試験での点数評価
	学習成果	実際に器具に触れ、業種による技法、基礎知識 季節感、料理の成り立ちを活用できる。	
	予習復習の内容	予習復習として、フードコーディネーター教本を読み理解を深めること。	
3・4回	授業内容	和食 出しのとり方(親子丼、お吸い物)	和食の出しなどの味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	和食出しの栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得 説明できる。	
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。	
5・6回	授業内容	洋食 魚3枚おろし(鱈の香草パン粉焼き、スープ)	洋食の魚料理の味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	魚の卸し方の習得、栄養バランスの習得、調理技術の習得 説明できる。	
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。	
7・8回	授業内容	中華 炒め煮(エビのチリソース煮、レタスチャーハン)	中華の炒め物の味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	中華調理技法の習得、調理機器の習得、調理技術の習得 説明できる。	
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。	
9・10回	授業内容	和食 煮物(鶏肉と里芋の煮物、出し巻き玉子)	和食の煮物の味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明できる。	
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施	
11・12回	授業内容	洋食 蒸し焼き(帆立と海老のグラタン、サラダ)	洋食の蒸し焼きの味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。	
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。	
13・14回	授業内容	中華 揚げ物(鶏肉のユーリンチ、スープ)	中華の揚げ味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。	
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。	
15・16回	授業内容	和食 煮魚(さばの味噌煮、味噌汁)	和食の煮魚の味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得	
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。	
17・18回	授業内容	洋食 麺料理(茄子とベーコンの Pasta、スープ)	洋食の麺料理の味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。	
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施	
19・20回	授業内容	中華 炒め物(五目炒飯、スープ)	中華の炒め物の味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。	
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。	
21・22回	授業内容	和食 揚げ物(海鮮と野菜の天ぷら、お吸い物)	和食の揚げ物の味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。	
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。	
23・24回	授業内容	洋食 衣包み焼き(豚肉のパン粉焼き、サラダ)	洋食の包み焼きの味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。	
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。	
25・26回	授業内容	中華 包み物(焼き餃子、スープ)	中華の包み物の味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。	
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。	
27・28回	授業内容	軽食(メニュー、オムライス、サラダ)	軽食の味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。	
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。	
29・30回	授業内容	デザート(バナナフランク、サンドウィッチ)	デザートなどの味覚、仕上げのデザイン
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。	
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。	

科目名	テーブルコーディネート				担当者	梅 津 裕 子							
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期	
教員との連絡方法 質問等の受付方法	umetsu.yuko@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。												
専門的 学習成果	①	テーブルコーディネートの基本的理論について理解し、その内容を説明できる。											
	②	テーブルセッティングについての知識と基礎的な技能を習得し、実践できる。											
	③	テーブルフラワーについての知識と基礎的な技能を習得し、実践できる。											
	④	テーブルコーディネートについて習得した知識や技能を活用し、コーディネートを実践できる。											
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたテーブルコーディネートに関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③④に関連)											
	(2)	テーブルコーディネート作品の制作や発表を通して、自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果④に関連)											
	(3)	テーブルコーディネートの作品制作を通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。(専門的学習成果④に関連)											
授業概要	フードコーディネーター資格取得のために必要なテーブルコーディネートに関する知識と技能の習得を目的とする。具体的には、食空間のあり方やテーブルコーディネートの全体の組み立て、料理と器の関係、テーブルの構成、テーブルアイテムとして食器、カトラリー、グラス、クロス、フィギュア類、テーブルに飾る花等、テーブルウェアやテーブルコーディネートに関する知識を習得するとともに、実際にテーブルフラワーやテーブルコーディネートの作品制作に取り組むことにより食空間演出の実践力を養う。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		筆記試験	40	テーブルコーディネートの基本的理論の理解について学期の途中で筆記試験を行い評価する。									
		作品制作・発表	20	テーマに基づいたテーブルコーディネート作品の制作・発表の内容により評価する。									
		提出物	10	作品紹介シートについてその内容・形式により評価する。									
		平常点	30	演習や実習への取り組み・意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果④により評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名							
	日本フードコーディネーター協会編	『新・フードコーディネーター教本2023』				柴田書店							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①フードコーディネーター3級の資格取得に必修。テキストを使用し授業を進めるため、必ずテキストを準備のうえ受講すること。実習費として5,300円徴収する。授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に1時間程度行うこと。事前学習として、テキストや資料をよく読むこと。作品制作や発表会に向けて必要な準備を行うこと。事後学習として、授業の内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②筆記試験は答案を返却するとともに、問題・解答についての解説を行うことにより、結果のフィードバックを行う。												

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、食空間とテーブルコーディネート	ワークシートへの取り組み
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
2回	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	演習への取り組み及び習得した知識・技能のテーブルコーディネート作品制作への活用
	授業内容	テーブルセッティングの基本 テーブルクロスのかけ方・ナプキンの折り方	
3回	学習成果	テーブルクロスのかけ方とナプキンの折り方について習得し、実践できる。	筆記試験 8回目授業の後半に、テーブルコーディネートの基本的理論の理解について筆記試験を実施
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルセッティングについて理解を深める。	
4回	授業内容	テーブルコーディネートの基本的理論 (1) テーブルコーディネートとは	
	学習成果	テーブルコーディネートについて、学習した内容を説明できる。	
5回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルコーディネートについて理解を深める。	制作への取り組み
	授業内容	テーブルコーディネートの基本的理論 (2) 食空間の構成	
6回	学習成果	食空間の構成について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、食空間の構成について理解を深める。	
7回	授業内容	テーブルアイテム制作/テーブルマット	制作への取り組み
	学習成果	説明に基づきテーブルマットを制作できる。	
8回	予習復習の内容	制作したテーブルマットを実際に使ってみる。	
	授業内容	テーブルコーディネートの基本的理論 (3) テーブルリネン、テーブル装飾品	
9回	学習成果	テーブルリネン、テーブル装飾品について、学習した内容を説明できる。	筆記試験 8回目授業の後半に、テーブルコーディネートの基本的理論の理解について筆記試験を実施
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルリネン、テーブル装飾品について理解を深める。	
10回	授業内容	テーブルコーディネートの基本的理論 (4) テーブルに飾る花	
	学習成果	テーブルに飾る花について、学習した内容を説明できる。	
11回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルに飾る花について理解を深める。	
	授業内容	テーブルコーディネートの基本的理論 (5) 食器、グラス	
12回	学習成果	食器、グラスについて、学習した内容を説明できる。	制作への取り組み及び習得した知識・技能のテーブルコーディネート作品制作への活用
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、食器やグラスについて理解を深める。	
13回	授業内容	テーブルフラワー実習 (1) ラウンド	制作への取り組み及び習得した知識・技能のテーブルコーディネート作品制作への活用
	学習成果	ラウンドのテーブルフラワーを制作できる。	
14回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ラウンドのテーブルフラワー制作について理解を深める。	
	授業内容	テーブルフラワー実習 (2) フリースタイル	
15回	学習成果	フリースタイルのテーブルフラワーを制作できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、フリースタイルのテーブルフラワー制作について理解を深める。	
16回	授業内容	テーブルセッティングの実際	演習への取り組み及び習得した知識・技能のテーブルコーディネート作品制作への活用
	学習成果	テーブルセッティングを実践できる。	
17回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルセッティングについて理解を深める。	
	授業内容	テーブルコーディネート作品制作 (1) ブラシング	
18回	学習成果	作品制作に向けて計画を立てることができる。	作品制作及び発表 習得した知識や技能を活用しテーブルコーディネートに取り組み、作品としてクラスで発表する。
	予習復習の内容	作品制作及び発表会に向けて必要な準備を行う。	
19回	授業内容	テーブルコーディネート作品制作 (2) 発表会	
	学習成果	テーブルコーディネートに取り組み、制作した作品について発表できる。	
20回	予習復習の内容	作品制作及び発表会に向けて必要な準備を行う。	
	授業内容	テーブルコーディネート作品制作 (3) 発表会	
21回	学習成果	テーブルコーディネートに取り組み、制作した作品について発表できる。	
	予習復習の内容	作品制作及び発表会に向けて必要な準備を行う。	
22回	授業内容	テーブルコーディネート作品制作 (4) まとめ	作品紹介シートの作成
	学習成果	制作したテーブルコーディネート作品を他者に紹介できる。	
23回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルコーディネートについて理解を深める。	

科目名	栄養学 A				担当者	梅 津 裕 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		umetsu.yuko@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	からだの仕組みと食物の取り込みについて理解し、その概要を説明できる。										
	②	栄養素の種類とその働きについて理解し、その概要を説明できる。										
	③	からだの働きを支えるエネルギーや栄養摂取の適量について理解し、その概要を説明できる。										
	④	栄養と健康における課題について理解し、改善点を示すことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた栄養学に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識を習得し活用することができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	栄養と健康における課題や改善点の把握を通して、社会人として必要な論理的思考を高め課題解決に向けて行動できる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	フードコーディネーター資格取得のために必要な栄養学に関する知識の習得を目的とする。近年のように複雑多様化した社会に生きるためには、食物の摂取から生命、健康の維持増進、疾病の予防、治療といった広範囲にわたる栄養学的知識が必要となっている。本授業では栄養学の成り立ち、からだの仕組みと食物の取り込み、栄養素の種類とその働き、非栄養素の栄養効果、からだの働きを支えるエネルギー、栄養摂取の適量等について学び、理解を深める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	全講義内容の理解について定期試験期間に筆記試験を行い評価する。								
		レポート										
		小テスト	10	各回の講義内容の理解について学期の途中で小テストを行い評価する。								
	平常点	30	授業への取り組み・意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
	日本フードコーディネーター協会編		『新・フードコーディネーター教本2023』					柴田書店				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①フードコーディネーター3級の資格取得に必修。授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に4時間程度行うこと。事前学習として、テキストや資料をよく読むこと。小テストのための準備を行うこと。事後学習として、各回の学習内容とそれに関連する事項を調べノートにまとめること。小テスト及び授業の内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②小テストは返却するとともに、問題・解答についての解説を行うことにより結果のフィードバックを行う。										

授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、栄養学とフードコーディネーター
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。
2回	授業内容	栄養学の成り立ち
	学習成果	栄養学の成り立ちについて、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、栄養学の成り立ちについて理解を深める。
3回	授業内容	からだの仕組みと食物の取り込み (1) からだの構成単位、からだの働き
	学習成果	からだの構成単位、からだの働きについて、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、からだの構成単位、からだの働きについて理解を深める。
4回	授業内容	からだの仕組みと食物の取り込み (2) 消化と吸収
	学習成果	消化と吸収について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、消化と吸収について理解を深める。
5回	授業内容	栄養素の種類とその働き (1) 熱量素 糖質
	学習成果	熱量素 糖質について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、熱量素 糖質について理解を深める。
6回	授業内容	栄養素の種類とその働き (2) 熱量素 脂質
	学習成果	熱量素 脂質について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、熱量素 脂質について理解を深める。
7回	授業内容	栄養素の種類とその働き (3) 熱量素 タンパク質
	学習成果	熱量素 タンパク質について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、熱量素 タンパク質について理解を深める。
8回	授業内容	栄養素の種類とその働き (4) 構成素 タンパク質
	学習成果	構成素 タンパク質について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、構成素 タンパク質について理解を深める。
9回	授業内容	栄養素の種類とその働き (5) 構成素 無機質
	学習成果	構成素 無機質について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、構成素 無機質について理解を深める。
10回	授業内容	栄養素の種類とその働き (6) 調節素 ビタミン
	学習成果	調節素 ビタミンについて、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、調節素 ビタミンについて理解を深める。
11回	授業内容	栄養素の種類とその働き (7) 調節素 無機質
	学習成果	調節素 無機質について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、調節素 無機質について理解を深める。
12回	授業内容	非栄養素の栄養効果 食物繊維
	学習成果	非栄養素の栄養効果 食物繊維について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、非栄養素の栄養効果 食物繊維について理解を深める。
13回	授業内容	からだの働きを支えるエネルギー(1) エネルギー生成とその消費
	学習成果	エネルギー生成とその消費について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、エネルギー生成とその消費について理解を深める。
14回	授業内容	からだの働きを支えるエネルギー(2) 消費エネルギーの求め方
	学習成果	消費エネルギーの求め方について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、消費エネルギーの求め方について理解を深める。
15回	授業内容	栄養摂取の適量
	学習成果	栄養摂取の適量について、学習した内容を説明できる。
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、栄養摂取の適量について理解を深める。

科目名	介護職員初任者研修				担当者	齋藤 美香・今出川 武志・東海林 初枝・高橋 壮・森本 浩史						
区分	選択	3	単位	授業回数	50	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
				授業時間数	71	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、または saito.mika@seiwa.ac.jp への連絡（学籍番号・氏名記載必須）										
専門的 学習成果	①	基本的な介護を実践するために最低限必要な知識・技術を理解できる。										
	②	介護の実践については、正しい知識とアセスメント結果に基づく適切な介護技術が必要であることを理解できる。										
	③	自立の助長と重度化防止・遅延化のために、介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させるという視点 が大切であることを理解できる。										
	④	利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活を送れるようにするために、利用者一人ひとりに対する生活状況 の確な把握が必要であることを理解できる。										
	⑤	他者の生活観及び生活の営み方への共感、相手の立場に立って考えるという姿勢を持つことの大切さについて理解で きる。										
	⑥	自立支援に資するサービスを多職種と協働して総合的、計画的に提供できる能力を身に付けることが、自らの将来の到 達目標であることを理解できる。										
	⑦	利用者本位のサービスを提供するため、チームアプローチの重要性とその一員として業務に従事する際の役割、責務等 を理解できる。										
汎用的 学習成果	(1)	在宅・施設で働くうえで必要となる基本的な知識・技術を修得することができる。（専門的学習成果①②③④⑤⑥に関 連）										
	(2)	指示を受けながら、介護業務を実践することができる。（専門的学習成果⑦に関連）										
授業概要	「宮城県介護職員初任者研修実施要綱」に基づき、本学が宮城県指定を受けて実施する。初任者研修は、在宅・施設を問わず、 基本的な介護業務を実践する介護人材を養成する入職段階の研修である。介護を学ぶための基礎知識として、①職務の理解、 ②介護における尊厳の保持・自立支援、③介護の基本、④介護・福祉サービスの理解と医療との連携、⑤介護におけるコミュニ ケーション技術、⑥老化の理解、⑦認知症の理解、⑧障害の理解、⑨こことからだのしくみと生活支援技術、⑩振り返り を学ぶ。また演習のなかでは利用者役、介護者役を実際に演じてみることで高齢者や障がいのある方への接し方や考え方を学 ぶ。そして介護が必要な方に対してよりよいサービス（支援）を提供できる能力を身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	40									
		平常点	20	授業参加への姿勢や積極性、授業態度等。								
		実技試験	40	基礎的な介護技術に関する実技試験。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③④⑤⑥にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果⑦にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	初任者研修テキスト ブック編集委員会編		『介護職員初任者研修課程テキスト1.2.3』						日本医療企画			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの 方法等		①1年次に「生活援助従事者研修」を受講し、修了証明書が交付された者のみ受講可能。 ②授業に臨む際は、該当範囲を精読し、分からない言葉は事前に調べ理解をして出席すること。 各科目、カリキュラムの進度に合わせ筆記試験やレポートを課される場合もある。筆記試験は、授 業の中で正答を解説、レポートは、コメントを付けて返却する。実技試験においては、口頭で事後 指導を行う。1回あたり1時間の予習・復習を要する。										

授業計画			学習成果の評価
1、2、3回	授業内容	オリエンテーション／職務の理解	單元ごとに小テストを実施する。
	学習成果	施設に関わる介護保険サービスについて概説できる。	
	予習復習 の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
4、5回	授業内容	介護における尊厳の保持・自立支援	
	学習成果	虐待防止・身体拘束禁止、個人の権利を守る制度の概要について概説できる。	
	予習復習 の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
6、7回 (1.3コマ)	授業内容	介護の基本	
	学習成果	介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護職員の安全衛生について概説できる。	
	予習復習 の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
8、9、10、 11回	授業内容	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
	学習成果	介護保険制度のしくみ、介護と医療の連携について概説できる。	
	予習復習 の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
12、13回	授業内容	認知症の理解	
	学習成果	認知症の利用者への基本的態度が身についている。	
	予習復習 の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
14、15、16回	授業内容	こことからだのしくみと生活支援技術（基本知識の学習）	
	学習成果	こことからだのしくみの基礎的知識について概説できる。	
	予習復習 の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
17、18、19回 (2.3コマ)	授業内容	こことからだのしくみと生活支援技術（快適な居住環境整備と介護）	
	学習成果	快適な居住環境整備と介護について概説できる。	
	予習復習 の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
20、21回	授業内容	こことからだのしくみと生活支援技術（整容）	
	学習成果	整容に関する基礎的知識と留意点に基づき支援ができる。	
	予習復習 の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
22、23、24、 25、26回	授業内容	こことからだのしくみと生活支援技術（移動・移乗）	
	学習成果	移動・移乗に関する基礎的知識と留意点に基づき支援ができる。	
	予習復習 の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
27、28回	授業内容	こことからだのしくみと生活支援技術（食事）	
	学習成果	食事に関する基礎的知識と留意点に基づき支援ができる。	
	予習復習 の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
29、30、31、 32、33回	授業内容	こことからだのしくみと生活支援技術（入浴）	
	学習成果	入浴に関する基礎的知識と留意点に基づき支援ができる。	
	予習復習 の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
34、35、36、 37回	授業内容	こことからだのしくみと生活支援技術（排泄）	
	学習成果	排泄に関する基礎的知識と留意点に基づき支援ができる。	
	予習復習 の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
38、39回	授業内容	こことからだのしくみと生活支援技術（睡眠）	
	学習成果	睡眠に関する基礎的知識と留意点に基づき支援ができる。	
	予習復習 の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
40、41回	授業内容	こことからだのしくみと生活支援技術（終末期）	
	学習成果	終末期に関する基礎的知識と留意点に基づき支援ができる。	
	予習復習 の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
42、43、44、 45、46、47、 48回	授業内容	こことからだのしくみと生活支援技術演習	
	学習成果	これまで学習した内容をふまえ、事例展開ができる。	
	予習復習 の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	
49、50回	授業内容	振り返り及び試験	
	学習成果	全課程の振り返り、基礎的知識と技術についてまとめることができる。	
	予習復習 の内容	該当ページを精読し、分からない言葉は調べ理解を深める。	

科目名	世代間交流の理論と実践Ⅱ					担当者	齋藤美香・大曾根 学					
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問または、メールへの連絡（学籍番号・氏名記載必須）											
専門的 学習成果	①	対象者の多様な特徴を理解し、社会参加や世代間交流の意義に基づいたイベントを企画できる。										
	②	対象者と交流する際の留意点を抑えて、世代間交流活動を企画・運営できる。										
	③	率先した組織形成や適切な判断指示など、主体性をもった交流活動の企画・運営ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	世代間交流活動における能力（知識・コミュニケーション）を身につけ、実践につなげることができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	活動計画立案・運営を通して、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(3)	交流が深まる工夫を実践して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(4)	世代間交流活動に必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、チームで協働し、活動を最後までやり遂げることができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	<p>世代間交流は『生きがい』を基本としたSDGsです。次世代へのパトンが持続可能な社会を形成します。この授業では「地域」（特に短大の立地する仙台市・泉区）の歴史的背景や文化等の現状を踏まえた上で、地域課題や問題についてどのようにアプローチしていくかを焦点にし、具体的な事例演習等を通して学びを深めます。特に1年次開講の『世代間交流の理論と実践Ⅰ』で培った理論と経験をもとにリーダーシップを発揮し、より効果的な実践を試みます。主に、館地区の老人クラブ「カトレアクラブ」との交流にあたって企画・運営を行います、機会があれば学齢期（小中学生）との交流なども行います。</p>											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	平常点	50	交流企画・実践およびグループワークでの態度								
		課題	50	活動報告書の作成および考察								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う (2) は専門的学習成果①②③で評価を行う (3) は専門的学習成果①②③で評価を行う (4) は専門的学習成果①②③で評価を行う										
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
		『新訂 アクティビティ・サービス』					中央法規					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>演習としてグループワークを行うので、他の学生との積極的なコミュニケーションを求める。社会や地域情勢によって授業実施形態・内容・予定が変更になる場合がある。地域のニーズや活動によって、春季・夏季・冬季休み中や土・日・祝、補講日に活動する場合がある。無為な欠席は避け、自分自身およびグループにも不利益にならないようにすること。 ①交流活動を企画するにあたり対象地域の特徴や対象者の留意点の調査や、イベントの準備・片付け等に全体で15時間程度の事前事後学習が必要となる。 ②授業の前後およびGoogle クラウド等のツールや、面談等でフィードバックを行う。</p>											

授業計画			学習成果の評価
1.2回	授業内容	世代間交流活動の実践の事前準備①	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	学習成果	活動計画立案・運営ができる。	
3.4回	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、締密なりハーサル行う。必要であれば修正をする。	交流活動への取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	授業内容	世代間交流活動の実践①	
5回	学習成果	チームで協働し、地域のニーズに対応できる実践ができる。	授業終了後にミニツペーパー等の課題を課す。
	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、締密なりハーサル行う。必要であれば修正をする。	
6.7回	授業内容	世代間交流実践の振り返り①	授業終了後にミニツペーパー等の課題を課す。
	学習成果	自身の活動を振り返り、考察しチームでフィードバックができる。	
8.9回	予習復習の内容	自身の活動を振り返り、考察する。	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	授業内容	世代間交流活動の実践の事前準備②	
10回	学習成果	活動計画立案・運営ができる。	交流活動への取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、締密なりハーサル行う。必要であれば修正をする。	
11、12回	授業内容	世代間交流実践の振り返り②	授業終了後にミニツペーパー等の課題を課す。
	学習成果	自身の活動を振り返り、考察しチームでフィードバックができる。	
13、14回	予習復習の内容	自身の活動を振り返り、考察する。	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	授業内容	世代間交流活動の実践の事前準備③	
15回	学習成果	活動計画立案・運営ができる。	交流活動への取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、締密なりハーサル行う。必要であれば修正をする。	
	授業内容	世代間交流活動の実践③	授業終了後にミニツペーパー等の課題を課す。
	学習成果	チームで協働し、地域のニーズに対応できる実践ができる。	
	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、締密なりハーサル行う。必要であれば修正をする。	授業終了後にミニツペーパー等の課題を課す。
	授業内容	世代間交流実践の振り返り③	
	学習成果	自身の活動を振り返り、考察しチームでフィードバックができる。	授業終了後にミニツペーパー等の課題を課す。
	予習復習の内容	自身の活動を振り返り、考察する。	
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	生活と福祉				担当者	サイ 齋 藤 美 香						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、または saito.mika@seiwa.ac.jp への連絡（学生番号・氏名記載必須）											
専門的 学習成果	①	人間社会と生活を理解し、社会福祉に関連する知識を学び、自らの社会福祉観を構築する。										
	②	社会福祉に関連する社会と組織の基本的な仕組みを理解し、社会福祉専門職として必要な基本的な視点を獲得する。										
	③	人権擁護の視点、職業倫理を身につける。										
汎用的 学習成果	(1)	変動する私たちの生活と地域社会の課題に関する専門知識・技能を身につける。										
	(2)	個人や家族、地域社会や組織、現在のライフスタイルの変化などを踏まえて社会生活の様々な課題に適用し、解決方法を導き出せる。										
	(3)	サービス利用主体者の社会的背景を学び、生活と福祉の重要性を認識することができる。										
授業概要	社会福祉を学ぶ入口として、社会福祉問題の全体に関心をもち基礎的な知識について学習する。また、変動する私たちの生活と地域社会の課題に関する専門的知識を修得し、それらを、個人や家族、地域社会や組織、現在のライフスタイルの変化などを踏まえて社会生活の様々な課題に適用し、解決方法について理解する。生活の構成要素、家族の定義・構造と形態、都市化と過疎化、社会と組織、サービス利用主体者の社会的背景を学び、生活と福祉の重要性を理解する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	レポート・課題への取り組み	70	テーマに沿ったレポートや課題で評価を行う。								
		平常点	30	授業態度・関心・意欲で評価を行う。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①で評価する。 (2) は、専門的学習成果②で評価する。 (3) は、専門的学習成果③で評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①日常生活の中で新聞・テレビなどから積極的に生活や福祉に関する情報を得ておくこと（予習：週2時間程度）。 また、予習及び授業内容などを基に、生活や福祉の情報、自らの考察を振り返っておくこと（復習：週2時間程度）。 ②提出されたレポートは全体的な解説・講評を行い、添削して返却する。											

		授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション（授業概要・進め方・評価等）		○レポート提出
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。		
2回	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。		
	授業内容	生活と福祉		
3回	学習成果	生活と福祉の関係について説明できる。		
	予習復習の内容	生活と福祉の関係について理解を深める。		
4回	授業内容	少子化と高齢化		
	学習成果	少子化と高齢化の関係について説明できる。		
5回	予習復習の内容	少子化と高齢化の関係について理解を深める。		
	授業内容	世帯構造の変化		
6回	学習成果	家族の構造・形態・機能・役割について説明できる。		
	予習復習の内容	家族の構造・形態・機能・役割について理解を深める。		
7回	授業内容	生活の構成要素		
	学習成果	生活の構成要素について説明できる。		
8回	予習復習の内容	生活の構成要素について理解を深める。		
	授業内容	女性の社会進出		
9回	学習成果	労働環境と家庭の関係について説明できる。		
	予習復習の内容	労働環境と家庭の関係について理解を深める。		
10回	授業内容	家族の機能と役割		
	学習成果	家族機能の変遷について説明できる。		
11回	予習復習の内容	家族機能の変遷について理解を深める。		
	授業内容	育児と介護		
12回	学習成果	育児休業制度、介護休業・休暇制度について説明できる。		
	予習復習の内容	育児休業制度、介護休業・休暇制度について理解を深める。		
13回	授業内容	都市化と過疎化		
	学習成果	市町村合併の歴史について説明できる。		
14回	予習復習の内容	市町村合併の歴史について調べておく。		
	授業内容	介護の現状		
15回	学習成果	介護の現状について説明できる。		
	予習復習の内容	介護の現状について調べておく。		
16回	授業内容	地域社会と個人・集団（町内会等の組織）		
	学習成果	地域社会に生活する人間関係・集団や組織との関わりについて説明できる。		
17回	予習復習の内容	地域社会に生活する人間関係・集団や組織との関わりについて理解を深める。		
	授業内容	地域活動の取り組み（ふれあいサロン）		
18回	学習成果	居場所とサロンについて説明できる。		
	予習復習の内容	居場所とサロンについて理解を深める。		
19回	授業内容	生活の支援と社会福祉		
	学習成果	社会福祉と社会保障の基本用語を説明できる。		
20回	予習復習の内容	社会福祉と社会保障の基本用語を理解する。		
	授業内容	これからの生活と福祉の課題		
21回	学習成果	身近にある福祉的課題を取り上げて、その解決に向けての自身の考えの述べられる。		
	予習復習の内容	生活や福祉に関するニュースや新聞記事を見つけて自身の考えをまとめる。		
22回	授業内容	まとめ 生活と福祉の仕組みの要点を振り返る。		
	学習成果	生活と福祉の仕組みの要点を列挙できる。		
23回	予習復習の内容	生活と福祉の仕組みの要点について理解を深める。		

科目名	防災の基礎理論				担当者	大曾根 学 ・ 他							
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期	
教員との連絡方法 質問等の受付方法				連絡方法、質問の受付方法は、Google Classroom「生活学Ⅱ」に提示する。									
専門的 学習成果	①	災害の種類やその発生のしくみに関する基礎的な知識を学び、防災・減災の重要性を説明することができる。											
	②	自然災害と社会の関わりを理解し、災害発生時の状況に応じて、身を守ることができる思考力と判断力が身につく。											
	③	災害発生時に他者と助け合い、協力して解決策に取り組むコミュニケーション力や協働する力が身につく。											
汎用的 学習成果	(1)	災害発生と被害、防災・減災に関する学習を通して、社会的自立に繋がる知識を習得し活用できる。(専門的学習成果①～③に関連)											
	(2)	災害発生時に状況に応じて身を守る知識や技術を学び、起きうる課題の発見、課題解決に活用できる。(専門的学習成果①～③に関連)											
	(3)	他者と助け合い、協力して解決策や対応等について学び、他者の考えを受け止めながら自分の考えをまとめ、的確に表現できる。(専門的学習成果①～③に関連)											
	(4)	我がこととして災害をとらえる視点を持つことで、社会の一員として責任を自覚し、多様な人々との協働しながら地域社会に貢献できる。(専門的学習成果①～③に関連)											
授業概要	我が国は、立地特性から常に地震や火山、台風など自然災害の脅威にさらされています。自然災害が避けては通れないものであるならば災害・防災に関する知恵を持つことは必須のこととします。災害発生時のメカニズムや対策に関する基礎知識を学び、災害から生き抜く力と身近な人を助けて地域に貢献できるような人材の育成の一助とすることが本授業の目指すところです。授業内容に応じて、ゲストスピーカーの招聘、出前講座の受講、震災遺構の見学、グループワーク等を通して学習を進めます。また、「災害時の生活支援」と連動的に進めていきます。テキストを用いず、適宜資料を配布したりPP等を用いますので、各自配布資料の整理（ファイリング）を確実に行うようにしてください。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	70	各回のワークシート、振り返りシートの提出状況（内容・期限厳守等）から講義内容の理解を評価する。									
		平常点	30	授業に臨む態度（積極性・協調性）・関心・意欲について評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③にて評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③にて評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③にて評価を行う。 (4) は専門的学習成果①～③にて評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名						
			適宜、資料を配布する										
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名						
	内閣府		『防災白書』 https://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/index.html										
	NHK スペシャル取材班		『巨大津波－そのとき人はどう動いたか－』				岩波書店						
	前田 潤		『被災者の心理過程とケアの継続性』				南山堂						
		小原真理子・酒井明子		『災害看護－心得ておきたい基本的な知識－』				南山堂					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①・事前に配布する資料がある場合はよく読み、要点や疑問点を把握し授業に臨む。(予習週2時間程度) 事後は、授業終了後の振り返りシートを確実に仕上げる。(復習週2時間程度) ・配布資料等及びノートを適切にファイリングし、整理すること（評価の対象とする） ②レポートは返却し、コメントを付記又は授業内で解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 自身の災害体験を振り返る	振り返りシート・課題レポートの提出
	学習成果	本科目で扱う内容を理解できる	
	予習復習の内容	配布資料の復習	
2回 ・ 3回	授業内容	災害エスノグラフィー(東日本大震災遺構の見学、映像視聴、関連記事・事例)	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	災害及び災害対応に対して具体的なイメージができる	
	予習復習の内容	提示資料を読み込む、見学にあつては事前・事後提示する課題に取り組む	
4回 ・ 5回	授業内容	災害の定義、災害発生のおしくみと被害の種類	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	地震・津波、気象災害・風水害、土砂・火山、火災に関する発生の仕組みと及ぼす被害について説明できる	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が開けるようにしておく。配布資料の整理	
6回 ・ 7回	授業内容	災害関連情報、被害想定、災害情報の利活用の仕方	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	災害関連情報の種類や区分、情報の活かし方等について要点を説明できる	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が開けるようにしておく。配布資料の整理	
8回 ・ 9回	授業内容	災害と心の変化・健康課題	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	災害時の人間のこころの特性や健康被害を理解し、自他のケアについて考察できる	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が開けるようにしておく。配布資料の整理	
10回 ・ 11回	授業内容	災害対策 公助 行政(公的機関)や企業などの災害対策	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	公助の意義、範囲等を知り、学習内容について説明できる	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が開けるようにしておく。配布資料の整理	
12回 ・ 13回	授業内容	災害対策 自助	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	自助の意義を理解し、学習する内容をもとに備える姿勢を身につける	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が開けるようにしておく。配布資料の整理	
14回 ・ 15回	授業内容	災害対策 共助(避難所の運営協力、災害時要配慮者、災害ボランティア活動等)	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	共助の意義を理解し、学習する内容をもとに備える姿勢を身につける	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が開けるようにしておく。配布資料の整理	
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	災害時の生活支援				担当者	齋藤 美香 ・ 大曾根 学 ・ 他						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法		連絡方法、質問の受付方法は、Google Classroom「災害時の生活支援」に提示する										
専門的 学習成果	①	災害からいのちを守るための知識や災害時、避難所生活時に役立つ基礎的知識および技術が身につく。										
	②	防災や災害時の要援護者への支援をするうえで必要な基礎的知識や支援技術が身につく。										
	③	サステナブルな防災を意識し、自分にできることを積極的に行動するために思考力し、行動力が身につく。										
	④	社会や地域との関わりを実感し、災害発生時に他者と助け合い、協力して解決策に取り組むコミュニケーション力や協働する力が身につく。										
汎用的 学習成果	(1)	災害からいのちを守る知識や技術を習得し、有事の際に活用できる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(2)	防災や災害時の要援護者への支援に関する学習を通して、有事の際に活用できる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(3)	コミュニケーション能力、協働力、思考力、行動力を持って、地域社会に貢献できる。(専門的学習成果①～④に関連)										
授業概要	被災した要援護者（高齢者・障害のある方、子どもなど）への支援に加え、避難所生活に焦点をあてて、避難者の不安を軽減し、不自由な生活から要援護者守るために誰もが知っておきたい基礎知識や支援技術について学びます。避難生活と体調管理（食事、トイレ、睡眠）、災害時の食事、精神的サポートについて、グループワークの実施や避難所を想定し、実践的に役立つ知識や技術が習得できることを目指します。また、授業内容により、行政・関係団体等との協働で行う場合もあります。また「防災の基礎理論」と連動的に進めていきます。テキストを用いず、適宜資料を配布したりPP等を用いますので、各自配布資料の整理（ファイリング）を確実に行うようにしてください。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	授業内容の確認のための小課題を課す。提出状況（内容・期限厳守等）から総合的に評価し成績を決定する。								
		平常点	30	授業に臨む態度（積極性・協調性）・関心・意欲について評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④にて評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④にて評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	特に指定しない。必要に応じて適宜、資料を配布する。											
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	防災イッモプロジェクト（編集）	『防災イッモマニュアル』						ポプラ文庫				
	永田宏和・石井美恵子	『新しい防災のきほん辞典』						朝日新聞出版				
	國井修（編集）、尾島俊之（編集）、石井美恵子（編集）	『みんなで取り組む 災害時の保健・医療・福祉活動』						南山堂				
	長谷川洋昭（著、編集）	『社会福祉・医療従事者のための災害福祉論』						学文社				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①自身が経験した災害体験を振り返りながら、災害弱者のことを想像して授業に臨んでください。また、課題テーマに関して、事前に配布資料などがある場合は、書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。事後は、授業終了後の振り返りシートを確実に仕上げる。配布資料の整理（ファイリング）を確実にすること。②行政・関係団体等との都合から授業計画が変更になる場合があります。③レポートは返却し、コメントを付記または授業内で解説を行う。											

		授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス／災害への備え		振り返りシート・課題レポートの提出	
	学習成果	本科目で扱う内容を理解できる。家の安全、非常用持ち出し品について説明できる。			
	予習復習の内容	配布資料の復習、自身の家庭での防災用品の確認			
2・3回	授業内容	要配慮者への支援（移動等）・ペット支援		ワークシート、振り返りシートの提出	
	学習成果	要配慮者を支援するための基本的な技術を身につける。			
	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。			
	4・5回	授業内容	災害時の食事		ワークシート、振り返りシートの提出
学習成果	災害時の調理や食事、衛生面について説明および調理ができる。				
	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。			
	6・7回	授業内容	トイレの確保・保管		ワークシート、振り返りシートの提出
学習成果	トイレの衛生的確保・管理の方法について説明と設置ができる。				
	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。			
	8・9回	授業内容	就寝場所の確保・管理		ワークシート、振り返りシートの提出
学習成果	就寝場所の確保・管理について説明と設置ができる。				
	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。			
	10・11回	授業内容	応急手当		ワークシート、振り返りシートの提出
学習成果	止血や骨折、火傷、熱中症等の応急手当のスキルを身につける。				
	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。			
	12・13回	授業内容	救急救命の実技講習		ワークシート、振り返りシートの提出
学習成果	心肺蘇生・AED 操作を使った救命救急が身につく。				
	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。			
	14回	授業内容	被災した人の心身のケア		ワークシート、振り返りシートの提出
学習成果	支援時の心構え、リラクゼーションの方法が身につく。				
	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。			
	15回	授業内容	防災×工作		ワークシート、振り返りシートの提出
学習成果	身近にあるもので代用品を作ることができる。				
	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。			
	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				

科目名	IT パスポート試験実践講座				担当者	ナガノ 野 篤						
区 分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期集中
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィサーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール										
専門的 学習成果	①	情報処理系の資格試験の全体像と IT パスポートの位置づけについて説明できる。										
	②	IT パスポートの全体像を踏まえ、試験の意図・範囲・レベルについて説明できる。										
	③	最新の動向を踏まえ、IT パスポート試験問題の正答率を資格取得レベルに到達させる。										
汎用的 学習成果	(1)	デジタルリテラシーに関する幅広い知識を身に付け、社会的自立に必要な知識を修得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	ストラテジ系の学びを通じて、企業等組織のステークホルダーに資する知見を獲得する。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	マネジメント系の学びを通じて、プロジェクトおよびオペレーションの効率的・効果的運営に貢献することができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(4)	テクノロジー系の学びを通じて、IT とネットワークの知見を獲得し Society5.0の構築に資することができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	パーソナルコンピュータをはじめとして、タブレット端末やスマートフォン、更にはテレビ・家電製品等、ネットワークへの接続を前提としたIoTの社会化が急速に展開し、さらには、ビッグデータ、AIの駆使が促進されている。ITは人間社会の常識・哲学に衝撃を与えシンギュラリティという概念が議論される時代となった。本授業は、こうした時代のITリテラシーの基礎をカバーしたITパスポート試験合格レベルを目指すものである。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	100	各回テストを実施し、各回分12.5%を配点する。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2年次学生の、夏休みに行う集中講義である。オンラインを介した資料配布、小テスト、実力査定アンケートを行うため、インターネットに接続でき、かつ、操作が容易なスマートフォン、タブレット、ノートPCなどを持ち込んでください。 ②小テストは原則授業中に行い、集計後、速やかにフィードバックを行う。受講者全体の中に占める自身のポジションを確認し、かつ、誤った記憶や理解を正し、資格取得へ向上する姿勢を身に着けることを期待しています。 ③予習復習には、それぞれ1時間程度かけることが期待されますが、集中授業のため授業と授業の間にやることは難しいことが予想されます。そのため、事前課題、事後学習を入念に行うこと。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ITパスポート試験の概略		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	ITパスポート試験設立の歴史の経緯・設立の意義を説明できる。		
	予習復習の内容	ITとインターネットの歴史を調べ、試験範囲に含まれる用語・概念の理解・記憶に努める。		
	授業内容	ストラテジ系①		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
2回	学習成果	企業と法務、経営戦略、システム戦略の主要な基礎概念・用語類の違いを指摘できる。		
	予習復習の内容	企業と法務、経営戦略、システム戦略の主要な基礎概念・用語類の理解・記憶に努める。		
3回	授業内容	ストラテジ系②		事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果	企業と法務、経営戦略、システム戦略の主要な基礎概念・用語類を的確に認識できる。		
	予習復習の内容	企業と法務、経営戦略、システム戦略の主要な基礎概念・用語類の理解・記憶の定着に努める。		
	4回	授業内容	マネジメント系①	
学習成果		開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの主要な基礎概念・用語類の違いを指摘できる。		
	予習復習の内容	開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの主要な基礎概念・用語類の理解・記憶に努める。		
	5回	授業内容	マネジメント系②	
学習成果		開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの主要な基礎概念・用語類を的確に認識できる。		
	予習復習の内容	開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの主要な基礎概念・用語類の理解・記憶の定着に努める。		
	6回	授業内容	テクノロジー系①	
学習成果		基礎理論、コンピューターシステム、技術要素の主要な基礎概念・用語類の違いを指摘できる。		
	予習復習の内容	基礎理論、コンピューターシステム、技術要素の主要な基礎概念・用語類の理解・記憶に努める。		
	7回	授業内容	テクノロジー系②	
学習成果		基礎理論、コンピューターシステム、技術要素の主要な基礎概念・用語類を的確に認識できる。		
	予習復習の内容	基礎理論、コンピューターシステム、技術要素の主要な基礎概念・用語類の理解・記憶の定着に努める。		
	8回	授業内容	ITパスポート試験総合	
学習成果		ストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の基礎概念・用語類を的確に認識できる。		
	予習復習の内容	ストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の基礎概念・用語類の的確な理解・記憶の定着に努める。		
	9回	授業内容		
学習成果				
	予習復習の内容			
	10回	授業内容		
学習成果				
	予習復習の内容			
	11回	授業内容		
学習成果				
	予習復習の内容			
	12回	授業内容		
学習成果				
	予習復習の内容			
	13回	授業内容		
学習成果				
	予習復習の内容			
	14回	授業内容		
学習成果				
	予習復習の内容			
	15回	授業内容		
学習成果				
	予習復習の内容			

科目名	MOS エキスパート (Word)				担当者	大 澤 栄 子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業前後、オフィスアワー(初回授業で説明)、メール (oosawa.eiko@seiwa.ac.jp) で行う。										
専門的 学習成果	①	問題文や解説を読み解く力をつけ、求められたことを実践できる。										
	②	身につけたパソコンスキルを実務に応用できる。										
	③	Microsoft Office Specialist Word 365&2019 Expert 合格レベルの操作ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	パソコンによる実践的なドキュメント作成および管理について学ぶ。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	MOS スペシャリスト (Word) の上級の内容になる。組織としての文書管理やデータ集計、グループワークを意識した機能や管理を目的とした機能など、組織としての事務効率向上および業務改善を重視した応用機能を中心に習得する。共同作業用文書の準備、版の管理、高度な編集機能や書式設定機能の利用、ユーザ設定ドキュメント要素の作成管理 (文書パーツ、デザインセット、索引、図表一覧など)、高度な Word 機能の利用 (フォーム・フィールド・コントロールの管理、マクロ作成編集、差し込み印刷) などの機能を操作する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		実技試験	70	15回目授業内に実技試験を行い全授業内容の理解について評価する。								
		提出物	30	全5回の提出物で各回6%配点する。								
汎用的 学習成果	(1)	は専門的学習成果①②③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名		出版社名								
	富士通 FOM 株式会社	『よくわかるマスター MOS Word 365&2019 Expert 対策テキスト&問題集』		FOM 出版								
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
	富士通 FOM 株式会社	『よくわかる Microsoft Word 2019 応用』		FOM 出版								
	富士通 FOM 株式会社	『よくわかる Microsoft Word 2019 演習問題集』		FOM 出版								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① MOS Word 365&2019の資格を取得していること。 全15回の授業終了後、別日に設定される MOS 試験を受験すること。 合格スキルに達するよう、各自必要に応じて授業外で自習すること。 機能における理解と実際の操作が連動してこそスキルとなるので、毎回の復習を欠かさないと(復習：週1時間程度) ②授業内で発生した課題に対しては、その場で解説と補足を行う。 授業外で発生した課題に対しては、授業前後の時間、または、Office アワーで対応する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要、成績評価について、教室の利用方法、基礎スキルの確認	
	学習成果	授業の目的と資格取得の意義を理解する。	
	予習復習の内容	MOS スペシャリスト (Word) スキルについて確認する。	
	授業内容	文書とテンプレートの管理	
2回	学習成果	ツールバー、リボン、セキュリティ、自動保存、テンプレート等環境設定・管理ができる。	
	予習復習の内容	管理環境について確認する。	
3回	授業内容	文書の共同作業	
	学習成果	編集制限、最終版、読み取り専用等の設定、パスワードによる保護ができる。	
	予習復習の内容	文書の共同作業について確認する。	
	授業内容	文書コンテンツの高度な検索、置換、貼り付け	
4回	学習成果	ワイルドカードや特殊文字による検索・置換、書式設定やスタイルの検索・置換、貼り付けオプションの適用ができる。	
	予習復習の内容	文書コンテンツの検索、置換、貼り付けについて確認する。	
5回	授業内容	段落レイアウト、スタイルの高度な設定	
	学習成果	段落レイアウトの適切なオプション設定、スタイルの作成管理ができる。	
	予習復習の内容	段落レイアウト、スタイルについて確認する。	
	授業内容	文書パーツの作成管理、ユーザー設定のデザイン要素の作成	
6回	学習成果	クイックパーツの作成と文書パーツ管理、ユーザー設定の配色・フォント・テーマ・スタイルセットが作成できる。	
	予習復習の内容	文書パーツの作成管理、ユーザー設定のデザイン要素について確認する。	
7回	授業内容	索引・図表一覧の作成管理	
	学習成果	索引の登録作成更新、図表番号・図表目次の挿入変更ができる。	
	予習復習の内容	索引作成、図表一覧作成について確認する。	
	授業内容	フォーム、フィールド、コントロールの管理	
8回	学習成果	ユーザ設定のフィールドの追加更新、標準的なコントロールの挿入設定ができる。	
	予習復習の内容	フォーム、フィールド、コントロールについて確認する。	
9回	授業内容	マクロの作成、編集	
	学習成果	簡単なマクロの記録と編集、マクロを他の文書やテンプレートにコピーできる。	
	予習復習の内容	マクロについて確認する。	
	授業内容	差し込み印刷	
10回	学習成果	差し込みフィールドの挿入、宛名リストの管理ができる。	
	予習復習の内容	差し込み印刷について確認する。	
11回	授業内容	模擬試験プログラム1解説	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
	授業内容	模擬試験プログラム2解説	
12回	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
13回	授業内容	模擬試験プログラム3解説	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
	授業内容	模擬試験プログラム自己対策	
14回	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	模擬試験プログラムを通して、組織の課題解決に活用できる。	
15回	授業内容	実技テスト 50分+解説	
	学習成果	積極的に資格取得に取り組む。	
	予習復習の内容	模擬試験プログラムを通して、組織の課題解決に活用できる。	

科目名	MOS エキスパート (Excel)				担当者	大 澤 菜 子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業前後、オフィスアワー(初回授業で説明)、メール (oosawa.eiko@seiwa.ac.jp) で行う。										
専門的 学習成果	①	問題文や解説を読み解く力をつけ、求められたことを実践できる。										
	②	身につけたパソコンスキルを実務に応用できる。										
	③	Microsoft Office Specialist Excel 365&2019 Expert 合格レベルの操作ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	パソコンによるより効率的なデータ集計およびデータ管理・分析について学ぶ。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	MOS スペシャリスト (Excel) の上級内容になる。共同作業環境に必要な設定、組織として事務効率向上および業務改善を重視したデータ管理や分析を目指し、応用機能を中心に習得する。共同作業に必要なブックの準備やバージョン管理、高度なデータ管理と書式設定、高度な関数(論理演算、データ検索、日時計算など)、データ分析やデータ予測、数式のトラブルシューティング、簡単なマクロ作成と編集、高度なグラフやテーブル管理などの機能を操作する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		実技試験	70	15回目授業内に実技試験を行い全授業内容の理解について評価する。								
		提出物	30	全5回の提出物で各回6%配点する。								
汎用的 学習成果	(1)	は専門的学習成果①②③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	富士通 FOM 株式会社		『よくわかるマスター MOS Excel 365&2019 Expert 対策テキスト&問題集』						FOM 出版			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	富士通 FOM 株式会社		『よくわかる Microsoft Excel 2019 応用』						FOM 出版			
	富士通 FOM 株式会社		『よくわかる Microsoft Excel 2019 演習問題集』						FOM 出版			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		① MOS Excel 365&2019の資格を取得していること。 全15回の授業終了後、別日に設定される MOS 試験を受験すること。 合格スキルに達するよう、各自必要に応じて授業外で自習すること。 機能における理解と実際の操作が連動してこそスキルとなるので、毎回の復習を欠かさないと(復習：週1時間程度) ②授業内で発生した課題に対しては、その場で解説と補足を行う。 授業外で発生した課題に対しては、授業前後の時間、または、Office アワーで対応する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要、成績評価について、教室の利用方法、基礎スキルの確認	
	学習成果	授業の目的と資格取得の意義を理解する。	
	予習復習の内容	MOS スペシャリスト (Excel) スキルについて確認する。	
2回	授業内容	ブック管理と共同作業	
	学習成果	ブックの管理、共同作業のためのブックの準備ができる。	
	予習復習の内容	ブック管理について確認する。	
3回	授業内容	ブックのオプションと設定の管理	
	学習成果	共同作業のためのブックの準備、言語オプション設定ができる。	
	予習復習の内容	ブック管理、共同作業について確認する。	
4回	授業内容	効率のよいセルへのデータ入力	
	学習成果	既存データ利用のセル入力、ユーザ定義表示形式、入力規則、データのグループ化の設定ができる。	
	予習復習の内容	データの管理について確認する。	
5回	授業内容	集計と詳細な条件付き書式	
	学習成果	小計や合計計算、重複レコード削除、詳細な条件付き書式やフィルターの適用ができる。	
	予習復習の内容	データ計算、条件付き書式・フィルターについて確認する。	
6回	授業内容	論理演算関数	
	学習成果	関数のネスト、論理演算関数が設定できる。	
	予習復習の内容	論理演算関数について確認する。	
7回	授業内容	データベース関数・高度な日付時刻関数	
	学習成果	関数でデータ検索できる。日時計算ができる。	
	予習復習の内容	データベース関数・日付時刻関数について確認する。	
8回	授業内容	データ分析、数式のトラブルシューティング	
	学習成果	統合、ゴールシーク、シナリオによる分析や関数によるデータ予測、数式エラーの分析ができる。	
	予習復習の内容	データ分析、数式のトラブルシューティングについて確認する。	
9回	授業内容	簡単なマクロの作成と変更	
	学習成果	マクロの記録と編集ができる。	
	予習復習の内容	マクロについて確認する。	
10回	授業内容	高度な機能を使用したグラフの作成と変更	
	学習成果	2軸グラフ、ヒストグラム、箱ひげグラフ、マップグラフ、サンバースト、じょうごグラフ、ウォーターフォール図が作れる。	
	予習復習の内容	高度な機能を使用したグラフについて確認する。	
11回	授業内容	ピボットテーブルとピボットグラフ	
	学習成果	ピボットテーブル、ピボットグラフが作成変更できる。	
	予習復習の内容	ピボットテーブルとピボットグラフについて確認する。	
12回	授業内容	模擬試験プログラム1解説	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
13回	授業内容	模擬試験プログラム2解説	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	苦手分野を克服する。	
14回	授業内容	模擬試験プログラム自己対策	
	学習成果	自分の理解度を把握し、対策することができる。	
	予習復習の内容	模擬試験プログラムを通して、組織の課題解決に活用できる。	
15回	授業内容	実技テスト 50分+解説	
	学習成果	積極的に資格取得に取り組む。	
	予習復習の内容	模擬試験プログラムを通して、組織の課題解決に活用できる。	

科目名	小論文応用				担当者	ナガノ アツシ ・ 永野 篤 ・ 堀 良平 ・ リョウヘイ ・ 大曾根 学						
区 分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	前期集中
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスマールまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール										
専門的 学習成果	① 適切・妥当な小論文を作成する志向を身に付け、評価・検討することができる。											
	② 適切・妥当な小論文に求められる、観点について意識し、評価・検討することができる。											
	③ 一定時間内に、適切・妥当な小論文を構成する知見・姿勢・技術を発揮することができる。											
汎用的 学習成果	(1) 論理的文章に関する技術を身に付け、社会的自立に必要な知識を修得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)											
	(2) 小論文に必要な観点を踏まえ、論旨を展開し、自らの見解を述べ、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)											
	(3) 一定時間内に小論文を構成し、適切な語彙・文体により表現する姿勢を発揮し、実務に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)											
授業概要	既存の考え方を批判なく受容し、それらを自らの思考の結果として表明するのではなく、データを直視し、論理を構成し、まとまりのある見解に構成していく志向・姿勢をもつことは、社会を構成する一員としての重要な責任である。授業では、思考力とその表現の一つである文章化を、各自の認知傾向、文体力、論理性を踏まえ、一定時間に、小論文という形式で表現することを行っていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
	小テスト	100	各回の文章作成により、各回12.5%を配点する。									
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① 2 年次学生の、夏休みに行う集中講義である。オンラインを介した資料配布等を行うため、インターネットに接続でき、かつ、操作が容易なスマートフォン、タブレット、ノート PC などを持ち込んでください。											
	② 文章作成の準備は予復習時に、文章作成は原則授業中に行い、集計後、速やかにフィードバックを行う。											
	③ 予復習には、それぞれ 1 時間程度かけることが期待されますが、集中授業のため授業と授業の間に行うことは難しいことが予想されます。そのため、事前事後の学習を入念に行うこと。											
	④ 紙または電子形式による辞書を携帯すること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	適切な小論文とは何か?	課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	適切な小論文に期待されていることは何かを理解し、適切にアプローチするマインドと技術を身に付ける。	
2回	予復習の内容	複数の小論文を読み、比較検討し、評価を行う。	課題に基づいた文章作成を行う。
	授業内容	小論文を作成する①300文字	
3回	学習成果	300文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討ができる。	課題に基づいた文章作成を行う。
	予復習の内容	300文字程度の小論文を作成するための事前検討を行う。	
4回	授業内容	小論文を作成する②300文字	課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	300文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成し評価できる。	
5回	予復習の内容	300文字程度の小論文を作成するための事前執筆を行う。	課題に基づいた文章作成を行う。
	授業内容	小論文を作成する③500文字	
6回	学習成果	500文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討ができる。	課題に基づいた文章作成を行う。
	予復習の内容	500文字程度の小論文を作成するための事前検討を行う。	
7回	授業内容	小論文を作成する④500文字	課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	500文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成し評価できる。	
8回	予復習の内容	500文字程度の小論文を作成するための事前執筆を行う。	課題に基づいた文章作成を行う。
	授業内容	小論文を作成する⑤700文字	
9回	学習成果	700文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討ができる。	課題に基づいた文章作成を行う。
	予復習の内容	700文字程度の小論文を作成するための事前検討を行う。	
10回	授業内容	小論文を作成する⑥700文字	課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	700文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成し評価できる。	
11回	予復習の内容	700文字程度の小論文を作成するための事前執筆を行う。	課題に基づいた文章作成を行う。
	授業内容	小論文を作成する⑦1000文字	
12回	学習成果	1000文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討・作成ができる。	課題に基づいた文章作成を行う。
	予復習の内容	1000文字程度の小論文を作成するための事前検討・執筆準備を行う。	
13回	授業内容		
	学習成果		
14回	予復習の内容		
	授業内容		
15回	学習成果		
	予復習の内容		

科目名	病院実習				担当者	丸山 稜・加藤 淳子						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、講師控室の場所、オフィシャルなEメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的 学習成果	① 医療機関での実習を通して医師接遇、医療事務の一日の流れを実践できる。											
	② 医療事務で学んだ知識を実習を通して立体的に説明できる。											
	③ 実習体験を通して医療機関への探求活動にいかす事ができる。											
汎用的 学習成果	(1) 受付から会計までの一連の流れを確認し、医療機関で行われている業務に必要な技術を身につける。(専門的学習成果①に関連)											
	(2) 医療事務員に必要な知識と技術、接遇などを現場で触れる事により、より一層知識と技術を高める事ができる。(専門的学習成果①②に関連)											
	(3) 実習を通して医療事務職への職業意識を深める事ができる。(専門的学習成果②③に関連)											
授業概要	医療機関で1週間程度の実習を行うために、事前に実習意欲を高めより多くの知識や技術を身につける事を目的とする。具体的には、医療保険制度、公費負担制度、受付業務、会計業務、会話のポイントなど実習先ですべき事を確認する。最終的に実習を通して医療従事者と患者様との関わりやコミュニケーションの必要性を理解し、医療事務の業務内容を立体的に把握する事で、医療事務員としての知識と技術を高め、職業的自立に活かせるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	50	実習報告書から理解度や取り組みの姿勢を判断し評価する。								
		実習先評価票	25	実習受入機関による実習期間中の取り組みの姿勢の評価。								
		平常点	25	15回の講義の受講の態度、関心、意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の(1)(2)(3)については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①により評価を行う。 (2)は専門的学習成果①②により評価を行う。 (3)は専門的学習成果②③により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			プリント配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業の進行に合わせて、これまでに学んだ知識を総動員してその日の当該部分のポイントを確認準備した上で授業に臨む。授業内容の振り返りを行い、配布されたプリント類の完成や知識の定着を行うこと。講義全体を把握した上で、1週間程度の実習(事後学習)に臨む。 ②プリント類の小問題の解答解説を行う。										

		授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、医療機関について		毎回用意するプリント中の小問題と次回までに仕上げる課題による評価 実習受入機関による実習期間中の取り組みの姿勢を評価。
	学習成果 予習復習の内容	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。 シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて実習の意欲を高める。		
2回	授業内容	医療保険制度の仕組みと流れ		
	学習成果 予習復習の内容	医療保険制度の概要を説明できる。 学習内容を振り返り、医療保険制度について理解を深める。		
3回	授業内容	公費負担医療制度について		
	学習成果 予習復習の内容	公費負担医療制度の概要を説明できる。 学習内容を振り返り、公費負担医療制度について理解を深める。		
4回	授業内容	医療に携わる者としての心得		
	学習成果 予習復習の内容	医療従事者の心得を説明できる。 学習内容を振り返り、病院実習に向けての心得について理解を深める。		
5回	授業内容	会計業務について		
	学習成果 予習復習の内容	診療費の会計業務の算定が出来る。 学習内容を振り返り、会計業務の算定について理解を深める。		
6回	授業内容	DPC制度について		
	学習成果 予習復習の内容	出来高払いの請求の他に、DPC制度を説明できる。 学習内容を振り返り、DPC制度について理解を深める。		
7回	授業内容	電子カルテについて		
	学習成果 予習復習の内容	紙カルテと電子カルテのそれぞれの特徴を説明できる。 学習内容を振り返り、電子カルテの理解を深める。		
8回	授業内容	言葉遣い、態度、接遇マナーの確認		
	学習成果 予習復習の内容	正しい言葉遣いや、態度、マナーの技術を身につける。 学習内容を振り返り、実践できるように理解を深める。		
9回	授業内容	実習目録の書き方のポイント		
	学習成果 予習復習の内容	考察の仕方など目録を記入するためのポイントの説明ができる。 学習内容を振り返り、実習目録の記入の仕方について理解を深める。		
10回	授業内容	正しい敬語の使い方		
	学習成果 予習復習の内容	尊敬語、謙譲語、丁寧語について説明ができる。 学習内容を振り返り、実践できるように理解を深める。		
11回	授業内容	身だしなみについて		
	学習成果 予習復習の内容	身だしなみのポイントについて説明できる。 学習内容を振り返り、実践できるように理解を深める。		
12回	授業内容	話を聞くためのポイント		
	学習成果 予習復習の内容	話をしっかり聞く時の姿勢などのポイントについて説明できる。 学習内容を振り返り、実践できるように理解を深める。		
13回	授業内容	話をする時のポイント		
	学習成果 予習復習の内容	話をする時の内容や順序などのポイントについて説明できる。 学習内容を振り返り、実践できるように理解を深める。		
14回	授業内容	指示、報告、連絡と相談について		
	学習成果 予習復習の内容	指示、報告、連絡と相談の大切さを学び説明できる。 学習内容を振り返り、報告連絡相談の重要性の理解を深める。		
15回	授業内容	実習前最終確認		
	学習成果 予習復習の内容	実習への意欲、知識、持参物など説明できる。 これまでの学習内容を振り返り、実習に向け理解を深める。		

科目名	日本語と英語で学ぶ簿記会計の原理				担当者	永野 篤						
区分	選択	2	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期集中
授業時間数				15	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスマワーは初回の授業時に連絡する。										
専門的 学習成果	①	企業活動における簿記・会計の意義について述べるができる。										
	②	財務諸表のメカニズムについて日本語と英語の概念を通じて複合的に理解し説明できる。										
	③	現代社会において国際社会に求められる会計知識について英語を通じての最低限の知見を得ることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	日本語と英語を通じて簿記・会計を学ぶことにより、国際的・社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③)										
	(2)	日本語と英語を通じて簿記・会計を学ぶことにより、国際的な文化の違い、現象理解の相違を知り、国際人・職業人としての実践につなげることができる。(専門的学習成果③)										
授業概要	近代において、簿記・会計は西洋社会から輸入された仕組み、概念である。そのため、用語の日本語訳を通じてそのメカニズムを日本語ネイティブが直観的理解をすることには困難が生じている。本授業は、こうした課題を克服するために日本人にも比較的馴染みやすい英単語・概念を用いて、簿記・会計のしくみについて深い理解を行うことを目指している。簿記上の取引における簡単な仕分けから、貸借対照表、損益計算書、そして国際基準に基づいて作成された実際の財務諸表を検討することで、今日の企業会計の実相についての学びを深める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	90	6回実施し、各回15%を配点とする。1～2回分の講義内容の理解の程度を評価する。								
		平常点	10	授業内容へのフィードバック、疑問点の解決、貢献・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	大津広一、我妻ゆみ	『会計プロフェッショナルの英単語100 世界の一流企業はこう語る』				ダイヤモンド社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①簿記検定Ⅰまたは簿記会計学の受講および授業内容への適切な理解があること、或いは日商簿記3級合格レベル知見を持っていることを前提に授業は行われる。(予習：週1時間程度) 事後学習としては、テキスト並びに指定された範囲の演習問題を解くこと。(復習：週3時間程度) 電卓は必ず持参すること。 ②提出されたレポートは全体的な講評を行い、添削して返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	英語で会計を学ぶ意義を知る	
	学習成果	借方、貸方、会計の5つの要素について英語で理解し説明できる	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
2回	授業内容	貸借対照表(バランスシート)の借方の会計英単語を学ぶ	
	学習成果	流動資産および固定資産にかかる用語について理解を深める	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
3回	授業内容	貸借対照表(バランスシート)の貸方の会計英単語を学ぶ	
	学習成果	流動負債、固定負債、純資産にかかる用語について理解を深める	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
4回	授業内容	損益計算書(プロフィット&ロス・ステートメント)の会計英単語を学ぶ(1)	
	学習成果	売上、費用、利益にかかる基本的用語について理解を深める	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
5回	授業内容	損益計算書(プロフィット&ロス・ステートメント)の会計英単語を学ぶ(2)	
	学習成果	持分法による投資利益・損失、構造改革費用、減損損失発展的内容について理解を深める	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
6回	授業内容	紛らわしいことばを整理する	
	学習成果	Sales, Revenue, Profit, Profit, Income, Margin, Earnings, Return, Cost, Expense, Expenditure, Assets, Equity について整理する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
7回	授業内容	数字にまつわる表現を整理する	
	学習成果	長い数値の読み方、小数点読み方、分数の読み方、加減乗除の読み方、四捨五入の読み方、累乗の読み方、単利 vs 複利、プラス、マイナスの正しい表現について整理する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
8回	授業内容	企業活動における重要な表現と決算書類に関する知識を学ぶ	
	学習成果	ステークホルダー、主要な業界、管理会計、財務諸表の各種呼び方、単体・連結、決算期のチェック、インターネットによる決算書類の入手方法について学ぶ	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		